


REPORTS OF SUMMER EXCHANGE PROGRAM AT 3 VETERINARY SCHOOLS IN THE USA 2015

米国三大学獣医学部夏季研修レポート 2015



PURDUE
UNIVERSITY®



THE UNIVERSITY of TENNESSEE 
KNOXVILLE

はじめに

1993年、獣医学科における教育研究への効果を期待して国際交流の活性化のために国際交流検討委員会が設立された。その後2年の間に米国5大学を現地訪問する等、交渉を重ね検討を行った。最終的には米国三大学（パデュー大学、テネシー大学、ジョージア大学）と学術交流協定を締結し、1995年8月に1回目の学生・教員の派遣が行われた。協定には1）獣医学科の学生に米国の臨床教育を体験する機会を設ける（参加学生には単位認定が与えられる）。2）教員を招聘し、学生・教員に講義やセミナーをして頂く。3）北里大学の教員の海外研修の機会を増やす。の主たる目的がある。また、5年毎に行われる協定もこの度新しく更新され、先方からもさらなる発展を望む声がある。

21年目を迎える研修も無事に終わり、同行された3人の先生（パデュー大学：前田賢一先生、テネシー大学：前田洋佑先生、ジョージア大学：佐々木宣哉先生）には大変ご足労をおかけしました。また、各大学に研修された24人の学生（パデュー大学：7名、テネシー大学：8名、ジョージア大学：9名）は例年通り数々の

貴重な体験をされ、この経験を将来の「糧」として活かすことになると思います。

今年度はパデュー大学から Joanne Messick 教授を招聘教員としてお迎えし、学生や教員との交流ばかりでなく、少しばかり日本の文化にも親しんで頂いた。今後も各大学から招聘教員を招く予定である。招聘教員として来られた先生の中には毎年研修に来た学生を呼び、ホームパーティを開いて下さる方もおられる。

この報告書も21回目を迎えるが、今回参加した学生一人ひとりがこの交流の歴史を知り、多くの方々の働きがあることを改めて理解し、感謝することが出来たと思う。最後になりますが、学生諸君の今後の発展を期待すると共に、この交流の一環が次世代の学生に大きな「夢」と「希望」を与え続けることができるよう願います。

2015年9月25日
獣医学科国際交流委員長 折野宏一

これまでの米国 3 大学からの招聘教員および交換留学生

Purdue University

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Ralph Richardson	Professor	Veterinary Internal Medicine
1997. 6	Dr. John Van Vleet	Associate Dean and Professor	Veterinary Pathology
1998. 6	Dr. James P. Toombs	Professor	Small Animal Orthopedics and Neurosurgery
1999. 9	Dr. Alan H. Rebar	Dean	Veterinary Clinical Pathology
2000. 6	Dr. Paul Robinson	Professor	Immunopharmacology and Biomedical Engineering
2001. 10	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
	(Cancelled due to 9.11 terror)		
2002. 11	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
2003. 11	Dr. Allan Beck	Professor	Animal Ecology
2004. 6	Dr. Harm Hogen Esch	Professor	Head of Department of Veterinary Pathobiology
2005. 11	Dr. Sophie A. Lelièvre Amanda Cole(2005.7)	Associate Professor (2010) Student	Basic Medical Sciences
2006.5	Maria Littles	Student	
2007. 10	Dr. Henry W. Green	Associate Professor	Cardiology
2008. 11	Dr. Abdelfattah Nour	Professor	Basic Medical Sciences Director of International Program
	Dr. Shulma I Mohammed	Associate Professor	Cancer Biology
2009. 5	Dr. Willie Reed	Dean and Professor	Veterinary Pathology
2009. 10	Dr. Steve Thompson	Associate Professor	Pet Primary Care
2010. 7	Dr. Brenda Austin	Assistant Professor	Small Animal Surgery
2011.11	Dr. Sophie Lelievre Joshua Taylor(2011.7)	Associate Director Student	Discovery Groups
2012. 10	Dr. Daniel Hogan	Associate Professor	Cardiology
2012. 10	Dr. Norie Parnell	Clinical Associate Professor	Small Animal Internal Medicine
2013. 11	Dr. Annette Lister	Associate Professor	Veterinary Clinical Science
2014. 11	Dr. Tomohito Inoue	Clinical Associate Professor	Anesthesiology

The University of Tennessee

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1995. 9	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
1996. 11	Dr. Robert Toal	Associate Professor	Veterinary Radiology
1997. 11	Dr. Robert C. DeNovo	Associate Professor	Veterinary Internal Medicine
1998. 6	Dr. Dan Ward	Associate Professor	Veterinary Ophthalmology
1999. 6	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
2000. 6	Dr. James Brace	Associate Dean and Professor	Internal Medicine
2001. 6	Dr. Karen Tobias	Associate Professor	Veterinary Surgery
2003. 1	Dr. Frank Andrews	Professor	Large Animal Medicine
2003. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
	(Cancelled due to Iraq war)		
2004. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
2005.11	Dr. Sarel R Van Amstel	Professor	
2010. 6	Dr. Michael M. Fry	Associate Professor	Clinical Pathology
2011.10	Dr. Edward Ramsay	Professor	Avian & Zoological Medicine

The University of Georgia

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Charles Martin	Professor	Veterinary Ophthalmology
1997. 5	Dr. Jean Sander	Associate Professor	Poultry Disease
1999. 1	Dr. Corrie Brown	Professor	Head of Department of Pathology
2000. 11	Dr. Margarethe Hoenig	Professor	Physiology and Pharmacology
2001. 12	Dr. Raghubir Shama	Professor	Physiology and Pharmacology
2003. 1	Dr. Duncan Ferguson	Professor	Physiology/Pharmacology and Small Animal Medicine
2004. 1	Dr. Thomas F. Murray	Distinguished Professor	Head of Physiology and Pharmacology
2005. 1	Dr. Mary Ann Radlinsky	Assistant Professor	General Surgery
2006. 6	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2006. 6	Dr. Ursula Dietrich	Associate Professor	Small Animal Medicine and Surgery
2007. 9	Dr. Suzan White	Professor	Large Animal Medicine
2008. 9	Dr. Amie Koenig	Associate Professor	General Internal Medicine +CE
2008. 11	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2009. 10	Dr. Simon Platt	Associate Professor	Neurology +CE
2010. 2	Mrs. Malorie D. Franks	Student	Class of 2011 +CE: Continuing Education (卒後教育セミナー含む)
2014. 7	Dr. Mary Hondalus	Associate Professor	Infectious Disease

米国三大学研修参加者および同行教員

年度	Purdue			Tennessee			Georgia		
	Students		Faculty	Students		Faculty	Students		Faculty
	男 M	女 F		男 M	女 F		男 M	女 F	
1995	2	3	I. Hashimoto	5	5	K. Watanabe	3	0	K. Temma
1996	0	6	T. Ogasawara	3	11	Y. Hikasa	0	5	K. Takehara
1997	1	4	To. Oyamada	0	7	Y. Ohnami	3	2	H. Madarame
1998	2	4	S. Ueno	2	6	Nobu. Itoh	2	4	S. Okano
1999	2	5	H. Itoh	1	7	S. Kawamura	3	4	S. Kurusu
2000	1	8	Y. Hara	3	5	M. Uechi	3	4	N. Maehara
2001	7	5	F. Hoshi	4	4	N. Susa	2	5	K. Mutoh
2002	2	8	I. Sakonju	2	2	S. Takai	2	5	K. Orino
2003	3	6	N. Hoshi	2	5	S. Higuchi	1	4	M. Kawaminami
2004	3	5	U. Fukushima	3	4	M. Natsuhori	2	5	H. Ikadai
2005	6	3	K. Taniguchi	4	5	T. Sano	2	5	O. Hashimoto
2006	6	3	K. Watanabe	1	6	C. Baku	3	5	T. Andoh
2007	3	4	M. Oikawa	0	8	T. Kakuda	0	8	M. Okamura
2008	3	4	Nao. Itoh	2	4	Y. Hara	3	3	K. Takehara
2009	4	3	T. Yonezawa	5	3	To. Oyamada	3	5	Y. Ohnami
2010	2	4	Y. Yoshikawa	4	3	T. Kashimoto	0	8	T. Kakizaki
2011	3	4	T. Taoda	3	5	T. Takano	4	4	T. Tanabe
2012	5	3	Y. Shimamoto	5	2	Y. Hori	6	2	K. Yoshioka
2013	4	5	M. Okada	4	3	S. Kurusu	3	5	K. Orino
2014	3	2	S. Iwai	2	4	S. Chikazawa	2	2	M. Natsuhori
2015	3	4	K. Maeda	4	4	Y. Maeda	7	2	N. Sasaki

The Purdue University!!

2015.8.8 -22



Dr. Kenichi Maeda,
Kana Iguchi, Yu Inanobe, Jumpei Kosaka, Momoko Shirakura, Yasuyo Sumi,
AKinori Tauchi, Hitomi Shimizu

同校教員 : 前田 賢一 Dr. Kenichi Maeda

氏名	name	所属研究室
井口 佳那	Kana Iguchi	獣医衛生学
稲野辺 悠	Yu Inanobe	人獣共通感染症学
小坂 潤平	Jumpei Kosaka	小動物第2内科学
白倉萌々子	Momoko Sirakura	病理学
須見 康代	Yasuyo Sumi	病理学
田内 昭成	Akinori Tauchi	小動物第2外科学
清水 瞳	Hitomi Shimizu	獣医臨床繁殖

パデュー大学 海外研修報告書

井口 佳那

私は、Purdue 大学で、Community practice, Anesthesia, Large animal surgery, Small animal rehabilitation, Behavior を主に見学した。それぞれの科において、学生さんと一緒に行動し、学生さんがどのように毎日学んでいるのかを見ることが出来た。また、休日にも充実した日々を送ることが出来た。

8月8日 Sat

成田に無事集合後、United 航空の飛行機に乗ってシカゴへ向かった。ドリンクサービスの際、私は、ジンジャーエールが好きなので、頼んでみたところ、通じなかった。発音が悪かったのか、声が小さかったのかわからなかったので、次のドリンクサービスで再チャレンジしようと思っていたところ、それ以降日本人のキャビンアテンダントさんしか来なかったため、帰りに再チャレンジしてみようと思う。

インディアナポリス空港につくと、Tomo 先生と、Will Smith 先生、村上先生が私たちを歓迎してくださった。Smith 先生が思っていたよりも若くてびっくりした。Tomo 先生は、1 年前に講義をしてくださったときと変わらず、お元気そうで相変わらず、とても面白かった。

空港から大学へは、車で 2 時間ほどであった。両側に広がるコーン畑、日が落ちてからのホテル、右側通行など車から景色を見ているだけで楽しかった。インディアナ州との時差は、13 時間で、こちらが夜だと、日本は、翌日のお昼となる。インディアナ州は、北にあるため、夜の 9:00 になってやっと日が落ちてきた。

寮に到着し、部屋がとても広く、綺麗で、これから 2 週間を頑張るって過ごそう！と改めてやる気を出すことができた。明日の観光を楽しみにして今日の疲れをしっかり取ろうと思う。

8月9日 Sun

Tomo 先生がお部屋に持ってきてくださった朝ご飯で一日がスタート。2 週間の流れを Tomo 先生から伺い、より一層楽しみになった。

その後、Will 先生が迎えにいらして、Zoo Exhibit (ごみを材料に動物をかたどった作品が展示されていた)、Purdue union (学食や Purdue グッズが売られているお店、ボーリング場があるところ)に連れて行ってくださった。昼食に食べた Puppy's は、Purdue 大学に昔からあるカフェで昼食をとった。私は、Taty Tots という日本でいうハッシュドポテトを頼んだ。予想外にたくさん出てきて、アメリカのサイズを再確認した。少し休憩した後、Walmart というスーパーに連れて行っていただいた大きなサイズばかりで、見ているだけで楽しかった。Tomo 先生のアドバイスのもと、朝ご飯と昼ご飯用の食材を買った。朝ご飯や昼ご飯を作

るのも楽しみである。Logan's Roadhouse というレストランに向かった。扉をあけると、アメリカの雰囲気漂う素敵なレストランでわくわくした。席に向かうと、学長の Mimi 先生、病院長の Cathy 先生が私たちを出迎えてくださった。私は T-bone stake を頼んだ。22 オンスというかなり大きなステーキで、出てきただけで興奮した！またレストランには、Will 先生の奥様の Candis さんとお友達もいらしていた。Will 先生は 3 週間前に結婚したばかりの新婚さんで、奥様がとても可愛らしく優しく素敵な方だった。

8月10日 Mon

朝ご飯に、スクランブルエッグを作ろうと、卵を割ったところ、日本のものよりも黄身の色が薄かった。エサが日本と違うのかもしれない。

今日は、病理学研究室で講義を受けた。Messick 先生にもお会いすることができ、お土産を渡すと、喜んでくださった。講義は、私たちの他にも学生さん 6 人とレジデントの先生が 1 人いらっしやった。先生の question に対して学生さんが次々に答えているのが印象的であった。ラクダの赤血球は、細長く、とても特徴的だった。血液学の基本的なことも含めて話してくださったので、前田先生や先生に助けていただきながら理解を進めることができた。血液塗抹のどこを見れば何が見えるか、や、実際の症例を見せていただきながら講義が進んだ。顕微鏡を一緒に見て授業をしてくださったのが面白かった。

昼ご飯は、Purdue 大学内にある日本食レストランで巻き寿司を注文した。その名も PURDUE。スパイシーだった。味噌ラーメンを頼んでいた子にお味見をもらったところ、お味噌汁に麺をいれたような味わいであった。"American" Japanese food を味わうことができて嬉しかった。

午後は、Purdue 大学のツアーに参加した。今回は、例年と異なり、徒歩で Purdue 大学を回った。キャンパスが非常に広く、歴史を感じる素敵な建物が多くあったことに感動した。宇宙飛行士の Arm Strong 記念館では、月での足跡のレプリカがあった。小坂君が足跡のレプリカに沿って歩いてくれて、一番の見せどころなのに、Moon jump point でなぜかジャンプせず、案内してくれた学生さんも笑っていた。

夜には、Messick 先生の Home party に伺った。日本のものが多く飾ってあったのが印象的だった。私たちが午前中に渡したプレゼントの風呂敷も飾ってくださったのがとても嬉しかった！お庭で CORN HOLE というアメリカで BBQ 中によく行うゲームを楽しんだ。サプライズで動物の指人形をいただき、とても嬉しかった。Mad さんも私たちに気を回してくださり、とても優しい方だった。Clinical rotation で Messick 先生にお会いできるのがとても楽しみである。

8月11日 Tue

今日は、集合時刻が遅めだったため、朝、アパートの周りを散歩した。たくさんの学生のアパートがあり、どれも素敵な寮で、寮名が全てギリシャ文字でつけられていた。

その後、Shopping Mallに向かった。CandisさんとPaneraというカフェで昼食を取った。Candisさんが、私たちが日本から来ていることを店員さんに伝え、わざわざおすすめのサンドウィッチを聞いてくださったのが嬉しかった。

夕方から Dr. Thompson の講義を受けた。Dr. Thompson は、野生動物を専門としており、講義は、タカなどの鳥や、ラッコ、ヘビの話など、なかなか聞けない動物の話が多く、興味深かった。もっと英語を早く聞き取れるようにならなければ、と同時に感じた。

夜は、Dr. Thompson が Home party を開いてくださり、ハンバーガーやホットドッグ、Smore をいただいた。どうやら、このセットがアメリカの BBQ の黄金トリオらしい。卓球やダンスのゲームをし、Dara と遊び、アイスクリームを食べ、盛り沢山で最高の party だった！

8月12日 Wed

朝起きると、ぼーっとした。時差ボケがついに現れたのだろうか。しかし、今日の病院見学へのワクワクが時差ボケに勝ち、元気に病院に向かった。

到着すると、Salisbury 先生が Purdue 大学の獣医学生がどのような教育を受けているのかを教えてくださいました。

その後、トモ先生による病院内見学ツアーが行われた。病院は、まるで迷路のように入り組んだ作りだった。明日から迷わないか不安だ。病院の中心には、放射線の部屋がある。これは、Large animal、Small animal のどちらからでもすぐ来られるようにする為である。

ツアーの後は、いよいよ Clinical rotation が始まった。今日は、Community practice を見学した。Community practice は、犬猫のワクチンを行ったり、エキゾチックを診察したりする科である。基本的に、学生さんが診察、診断、治療方針の決定を行う。最終的に先生がチェックを行い、その上で飼い主さんに報告を行う。

診察を見学すると、どの子にもマイクロチップが埋め込んであったのが、印象に残っている。今日は、ワクチン接種が多かった。体温測定の際、体温計の先に、ジェルを付けてから肛門に入れていた。このジェルは、ひとつひとつ個包装になっていて、消毒と潤滑剤としての役割があるようだ。また、子犬には、普段の運動量、食事、しつけに関してもカルテに記入しており、それぞれ指導を行っていた。また、後肢において、右側にも左側にもワクチンを投与していた子がいた。理由を聞くと、それぞれ違う種類のワクチンを打っているようだ。これは、ワクチンへの副反応が強く起こっ

た場合に役立ち、どちらの肢が腫れているかを見ることで、どの種類のワクチンに副反応が起こっているかを判断することが出来るのである。他には、Malassezia による犬の外耳炎、猫の感染による目、鼻における炎症、犬の脱臼を見ることが出来た。朝診察を行った 9 歳半の犬で、2 週間前に他病院で dental clinic をした子について学生さんが説明してくださった。元気がないという主訴でやってきた子で、血液検査を行ったところ、Eosin, ALT, ALP, GGT が上昇しており、これにより感染が起こっているのではないかという疑いがかけられた。

学生さんが前面に出て、診察を行っていることが非常に心に残った。

8月13日 Thu

この日は、エキゾチックアニマルの診察が多く、ウサギの避妊、モルモット、フェレットの肥満細胞腫を見ることができた。フェレットの肥満細胞腫においては、切除術を見ることが出来た。フェレットでは、肥満細胞腫は頻繁に起こるものである。犬(特にボクサー)においてもよく起こるが、フェレットにおいては良性、犬では悪性が多い。

ランチには、私たちの自己紹介を兼ねた Seminar があった。とても緊張してしまっていたが、みなさん優しくしっかりと聞いてくださっていたのが印象に残っている。また、プレゼンが終わった後、先生や学生さんが話した内容を覚えてくださっていて、話しかけてくださったのも非常に嬉しかった。

午後には、イタリアングレーハウンドの子犬が 2 匹来た。彼らは、糸状虫に感染していないかどうかのテストのために来た。Canine Gate Analysis の歩行サンプル調査に協力していた。初めてこの歩行検査を見たので、興味深かった。関節にセンサーを装着し、肢の持ち運び方、各肢への体重のかけ方を知ることが出来る。この子たちは、もちろん正常だったが、異常な例のデータも見せてくださり、面白かった。

夜は、村上先生と獣医学生の Kenさんとメキシカン料理を食べに行った。Kenさんは、Purdueの獣医学生で、Large animalを専攻している。とても親切で、英語はもちろん、日本語も堪能な方だった。またお会いして、たくさんお話を伺いたい。

8月14日 Fri

今日は、午前中は、Anesthesia、午後は、NecropsyとLarge animalを見学した。

麻酔科は、日本で見かけないことから、見学できて非常に嬉しかった。多くの機械が揃っていることと、麻酔薬が機械によって厳重に管理されていることが印象に残った。この日は、Gun shotされた子のCT scan、脛骨における骨折の手術を見学した。オペ室に入ってまず驚いたのは、音楽が流れていること。しかも有名な曲フレーズが出てくると、手術中に術者含め、みなさんで歌いだした。なんて雰囲気が良いのだから

う！

午後は、病理解剖を見学した。大きな解剖棟に非常に大きな Bull と、犬猫が計 5 検体あった。異常があった臓器は、ホルマリン漬けと冷凍の 2 種類で保管を行う。冷凍をする理由は、必要な時に解凍してもう 1 度診ることができるようにするためだそうだ。

次に、Large animal surgery でウマの腸捻転を見学した。優しいテクニシャンの Pat が丁寧に説明してくださった。この子は、この前の月曜日に手術をした子で、その手術で腹膜炎が起きた可能性があるそうだ。洗浄しているところを見学することができた。また、Dr. Adams のお部屋に行って、とても大きな結石を見せていただいた。持ってみると、これが体の中に入っていたとは信じがたいほどのずっしりとした重さを感じた。

夕食には、前田先生がリサーチしてくださった美味しい 9 brothers という Irish Pub のお店に行った。お肉もパイも貝もどれも非常に美味しかった。ごちそうさまでした。

8 月 15 日 Sat

今日は、Indiana State Fair に向かった。終日 Dr. Hilton に案内してもらって非常に充実した 1 日だった。

多くの牛、豚、ヤギが展示されており、綺麗な馬もいた。特に印象的だったのは、ヤギの品評会であった。ヤギは、日本では頭数が少ないので、品評会は行われていないのではないだろうか。たくさん種類のヤギがいて、中には、耳が非常に小さくてまるでエイリアンのような子もいた。かわいかった。

Purdue 大学獣医学部の展示もあった。なんと、避妊去勢手術を目の前で行うという展示であった。日本では、まずないだろう。しかも、立ち見がいるほど大盛況であった。

Corn, Lemonade, Fried Oreos, Elephant ear など Indiana state fair 名物の食べ物もたくさん食べることができたのも嬉しかった。

8 月 16 日 Sun

Indianapolis Zoo での Back yard tour ! 飼育員さんに丁寧に説明していただいた。早くて聞き取れない、と思ったら、村上先生が察して下さって、通訳をしてくださった。ありがたかった。サイや象、セイウチに触ることが出来たのがとても良い思い出である。特にセイウチは、手のひらにキスをしてくれた。(ただ手のひらを吸ってくれただけなのだが。) 途端にセイウチが好きになった。

麻酔の部屋や、手術室、麻酔銃、レントゲン、など多くの設備が揃っていた。また、防疫のための部屋があるなど、感染症対策をしっかりと行っているのがわかった。

病理検査室で、ペンギンとトカゲの血液塗抹を見ることが出来た。ペンギンの赤血球は、細長く、トカゲの血液塗抹では、偽好酸球を見ることが出来た。

イルカショーを見たり、自由時間にトラやクマを見たり、と充実した 1 日を送ることが出来た。

8 月 17 日 Mon

今日は、午前中は Dental、午後は、Dr. Hilton の往診に連れて行っていただいた。

Dental は、この日は Community practice のメンバーで行われていた。歯科手術を見学することができた。スケーリングの子 1 頭と抜歯の子 1 頭の計 2 頭が、歯科専用の部屋で施術が行われていた。ちょうど歯科がテスト範囲であったため、実際に施術を見て、とても良い復習となった。また、前田先生に解説をしていただきながら見るることができたので、日本との比較ができた。

午後の往診は、Indiana state fair で一緒だった Dr. Hilton、Beth に加え、来学期から獣医学部 1 年生になる Sam と一緒に回った。この日は、2 件往診が入っていた。

1 件目は、肉牛を育てている農家さんだった。1 頭左目の下に carcinoma があり、その治療を行った。柵場に保定し、診察を始めた。Carcinoma の部分は、膿んでおり、虫が大量に集っていた。虫が carcinoma の部分を刺すため、皮膚に穴があき、傷が奥深くできていた。幸いなことに、眼球まで到達しておらず、目の機能には異常がなかったようだ。手でなるべく膿を除去し、生理食塩水で洗い流した後、虫が寄ってこないように殺虫剤を患部付近にスプレーした。あとは、様子を見ていくようである。Dr. Hilton がエサを指さして農家さんに指導をしていた。質問すると、丁寧に教えてくださった。この農家さんで与えられていたエサが湿っていたようだ。乾燥させていないコーンのせいらしい。乾燥させたコーンは、非常に牛にとって重宝するが、乾燥させていないものは、栄養価が体積にくらべ低く、栄養不足になりやすいそうだ。

2 件目は、豚の農家であった。ここは、品評会に出すために飼っている豚が揃っていた小規模の農家であった。成長した豚は、繁殖豚にも肉豚にもどちらになることもあるそうだ。1 頭あたりに与えられた飼育スペースが広く、敷きチップが清潔だった。以前日本で見学した豚農家とは、このような点が異なっていた。Dr. Hilton にそのことを話すと、アメリカにおける多くの豚農家は、非常に効率化されており、厳重な感染症対策、気温湿度対策が行われているようである。また意外だったのが、油っぽくない豚肉がアメリカでは売れるそうで、太らせないのが稼ぐコツだそうだ。Dr. Hilton、Beth、Sam が本当に親切で、丁寧に説明して下さったのが、とても嬉しかった。

終わると、アイスクリームがもらえる販売トレーラーに連れて行ってくださった。タダでフローズンヨーグルトがもらえるトレーラーで、病院で働いている人に、いつもお疲れさまという意味でたびたび来るらしい。ふと、日本にもこういうのがあると面白いだろうなあ、と思った。

8月18日 Tue

今日は、行動学の尾形先生と一緒に Behavior の診療を見学した。行動学の診察は、初めて見たので新鮮だった。行動学の診察も、他の科の診察と同様、学生さんが飼い主さんと話して、時々、尾形先生からも質問をするという形をとっていた。今日は、3件の診察があった。尾形先生から、飼い主さんの話を鵜呑みにするのではなく、自分の中でその子の行動を観察するのが大事だということを教わった。ちょうど3匹見ることができたので、行動を比較しやすく、勉強になった。診察室だけの行動パターンだけでは、家庭における行動が網羅できないため、カメラを飼い主さんに渡し、様子を撮ってもらうというお願いをしていた。木曜日にも行動学の診察を見ることができるようなので、そこで再チャレンジしてみたい。

Emergency は、急患らしい急患は来なかったが、時間外外来は、続々とやってきた。犬に噛まれた猫や、近所の犬に悪さされた跛行している犬が来院した。Tomo 先生の奥様のステファニー先生が非常に親切に対応してくださったのが、嬉しかった。

帰りに、大学の近くのメキシカンに行った。失敗したのが、additional cost と言われているのがわからなく、アボカドソースを選んでしまったことである。前田先生、ごちそうさまでした。

8月19日 Wed

今日は、Anesthesia と Rehabilitation を見学した。

1件目の手術は、肩関節のバイオプシーであった。前田先生に解説していただきながらだったので、とてもわかりやすく見学をすることが出来た。驚いたのは、皮膚切開を電気メスでやっていたこと。前田先生も驚いていた。2件目の手術は、左耳に Carcinoma がある猫で、1週間前に Biopsy をしたところ、悪性だったため、切除が決まった。こちらも電気メスで切除を行っていた。テクニシャンさんが、手術の見やすいところに連れて行ってくださった。ありがたい。

午後は、Rehabilitation を見学した。ずっと学びたいと思っていたことなので、非常に嬉しかった。テクニシャンの Mindy がバランスボールのようなものを用いて、患部となっている肢に負重をかけたり、棒を潜り抜けたり、歩いたり、とピーナッツバターをご褒美にトレーニングを行っていた。

夜は、BBQ をしてくださった。たくさんの美味しいごはんを用意してくださっていて、先生方とお話しをし、とても良い思い出になった。

8月20日 Thu

今日は、Behavior と Large animal surgery、Neurology を見学した。

Behavior では火曜日の再チャレンジとして犬の様子に焦点を当てて、診察を見学した。子犬なのに大人しすぎるといふ子がいて、その子には、行動学以外の問題がありうるということ予想すべき、と教えてい

ただいた。こういった観察が何よりも必要で、見逃さないのが大事なのだなと感じた。

Large animal surgery では、馬の Sarcoid のレーザー治療を見学した。なんと15分で手術が終了した。レーザーで切り取り、表面を整えるためにさらにレーザーを当て、終了。あまりに早く、驚いた。テクニシャンのマリーさんにとっても親切にしてください。

Neurology では、左に頭をかしげているブルドッグの診察を見学させていただいた。授業でやった神経の検査を行っていたため、理解することができた。次に急に歩けなくなったダックスフンドの症例を説明してくださった。もしかすると、目の神経炎症かもしれないため、明日 MRI を撮ると教えてくださった。

病院が終わると、Will と Candis がアパートまでいらして、みんなでスイカ割りをした。ちょうど近くで BBQ をやっていた大学生に応援してもらいつつスイカを見事割ることができた。そしてなんと Candis さんが夕飯を作ってくれてきてくださった。とっても美味しいラザニアとガーリックトースト、サラダをお腹いっぱい食べた。夕飯後は、Boilermakers という新入生歓迎のためのお祭りを体験しに、街に出た。たくさんの方がいて、びっくりした。帰りにアイスクリームを食べて、帰宅。Will, Candis ありがとう！！

8月21日 Fri

もう病院実習最終日なのかと思うと、本当にあっという間だったと感じる。充実した毎日だったのだろう。

最終日の今日は、Oncology と Large animal medicine、午後は、Community practice を見学した。

Oncology では、尿道において mass ができた犬を診た。良性か悪性かを判断するための Sample の採取を内視鏡で行っていた。Dr. Rossman に丁寧に説明していただいた。

Large animal medicine では、牛の長過蹄を診察、治療した。牛の保定をする機器が動いているところを見て、嬉しかった。削蹄していると、蹄の間に CORN という趾間部の繊維腫があり、それも切除した。麻酔は、リドカインで行っていた。

Farewell Ceremony では、様々な Purdue グッズをいただき、終了証までいただき、至れり尽くせりだった。最後に先生方とお話しできたのも嬉しかった。

最後に Chocolate shop という大学付近の Bar に村上先生、Ken さんと一緒に行き、アメリカ人の元気さを感じ取り、とても素敵な思い出になった。

8月22日 Sat ・ 8月23日 Sun

素敵なアパート、充実した生活、素敵な先生方とお別れして、アメリカから成田へと帰国。帰りの飛行機は、ANA だったため、ジンジャーエールを英語で頼むという再チャレンジは叶わなかったが、とても快適なフライトだった。

総括

2週間ずっと先生方や学生さん、スタッフの皆さんが親切にしてくださって、心からありがたいと感じました。何度もわかるまでゆっくり英語で説明して下さる方、私の発した英語を何とか理解しようとして下さる方、絵まで描いて説明して下さった方、書ききれない程、たくさんの素敵なお方と出会うことができました。日本語を覚えようとしてくださったり、私のプレゼンを覚えてくださっていて話しかけていただけたりしたのも、コミュニケーションがとれるきっかけとなり、非常に嬉しかったです。

日本とアメリカで違うと感じた点は、教育です。Purdue では、4年生になると、Large animal か Small animal を選択することができ、どちらかに特化し時間をかけて臨床について学ぶことができます。最も印象に残っているのが、学生さんがしっかり自信をもって飼い主さんや先生と話していたことです。本当に学生中心で診察が回っていて、それが驚きました。また、扱っている内容が、ちょうど5年前期で学んだことが多いと感じました。やはり授業で学んだことが大事なのだと感じるとともに、アメリカのように実際に診察する機会を学生の今は与えられないとしても、学んだことを自分のものにし、いつでも外に出せるようにしておけば、自分もしっかり成長できると考えるようになりました。

1年生の時にこの実習の存在を知ってから、このアメリカ研修がずっと夢でした。今回叶えることができ、そして、かけがえのない毎日を送りました。北里大学から一緒に Purdue に行ったみなさん、前田先生、そして Purdue 大学の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

稲野辺 悠

8月8日

出発の日。朝8時の新幹線で七戸十和田から成田空港へ向かった。ちょうどお盆の時期ということもあり、とても混んでいました。成田空港に着いたのがチェックインギリギリということもあり、チェックイン後に出発口の近くのカフェテリアで最後の和食。私は肉うどんをチョイスしたが、友達は何故かタイ風焼きそばを食べてました(笑)。行の飛行機は UNITED 航空ということでとてもせまく、真ん中の列ということもあり、人によっては12時間弱のフライトでトイレに行けなかった人も。私は映画を2本見て、しっかり歯みがきもトイレも済まして就寝。面白かったのは、2本目の映画がコメディ映画で、とても面白く1人爆笑していたところ、近くのかなり威圧感のある外国人も一緒に爆笑していて、それが個人的にツボでした。笑いのツボは世界共通みたいです。不安だった機内食も美味しく食べれたので、ホッとしました。シカゴを經由して、インディアナ空港に到着すると、井上先生、村上先生、そして今年から国際交流のコーディネーターとして働くウィルに連れられ、アパートへ送ってもらいまし

た。やっぱり、井上先生は大きかったです。アパートに到着し、軽く説明を受けて今日は早めに就寝...しようと思ったのですが、何気なく自分の部屋の扉を閉めた瞬間、扉は無情にも Lock されてしまい、鍵も部屋の中に...その日は友達のリビングで一緒に寝させてもらいました(笑)。アパートの部屋と自分の部屋のカギは異なるので、来年行く人は気を付けてください。

8月9日

アメリカ到着1日目。井上先生とウィルが朝食にベールを持ってきてくれて、食べながら、軽いオリエンテーション。もちろん、鍵は開けてもらいました。井上先生は「毎年一人はでるからな〜」と爆笑してました。そこからウィルと「The Zoo」という屋外の美術館へ。Trash で色々な動物が組み立てられていて、何と購入もできるという不思議な美術館でした。十和田にある近代美術館の外のオブジェに少し似ていると思います。美術館を後にすると、大学へ。大学内を案内してもらい、ウィルとみんなでボーリングをすることに。残念ながらスコアは最下位でした笑。時差ボケですね、と言いつつしようとしたら、前田先生が1番に。外科の人って器用ですね。昼ご飯にキャンパス内のカフェテリアでベジーバーガーとチェリーコークを食べ、ドリンクのサイズに驚きながら大学を後に。そこから、井上先生も合流し、Walmart という大きいスーパーへ買い物に。スーパーのサイズですが、ドリンクのサイズ、アイスのサイズ何もかもとにかく売ってるものは大きかったです。個人的にエナジードリンクの Monster の味が10種類以上あったので、全て飲みたかったのですが、1本のサイズが大きすぎたこともあり、断念しました。日本で売られたら、頑張ります。スーパーを後にして夕食に roadhouse という映画で見るとような雰囲気の良い steakhouse で500gほどのステーキを食べました。アメリカの肉は日本と違い脂身も少なく、あっさりしてるのでペロリと頂いちゃいました。

8月10日

アメリカ2日目。この日は朝早く起きて、アパートの周辺を散歩。朝は人も少なく、日差しも弱いので、散歩にはちょうどよくキャンパス内を散策。朝食は井上先生に教えてもらったサルサを食べ、臨床病理の授業に参加。臨床病理学研究室には北里にも来られた Messic 先生が所属していて、そのレジデントが授業を行っていました。授業は4年生と一緒に受けたのだが、先生1人に対し学生7人というとても羨ましい環境で授業が行われていて、授業スタイルも先生がこまめに生徒に質問を振り、それに学生が即座に答えるというもので、学生1人1人の知識が深いなど見てて思いました。授業内容は Hematology でそこまで難しくはなかったのですが、如何せん専門用語を聞き取るのが困難でとても苦戦しました。授業が終わると、大学の食堂でお昼ごはん。そこで、味噌ラーメンを注文(注

文票にはミソスープラーメン)。すると、まさかの日本でいうところの濃い味噌汁に麺を入れただけのもが出てきて、正直美味しくありませんでした。日本のラーメンってすばらしい。

8月11日

アメリカ3日目。朝は比較的ゆっくりして昼前からショッピングモールに買い物に。インディアナポリスというNFLのチームの帽子とユニフォームを購入。ここで分かったことは、clearanceと書かれているところがセールになっていて安いということと、自分にはアメリカのキッズサイズのXLがちょうど良いということが分かりました。井上先生には子供サイズやんけ！って笑われましたが、大人サイズより安いからいいんです。。。買い物が終わると、Dr.トンプソンのwildLifeの講義を聞きました。鷹やカワウソ、ヘビの野生での保護や野生動物への麻酔の方法などについて教えてもらいましたが、後々分かることでしたが、このDr.トンプソンは大学病院の一次診療の先生をやっている傍らこういった野生動物の保護も行っているとのことでした。特に僕はヘビが好きなので、ヘビを保護しているシェルターに行きたかったのですが、願い叶わずでした。夜はDr.トンプソンの自宅でハンバーガーやホットドッグを食べたり、先生のお子さんと遊んだりしました。家はとても広く庭も地下室には卓球台もあり、トンプソン先生と卓球をしたところで、ちょっとしたハプニングが。Dr.トンプソンと前田先生、先生の息子と私がペアになって試合をすると、こっちが点数を取るたびに、トンプソン先生は本気で悔しがっていて、誰よりもガチで卓球をしてました。それに怯える前田先生が少しかわいそうでした(笑)

8月12日

アメリカ4日目。とうとうローテーション実習初日ということで、副学部長の先生から説明を受け、MRIのビデオを見ていよいよ実習開始。とその前にDr.トモに病院内を案内してもらいました。正直、迷路みたいな作りで道を覚えるのが大変でした。案内が終わると、それぞれの科に配属され、クリニカルローテーションへ。僕は内科に所属することになっていたのですが、内科の学生部屋に行くと、朝の微妙な時間ということもあり、学生も先生もチラホラしか居らず、来る学生もあまり自分のことを気にする様子もなく、学生同士で盛り上がっている様子は、まさにライオンの檻に入れられた仔鹿状態でした。ずっとそんな状態もあれなので、1人の学生が診察に行くようなのでついていくことに。診察自体は学生2人で行って、そこからレジデントやインターンの先生へどのような疾患が疑われるかや治療のプランなどを話し合い、学生が考え、カルテに記入し、そしてカルテをレジデントが最後に判断といった感じで、学生主体で病院業務が行われていることがとても新鮮でした。1日の最後にはラウンドといって、全員で部屋に集まり、今日来た症例に

ついて話し合うというもので、そこも先生から学生にバンバン質問がとんでいて、一つの症例を深く追求するのだなと思いました。診察が終わった後は、five guysという有名なハンバーガーショップに行き、1日を終えました。

8月13日

クリニカルローテーション2日目。今日も内科へ。入院管理を見たり、朝のラウンドにも参加し、そこからtechnicianというVTによる授業を聞きました。VTが学生に授業をしていることに驚きましたが、VTといってもとても知識があり、井上先生にも聞いたことですが、VTがいないと病院は回らないというくらい、ここパーデュー大学ではVTが重要視されていました。午前の診察が終わると、昼休みにプレゼンテーションがあり、みんなの前で北里大学、十和田のこと、そして自分達の自己紹介をみんなの前でやりました。もちろん英語で話したのですが、発音が思わしくなく、所々伝わっているのか不安でしたが、発表自体は笑いも取れたので、良かったです。個人的には自分が今お世話になっている内科の学生がたくさん来てくれたことがなにより嬉しく、午後には内科の部屋に戻ると、発表を褒めてもらえて、距離が縮まったようで、大成功でした。午後は少しの診察とカルテ作成しか無かったので、放射線のレジデント1年目の日本人の村上先生のところへ話を聞きに行くことに。村上先生はアメリカに来るまでに色々経験されてきていて、たくさん話を聞くことが出来ました。村上先生は画像診断の先生ということもあり、今後たくさん聞きに行くことになりました。この日の晩御飯は腫瘍科のレジデントで女性の村上先生と現在パーデューの獣医学生4年生のケンちゃんとメキシカンフードを食べました。メニューの写真だけで、ブイヤベースを頼むとめちゃくちゃ辛く、かなり辛かったです。それでもケンちゃんは平気で食べていて、身体も大きく、アメリカの食事もバンバン食べるケンちゃんは同じ日本人とは思えませんでした(笑)。食べ終わると、スーパーにお酒を買に行き、アパートに戻ってから、ケンちゃんと村上先生と軽く飲んで、就寝。

8月14日

ローテーション3日目。今日は朝から外科に行くことに。この日のオペはgun shotといって銃創の手術、逆行性尿路造影、椎間板ヘルニアの手術があり、導入、導入後のMRI、手術を見せてもらいましたが、ここでも学生が中心となってVTと一緒にいた。さすがに手術は行っていなかったが、麻酔や麻酔薬の選択などは学生が考えて行っていた。ここで思ったのは、アメリカの手術風景はノリの良い音楽が流れ、終始和やかなムードで手術が行われていて、かなり異様ではあったが、個人的には居心地は良かった。昼ごはんを食べに行こうと外科の部屋を後にすると、内科の学生にちょうど鼻腔鏡をやるところだよ、と教えてもらい、見に行くことに。昼ごはんの後手術を見て、1日で

3 件の手術を見ることができたが、手術室のエアコンが効き過ぎてたせいかお腹の調子は終始悪かった(笑)。晩御飯はこの地域で一番有名だという Irish レストランへ。アメリカンフードじゃないせいもあってか、脂っこくなく、とても美味しかったが、実はチップ代だけで 5 千円くらいとられていたらしい。そんなこんなでローテーション最初の週は終了。

8 月 15 日

今日は土曜日！病院が休みということで、大動物獣医師の Dr.Hilton と VT のバスと一緒に Indiana state fair というお祭りに行くことに。この祭りでは牛、山羊、馬などの品評会やチアリーディングの大会、地元の特産品の出店などがあり、indiana は農業、畜産業が盛んということで、そのことを外部の人にも知らせてもらおうというお祭りみたいで、たくさんの方がいました。そこではパーデュー大学の獣医学生も外部の人に向けて、手術器具の紹介や避妊手術などを一般公開していました。個人的にサークルで一般の人や学生に向けてブース出展をすることもあるせいか、とても参考になりました。この日案内してもらった Dr.Hilton は子供の頃からこの祭りに毎年来ているらしく、知り合いがすごく多く、顔がとても広くていろんな場所を見学させてもらいました。Hilton 先生はとても元気で、若い自分達が圧倒されるくらいで、祭りの最後の方には疲れた顔の人がチラホラ見受けられるくらいでしたが、すごく熱心にいろんなことを教えてくれました。ここで食べた elephant ear(象の耳)というお菓子がとても面白く美味しく、後日その話を病院の学生に話すと、とても盛り上がりました。

8 月 16 日

今日は日曜日！(笑)ということで、休日を使って indianapolis zoo のバックヤードを見させてもらうことに。到着するなり、まさかのスコールが降ってきて、動物園内を車で移動することに。手術室や、病理生化学検査室、感染の危険性のある動物を入れておく場所などを見学させてもらった後、イルカショーへ。イルカショーの建物はドーム状でとても大きく、マイケルジャクソンや One Direction の音楽が流れる中、手拍子などを交えながら、終始賑やかでした。そこから、セイウチ、象のバックヤード見学を終えると少しの自由時間でライオンやキリンを見たり、お土産を買ったりして動物園を後に。帰りにインディアナのダウンタウンを車で通ってもらうついでに、わがままを言って NFL のインディアナポリスのホームスタジアムの前で写真を撮ってもらいました。アパートに帰ってからは、少しのお酒を飲んで明日からまた始まるローテーションのために早めに就寝。

DAY11

ローテーション 4 日目。今日からは腫瘍科に行き、移行上皮癌で世界的にも有名なナツ先生の診察を見学することに。ナツ先生の診察日は月曜日だけということもあり、この日は遠路はるばる来る人も多く、

腫瘍科の予約も移行上皮癌がほとんどでした。腫瘍科の学生は 2 人いて、クリスという太めのやんちゃそうな学生についていき、診察を見たり、超音波診断を見たりしていましたが、腫瘍科に初めて来たこともあり、あまりなじみずにいると、VT のおばさんが気を利かせて話しかけてくれて、分からないところも絵で説明してくれたり、とても良くしてもらいました。この日の最後には、腫瘍科も少しずつやすい場所になっていた気がしました。

8 月 17 日

ローテーション 5 日目。今日も朝から腫瘍科へ。昨日の移行上皮癌の予約の多さに比べるとこの日は、骨肉種やリンパ腫など他の腫瘍の患者が多かった。この日は働いている人を労う意味も込めたアイスクリームデイというものが午後になり、無料でアイスが職員に配られていて、腫瘍科のレジデントのドクターと一緒にアイスもらいに行った。こういった職員を労う特別な日は年に数回あるらしく、そういうところはとても良いことだなと思いました。この日の腫瘍科で一番印象に残っているのは、移行上皮癌の患者で前立腺に腫瘍が出来、尿を出すことが出来ず、そういう状態が何日も経過していて、カテーテルを使って何度も試みたが結局尿を出すことが出来ず、その場で安楽死となった患者に立ち会ったことだった。学校の手術実習などで安楽死に立ち会ったことはあったが、実際の病院で飼い主がいる子の安楽死というものはその場において、とても悲しいものであり、ドクターや学生の表情を見てもそのことを感じ取ることが出来た。ローテーションが終わると、夕方からの救急にも出ることに。井上先生の奥さんが救急の獣医師をやっている、色々とお話することが出来ましたが、この日の救急はあまり患者は多くなく、疲れていたこともあり、夜 9 時くらいに病院を後にした。

8 月 18 日

ローテーション 6 日目。朝から白内障の手術を見学に。そこからは神経科に行き、リハビリを見学した。リハビリは VT が担当していて、バランスボールやポールなどを使い、脊椎の手術後のリハビリを行っていた。面白かったのは、リハビリのご褒美として、ピーナッツバターをあげていて、糖分などは大丈夫なのかなーと思った。午後には馬の目の手術も見ることが出来た。ローテーションが終わると、車で移動して晩御飯にみんな BBQ をすることに。たくさんの方が来ていて、ケンちゃんの歌も聞けてとても楽しく過ごせました。ただ、BBQ に半袖半ズボンで行ったせいか蚊にめちゃくちゃ刺されました。アパートに帰ってからは、行動学の緒方先生に次の日の行動学の予習をしてきてもらいたいと予習資料をもらったので、寝る前に見ることに。行動学の診察を受ける際のアンケートが 30 問くらいあり、患者さんの主訴などが書かれていました。そういった行動学治療の問診の項目が確立されていることに感心しながら、2 つの予約分の予習を終えて、眠りについた。

8月18日

ローテーション7日目。今日は朝から行動学へ。診察が始まる前に緒方先生とディスカッションをした後、診察へ。不安がちなサイトハウンド種の犬で、午前の時間を丸々使って診察を行っていた。アメリカに来てから日数が経っていたこともあり、専門的な用語が余り飛び交わない行動学の診察は聞き取りやすく、診察が終わった後の緒方先生とのディスカッションも深い内容を議論できたが、自分の知識不足や予習不足を指摘されてしまい、日本に帰ってから勉強しなきゃという気持ちにさせられました。診察では、患者の主訴だけでなく、原因と思われる疾患の可能性を一つずつ時間をかけて潰していた。午後は、循環器に行き、心エコーを2件ほど見た。5年前期で循環器をやっていたが、見たことのない画像も多かったのも、その分からない部分を村上先生に教えてもらいに行きました。この日は、ローテーションが終わると、ウィルと奥さんのキャンディスさんが料理をふるまってくれて、前田先生の発案でスイカ割をしようということになり、みんなでやることに。ウィルにスイカを割るものを持ってきてほしいと頼んだところ、レプリカの剣を持ってきたので、かなりシュールだったけど、とても楽しく良い思い出が出来ました。

8月19日

ローテーション最終日。朝から牛の削蹄の手術に。牛を手術台に乗せるため、部屋に入れてから追い込み、台に乗せ、そこからロープを使い、約500kgの牛を4、5人がかりで台に保定していた。大動物の手術はあまり笑い声が飛ぶという訳でもなく、二人の大柄な男の獣医師がテキパキと働いていて、手術というよりは工事現場みたいな感じだった。削蹄途中で膿瘍も見つかり、膿瘍の切除も見ることが出来た。手術が終わると、コミュニティプラクティスとって一次診療の診察を見学した。この科にはトンプソン先生もいて、プレゼントがあると言われ、大学のポロシャツをもらいました。この日は自分たちのローテーション最終日ということもあり、ほとんどの科で昼食が用意されていて、自分はコミュニティプラクティスでお昼をもらい、金曜日ということもあって予約も少なく、学生とGoogle Mapを見ながらそれぞれの出身地について楽しく話した。午後はお世話になった科へのお礼と写真を撮る時間にほとんど充てた。お世話になった人達に感謝を言えて、そして連絡先と一緒に写真を撮ってもらったので、とてもよかった。ローテーションが終わると、Farewell Ceremonyがあり、自分はみんなの前でスピーチをすることに。前日までに原稿を覚えていたつもりが、いざスピーチとなると頭からとんでしまい、散々なものに。それでも、井上先生や村上先生から英語を褒めてもらい、成長を少しは感じられました。

8月20日

帰国の日。朝に井上先生と村上先生がアパートに来て

くれて皆のスーツケースの重さを量ってくれて、飛行機のチェックインがスムーズにいくようにしてくれた。空港までウィルとキャンディスと2人の先生に送ってもらい、空港でお別れをした。感謝を込めて、サプライズにDr.Tomoとウィル、キャンディスにTシャツに寄せ書きをしてプレゼントした。絵が上手い子がいたので、似顔絵や孫悟空の絵をかいて渡すと、3人とも喜んでくれた。特に井上先生が少し涙ぐんでいるように見えて、そこで思わず、自分も泣きそうになった。帰りの飛行機はANAだったので、とても快適に(笑)帰ることが出来ました。

小坂 順平

8月8日(土)

今日から翌日の夕方にかけては移動日でした。テストが終わって、すぐの出発だったので慌ただしかったのを覚えています。最初の予定では女性陣と一緒に新幹線で行く予定だったのですが、一週間前に新幹線のチケットの予約に行ったところ、行きたい時間帯の新幹線の予約が男性陣分しかなく一緒に行けませんでした。なので、新幹線のチケットの予約は早めにとっておくことを来年行く方々に伝えておきたいです。男3人で8時台の新幹線に乗るために7時に大学近くのローソンで待ち合わせをし、七戸十和田駅に向かいました。空港についてから時間的に余裕がなかったのでもう一本早い新幹線で良かったかなと思いました。飛行機の中は想像よりは寒くありませんでした。成田からシカゴまでは長い飛行時間でしたが、シカゴからインディアナポリスへはあっという間でした。インディアナポリスの空港にトモ先生、ディレクターのウィルさん、村上先生が迎えに来てくださいました。宿泊先のアパートに向かう途中のガソリンスタンドで、お酒とおつまみを買っていただきました。夜は稲野辺が部屋の鍵を部屋の中に置いたままドアを閉めてしまいロックがかかってしまったために僕の部屋で一夜を共にすることになりました。翌日トモ生に開けて頂きましたがこれには来年行く方々は気を付けてください。例年起きています…。

8月9日(日)

朝食はトモ先生がベーグルやフルーツを買ってきて下さってそれを頂きました。午前中は野外の博物館のような場所に行き、学生がつくった動物の作品を見た後にボーリングをしました。久々のボーリングで最初は調子が良かったのですが、終わってみれば下から二番目のスコアでした。お昼はボーリングをやった場所でハンバーガーを食べました。日本のものと違って味が濃く、少ない量でも満たされました。夜は病院長や副学長たちとローガンズロードハウスというお店でステーキを食べました。500g以上の大きさのお肉を人生で初めて食べました。とてもおいしかったのですが、後半苦しかったです。

8月10日(月)

朝食は昨日の残りのベーグルやフルーツをみんなで食べました。朝食後は、メシク先生がいらっしゃる病理学研究室で血液学の講義を受けさせて頂きました。講義の内容はスピーディーでほとんど理解することができませんでしたが、画面に映し出された顕微鏡像の赤血球の異常は理解できました。その後、昨日ボーリングを行った場所で昼食を食べました。日本食のお店で、僕はライスカツボール(日本で言うかつ丼)を食べました。一応かつ丼のような感じではあったのですが、卵でとじられてはおらず、やはり日本のものとは違う感じでした。昼食後はキャンパス周辺をガイドさんに案内させて頂きました。バスで案内して頂く?というお話を聞いていたのですが、実際は歩いて周ることになりました。その道中で前田先生が田内に色々とむちゃぶりをすることがあったのですが、田内のノリが悪く、全部僕が要求に応える形になりました。具体的には、噴水に飛び込んだり、走り幅跳びをしたり...。夕飯はメシク先生のお宅でお好み焼きをしました。お酒を飲んだり、ゲームをしたりとても楽しい時間を過ごすことができました。

8月11日(火)

今日は午前中モールでショッピングをしました。ウィルとウィルの奥さんのキャンディーさんに連れて行って頂きました。ショッピングをする前に以前から前田先生と話していたフーターズがモールの近くにあったので連れて行って頂きました。テレビで見たことがあるものよりもセクシーな感じではなかったのですが、すごく楽しめました。妊婦さんがいたのにはさすがに驚きました。帰り際に店員さんと写真を一緒にとらせて頂きました。

モールでは今後おみやげを買う機会があるのかがよくわからなかったので、おみやげを少し買いました。同じ班の人にはアメリカンフットボールのチーム T シャツを買い、あとはアメリカっぽい毒々しいお菓子を買いました。

買い物が終わり約束の時間に指定の場所に行くと女性陣が集合時間になっても現れず、キャンディーさんが探しに行ってくださいました。前田先生が少しいらしていました。さらに、ウィルがフーターズに車の鍵を忘れるという事件も起こり、少し慌ただしい感じになりました。午後はトンプソン先生の野生動物学の講義を受けさせて頂きました。話すスピードが速く、聞き取るのが難しかったです。夜はトンプソン先生のお宅で夕飯を御馳走になりました。トンプソン先生はご家族が多く、日本の音楽にも大変興味のある方で気さくに接して下さいました。お家には地下があり、そこで卓球やテレビゲームをしました。トンプソン先生の娘さんがダンスゲームをやり始め、井口さんが代表として踊ることになりました。その後でトンプソン先生が前田先生にもダンスゲームをやるように勧め、田内が前田先生の相手をやるはずが、田内は空気が読め

ないので拒否し、僕が踊ることになりました。人生初のダンスでしたが楽しむことができました。

8月12日(水)

今日からクリニカルローテーションが始まるためいつもより早くに起床しました。トモ先生が学校を案内して下さい、クリニカルローテーションで病院に降りるにあたっての説明を受けました。説明が終わると各々希望していた診療科へと向かいました。僕は稲野辺と一緒に内科へと向かいました。僕はザックという学生につくことになり、一緒に診療を見学させて頂きました。レジデントの先生とザックとともに診療にあたり、駆血をやらせてもらいました。エコーを見る機会があり、その場には放射線科のレジデンスの村上先生という日本人の方がいらっしゃり、色々教えて頂きました。日本と違いエコーの際に麻酔をかけるということを初めて知りました。この村上先生は空港に迎えに来て下さった村上先生とは別人です。

8月13日(木)

今日はクリニカルローテーション2日目で、今日も内科を見学しました。9時から輸血に関する授業があり、厳密なプロトコルを学びました。昨日入院した犬のBALの最初の部分だけを見学させて頂き、プレゼンテーションの準備へと向かいました。プレゼンテーションを行う場所にはピザやジュースが用意されており、お腹が空いていたのでそれを皆で頂きました。トム先生に去年の人たちは緊張してプレゼンテーションが終わってからピザを食べていたよと笑われてしまいました。プレゼンテーションは緊張しましたが、なんとかやりきることができました。ザックにBALの結果を聞くと、細菌が分離できたと言っていました。夜は村上先生と村上先生のお知り合いのケンさんにメキシコ料理のお店に連れて行って頂きました。味がしょっぱかったものもあったのですが、おいしく頂きました。その後、アパートに戻りケンさんとお酒を飲みました。とても優しく、気さくな方で楽しいお酒の場となりました。

8月14日(金)

今日は朝から1日クリニカルローテーションでした。今日から眼科の見学に向かいました。内科を見学しているときは稲野辺と一緒にでしたが、今回からは1人で少し緊張しましたが、トム先生が眼科のレジデントの先生に僕を紹介して下さい、助かりました。眼科の人たちはレジデントの先生が2人、学生3人、教授1人で、レジデントの先生1人を除いて全員が女性の方で学生の人たちの会話に入り辛かったです。午前中は診療を見学したのですが、日本の診療と特に違いはありませんでした。午後は眼の中に薬を注射するインジェクションという麻酔をかけて行うものを見学しました。麻酔の効きが悪かったのか、インジェクションをやるうとした際に、動物が動いたのには驚きました。

それが終わると保健所の往診に同行させてもらいました。保健所では、保健所の職員さんが眼に異変がある子を先生に診ていただくという形でした。午前中の診療で、レジデントの先生にスワブを使う検査の機会があればやらしてもらえますか？と聞いておいたところ、保健所での往診の最中に結膜スワブ染色検査をやる機会があり実際にやらせて頂きました。

8月15日（土）

今日は1日インディアナステイトフェアというお祭りのようなものに参加しました。マーク先生という方がずっと案内して下さいました。マーク先生は、とても元気で愉快な方でした。知り合いの人に会うと必ず声をかけていて、とても人脈の広い方だなと思いました。フェアでは、ヤギの品評会や品評会用の牛や馬、豚がいてとても賑わっていました。初めて品評会というのを見たのですが、どういうところを見ればいいのかちょっとわからなかったのですが、雰囲気は楽しめました。他にもフェアでは、エレファントイヤーというシナモンがかかった甘いものや T ボーンハンバーガーなどを食べたのですが、とてもおいしかったです。

8月16日（日）

今日は1日中動物園見学で、午前中はあいにくの雨でした。動物園の裏側を見させて頂きました。サイやゾウを間近で見ることができて迫力がすごかったです。サイの角を触らせていただいたり、ゾウの尻尾を触らせて頂いたりしました。ゾウの尻尾を初めて間近で見たのですが、とても特徴的な形をしていて驚きました。その後は、セイウチを間近で見させて頂き、手にチューをしてもらいました。貴重な体験でした。お昼を動物園内で食べた後、イルカショーを見学しました。とても幻想的で、きれいでした。その後は、自由に動物園内を巡り、いろいろな動物を見ました。その後おみやげを買う場所で、田内とライオンのぬいぐるみを保定して遊びました。

8月17日（月）

今日は朝からローテーションで、眼科に向かいました。午前診療が1件入っており馬の眼を診察しました。馬は力がすごく、テクニシャンの方も保定が大変そうでした。レジデントの先生に馬の眼底を見させていただきました。馬の眼底を初めて見ました。眼底を診た際に色素沈着を確認できました。その後にアルパカの眼の検査も見学しました。お昼に大学内のショップを開けて頂き、そこでパデュー大学のロゴが入ったポロシャツを購入しました。午後は3件ほど診察を見学しました。診察と診察の合間にアイスクリームの無料配布があり、すごい色のアイスクリームを食べました。今日は眼科の学生のうち1人が彼氏なのか婚約者なのかはわからなかったのですが指輪を頂いたらしく盛り上がり、話に入れませんでした。

8月18日（火）

今日も朝からクリニカルローテーションで、前日から少し喉に痛みがあったのですが、今日は痛みがひどく辛かったです。眼科に向かうと午前中は診療が多めで、午後はインジェクションや馬の眼底を見させて頂きました。前田先生に朝の段階で喉の痛みのことを伝え、本当は17時までクリニカルローテーションで、その後救急を見学させてもらう予定でしたが、辞退させてもらいました。田内と清水さんと僕の3人で帰宅しました。アパートに戻る前に夕飯をどうするかの話になり、最初はマジューズシという怪しい名前のお寿司屋さんに入ったのですが、メニューがよくわからなかったので買うのを辞め、メキシコ料理のお店でおかずにするようなものを買って、3人でアパートで食べました。22時くらいにみんながアパートに帰って来て、翌日の予定を確認して就寝しました。

8月19日（水）

昨日の喉の痛みが悪化してしまいました。体調の悪いことを前田先生に告げると、トモ先生やウィルにも伝わり大変ご心配・ご迷惑をかける形になってしまいました。午前中は白内障の手術を見学させて頂きました。教授がレジデントに教えながら手術を進めていたので、9時から始まり12時前まで手術でした。モニターに映し出されたものなら写真を撮っても良いということで、写真を撮りながら手術を見学しました。午後は馬の診察があり、眼底を見させて頂きました。馬の診察の途中で、前田先生から今日はもう帰って休めとお言葉をいただき、クリニカルローテーションの途中ではありましたが1人アパートに帰らせて頂きハッピーハローパークでの食事会の時間まで休ませてもらいました。前田先生には参加して大丈夫なのかと言われたのですが、せっかくの行事でしたので大丈夫ですと答え参加させて頂きました。18時半にトモ先生とウィルが迎えに来て下さり、その時にトモ先生から色が怪しい風邪薬を頂きました。この風邪薬が救世主になるとはこの時は思ってもいませんでした。ハッピーハローパークに着くともう準備がされており、メシク先生や村上先生、ケンさん、行動学の緒方先生など多くの方がいらっしゃったのですが、行動学の女の学生さんが1人とその方のお知り合いの情報系の男の学生さんが一人しか学生はいませんでした。学生がもっといっぱいいると思っていたので少し残念ではありましたが、ケンさんが一曲歌って下さったり、トモ先生がハンバーガーを作ってく下さったりとて楽しかったです。夕食後にトモ先生から頂いた薬をすぐに飲みました。その後、村上先生とケンさんがアパートに来てお酒を飲みました。村上先生のテンションが高く、とても面白かったです。寝る前に再びトモ先生から頂いた薬を飲み就寝しました。

8月20日（木）

前日にトモ先生の薬を飲んだおかげなのか喉の痛み

は驚くほど良くなりました。今までの経験からいって、長引きそうな喉の痛みであったはずなのにここまで良くなるとは、アメリカの風邪薬の効果恐るべしです。話は変わって、今日は腫瘍科の見学に行きました。僕は内科の研究室で直属の先生が腫瘍を中心として診療を行っているのですがアメリカの腫瘍科での診療はとても興味深いものでした。腫瘍の治療に際してのプロトコールを聞いたのですが、北里大学で行っているものとは違うものでした。クリニカルローテーションが終わり、ウィルの奥さんが夕飯を作ってくださいということでアパートに来て下さいました。ラザニアと自家製のパンを用意して下さい、本当においしかったです。ここで、僕たちも冷凍食品ではありましたが、たこ焼きなどを用意しました。ダチョウ倶楽部のおでんのネタを僕と田内でやったのですが、田内のせいでしまいました。夕飯を食べた後は、ダウンタウンに連れて行ってもらい、そこで学生の歓迎会のようなものがやっており、学生生活で使うようなものを無料で配布していたので頂きました。その後、人気のアイスクリーム屋さんを連れて行ってもらい名前が面白いアイスクリームをみんなで食べました。

8月21日(金)

今日はクリニカルローテーションに行く前に宿泊代を払うべくトモ先生に支払い場所まで連れてって頂きました。支払いが終わると、もう日本に帰らなくてはならないのだなと実感が湧きました。最終日のクリニカルローテーションでは眼科を訪問しました。金曜日は、休日の前日ということで診療を多く入れるようなことがなく、角膜疾患についての講義を9時から受け、そのあとにレジデントの先生から試験問題を渡され、学生の方たちと一緒に受けさせてもらいました。この試験は成績に入るらしく、解こうとしたのですが難しくほとんどわかりませんでした。午後は診察が無く、14時頃に家畜場で豚の往診があるということで一緒に行こうと思ったのですが、今日は16時からフェアウェルセレモニーというお別れ会のようなものをやって頂く予定でしたので、15時半までに帰れますか？と尋ねたところ帰れないとの返答でしたので諦めました。15時半まで時間があつたので、他の科に行こうと思って色々めぐってはみたのですが、どこも人がいなく、偶然前田先生を見つけたので、一緒に見学できそうなところを探していたら内科の学生が診療に向かうところで、内科の診療を見学させてもらいました。診療が終わるとまだ時間があつたので、お世話になった人と写真を撮りに行き、15時半になるとみんな待機部屋に戻り、スーツに着替え、セレモニーが行われる場所に移動しました。セレモニーには眼科や内科でお世話になった学生が来て下さり、とても嬉しかったです。ただ、セレモニーで頂いた研修修了証のようなものに記載されていた僕の名前が間違っていたのが残念でした。セレモニーが終わった後は村上先生とケンさんと前

田先生、学生で大学から歩いて15分くらいのチョコレートバーという甘そうな名前のバーに連れて行って頂きました。バーの2階に行くと、学生がどんどんやって来て騒がしくなり、大声でも会話が聞こえないような状態となりました。そこで出てきた料理につけるソースがとても辛く、そのソースをつけて食べた後はほとんど何も食べられない状態になりました。バーで2時間くらいお酒を飲んだ後、アパートに戻り、アパートの冷蔵庫に残っていたお酒を消費しました。日本のアニメや音楽の話になり、とても盛り上がりました。

8月22日(土)

日本に帰国しなければならない日がとうとう来てしまいました。午前中はパデュージュグッズがたくさん売っているお店に連れて行って頂きました。ここで、最後のおみやげ購入時間だったので、お目当てのおみやげを必要な分購入しました。ただ、スーツケースの大きさが小さかったので中にしっかり収まる量を考えて購入しました。おみやげを買い終わるとホテルに一旦戻り、おみやげを各自スーツケースに詰め終わると、トモ先生が体重計を持ってきて下さりスーツケースの重さを測ってくれました。前田先生は1kgぐらいオーバーしていたので、移し替える作業が大変そうでした。アパートを出る準備ができるとインディアナポリスの空港へと向かいました。僕はウィルとキャンディーが乗る車に同乗し、海外のミュージシャンで好きな人の話になり、誰々が好きと言うとその歌手の音楽を流してくれました。いよいよお別れの時間。お見送りにはトモ先生、ウィル、キャンディー、村上先生が来て下さいました。本当に素晴らしい時間をありがとうございました。インディアナポリスからシカゴまではあつという間で、シカゴで前田先生にハンバーガーを御馳走になりました。アメリカでのラストハンバーガーでした。シカゴから成田空港までの飛行機は行きの飛行機よりも快適で、席の前に画面がついていて、映画を3本ほど見る事ができました。しかも日本で公開中の映画も上映していてとても良かったです。さらに、乗務員さんがみんな日本人の方で、日本食も食事が出てきて言うことなしでした。成田空港に着き、いよいよ解散の時が来ました。前田先生には本当にお世話になり、感謝の言葉と共に用意していたプレゼントを渡しました。中身はマグカップと手紙、それにあまり言葉では言えないようなものを入れておきました。後日、お会いした時に感想を聞いてみようと思いましたが、空港で解散すると、田内と翌日一緒に新幹線で帰る予定だったので、上野まで電車で行き、電車の中で宿泊するホテルの予約を取りました。時間帯が遅いのもあって、危ない人がちらほらいました。宿泊先のホテルでゆっくりしているとゴキブリが出現し、最悪な気持ちになりましたが、これもまたいい思い出なのかなと自分に言い聞かせました。

最後に

短い期間でしたが自分にとってとてもいい経験になったと思います。アメリカの診療を見て日本との違いを一番感じたことは、学生が主体であることです。学生が実際に飼い主さんからお話を伺い、レジデントの先生と問題点を話し合っただけで治療方針を決めたりすることは北里ではないことなので驚きました。それに人数が多いということもありますが、一件あたりにかける診察時間が長く、診察の流れがゆっくりだったような気がしました。今回の経験を日本の診療でも生かすことができればと思います。前田先生をはじめ、パデュー大学で多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

白倉 萌々子

8/8/2015 Sat

成田空港で女子4人でおうどんを食べてから皆と集合して飛行機へ。私は海外に行くのが初めてだったので長時間のフライトは不安だったけれど、意外と快適だった。シカゴ空港から乗り継いでインディアナポリス空港へ到着するとトモ先生と Will と村上先生が迎えて下さり、Purdue 大学敷地内にある宿泊先のアパートへと移動。アパートは広くて綺麗で、生活に必要な最低限の品はすべて用意して下さってあったので何不自由しなかった。テレビで天気予報を見て気温が 70°Cと表示されていて驚いた（こちらは華氏をよく使うようである）。ここでひとつ来年 Purdue 大学に行きたいと考えている人に言っておきたいのは、円からドルへの換金は成田空港で済ませておくように、ということ。今回シカゴでもインディアナポリスでも換金できるから大丈夫、と言って先延ばしにしていたらシカゴではタイミングが無く、インディアナポリスについたときには換金所が閉まっていた結局後日 Will に換金しに行きたくて行くことになってしまった。

9/8/2015 Sun

時差ボケもなくすっきりと起きることができ、スポンジボブのアニメを見てから皆と集合し、トモ先生が用意して下さったおいしいベーグルを頂きながら大まかに日程確認。そのあと Will が "The Zoo" という野外アートの展示場へ連れて行って下さった。続いて Purdue Univ. Memorial Union へ行きボーリングを1ゲームすることに。ランチは同じ建物内にある puppy's で軽く食べたのだが、ジュースのレギュラーサイズが日本のLサイズくらいあって驚いた。お手洗いにいきたくて店員さんに道を尋ねたら自分の英語が通じて嬉しかった。アパートに戻る前にアメフトの試合をするスタジアムに寄ったら、試合はしていなかったけれど練習前の選手に会うことができた。からだの大きさに驚いた。アメフトは見たことがないし今回は見られなかったけれど、いつか機会があったら見てみたいと思う。アパートに戻ると家のまわりのあちらこちらでリスに出会えることに気づき嬉しくなった。日本でもアメリカでも、野生動物に会うと何とも言えない嬉しい気持ちになる。次は Walmart というス

ーパーに行って朝ごはんや昼ごはんのお弁当の献立を考えながら買い出し。日本とは違う雰囲気店内に興奮した。夕飯は Logan's Roadhouse というレストランで Salisbury 先生と Mimi 先生と Will の奥様の Candice などと一緒に過ごした。私は Salisbury 先生と Mimi 先生の近くに座ったけれど、あまり積極的に話せなかった。夕飯を終えて8時くらいになっても外が明るくて不思議な感じがした。Purdue 大学のある場所は日の出が遅くて日の入りも遅いようだ。

10/8/2015 Mon

朝ごはんは皆で料理をして食べた。今日は Messic 先生の血液学の講座に参加させていただいた。内容は割と基本的なものだったので、英語の意味も何となく大体理解できた。顕微鏡がパソコンとつながっていて、大きなモニター上で先生が矢印を動かしながら説明して下さって分かりやすかった。北里大学でもこういう矢印を使いながら教えてくれたらもっとわかりやすいと思った。日本よりも学生と先生の距離が近くて、学生も自分の意見をたくさん言っていていいと思った。ラクダの血液塗抹標本を初めて見た。夕飯は Messic 先生のお宅にお邪魔して、アメリカではポピュラーらしいコーンホールという遊びを教えてもらった。アメリカのおうちを見られたし、可愛いパピヨンに会えたし、親切におもてなしして下さって楽しかった。だんだん英語で話すこと、聞くことに慣れてきた気がする。

11/8/2015 Tue

午前中は Will と Candice がモールに連れて行って下さってお土産などを購入してきた。見られなかったお店もあったし、きっと一日いても飽きないだろうなと思った。そのあと Thompson 先生の講義を聞いた。カワウソやヘビやタカなど、普段の講義では触れることのないような動物の話聞くことができた。夜は Thompson 先生がおうちに招待して下さった。家族の他に大学の学生などたくさんの方がいたけれどなかなか話しかけることができて、もう少し積極的に頑張らなければ、と思った。

12/8/2015 Wed

今日からクリニカルローテーションが始まった。今日は Medical Oncology に行った。左肘に腫瘍ができたため訪れた子犬の症例や肥満細胞腫のイヌの症例などを見ることができた。患者が来たらまず学生がオーナーに会って面接、大まかな診察や血液、尿の採取、検査方針の計画など一通りを行っていたのが印象的だった。肥満細胞腫の症例では FNA や X 線撮影、エコー、骨髄生検を見せていただいた。また、腫瘍を触らせてもらった。私は病理学研究室に所属しているので顕微鏡では診たことがあったけれど動物の体についている時点での腫瘍を触ったことは無かったので、実際に触れることでイメージが膨らまされてよかった。また、骨髄生検も初めて見られてよかった。専門的な英単語は普段の会話よりもっと難しかったけれど、自分から質問しないと説明してくれないので頑張って話しかけることができたと思う。ただ、もっとゆっくり話してください、と言うタイミングがつかめなくてほとんど内容が分からないようなまま話が終わってしまうこともあった。

13/8/2015 Thu

クリニカルローテーション 2 日目。今日も Oncology を

見せていただいた。朝は毎日ラウンドと言って会議のようなものが8時からあるため、朝5時半に起床。早起きではあるものの一日忙しくて眠くはならなかった。2日目なので昨日よりも積極的に質問できたし向こうからも話しかけてもらえるようになった。朝のラウンドは何人もが同時に話すし速いし専門的な内容なので断片的にしかならなかったけれど、努力して聞こうとすることが今後につながると思って頑張ることができた。途中一旦ローテーションを抜けて、北里大学と自分たちの紹介のプレゼンテーション。台本を見ながらだったし何度も間違えたけれど、日本人の前で日本語を使って話すよりも緊張しなかった気がした。夜は村上先生とケンさんがメキシカンレストランに連れて行ってくれた。私は本格的なメキシコ料理を食べるのは初めてだったけれどとてもおいしかった。

14/8/2015 Fry

今日も **Oncology** で実習させていただいた。今日一番嬉しかったのは、ジャムシディ骨髄生検針を使った骨髄生検が見られたこと。授業で習ったことを自分の目で見られるとさらに理解を深められるので本当にいい経験ができたと思う。午後は **Oncology** の学生が紹介してくれて病理解剖を見せていただけることになった。IMHAのイヌ、腸閉塞のネコ、蹄葉炎のウシ、ヘルニアのイヌ、喉頭あたりに腫瘤があると疑われるブタが今日の検体だったが、私はイヌの解剖はきちんと見たことがなかったしIMHAだとどうなるのか気になったのでその検体をずっと見せていただいた。今日は検体数が多いということもあり、学生がほとんど一人で一匹のイヌを解剖していて驚いた。研究室で解剖を何度も見たことがあったので内容も理解しやすかった。やはり、はじめから大体わかっている内容をもう一度英語で教わると理解しやすい。解剖している学生さんに、少し迷惑かな、というくらいこまめに質問していたらだんだん向こうから話しかけてくれるようになって、最後は解剖以外の会話もできて、すごく嬉しかったし楽しかった。夕ご飯は前田先生が探してくださったアイリッシュレストランへ。アイリッシュレストランも初めて行ったのだけれど、とてもおいしかった。このころになるとアパートのルームシェアが本当に楽しくなってきた、毎晩のように女子4人で集まってのんびり休むのが幸せだった。

15/8/2015 Sat

Willとトモ先生が **State Fair** に連れて行って下さった。会場では **Mark Hilton** 先生と **Beth** が案内して下さいました。**State Fair** は昔から伝わる伝統的な、例えば鍛冶職人の仕事や糸を紡いで織物をつくる仕事などを紹介したり、ウシ、ヤギなどの品評会をしたりと日本のいわゆるお祭りとはまた違ったものだった。品評会などで動物と一緒に歩くのは子供たちらしく、今の日本ではきっと子供がお肉や牛乳を作り出してくれている動物と実際に触れあったり世話をしたりする機会がほとんどないと思うので、こういう **Fair** があってたくさんのことを学べるのはとてもいいことだと思う。集まった動物の世話をする獣医も **Fair** には関わっていて、ケンさんがその仕事について教えて下さった。品評会に出る動物にはドーピング検査も行うというのが一番印象的だった。**Fair** にはたくさんの屋台も出ている、ビーフハンバーガー、ポークリブ、

シェイク、トウモロコシ、エレファントイヤー、オレオフライ、ポップコーン、レモネードを買った。皆でシェアしながらいろいろ食べられてとても楽しかった。途中エイブラハム・リンカーンの格好をした人と出会って写真を撮ってもらった。1週間経って感じているのは、アメリカでは特に知り合いでなくても気軽に挨拶したりできていて、とてもいいなということ。すれ違う人と目があったら知らない人でもおはよう、と言える文化はすごくいいと思う。

16/8/2015 Sun

Willとトモ先生が **Indianapolis** 動物園に連れて行って下さった。動物園の裏側を見せてもらうことができ、麻酔や注射に使う麻酔銃や吹き矢、大きな動物用に作られたとても太い気管チューブなどいろいろなものを見せてもらった。また、普段は遠くから見るしかできないサイ、ゾウ、セイウチに、なんと触ることができた。サイとゾウは皮膚がバスケットボールのように硬かったし、ゾウの耳は大きなビザ生地みたいな感じだった。セイウチは私の手のひらにキスしてくれたのだけれど、唇は大きくて柔らかくて吸引力が半端なかった。夜はトモ先生と村上先生をアパートに迎えて皆でパスタを作って食べた。

17/8/2015 Mon

今日も **Oncology** を見せていただいた。月曜日は **Knap** 先生による移行上皮癌 (TCC) の診療が集中的に行われるということで、TCCの多くの症例を見ることができ、超音波検査の様子を何回か見学させてもらった。初めてTCCを超音波で見たけれど、カリフラワー状にもこもこして特徴的だった。膀胱の大部分を占領してしまっているものもあった。TCCについての知識はほとんどなかったけれど、外科的に摘出するほか薬でコントロールすることもできるということだった。**Knap** 先生はTCCについての研究を進めているらしく、免疫との関係や遺伝子変異の話もしていたけれど知識もないうえ英語が専門的で理解することが難しかった。**Oncology** は今日で最後だったけれど、いつも顕微鏡でしか見ていなかったMCTやリンパ腫、骨肉腫、脂肪腫などがどのように動物についていて、触るとどんな感触、固着感のかなどを知ることができて本当によかった。今日は空き時間に整形外科も見学させていただいた。北里大学で習ったばかりの内容だったので興味深かった。今日改めて感じたのは、アメリカの人は皆声が大きくはっきりしていて、はきはきと自信を持っているように話すのだなということである。私は人に説明したりスピーチしたりすることが苦手なので、あと数日で少しでも周りにいる皆さんのようにはきはき話せるようになればいいなと思った。

18/8/2015 Tue

今日は **Neurology** と **ICU** を見せていただいた。**Neurology** はまず朝のラウンドで排尿に関わる神経の話聞いてから、入院している椎間板ヘルニアの手術後のラサアプソのリハビリとマッサージを見た。食餌をしないらしく、いろいろな種類の餌を与えたりして工夫していた。他にも斜頸を示すネコのMRI、CSFの採取、後肢の疼痛が疑われるラサアプソのCPなどの神経学的検査を見せていただいた。斜頸のネコはMRIで左の外耳から鼓室に白いモヤが見えて、慢性炎症を起こしているらし

かった。耳鏡を使った耳の検査も見学できた。Neurologyは日本語でも難しいと感じるので英語だと余計難しかったけれど、北里大学で習ったことが実際にたくさん見られたので嬉しかったし楽しかった。夕方からICUに移って、跛行を示すイヌ、イヌに噛まれたネコ、ブランケットが絡まって左肢が膨らんだイヌ、血尿を示すイヌ、保護された野良猫、跳ねたり口をくちやくちやさせたりと異常な行動が見られるネコを処置する様子を見学した。跛行のイヌでは神経学的検査、血液生化学検査などをしてからNSAIDsを処置していた。イヌに噛まれたネコはX線撮影をしたところ気胸、皮下のブラが見られ呼吸数が増加していた。今日は酸素室で入院するらしい。左肢が膨らんだイヌは排液が無くしっかりと歩いていたので数日間NSAIDsを与えるのみで経過観察になった。血尿のあるイヌは背中を折り曲げるようにして立っており、どこかに痛みがあることが疑われた。食欲、排便は正常で嘔吐もなく、神経学的検査も正常であった。今後超音波検査などを行うようである。異常な行動が見られたネコは腰部を触ると怒り、疼痛が明らかだった。今日は一旦家に帰り、後日血液検査やX線撮影、疼痛管理などを行うということだった。このネコはメインクーンで、肥大型心筋症好発種であることも重要である。最近習ったばかりなのに好発種などほとんど忘れていて、何度も復習しなくては行けないと改めて思った。ICUには昨日から入院しているというDICのイヌがいて、鼻出血が止まらないでずっと横たわっていた。呼吸をするたびに鼻から血が溢れていて、見ていて辛かったけれど、もしも自分が将来小動物診療に進むならこういう場面にも慣れなくては行けないと思った。大変厳しい状況らしいが、このイヌが回復することを強く願う。(実は最終日に、鼻出血が止まって外でリハビリをしている姿を見ることができた。まだ横になったままだったけれど、回復して家に帰れることを祈っている。)

19/8/2015 Wed

今日はまずNeurologyで昨日もリハビリをした椎間板ヘルニア手術後のラサアプソのリハビリと超音波検査をみた。日に日に後肢の調子が良くなっているということで嬉しかった。後肢左大腿骨の骨折でプレートを入れたイヌのリハビリも見ることができた。小さなボールに前脚を乗せてバランスをとらせたり、ポールを立てて歩かせたり、ポールをまたがせたりくぐらせたりしていた。また、立ったり座ったりを繰り返すこともリハビリになるそうだ。オヤツを上手に使っていて、リハビリしているイヌも楽しそうに見えた。次に外科で白内障の手術を見た。眼科の手術は初めて見たが、とても細かい作業で難しそうだった。この後時間が空いたので今度は放射線科にいらっしやる村上先生(村上先生は二人いらっしやあって、こちらは男性の村上先生。)のところへお邪魔させていただいた。前十字靭帯断裂に対するTPLOについて説明して頂いた。授業で習ったことが復習できたし、より詳しく画像の解説をしていただいて面白かった。村上先生はパデュー大学に来る前に日本の小動物臨床をしていたということで、小動物臨床の場で働くうえで大切なことも教えて下さった。患者に割く時間と、自分の勉強に割く時間と、自分のために使う時間を上手に使って自分のスタイルを見つけることが大切だと分かった。

私は今のところ小動物臨床に携わりたいと考えているので、村上先生の言葉を心に留めておこうと思う。次にCardiologyで心房中隔欠損と肺動脈弁狭窄をもつイヌのバルーンによる弁形成処置を見学させていただいた。透視下で頸静脈から右心へバルーンカテーテルをいれて膨らませていた。夜はHappy Hollow Parkで先生方と一緒にバーベキューをした。その後ケンさんをアパートに招いて、日本とアメリカの違いなどいろいろな話をした。例えば、アメリカのトイレは壁の隙間が広い!日本のお化け屋敷は怖い!などなど。お互い普段気づかないけれど、外国から来た人の話を聞いて初めてわかることがたくさんあって面白かった。

20/8/2015 Thu

今日の朝ごはんは自分たちでホットドックを作ったのだけれど、ソーセージがしょっぱくて苦手だった。アメリカのお菓子などの甘さは好きだけれど、しょっぱさは苦手だ。クリニカルローテーションは眼科を回らせていただいた。眼球破裂のイヌの診察と、経眼瞼眼球摘出術を見ることができた。他にも網膜萎縮のネコや色素性ブドウ膜炎の症例も見られた。目が見えていないらしい症例でも動物は普通に歩いたりできているように見えて、人間と違って言葉が通じない動物の異常を見つけることの難しさを改めて感じる。夜はWillとCandiceがアパートに来てくれた。Candiceが作ってくれたラザニアやガーリックトーストがとてもおいしかった。ご飯を食べた後Boiler Bridge Bashという大学の新生に向けて様々な企業などが宣伝したり勧誘したりする行事に連れて行ってもらったのだが、日本の大学ではないような雰囲気でもとても楽しかった。アパートに帰ってくるころには辺りは暗くなっていて、新生歓迎ムードだからかたくさんの建物がライトアップされていて綺麗だった。

21/8/2015 Fri

今日でクリニカルローテーションが最後、今日は内科をまわらせていただいた。金曜日は通常あまり忙しくない一日らしく、今日もゆったりとした一日だった。高熱、運動不耐性、チアノーゼ、蕁麻疹、虚脱、パンティングという問題を抱えるイヌの診察を見せていただいた。今日は検査入院するという事でオーナーへ説明する面接の様子にも立ち会った。実習を通して感じたのは、アメリカのオーナーは日本よりも自分の意見をたくさん話してくれている印象があるということと、北里大学で習った通りはじめはオープン型の質問、次にクローズ型の質問をしているということ。クリニカルローテーションを終えて、今回の実習の修了書や記念品をいただいた。

2週間、毎日初めてのことばかりで、アメリカの良さ、日本の良さを知ることができたと思う。充実していて本当に楽しかったけれど、もっと自分が英語を話せたらよかったのという後悔も残るので、専門用語を含め今後も勉強していきたい。また、日本語で分からないことは当たり前だが英語だともっと分からないので、獣医の知識をもっとつけて、まずは日本語でしっかりと理解して身につけていこうと思う。

須見 康代

8月8日に午後5時半に成田空港を出発し、シカゴで乗り換え、8月8日の午後8時前にインディアナポリスに到着した。約14時間の時差があった。車で約1~2時間でパデュー大学に到着した。

12日まで、防疫の関係上、まだ動物病院内に入れないのでそれまでの間は以下のようなことを行った。

9日は、スーパーへの買い出し、ステーキ店でのWelcome Dinnerへ行った。

10日は血液学の教室で、血液塗抹標本を顕微鏡で観察し、それが何かをディスカッション方式で診断していた。パデュー大学の4年生が数名おり、先生が質問すると次々に答えており、各々が質問をしていた。この積極性が自分には足りないので、見習っていこうと思った。授業で習っていたところだったので、聞き取れなかったところは推測しながら、理解しようと頑張った。

そして晩は、Joanne Messick先生のお宅にお招きいただき、お好み焼きをつくったりして楽しい時間を過ごした。

11日はSteven Thompson先生の環境と野生動物の治療における獣医の役割や研究についての講義を聞いた。スライド中にヘビに麻酔をかけていたり、レントゲンを撮っている写真があり、今まで見たことがなかったので驚いた。晩は、Thompson先生のお宅にお招きいただき、ハンバーガーやホットドッグをおいしくいただいた。

12日からいよいよローテーションが始まった。15日までの3日間腫瘍科へ行った。まず、腫瘍が何であるかを特定するためにレントゲン撮影や超音波検査また、FNAやバイオプシーを行い、細胞学、組織病理学で検査し、診断を下す。結果が、局所的にとどまっていれば外科的切除や放射線治療を行い、全身に拡がっていれば化学療法を行うそうだ。驚いたのが、まず初めに学生が診察室に行き、問診や触診をし、TPRを測っていた。その結果を先生に報告し、その後先生と学生がまた診察室に行き、検査や治療をするというシステムであった。印象に残っている症例は、3か月齢の子イヌで左肩部に腫瘍ができていた。腫瘍は柔らかかった。バイオプシーやCT、レントゲン撮影などを後日行い、水嚢胞であることが分かった。T細胞リンパ腫を発症したイヌのリンパ節を触らせてもらった。通常4~5倍になっていたそうだ。また日本ではあまりみられないピレニーズやロットワイラーなどその他、大型犬が多く、新鮮だった。大型犬が多いことと関連しているのか、症例は骨肉腫や血管肉腫が多い印象を受けた。リンパ腫も多い印象を受けた。化学療法は個体にもよるが、週に1回から2週間に1回の頻度

で行っているようだ。その時に見た症例はカルボプラスチンを投与していた。その日の診察が始まる前に、ラウンドを行なっているのだが、それにも参加した。Radio Oncologyに村上先生がいらっしゃって、肥満細胞腫の予後診断について話して下さった。C-kitが変異を起こすと、細胞は分裂し続け、無限に増える。したがって、C-kit陽性であると予後が悪いそうだ。ヒトのGISTで60~80%はC-kit陽性であることが知られている。これを抑制するのが抗癌剤Palladraで動物では肥満細胞腫にヒトではGISTの治療に使われているようだ。

13日は、自己紹介のプレゼンテーションを行った。思っていたより人が集まってきたので、緊張したがまずは大きな声で話すよう心掛けた。

14日の午後からは、剖検を見学した。解剖する場所はとても広く、その日はウシとイヌ2匹、子ネコ、子ブタ計5頭を数人でわかれて同時進行で行っていた。ウシは雄で1tを超えていて今まで見てきたなかで一番大きかったので驚いた。重機で吊下げながら解剖しており大変そうだなと思った。ウシは蹄葉炎による敗血症疑いであった。子ブタは頸部に腫瘍ができており、それが原因で嚥下困難になっていたと思われたようだ。

15日はIndiana State Fairへ、16日はIndianapolis Zooへ行った。動物園では、バックヤードを見学させていただいた。その時に、サイを近い距離で見たのは初めてであり、触ってみようと思っていた以上に固く、まるで壁みたいであった。普段は入れないところを見ることができたので貴重な経験ができた。

17日からは主に大動物臨床へ行った。患者はほぼ馬で、その数の多さに驚いた。関節鏡のオペを見学した。その馬は左脚が穴の中に落ちてしまい、右脚が引っ張られて跛行を示すようになったということだった。馬の麻酔を初めて見た。部屋の壁はマットで覆われ、チューブは、小動物実習で見たものよりはるかに太かった。

午後は往診に同行させていただいた。1か所目はウシの牧場へ行った。左目が赤く腫れていて、膿様物が付着しておりハエがわいていた。目の周囲が傷付いていただけで、目自体はきれいであった。壊死組織を取り除いて、洗浄し、最後に殺虫剤をかけていた。局所的なものなので、抗生物質の投与は全く必要ないとおっしゃっていた。鑑別として目の腫瘍があり、ヘレフォード種で7~8歳で好発するそうだ。2か所目はブタの飼育場へ行った。今までみたことのない白と黒の大きなぶち模様のブタがいた。ブタが健康であることの証明のために行った。

患者は馬が多く、跛行や疝痛の症例が多かった。ちょうど授業で習ったような、屈曲試験や蹄鉗子で蹄を挟んで跛行テストを行っていた。それ以外では、

ウマの双子疑いの妊娠診断を見た。結果は双子で、片方の妊角にかたまりが二つあり、一方は active だが、もう一方は小さくなっていたようだった。また角膜潰瘍の症例や、馬原虫性脊髄脳炎疑いのウマや、蹄葉炎のウマに蹄鉄をつけているのを見た。ウシは3頭の症例を見た。蹄が長いものや、蹄の背面に膿瘍がある疑いのものであった。ウシを誘導し、ウシの右側に板があり、専用のロープで保定し、その板を倒してウシを右側横臥位で保定していた。蹄が長いものなどは、蹄を削って整えていた。膿瘍疑いのは、まず蹄鉗子で挟んで痛みの有無を見ていた。膿瘍があり、空洞化していたようだ。浮遊法を行っていた。いくつかの症例を見ていたが、大体のケースで畜主さんは検査や治療に立ち会っていた。

18日の午後5時以降に救急へ行った。突然、跛行するようになったオーストラリアンシェパードやイヌに襲われて皮下気腫、気胸になったネコなどがいた。

その他にはリハビリを見学した。左後肢の大腿骨骨折の小イヌと、椎間板ヘルニアの2歳のシーズーのリハビリを見た。始めにマッサージをして、バランスボールなどを使って、筋肉に負荷をかけたり、ハードルがあるところ歩かせたりしていた。このハードルを歩かせるときには、ゆっくり行ることが肝心で、そうすることによりそれぞれ一本一本の肢を使わせることができるそうだ。今度はハードルの高さを上げて、その下をくぐらせることにより、関節を伸ばすことができるそうだ。椎間板ヘルニアのシーズーは右後肢が動いてなかった。椎間板ヘルニアを発症するには、2歳という年齢は早すぎるとおっしゃっていた。後肢を自転車をごくように動かして、毎回肢の裏を地面につけている感覚を感じさせていた。また、小動物外科へ行き、会陰ヘルニアの手術を見学した。

こうして、8日間のローテーションを終えた。言いたいことを伝えられないもどかしさを感じ、聞き取れないので何回も言ってもらったときには申し訳なく思った。しかし、自分の話したことが通じたときは嬉しかった。日本とアメリカの獣医医療や教育システムの違いを実際に見たり、肌で感じる事ができていい経験になった。この経験を今後活かしていきたい。

田内 昭成

8月8日 出国

朝6時に起床し、車で七戸十和田へ向かった。無事8時52分発の上野行きの新幹線に乗り、京成上野駅で乗り換えて時間通りに全員で成田空港に集合するこ

とが出来た。荷物を預けた後、軽く食事を済ませ手荷物検査、出国審査を受けた。飛行機は予定時間通りに成田を出発し私達の2週間の研修が始まった。飛行機の機内は寒くて羽織るものはなくてはならなかった。真ん中の座席はあまり居心地の良いものではなかったが、機内食の方は噂ほど悪くはなかった。途中乗り換えの際に訪れたシカゴは空港の中がとても広かったが、前田先生の先導のおかげで特に問題なく時間通りに乗り換えることが出来た。Indianapolis 空港に着くとウィル、井上先生、村上先生の迎えがあり、車で1時間半ほどかけて宿舎まで連れて行ってくれた。宿舎に着いてからは、軽く晩御飯を済ませて、就寝した。

8月9日

朝8時に起床。時差が心配だったが、意外と寝ることが出来た。9時半から井上先生と朝食を食べながら2週間の打ち合わせをした。11時から車に乗ってパデュー大学の敷地内を回り、アートミュージアム、ボーリングをした。また Puppy というハンバーガーショップでハンバーガーを注文した。ハンバーガーのサイズが大きく、一つ完食するとお腹いっぱいになった。その後、車で再び回りアメフトのスタジアムを観光した。撮影の途中にアメフトの選手がいたので迷わず一緒に写真を撮ってくれるようお願いした。15時からは車で Walmart へ向かい今後の朝食と昼食の買い出しを行った。夕方からは Logan's Roadhouse というステーキ屋さんでキャシー先生とミミー先生と会食を楽しんだ。20ounce のリブステーキはとても食べごたえがあり、帰宅するとお腹いっぱいですぐに寝てしまった。

8月10日

朝7時半に起床。8時から皆で朝食を作った。10時から病理生物学棟の研究室で hematology を顕微鏡を覗きながら講義して頂いた。学校で5年の前期に習ったことを授業で聞いていた割には専門英語と話すスピードが速く、理解するのが難しかった。またこの時、7月に十和田でお会いしたメシク先生にも会えて、夜のメシク先生の家で行われるホームパーティーが非常に楽しみだった。お昼は学校内のレストランで和食(うどん)を食べた。日本のものとあまり変わらず、美味しかった。14時からはパデュー大学の学生にキャンパス内を徒歩で案内させてもらった。あのアームストロングの出身校と聞き、宇宙工学が発展していることに衝撃を受けた。広いキャンパス内に飛行場もあると聞いたので、感心した。夕方からは、待ちに待ったメシク先生の家での歓迎パーティー。お好み焼きを皆で作り、お酒を片手に皆で食べたり、話をしたり、外でゲームをしたりしてとても有意義な時間を過ごした。

8月11日

朝9時に起床。11時半からウィルの車に乗って mall へ買い物に行った。Mall へ着くとまずフーターズへ向

かった。タンクトップで短パンの美女達が持って来るハンバーガーは格別美味しかった。(二週間の滞在の中で、一番美味しかったハンバーガーだった)。その後、mall 内で軽く友達へのお土産を買った。15 時からはトンプソン先生の野生動物の講義を受けた。野生動物の保護の仕方とガラガラヘビへのマイクロチップの入れ方にびっくりした。講義の後には、トンプソン先生のお宅へお邪魔をして、夕食とゲームを楽しんだ。ゲームでは屋外で遊んだり、スマブラをしたりした。トンプソン先生の息子のニックはとても卓球が上手だった。とても充実した一日だった。

8月12日 ローテーション1日目

今日からローテーション。朝9時に起床し、皆で朝食を済ませて学校へ向かった。病院の説明を受けてから各自希望する科へ分かれた。私は、メシク先生のいる Clinical pathology へ行った。以前お会いした時に是非学びたいと懇願した結果、マンツーマンで指導して頂いた。Clinical pathology では、患者の CBC、血液生化学、血液等の塗沫から血球等の評価をした。一日中顕微鏡を見るのは、とても疲れた。夕食は Five Guys に行き、ハンバーガーを食べた。

8月13日 ローテーション2日目

今日は朝から Surgery と Anesthesiology へ行った。午前中はウサギの去勢の手術があった。最初避妊だと聞いて期待したが、いざウサギを見てみると雄であり、手術の時間はあっという間だった。ウサギの挿管は難しいと聞いて、どうやってするのだろう。と少し見てみたかったが、酸素マスクでの吸入麻酔であったので、色々残念だった。その後、自分達のプレゼンテーションを行った。英語でのスピーチはとても緊張したが、無事終わったので良かった。午後からも続けて Surgery。TPLO を一部始終見た。手術の最後にレントゲンを撮り、無事成功出来たのを確認したが、日本でのオペを見たことが無かったので、日本と比較出来なかったことが残念だった。晩御飯は村上先生とケンさんとメキシカン料理を食べに行った。ケンさんとは初対面で緊張したが、とても人柄が良くて優しい人だった。

8月14日 ローテーション3日目

朝6時半に起床し、学校へ行った。午前は、Surgery。脛骨を銃で撃たれた犬の手術を見た。銃弾を見たかったが、体を貫通しており見る事が出来なかった。銃弾の欠片は小さすぎて体の中に残したまま手術は終了した。午後からは、少しの間検死を見た後、Large Animal の診察を観察した。馬のお腹に腹水が溜まっており、これからどのように治療していくか考えている所だった。腸閉塞の可能性があったが検査の結果、腸は捻じれていなかったのが良かった。晩御飯は学校周辺で一番美味しいと言われているお店に食べに行った。アイリッシュパブのお店でフィッシュフライや

ステーキ、スモークサーモンなどを前田先生に奢っていただいた。前田先生、ありがとうございます！！

8月15日 State fair

今日は State fair。朝8時に Indianapolis へ向けて出発した。会場に着いて、車の多さにびっくり、人の多さにびっくり。ホルスタイン、ジャージー等、色々な種類の牛が展覧されており、ヒルトン先生とベスさんに丁寧に説明して頂いた。次に山羊、豚、馬等も順々に見て説明して頂いた。また、アメリカの農業の歴史も見て回った。大型のトラクターや農耕の道具などを実際に見た。State fair では歩きながら、終始ハンバーガー、トウモロコシ、アイスクリーム、エレファントアイア、フライドオレオ等を食べ続けてお腹が減ることは無かった。とても楽しかった一日だったが、とにかく歩き疲れた一日でもあった。

8月16日 Indianapolis Zoo

今日は Indianapolis Zoo ! 朝7時に起床し、8時に Indianapolis へ向かった。Indianapolis Zoo には、サイ、キリン、ライオン、オランウータン、コアラ、クマ、ワシなどの多くの動物がいた。動物園の裏側を拝見することが出来、サイの角を触ったり、象の体に触れてみたり、セイウチに手をキスされたり普段日本で出来ないようなことが体験をした。また途中、イルカショーをみたが雰囲気は日本とは異なり、静かな感じのショーであった。Indianapolis から帰る時、ウィルの車の中でアメリカの音楽を楽しんだ。あまり歌うことは出来なかったが、とても盛り上がり興奮した。

8月17日 ローテーション4日目

今日は午前中 Oncology に訪れた。ミーティング後ナツプ先生に TCC について教えていただいた。膀胱内にエコーを当てて内服薬でどのくらい TCC が縮んでいるかの経過観察を見ていた。実際にどのように見えて、どのくらいの大きさなのかよく分かったので大変良かった。午後からは、Cardiology に訪れた。診察に来た患者の胸部にエコーを当てると PDA らしく、診察の後で聴診器を用いて心音を聞くことが出来た。また心臓付近を触診することも出来た。夕方からは、emergency を見た。一件目は、熱中症で倒れた大型犬だった。腹部の発赤と点状出血が、見られて今にも死にそうな状態であった。すぐに心電図を付けて、血液検査を行い輸液で様子を見ることにした。血漿輸血も行い、絶えず流し続けていた。(後日、状態が良くなったので大変良かった)。二件目は、犬同士の喧嘩で首を噛まれた犬の治療をした。噛んだ犬、噛まれた犬の両方が狂犬病ワクチンをしていたようで大事には至らなかった。三件目は蜂に顔を刺された犬が運び込まれた。こちらも抗ヒスタミン剤の投薬をして経過観察をしていたが大事には至らなかったのが良かった。22時まで三件の来院で、多いように感じたが今日は少ないということだったので、びっくりした。

Emergency は一刻を争うこともあり非常に緊張した時間が続いていたが、貴重な体験をすることが出来て良かった。一日が非常に長かった一日であったが、晩御飯に食べたピザとパスタはお腹が空きすぎていたためか、非常に美味しかった。

8月19日 ローテーション5日目

今日は午前中 **Cardiology** で昨日診察に来た PDA の犬の手術を見た。心臓の循環のためなのか鉛の防護服を着た術者が暑いためなのか分からないが、オペ室が異常なくらい寒かった。Cアームを操作しての手術はコイルを入れている所が細かに分かったので、手術の内容は分かりやすかった。午後からは、**Clinical pathology** でメシック先生とマンツーマンで今日来た患者の塗沫を見た。血液塗沫だけでなく、CSF や FNA 内の異常細胞を詳しく説明して頂いてもらったので良かった。夕食はハローウィンパークで **BBQ** を盛大にした。**BBQ** と言ってもお肉を焼くのではなく、ハンバーガーやホットドックを自分で作っていただいた。たくさんのお世話になっている方々に来ていただいて、色々な会話をすることが出来た。

8月20日 ローテーション6日目

今日は午前中、**Large Animal** を訪れた。牡馬の左後肢の膿瘍を摘出する手術で麻酔の導入から見せていただいた。日頃、馬の手術を見ないためか、麻酔の吸入器の大きさや、クレーンでのつり上げなどが新鮮に思えた。手術は無事上手くいき、きれいに膿瘍は切除された。午後からは **Cardiology** の診察を観察した。酷い **MR** の患者や、心室頻脈で心電図が異常波形を示しているものや、ファロー四徴症といった症例を実際に、診て、触ることが出来たので良かった。ファロー四徴症については、村上先生にレントゲン画像を説明していただいたので、より理解をすることが出来た。

8月21日 ローテーション7日目(最終日)

今日は朝宿舎の支払いをした後、各自ローテーションへ。私は午前中を **Cardiology** で過ごし、**PS** の手術を見た。Cアームを用いてバルーンを狭窄部位に入れて拡張する手術で、思ったよりも早く手術は終わってしまった。金曜日は休日の前の日ということであまり予定を入れたがらなく、午後から特にやることもなく暇になってしまったので、今までお世話になった方と写真撮って、**Large Animal** のパットと雑談を交えて色々馬の治療を教わった。16時から、スーツに着替えて **Farewell ceremony** に出席した。学部長の挨拶の後 **certification** の授与があり、2週間があつという間に感じた。一期一会を実に感じた2週間でもあった。晩御飯は、ケンさんと村上先生を交えてダウンタウンの Pub でお酒を飲んだ。ギネスビールは美味しかったが、流石学生都市と言うべきか、Pub の中はとても大きな声が飛び交ってガヤガヤしており、こっちが少し場違いなのかと思うほどだった。

8月22日 帰国

朝早くから荷造りをした。宿舎を出る際にお土産屋さんを訪れて、パデュー大学の T シャツ等を購入した。昼には **Indianapolis** 空港へ向かった。そこでウィル、井上先生、村上先生とお別れをして一路シカゴへと向かった。お別れの際、感謝の気持ちを込めて T シャツを渡したが、とても喜んでくれたので良かった。シカゴからの乗り継ぎはスムーズでその後 13 時間のフライトをした。帰りの飛行機は **ANA** で客室乗務員が日本人ということもあり、快適であって、さらに各座席にテレビがついていたので映画を見放題だった。成田空港へ到着したのは日本時間の 20 時頃で上野駅周辺のビジネスホテルに泊まった。長旅で疲れたが、日本に帰ってきた安堵とともにもう一度アメリカに行きたいと思った一日だった。

清水 瞳

8月8日(土)

成田空港で待ち合わせ。他の皆は一緒に十和田から直接新幹線で向かっていたが、私だけ実家からだったので遅刻しないかなどとても心配だった。飛行機に乗るときに私だけランダムセキュリティチェックに引っかかって、そういうものがあるとは聞いていたがとても動揺した。東京・シカゴ間の飛行機はユナイテッド航空で、とても冷房が効いていてパーカーを着けていても寒かった。シカゴ空港はとても広く、モノレールに乗って移動した。前田先生がいなかったら多分時間までに乗り換えできなかっただろう。成田を 8 日の 17:30 に出発してインディアナポリスに 8 日の 19:45 に着いたというのが、頭では理解できてもとても不思議な感じがした。両替はアメリカについてからで良いかと日本でしてこなかったら、空港の両替所が閉まっていた、現金無しでスタートすることになってしまった。インディアナポリスではトモ先生とウィルと村上先生が迎えに来てくれて車で宿まで送ってもらった。車内では村上先生がたくさん話してくれて緊張をほぐしてくれた。アメリカでは虫は珍しくないらしく、実際車から外を眺めていたら道路端や畑にちらほら飛んでいるのが見えた。アパートはとても広く、キッチンやベッドルームもきれいで、2 週間快適に過ごせそうだった。

8月9日(日)

トモ先生が持ってきてくれたベーグルやフルーツの朝食を食べながら今後の予定の確認をした。はじめに **"The Zoo"** というところに連れて行ってもらった。動物園ではないと聞いていて不思議に思っていたが、廃材を使った動物のオブジェがたくさん展示してあるところだった。雨がだんだん強くなってきたので早々に切り上げ、大学に戻ってボーリングをした。大学内にゲームセンターのような所やボーリング場があつて驚いた。とても盛り上がり楽しかった。優勝

は前田先生。ランチは校内のダイナーで。あまりおなが空いていなかったの、サイドメニューらしき軽そうなものにしたつもりだったが、ハッシュドポテト盛りの様なものが出てきて、想像以上に重い昼食になってしまった。ドリンクもレギュラーサイズのはずなのに日本のLよりも大きいものが出てきた。とにかく全てが大きい。その後、校内をドライブして、アメフトのコートを見ていたら偶然選手の人たちが出てきて一緒に写真をとってもらった。縦も横もすごく大きかったが、あれで18~22歳というのが驚きだ。夕方からウォルマートに買出しに行き、これからの朝食や昼ごはんや、お土産を少し買ってきた。見慣れないものばかりでとても面白かった。夕食はキャシーとミミー(病院長と学長)と Logan's Road house で。とても厚いサーロインステーキを食べた。やはり、ドリンクもサイドメニューのサラダもとても大きかった。女子4人で1つ頼んだアイスケーキもとても大きかったがおいしかった。

8月10日(月)

朝食は適当な炒め物でタコスを作った。昨日や一昨日は、アパートの前がガラガラだったのに今日は車がたくさん停まっていた。学生が帰ってきているらしい。午前中は Hematology の授業に行った。内容はすでに習ったところでそこまで難しいことはやっていないと思うのだが、やはりリスニングが難しい。授業は6人ぐらいで顕微鏡を覗きながら先生が説明していくスタイルで、生徒は先生の質問に積極的に答えたり質問していたりしていてすごいなと思った。

お昼は大学構内で。寿司ロールを頼んでみたが、想像はしていたが日本の寿司とは全くの別物で、ワサビよりもスパイシーマヨが効いていて辛かった。

午後のキャンパスツアーは、噂に聞いていた汽車に乗れるのかと期待していたらパデュアの学生が説明してくれる歩きのツアーだった。色々な話を聞いて面白かったが汽車に乗ってみたかったので少し残念でもあった。校内はとても広く全ては周れなかったが、どの建物もカッコよく、木や花もきれいに手入れされ噴水などもあった。リスもあちらこちらにいてとても驚いた。

夜はメシク先生のお家でディナー。お土産にあげた手ぬぐいを早速飾ってくれていて嬉しかった。お気に入りらしいお好み焼きと一緒に作った。先生の手料理も美味しかった。グリルサーモンが出来上がるまでお庭でコーンホールというゲームをした。アメリカではバーベキューで焼きあがるまでこのゲームをやっているのが一般的らしい。初めてやったゲームだったが盛り上がって楽しかった。今回も前田先生強かった。州の決まりで犬を飼って良いのは3匹までというのがあと聞いて驚いた。

8月11日(火)

この日の朝はゆっくりスタート。集合時間まで少し外

に出て散歩をした。校舎の周りにアパートがとてもたくさんあって、建物のきれいさや大きさは全く違うが北里に近いものを感じた。

ウィルと奥さんのキャンディスにモールに連れて行ってもらった。キャンディスの車に女子が乗って、車内は女子トークで盛り上がった。ランチはフーターズでとった。店員のお姉さんたちは、足が長くて出るところは出ていて引っ込むところは引っ込んでいて、とてもスタイルが良かった。ここで食べたハンバーガーがアメリカで食べたハンバーガーの中で一番美味しかった。モールでのショッピングは特にお目当てのものがあつたわけではなかったが、色々なものが見られて楽しかった。

夕方はトンプソン先生の授業。リスニングの能力不足もあり、あまり理解することができず難しかった。

ディナーはトンプソン先生のお家で。とても素敵なお家で、お庭でコーンホールをしたり、卓球台やテレビゲームなどがある地下で先生や息子さんと遊んだりしてとても盛り上がって楽しい時間を過ごすことができた。ハンバーガーやホットドッグやアイスなどをご馳走になり、お終いにマシュマロを焼いてチョコとビスケットで挟んだスマアを食べた。甘党の私でもとても甘く一つで十分だと思った。

8月12日(水)

この日からクリニカルローテーション開始。まず病院に着いたら説明を受けて書類を書いたりした。その後トモ先生に病院のツアーをしてもらった。病院はとても広く、しばらくは迷子になるのだろうかと思った。大動物と小動物がつながっていて、真ん中に放射線がある構造は良いなと思った。

初日は Small Animal Community Practice に行った。どんなことをしているところなのか良くわからないで行ったが、一次診療を行っており、予防接種などを受けに来た子犬や子猫がたくさんいて可愛かった。学生が問診や検査、予防接種なども行っていて、先生は確認をするといったスタイルで、学生が処置をして飼い主に渡すカルテなども学生が書いていることに驚いた。カルテはデジタルで病院内のPCで見られるようになっていた。

夕飯はダウンタウンの Five Guys というお店でハンバーガーを食べた。このお店で9日のキャンパスツアーで説明してくれた人について、学校近くのお店で学生もよく来るのだろうかと思いこれまた北里に近いものを感じた。

8月13日(木)

ローテーション2日目も Small Animal Community Practice に行った。この日はウサギやモルモット、フェレットが来ていて、明日はオウムも来るようで、ここではエキゾチックも担当しているようだった。午前中はフェレットの脂肪腫のオペを見学した。フェレットの脂肪腫は良くあるもので、多くが良性のものらし

い。

お昼はセミナーで、私たちは青森や大学の説明、自己紹介をした。英語での発表はとても緊張したが、**Community Practice**の人たちがたくさん見に来てくれて嬉しかった。自己紹介でジャグリングをしていると言ったら、私もジャグリングをするという人に話しかけてもらい、来週一緒にリングのパスをする約束をした。

午後は犬の歩様を見る **Gait Analysis** を見せてもらった。今回の犬は正常で、今はデータベース作成中ということだった。

夕飯は村上先生とパデュー4年生のケンさんにメキシカンのお店に連れて行ってもらった。皆の口に合わなかったものが多かったようだが、私が頼んだエンチラーダは美味しくあたりだったようだ。

8月14日(金)

この日は最初大動物外科を見に行った。馬の整形外科があるようで、学生が集まるまで麻酔科で器具の説明などをしてもらった。9時からは放射線と合同でセミナーをしていた。X線写真を見ながら学生が積極的に意見を出していたのが印象的だった。その後馬のオペが始まり、馬の気管挿管や、整形のオペを間近で見ることができて良かった。

馬のオペ後この日はしばらく何もなさそうだったので、病院内を歩いていたら小動物内科で鼻腔鏡をやっていたので少し見させてもらうことにした。その後は、また大動物外科にもどり、疝痛が主訴で来ていた馬の処置を見ていた。その馬は月曜日に手術をしたそうだが、血液様の腹水がたまり、感染や腸捻転などさまざまな原因が疑われた。腸が捻転していないかを検査するために鼻からチューブを入れ、水を通し、どのくらい出てくるかを見て、捻転していないかの確認をしていた。

夕飯は、来週から救急に行ったりして一緒に食べられるのは最後かもしれないということで、皆でアイリッシュパブに行った。お店の雰囲気もよく、料理もとても美味しく色々な種類のビールも飲めて大満足だった。アパートに帰る途中でコールドストーンによってアイスを食べながら帰った。

8月15日(土)

インディアナ州のお祭り、**State Fair** に行った。この日はヒルトン先生とベスも一緒に、ヒルトン先生は会場中を案内してくれてずっと色々な説明もしてくれた。会場はとても広く、ウシやヤギ、ブタがいる建物がそれぞれあり、その中にはたくさんの種類のウシやヤギ、ブタがいてショーなども行われていた。トラクターがたくさんあったり遊園地のように感じるところがあったり、数日のお祭りなのにテーマパークのように感じてとても楽しかった。ハンバーガーやトウモロコシやポップコーンを食べ、日本ではまず見ないであろうフライドオレオやエレファントイヤ

ーも皆でシェアして食べた。行く前のローテーション中に、学生に **Fair** に行くと言ったら揚げ物ばかりだよと言われたが、本当にそのとおりだった。パデュー大学のブースでは、ガラス張りの部屋で犬の避妊を行っていた。たくさんの人が見ている、こういうことができるのはすごいなと思った。勉強になりそうなブースもたくさんあって、小さいころからこういったものに触れて勉強できると言うのは良いなと思ったが日本ではまず無理だろうなと思った。

8月16日(日)

Indiana Zoo に行った。サイを見て説明をしてもらっていたら途中から雨が降ってきてしまい、車で建物まで乗せて行ってもらった。雨が降っている間は、動物園の動物病院に当たるところの説明をしてもらった。小さな動物からとても大きな動物に対応できるように色々なところでさまざまな工夫がされていた。その後のイルカショーでは、はじめの説明のときに手話も用いていて多くの人が楽しめるようになっていて良いなと思った。動物園ではサイやゾウに触ったりセイウチに手のひらキスをしてもらったり普段できない経験がたくさんできて良かった。セイウチの口が思ったよりもとても柔らかくて感動した。

夕飯はアパートに村上先生とトモ先生を呼んで、スパゲッティを作って一緒に食べた。一度は食べてみたかったカラフルなカップケーキも食べることができて満足だった。

8月17日(月)

この日は **Community Practice** で歯科を見た。若い犬のクリーニングと老犬の抜歯を行っていた。これも、先生が説明をして見本を見せてから後は学生が行っていた。

午後は、ヒルトン先生の往診について行った。肉牛を飼っていた小さな農家では、一頭の脇が化膿してしまっていた。腫瘍ではなかったので、これからは畜主さんが消毒と虫除けを塗っていくようだった。また、飼育環境のアドバイスも行っていた。その次は、ショー用のブタを飼っている農家さんのところへ行った。ブタは病気にとっても弱く、臭いというイメージが私にあったのだが、まず長靴の消毒もしないで豚舎の中に入っていったのが驚いた。そして、豚舎もブタもとてもきれいで臭いもきつくなく、私たちとそんなに年齢の変わらない女性が主に世話をしているようだったがとても大切にしているのだなと感動した。その後、学校ではフリーアイスという無料でアイスを食べられるイベントをやっていると言うので、先生たちと食べに行ったら。普段のローテーション後、救急に行った。はじめに熱中症の疑いの大型犬が来て、検査や輸液でバタバタしていた。犬が意識を取り戻してからはICUに移されたが、その後数日ICUでも危険な状態のようだった。その後は、虫に刺されて全身が腫れてしまった犬や他の犬にかまれた犬がやってきた。救急はそ

の日によって忙しさはまちまちで1頭のときのときもあれば10頭以上来る時もあると言っていた。

8月18日(火)

朝 **Community Practice** に行ったら、この日は行動学もやっていたのでそちらを見させてもらった。行動学の先生はオガタ先生という日本人の女性の方だった。診察は再診で1時間、先生と飼い主さんの会話が主で、問題点や改善点などを話していた。他の犬に吠えてしまう犬に対して、外で実際に犬の模型を用いて先生がこれからの注意点などを説明している様子も見ることができて良かった。

午後は大動物外科に行って、ウシの蹄病の処置を見た。削蹄するのにもウシを横に倒す機械を用いていたが、しっかり縛って横に倒すことでおとなしくもなるのでとても便利そうだなと思った。その後はエコーを用いた馬の双子の妊娠の確認や馬の角膜潰瘍の処置をみた。ここの大動物で見る動物は、ウシよりも馬が多く、ペットとして馬を飼っている人も多いからだろうか考えた。

夕飯は救急に行っていなかった人たちで、ファーストフード店でおかずになりそうなものを少し買って、アパートでご飯とトモ先生が持ってきてくれた納豆と味噌汁と一緒に食べた。納豆と味噌汁が食べられて嬉しかった。

8月19日(水)

朝食は冷凍のパンケーキとヨーグルトを食べた。アメリカに来てから色々な種類のヨーグルトを食べたが、種類がとても多く選ぶのも楽しく美味しいものも多くて嬉しかった。

この日は小動物内科に行った。最初はラウンドで、クイズ形式の勉強会のようなことを行っていた。英語が分からないものもあるが、内容も難しく全く分からなかった。診察が少なめの日だったようで、学生が担当している患者について先生に相談している様子を見ていた。学生が質問や考えなどもたくさんしていて、このような形で勉強ができるのは身にもつくしとても良いなと思った。

お昼は獣医学生によるパデューの獣医学部グッズの販売をしている **SCAVMA Shop** に行った。お土産につなぎが欲しかったが、半袖なのと胸元が結構開いてしまうのが気になって諦め、ポロシャツを買った。

午後も小動物内科に行ったが全体的にゆっくりとした日だった。

夜は **Happy Hollow Park** でバーベキューをした。またハンバーグやホットドッグ、トウモロコシをおなかいっぱい食べた。ヒルトン先生や大動物でお世話になったパットも来てくれて、お話も楽しめた。

8月20日(木)

朝は保健所に行って去勢や避妊などの処置をしたりするトレーラーを見せてもらった。中は小さな手術室

のようになっており興味深かった。

この日も小動物内科に行った。下痢の主訴で来た犬は、詳しい検査はまだ終わっていないが、フードアレルギーを疑って8週間専用のフードを与えるように言われていた。その後は入院している犬の様子を見たり、先生と相談している様子を見ていた。午後は、昨日鼻血の主訴で来た犬の検査を見た。麻酔をかけ、**CT**、**MRI**、鼻腔鏡を行った。鼻腔鏡の検査では、麻酔が浅いようで何度か動いてしまいその度薬剤を追加していた。鼻腔内の粘膜のサンプルをとって、細胞診に出し結果は2,3日が出るようだった。その後は、小動物内科で処置はないようだったので大動物外科に行った。馬の四肢にできた囊水腫のデブリードメントを行っていた。それから、実習用の馬で学生が採血や硬膜外麻酔の練習をしている様子を見ていた。私も馬の採血をやらせてもらうことができて嬉しかった。

ローテーションが終わったら、アパートに戻りアパートの駐車場でウィルとスイカ割りをした。夕食はキャンディスがラザニアなどを作って持ってきてくれた。どれもとても美味しく、たくさん食べて大満足だった。その後、ダウンタウンの **Boiler Bridge Bash!** という町の通りを使ったパデュー大学の新生歓迎会のようなところに行き、とても盛り上がっていて楽しかった。帰りにアイス屋さんへ寄って、ワッフルコーンにもチョコレートがかかっているととても甘いアイスを食べた。

8月21日(金)

ローテーション最終日は腫瘍科に行った。内視鏡を用いて、尿道の腫瘍のサンプル採取を行っていた。サンプルは10個位採りたいと言っていたが、とても細かい作業で見ているこちらも緊張した。この日の腫瘍科では、処置はこれのみだったため、処置がありそうな小動物外科に連れて行ってもらった。小動物外科ではちょうど会陰ヘルニアのオペが始まるところで、学生が絵を描いて丁寧に説明してくれてありがたかった。午後は病院内をまわってお世話になった方々と写真をとった。どこの科でも皆優しくしてくれてとても感謝している。**Farewell ceremony** では、終了証やパデューグッズのお土産、そして私はさらにブタの獣医師協会のマークがついたジャグリングボールまでいただいととても嬉しかった。また、そこでセミナーのときにジャグリングをやっていると話しかけてくれた方とリングのパスをすることができた。言い方などが違って混乱することもあったが、海外でジャグリングのパスをすることができてとても良い思い出になった。

夜はずっと気になっていた学校近くの **chocolate** という学生御用達のバーに行った。ごちゃつとした店内は話し声でいっぱい、近くにいる人と会話するのにも大声で話さないと言われない状態だった。席をはずした時に、私のチキンウィングをバッファローソース漬けにされ知らずにそれを食べて、あまりの辛さに涙が

出てきた。美味しく食べたかったのにとっても残念だった。

8月22日(土)

カバンに荷物をつめ、帰国準備。トモ先生が持ってきてくれた体重計で重さを量ったら500gほど重量オーバーしてしまっていたので、いくつかのものを手持ちのカバンに入れ替え、インディアナポリス空港へ。別れる前にお世話になったウィルとキャンディス、トモ先生にイラストとメッセージ入りのTシャツをプレゼントした。喜んでもらえて嬉しかった。ゲートを通過してからハンバーガーの昼食をとって、シカゴ空港へ。シカゴ空港では乗る飛行機の出発時間が遅れたり時間が結構あったため、通りの隅から隅までお店をみてまわり、本場のマクドナルドの味をと言うことで、またまたハンバーガーを食べた。成田へ向かう飛行機はANAで、久しぶりに日本人がたくさんいるのを見て少しほっとした。機内食も美味しく、行きより寒くなく快適だった。成田に着いたのは23日の午後20時で一気に時間がたったようだった。

今回、私は日本とアメリカの獣医療や教育、文化の違いを知ると言うことを目的としてこの研修に参加した。初めてのアメリカでは全てが新鮮で興味深いものばかりだった。獣医療の現場で一番大きな違いはシステムではないかと思った。ドクターやVTさんの仕事ははっきりと分かれていて、それぞれの科での担当する仕事もしっかりと区分されていた。自分の役割がはっきりしているため、技術を伸ばしていけるのだろうと思った。また、教育のスタイルも日本とは全く違い、学生が主体となって学んでいく様子がとても印象的だった。そのため、学生のモチベーションも高く、技術もより身につくのだろう。日本でのシステムをいきなり変えるのは難しいが、CBTやOSCEが始まり少しずつ変わってくるのでより良い獣医療や教育の現場になっていくと良いなと思う。今回アメリカに行ってたくさん事を感じて学ぶことができたので、このことをこれからの勉強や将来にいかして生きたいと思う。

パデュー大学夏期研修に同行して
2015年度パデュー大学同行教員
小動物第2外科学研究室
前田 賢一

はじめに、この研修が無事に終了し、国際交流委員ならびにパデュー大学スタッフおよび学生の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

2015.08.08

パデュー大学の最寄り空港は、インディアナポリスであり、成田を出発してシカゴでの乗り換えが必要となる。10年以上前のことではあるが、シカゴでの乗り

継ぎで大変な思いをした経験が有り、今回の乗り継ぎ時間が2~3時間しかないことに不安を覚えていた。実際に到着後入国審査の混雑が有り、税関の通過を終えた時点で国内線の出発までそれほど時間は残されていなかった。このため、周りのショップのお土産品や食べ物に気を引かれている学生によそ見せずひたすらゲートに向かって歩くように指示するしかなく心苦しかった。また、ドルへの両替も時間が無くインディアナポリスに持ち越すことになった。

無事に乗り継ぎし、インディアナポリスに到着後、ゲートを出たところで見覚えのある顔の井上先生、小柄ながらがっしりとした黒人男性のスミスさんそしてレジデントの村上先生が迎えに来てくれておりホッと一安心できた。後ほど聞いた話では井上先生は成田の離陸からシカゴまでずっと飛行航路をPCで追跡していたそうです。。。。。

そのまま研修アパートへ井上先生が住む小さな町?村?を通過して約1時間のドライブ。途中ガソリンスタンドの売店でビールや飲み物、お菓子を購入した。アパートではスミスさん(国際交流部門のディレクター; 29歳; 新婚)から大学の資料と今後の簡単なスケジュールの説明があった。そして簡単なサンドウィッチと飲み物を提供していただいた。今回の部屋割りは直前の人数変更などがあり、イレギュラーであった。私は1人で2部屋を占有し、男子学生3人が1部屋に割り当てられ、この部屋を食事や飲み会など共有スペースとして使用した。食事が終わり、それぞれ就寝となったが、部屋をロックする音に気づき出してみると稲野辺が自分の部屋をインキーしてしまったとのこと。深夜で井上先生、スミスさん達を煩わせるのが心苦しく、洗顔ペーパーだけ投げつけて追い出した。

その夜は、寝る前に苛立つ報告を受けたせいか時差ボケによるものかなかなか寝付けなかった

2014.08.09

結局3時間ほどウトウトしてゴミ収集車のけたたましい音で明け方に起床。スミスさんの案内で大学周辺の観光へ。小雨模様でスミスさんは外での観光は難しそうと思案してい様子。そのためなのか何度か道に迷いつつ“The Zoo”に到着した。名前の通り動物園であったが、生きている動物ではなく廃品を組み合わせる様々な動物の像を作成し展示しているスペースであった。

このような遊び心のある発想はやはりアメリカ人ならではと感心しているうちに雨脚が強まり車内へ避難。これ以上外では観光できないと判断し、大学構内にあるボーリング場へ。約6年ぶりのボーリングであった。

ボーリング場を後にし、同じ建物内のハンバーガーショップで昼食。その後さらに道に迷いつつアパートまで送っていただいた。道に迷っている間に偶然アメリカンフットボールスタジアムにたどり着き見学することに。すると選手達の練習が始まり一緒に写真撮影

を行うことと。10代なのにゴリラのような体格。並んだ日本人が子供に見えた。午後はウォルマートで食料品の買い出し。アパートに戻り一休みした後夕食へ。

学部長は所用でいらっしやらなかったため副学部長、病院長とステーキハウスでディナー。学生達は皆果敢に大きなステーキに挑みなんとか平らげていたが一部残してしまい持ち帰りとなった。

2015.08.10

今日も2時間程度ウトウトし起床。昨日のステーキの残りをトルティーヤに巻いて朝食とし、日本にも来ていただいたメシク先生が担当する臨床病理のクラスへ。レジデント4年生のサントス先生に講義をしていただくことに。講義の内容は、貧血症例の血液塗抹を観察しながらディスカッションを行う形式で進められていった。現地の学生は5人と少人数で皆ディスカッション鏡筒を除きながら観察するべきポイントなどをあれこれ冗談を交えながら一問一答形式で学んでいた。昼食は構内のフードコートで中華料理と日本料理の混じったレストランでとることになった。学生達は当たり外れの激しい和食に一喜一憂しながらもすべて平らげていった。午後は学生ボランティアによる **Boilermaker Special Tour of campus** という名の大学ツアー。炎天下の中徒歩でひたすら歩く、歩く、歩く……

数多くの噴水を観て途中涼みながら広大なキャンパスを歩きながら獣医学部以外のキャンパスも見学し、失礼ながらお世辞にも都会とは言えない立地にある大学といえども、その整備された設備を見ると大学教育に対するアメリカと日本のエネルギーの差を痛感した。

夕食はメシク先生のお宅でお好み焼きパーティー。以前の来日でお好み焼きが気に入り日本から少しではあったがソースや鰹節などを持ち込み色々試行錯誤しながらメシク流お好み焼きを完成させた。メシク先生の好みでエビとカニが大量に入っておりお好み焼きよりもカニ玉に近いようなものが完成してしまったがその他様々な手料理を振る舞っていただき満腹になった。その後テレビを観ながら大統領候補についてやメシク先生の旦那様のエドさんと村上春樹や日本人の精神についての話をさせていただいた。ただ、庭で教えていただいたコーンホールという素朴なゲームについては最後まで何が面白いのか理解できなかった。ビールを沢山飲んだので今日は眠れることを期待して就寝。

2015.08.11

本日も3時間程度ウトウトしただけで起床。明け方にやって来るゴミ収集車の音に起こされる。本日は、スミスさんとその奥様が車で1時間ほどの場所にある **Tippecanoe Mall** へお土産などの買い物に出かける。道中今回の楽しみでもあった本場の **HOOTERS** について情報収集。奥様の手前、嫌がるスミスさんをそそのかして学生数名と昼食をとりに入店。店内は日

本のハンバーグレストランと変わらない明るい様子。ただやはり男性客が圧倒的に多く、みな少し露出の多いユニフォームを着た健康的な女性店員と話したり、遠くから眺めたりして楽しんでいるようであった。

その後は、モール内で必要なものやお土産品を購入し、大学へ戻ってトンプソン先生の講義に行くことに。しかし、学生が時間通りに集合せず、またスミスさんが **Hooters** に車のカギを忘れてくるなどのハプニングがあり、講義棟に到着したのは講義が始まる直前であった。スミスさんは車を駐車しに行く必要があったので、た・ぶ・ん・こ・こ・だ・と・お・も・う……
まあ行ってみてと最後は消え入りそうな声で我々を建物の前で降ろし走り去って行った。今までの道に迷ったり、忘れものを良くする彼の特技に今回も一抹の不安がよぎったが、とにかく信じて走り教室を探すことに。最初に出会った清掃員に聞くとどうやら建物は合っているらしくさらに周りの学生などに尋ねて回り何とか目的の教室にたどり着いた。しかし約束の時間を過ぎても誰も現れず、教室の中にはインディアナポリス大学医学部の学生の荷物が大量に置かれており、周りの学生や職員らしき人に尋ねるも誰も講義については知らず、やはりまたやったなスミスさん……と困り果てていると、トンプソン先生が現れた。先生も初めて来る建物だったらしく迷ったそうだ。講義が始まり野生動物、特にガラガラ蛇の医療と狩猟動物の生息地について講義をしていただいた。案の定スミスさんは迷った様子で講義の半ばあたりでやっと現れた。

その日の夜はトンプソン先生のお宅にお招きいただきバーベキューパーティーを開いていただいた。そこでもまたコーンホールに出会い、トンプソン先生の息子さんにそのただ穴にお手玉を投げ入れるだけの単純なゲームの奥深さと難しさを思い知らされました。そのあとの卓球とダンスゲームについては思い出したいくないので割愛します。

2015.08.12

今日からクリニカルローテーションが開始されます。朝アパートまで井上先生に迎えに来ていただき、先生に先導で動物病院まで徒歩で移動。しかし消防車のサイレンと外に閉め出された職員の集団が見え、少し様子がおかしい。井上先生が今朝から火災報知器が何度か鳴り、その都度全員屋外に待避しているとのこと。無事が確認できるまで入れないのでしばらく待つことに。

無事が確認できたので、少し時間が遅れ気味ではあったがオリエンテーションが始まった。副学部長のサリズバリー先生の挨拶の後、病院内のツアーに。迷路のような複雑な廊下を進み、各診療科や部門を井上先生に紹介していただいた。一通り見学した後、早速学生たちはそれぞれのローテーションへ。自分は井上先生に紹介されて外科へ、手術室に入らせていただきました。途中からでしたが、プレストン先生の喉頭麻痺に対する **Tie-back** 手術を見学した。とても丁寧にか

つ慎重に何度も何度も披裂軟骨の位置を確認して手術を進めていました。術後プレストン先生に挨拶すると、3か月前にレジデントを修了し、この大学やってきたばかりで、出身はオーストラリアとのこと。驚いたのは縫合をレジデントと学生に任せ、しかも彼らは縫合が終了すると手術室を出て行き、麻酔の覚醒は麻酔科の学生1人と麻酔科看護師数名に任せていなくなりました。後に知ることになるが麻酔導入にも主治医、執刀医は立ち会わず、完全な分業制。麻酔導入と覚醒の飛行機で言われるいわゆる“CEM”のタイミングは不安ではないだろうか疑問になるが、そこは麻酔科に全幅の信頼をおいているのだろう。特に後の予定はなかったの自分はそのまます術室に残り看護師達と動物の覚醒を行い、大型犬であったため、皆で力を合わせて覚醒室まで運搬した。

2015.08.13

本日もクリニカルローテーション。しかし、昼前頃から Student and faculty seminar があり私と学生のプレゼンテーションが行われた。プレゼンテーションの開始時間が過ぎてもメンバーが集まらず、ガラガラで気まずい時間が流れたが、井上先生の尽力とピザの誘惑で終盤にはかなりの人数が参集した。発表内容はほんの獣医療についてと自らの病院での仕事と研究について。何とか皆さんに理解していただけたようで安心した。しかし学生の発表には驚いて夢に出そうなものもあり、事前にしっかりチェックする必要があったと反省した。今夜も眠れそうにない。

また井上先生が、今までの学生は発表前には緊張して何も食べられないのに、今年の学生は熱いうちにと平気でピザを平らげていたことに驚いていた。その夜は村上先生と4年生の吉田健一郎さん（ケンちゃん）がホストでメキシコ料理を食べに連れて行ってくれた。ケンちゃんは日本人家庭に生まれながらサンフランシスコ近郊のモントレイという町で育ち日本人の奥ゆかしさを持ちつつジェントルマンな好青年でした。食事の後は、アパートに戻り短い時間ではあったが、皆で他愛もない話をして過ごした。

2015.08.14

本日もクリニカルローテーション。小動物外科の方は特に症例もなく全般的に見て回りつつ、仔馬の足根骨の肢曲がりの矯正を目的としたラグ骨スクリュー法の手術を見学した。脛骨にスクリューを1本入れるのに1時間以上かかっており、またドリルと一緒にドリルガイドもクルクル暴れて回転するなど、手術はなかなかうまく進まず、周りも苛立っているようであった。後で聞くと、大学が所有する仔馬でレジデント達の手術練習であったため、15分で終わる手術なのに時間ばかりかかって申し訳ないと看護師に謝られる始末。その後は色々溜まっているデスクワークをひたすら控室で仕上げていった。週末ということもあり、また来週から数名ずつ夜間の救急を見学するのでみんなそろって夕食をとるのは最後だろうと井上先生

にいくつかお勧めのレストランを挙げてもらい、その中で1番美味しそうなアイリッシュパブに行った。

2015.08.15

少し眠れるようになったが相変わらず4時間程度ウトウトして明け方には目覚める。今日は Indiana State Fair に連れて行っていただいた。巨大化の家畜品評会や農業器具見本市を露店や野外遊園地と合体させたものという印象。ヒルトン先生の先導で炎天下のなかひたすら歩く。スミスさんは歩きすぎてどうやら膝を痛めた様子。他人ごとではないが楽しそうに歩くヒルトン先生に何でこんなに歩きつづける必要があるのかと問い詰めたくなる気持ちを抑えるのに必死だった。歩き始めて6時間半後、ヒルトン先生のお母様のキルト作品を鑑賞するというクライマックスを迎えやっとなアパートへの帰路につく。

印象に残ったのは、誰もが見学できるスペースでガラス張りの移動できる手術室で犬の避妊手術を見せていたこと。私も以前に動物愛護センターで子供たちの前で避妊・去勢手術のデモンストレーションを依頼されたことがあったが、子供たちには生々しいとのこと直前に中止になった経験がある。やはり日本とアメリカでは考え方に大きな隔たりがあるのだと考えさせられた。

2015.08.16

インディアナポリス動物園のバックヤードツアーへ。昨日ほど歩く必要はないよと井上先生にからかわれながら園内を歩く。印象に残ったのはイルカショー。人間とイルカの関係に重点を置き、派手なジャンプや曲芸は無くイルカの身体能力を見せるためだけのジャンプをさせており、日本のイルカショーとは全く異なった意味合いを持っているものであった。

2015.08.17

本日はトンプソン先生の歯科処置を朝から見学。自らもたまに歯科をやるので鎮痛法や手順など違いを見つけながら過ごす。今日は学部長のリード先生とミーティングがあるため井上先生に連れられ学部長室へ。とても穏やかな方で自分の祖父と話をしているようであった。日本とアメリカの教育方法の違いなどについて15分ほど話して終了。本日から救急を見学させてもらうことに。17時のクリニカルローテーションを終え救急のカンファレンスルームへ。部屋では救急のブルックス先生とレジデント達がクイズ形式で治療法などの確認を行っており、さすがにそのやり取りが早くなを言っているのか半分程度しか理解できなかった。そのうちに救急患者の来院を知らせる連絡があり診察へ。恐らく熱中症を原因とするDICを起こした犬がやってきた。獣医師3人とレジデント、看護師の大人数で一気に検査と治療を進めて行く。検査の結果からやはり熱中症からショック状態に陥っている可能性が高いと判断し、飼い主と費用や治療にかかる日数を相談。飼い主は高額な負担にも関わらず治

療を選択し、血漿輸血などがどんどん進められていった。その後は穏やかで虫に刺されて顔面が腫れた犬が来院したのみであり、井上先生の奥様のステファニー先生に暗くならないうちに帰るよう言われ9時前にアパートへ戻る。帰る途中でマッドマッシュルームというピザ屋で夕食。おすすめのピザはパイナップルがのっており、最悪にまずかった。

2015.08.18~19

今日は副学部長のサリズバリー先生とミーティング。1人で部屋を探し、秘書にアポイントがあることを伝える。かなり挙動不審で怪しまれるも無事にミーティングを開始。ホスピタリティへの感謝を伝え、自分の将来的なビジョンや今後の国際交流について意見を交換した。

今日も救急にお世話になる。小坂が少し体調を崩したようなので井上先生に相談したところ、すぐに薬を調達していただいた。今日は比較的軽症が多く、ステファニー先生も気を遣っていただき、学生達は検眼鏡の使い方などを実際に体験させていただいた。今晚も9時前には帰路についた。明日はバーベキューがあるので救急は本日まで。

19日スミスさんの秘書の旦那様がバーベキューマスターとのことで、近所の公園のバーベキューサイトでバーベキューをご馳走になった。ハンバーガーとホットドック、豚肉を甘辛く味付けしたもの、スイカ、トウモロコシなど食べきれない量の食べ物があった。そこでもメシク先生や旦那様のエドさん、緒形先生らと楽しく交流することができた。余ったスイカは持ち帰りスイカ割りをすることに。

2015.08.20

現地に在住する日本人の飼う犬が開口困難となり内科から相談を受けた井上先生が代わりに対応することに。井上先生の隣でたまに出てこない日本語を追加するしながら話を聞いてみる。恐らく咀嚼筋炎だろうが、現在服用しているステロイドの量では免疫抑制には不足している様子。脳腫瘍の可能性も提示され、飼い主は麻酔下での画像診断が必要かどうか悩んでおり日本人の井上先生が麻酔科医としての立場からアドバイスをしていた。

本日は病院長とのミーティング。オフィスが違う階にあるため迷いながらたどり着く。やはりここでも交流の在り方や今後について意見を交換する。この日の夕方はスミスさんとスイカ割り。スイカ割り用にバットをオーダーしたがスミスさんはバットが無かったと謎の剣を持ち出してきた。

アパートの駐車場にスイカ、その周りに日本人、中心には目隠しをされた黒人男性が剣を持ってスイカに斬りかかる姿はさすがにシュールで周囲の関心を引いていた。もしかしたら来年からスイカ割りがはやるかもしれない。スイカを剣で2、3回突き刺した後、スミスさんの奥様キャンディスさんお手製の美味し

いらザニアをご馳走になり、食後はウェストラファイエットの町に出て新入生歓迎イベントの見学に出かけた。イベントは町を挙げて行われており、新入生たちのフレッシュなエネルギーに満ち溢れていた。

2015.08.21

本日でクリニカルローテーションは最終日。朝一番でアパートの宿泊費を支払い、その後病院へ。学生達も顔なじみの学生や先生、スタッフなどが出てきて楽しそうに実習をこなしていた。ここから更に時間をとることができればいいなと現実的ではない考えが頭をよぎった。午後はFare well partyを開催していただいた。学部長の挨拶の後に修了証の授与。こちらからは稲野辺がスピーチを行った。パーティーの後村上先生とケンちゃん近所のバーに研修の打ち上げをしに向かった。ここでも新学期ということもあり、フレッシュな新入生達の凄まじい熱気が溢れておりフレッシュではない我々はそれにやられ早々に退散した。そのあとはアパートでビールを飲みながら日本のアニメやドラマ食べ物などとりとめのない話を夜遅くまで続けた。

2015.08.22

朝スミスさんに無理を言って大学のストアに買い物に連れて行ってもらう。スーツケースをパンパンにし空港へ。別れ際に井上先生、スミス夫妻に感謝の気持ちを綴ったTシャツをプレゼント。喜んでもらえたようでこちらもうれしかった。帰りはシカゴからの飛行機は出発が2時間程度遅れたぐらいでトラブルなく成田に到着した。同行教員としてももう少し色々してあげられたらと反省することは多くありますが、我慢してついてきてくれた学生の皆さんと楽しい思い出を共有することができ感謝しています。この経験が皆さんの今後の獣医としての将来の役に立つことを願っています。ありがとう。

おわりに

このような機会をくださり、北里大学およびPurdue大学の皆様に心からの感謝を申し上げます。

また、北里大学の動物病院関係者には、長期間放れるにあたりご迷惑をおかけしたことにお礼申し上げます。

Acknowledgements

All members I met in Purdue University, thank you so much. It had passed immediately for two weeks. I had valuable and precious experiences. I couldn't speak English very well, but everyone in Purdue tried to understand my question and what I want to say, and you tried to speak slowly, so I could ask questions without fear.

I felt the difference between Purdue University and Kitasato University. I was especially amazed at how the students in the US examine patients on their own.

You brought a smile to my face, especially Will, Dr. Tomo, Dr. Hilton, Dr. Thompson, Dr. Murakami, Dr. Ogata, Pat, Beth, Ken, Chase, Emilie, Eryn, Christina and Candis.

I had valuable and precious experiences. I became to love US! I can't thank you enough and I want to study in Purdue University again. I

Kana Iguchi

For every Purdue staffs

Thank you so much for all kindness. I had a great time in Purdue University. I never forget your kindness. I'm sad for back to Japan but I believe we could meet again. So, I have continued to study English for that time. In the near future, I would like to visit to Purdue University again!!

Yu Inanobe

Although there was a short time of two weeks, thank you for all staff very much at Purdue University.

We were able to spend a very meaningful time.

To be able to see up close the differences between the United States and Japan veterinary medicine, it is now studying. I think if it is possible to take advantage of in practice of Japan experience here.

Most felt that this time, I think if it is possible to speak to study more English. If there is a chance to go to Purdue University, in turn firmly to hear all the things you want to hear so as to speak English in the future to study English.

Jumpei Kosaka

First of all, I want to say that this was the first time I went abroad. There were two reasons why I join this program. First, I wanted to know the difference between American veterinary medicine and Japanese one. Second, I just wanted to go abroad and to improve my English. Excitement and nervousness grew as the day I leave Japan draws near. I concerned that, could I make myself understood? Would the foods suit my taste? And so on. Actually, Every people tried to understand my English

and I could enjoy talking in English. Almost all dishes were delicious (I didn't like sausage that was too salty for me. On the other hand, I liked sweet snacks that we might not have in Japan). My anxiety was almost fading and I could enjoy staying America.

There were a lot of difference between America and Japan.

When it comes to the veterinary medicine at university, I was surprised that college students did a medical examination and talked with owners sometimes told the serious results. In Japan, we, as a student, are not allowed to treat pets before we get a veterinary license. So, that was very fresh that students were taking a blood from pets, taking an x-ray, giving an injection, especially talking with owners. Actually, I had known such a thing before I went to America, though, I was surprised and I admired them. I think there is heavier responsibility on American veterinary students than Japanese one. That is a little scary; however, I think such environment is really blessed. I couldn't find the technical matters were different or not, I was glad to see many cases and treatment. I also glad that I could learn assertiveness. I was typical Japanese and I was not good at starting to talk to new people, however, I tried to ask doctor or students when I had a question and I could speak to people actively by degrees. I think this assertiveness will help me in my future.

When it comes to people, I really liked the way people greeting. In Japan, we hardly say hello when we meet people who we don't know, even if inside the university. On the other hand, American people say hello friendly to the one who they don't know. I think this custom is good. I also felt American people spoke clearly. When they gave their opinion, they looked they talked with confidence. I respect the way they speak. I want to be able to speak with confidence, clearly. I feel there are a lot of deference between America and Japan, and I like both of them. This was the first time I feel the American custom, so I think there must be more interesting things that I don't know yet. I had a great time in America and I'm looking forward to go there before long again.

Momoko Shirakura

I left Narita for Chicago and transferred planes in Chicago. I arrived at Indianapolis on August 8. There is a time difference of fourteen hours between Indianapolis and Japan. It took 1,2hours to arrive at the Purdue University.

In August 9, we went to the Welcome dinner. I ate a steak. It was very delicious.

In August 10, we attended Hematology Microscopic Presentations and Discussion. I looked at blood smear through a microscope. At night, we visited Dr. Joanne Messick's house. We enjoyed her dishes.

In August 11, we listened to Dr. Steven Thompson

Presentation. At night, we visited Dr. Steven Thompson's house. We ate dinner.

We had clinical rotation from August 12 to 21. I went to the Oncology from 12 to 15. First, they do an X-ray examination, ultrasonography and biopsy to identify what it is in cytology or histopathology. If it is local, they do surgical removal or radiation therapy. If it is systemic, they do chemotherapy. It was said that chemotherapy was done usually once a week or two weeks. I was surprised that students asked the owner and palpate. I attended the meeting that done before consultation. In Japan, it is said that the number of small dogs is larger than that of big dogs. So, I was surprised how many I saw big dogs, for example Rottweiler, Great Pyrenees.

In August 13, we took presentation about us. I was nervous because many people came to hear than I thought. I tried to speak loudly.

In the afternoon August 14, I took a look at the necropsy. It is so wide. I was very surprised to see the big bull over 1t.

In August 15 we went to the Indiana state fair and In August 16 we went to the Indiana zoo. In the Indiana state fair, I enjoyed eating good foods. In the zoo, we took a look at the backyard. It was first time to look at the rhinoceros and the elephant closely. I was moved to touch the rhinoceros. Its skin was hard like a wall.

After August 17, I mainly went to the large animal clinic. I was surprised how many horses there were because In Japan the number of horses is small. I took a look at the operation of arthroscope, anesthesia and lameness test. I also took look at the emergency, rehabilitation and surgery operation. I was interested in rehabilitation.

I was glad to make myself understood. It was good experience to see the difference of veterinary care and academic system between Japan and America. I will make use of this experience.

Yasuyo Sumi

Thank you for all staff at Purdue University. I was meaningful to spend two weeks. My purpose of this overseas training was to see the state-of-the-art technology and to find the differences of veterinary medicine between the US and Japan. Due to your kindness, I could find some differences. I never forgot everything that I experienced for two weeks.

Everyone, especially Will, Dr.Tomo and Dr.Murakami now care in private life as well as the university.

I did not speak much in the study lack of English. I want to be able to speak English much better. So, I have continued to study English.

In the future, I would like to visit to Purdue University again.

Akinori Tauchi

This time, I took part in this training to know the difference of veterinary medicine and education, culture between Japan and the United States. This is my first visit to the United States, so everything I saw was new and interesting to me. The biggest difference in the field of veterinary medicine I thought that it is the system. In Japan, I think that the assignment of the doctor and VT's work is uncertain, and the doctor perform a variety of treatment from small things to big things. In US, doctor and VT's work is classify clearly, and work that is responsible in each department has also been properly division.

Because the doctor part is clear, I thought it able to extend the technique.

I think that this is one of the reason of the fact that the United States is more advanced than Japan in veterinary medicine.

In addition, the style of education is also quite different from the Japanese. The style that students act to learn independently is very impressive. Therefore, students have high motivation and will be able to learn more technique.

It is difficult to change suddenly the system in Japan. But, because CBT and OSCE begins and varies little by little, I think it will become the better condition of veterinary medicine and education.

In this stay in the United States, I was surprised because everything was large. For example, corn fields and soybean fields, home and car, and of course, food.

Barbecue in the spacious garden was very fun, and it was also a little envious.

I was surprised also that though the car is through a lot, lightning bug is flying and squirrels are a lot near the person.

I was able to watch a lot of variety thing in Small Animal Community practices, large animal surgery, small animal internal medicine, small animal surgery, emergency, oncology, etc. As my expected, there were many large dogs in small animals, and in a large animal there were many horses.

I'm very grateful to everyone that everyone gave kindness to me. I'm not good at English, but I was very glad that everyone teach many things to me politely.

We were able to learn and feel a lot of things in the US this time.

I would like to taking advantage of this experience to study and future.

Hitomi Shimizu

First of all I sincerely thank you for your hospitality. In these 2 weeks we could spend very exciting days. And in this trip, we experienced many things. The goal as a veterinarian is no different between Japan and United States. But, the process to the goal has some kinds of difference especially in the teaching methods and treatment methods. Further, it was very excited to have

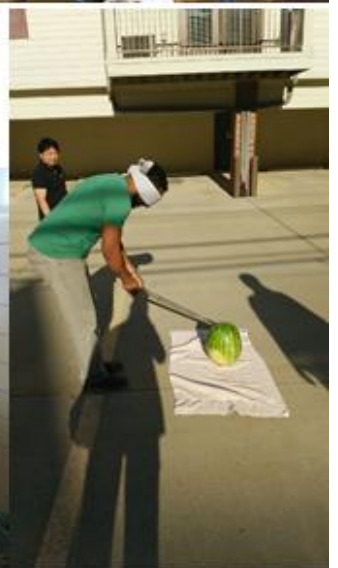
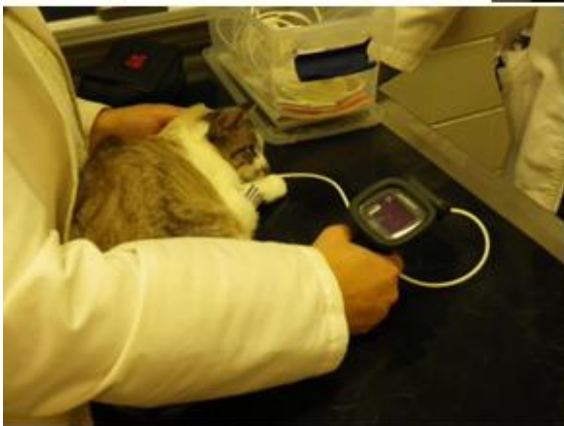
opportunities meeting with many people not only in Purdue University but also the people living outside. They had many kinds of background, talking with them showed us a new point of view. These difference we heartiness from Japan.

experienced will become our asset in the future. At the end I really appreciate for your kindness and cooperation especially by Dr. Inoue, Mr. Smith and other faculty members. We pray for everyone's health and

Kenichi Maeda

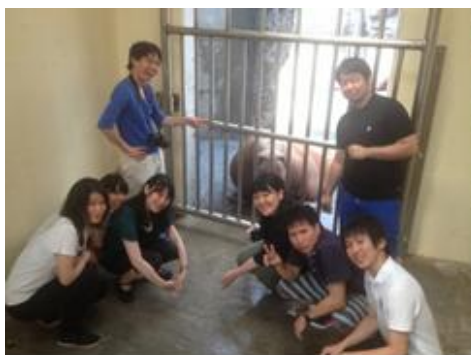
















The University of Georgia



Kitasato, Kagoshima & Yamaguchi University

Mr. Kasai, Mr. Maemichi, Mr. Kanazawa, Mr. Okadera, Mr. Maki, Mr. Saito, Mr. Shibata, Dr. Tani (Yamaguchi Univ.), Mr. Igari, Dr. Allen (Univ. of Georgia), Dr Ando (Kagoshima Univ.), Ms. Yoshimura, Ms. Suzuki, Ms. Matsuo, Ms. Ikeda, Mr. Sugiyama, Dr. Sasaki

同行教員：佐々木 宣哉 Prof. Nobuya Sasaki

氏名	Name	所属研究室
笠井 一人	Kazuhito Kasai	獣医臨床繁殖学
金澤 礼樹	Hiroki Kanazawa	獣医薬理学
齋藤 大士	Takaaki Saito	小動物第1内科学
柴田 暁	Akira Shibata	小動物第2外科学
杉山 彰	Akira Sugiyama	獣医薬理学
前道 一貴	Kazuki Maemichi	大動物臨床学
牧 誉大	Takahiro Maki	獣医臨床繁殖学
松尾 芽衣	Matsuo Mei	小動物第1外科学
池田 加奈	Kana Ikeda	獣医病理学



笠井 一人 Kazuhito Kasai

【8月15日(土)】(日本時間)13:30 成田国際空港の第一ターミナルビルに集合。出発予定時刻までに円のドルへの換金(300\$換金した)を行い、また預ける荷物の重さの計量などを行った。お土産物屋が多く、和風な物が多く販売してあったので、ここで土産を調達するのもありかもしれない。16:55 本来の予定時刻よりも30分遅れで出発。フライト時間は約12時間。参加者全員が3列シートの真ん中の座席で、結構離れた座席となった。真ん中の座席は足が伸ばしづらく、両隣の乗客に気を遣わなければならず少し疲れた。機内では映画や音楽の視聴が可能であるため、暇を持て余すことはあまり無かった。本などを持ち込むものもあるが、機内が消灯している時間帯が長かったので座席の位置によっては読めないかもしれない。機内のエアコンは寒かったので薄い毛布が渡されたが冷え性の人は上着を持って行った方が良かったと思った。寝る際には首に巻きつけるタイプの空気で膨らむ枕が役立った。用意していたアイマスクは機内でアイマスクが配られた&そもそも機内が暗いため使用せずに済んだ。消灯時間が長いので、入国審査時に提出する書類は消灯前に書くようにした方が良くと思う(筆記具を機内に持ち込んでおくこと)。

【8月15日(土)】(アメリカ時間)15:30 アトランタ国際空港に到着。入国審査などを行った。

17:00 鹿児島大学、山口大学の人たちとアトランタ国際空港で合流し30分程雑談した。

19:00 車で約1時間半かけてUGAホテルに到着した。チェックインをクレジットカードで済まして部屋へ。

20:30 ホテルの中庭でピザをデリバリーして三大学合同の夕食。この時間でもまだ外は少し明るい。自己紹介などを行った。2時間程で解散して翌日に備えた。

【8月16日(日)】 9時よりホテル1階のレストランで朝食をとった。料理は典型的なアメリカの朝食であった。自分で好きな料理を選ぶことができたが種類が少なく果物はあったが野菜はほぼ無かった。料理は味が濃く喉が渇き、またあの料理の内容にしては割高の印象を受けた。従って、翌日からはやむを得ない時以外はレストランを使用せずにスーパーで買った物で朝食を取ろうと思った。

朝食後は北里のメンバーでホテルの車に送ってもらい植物園に行った。森の散策や空調の効いた室内での多種類の植物観察などができた。普段はまじまじと植物を観察する機会は無いため、いい経験となった。

見終わった後はホテルの車に迎えに来てもらい、直接ダウンタウンに送ってもらった。ダウンタウンには多くのレストランやバーがあり今後とも時間があれば食事などに出かける場所である。お昼時であったが朝食が重かったためバーに入り飲み物だけ頼むことにした。アルコールを頼んだ際に身分証明書の提示を求められ、所持していなかった人はアルコールを購入できなかったのも身分証明書となるパスポートは必ず携帯するようにした方が良かった。帰りは歩いてホテルまで帰ったがその所要時間は30分程度であり、決して歩けない距離ではなかった。16時から三大学合同でホテルの車に送ってもらってスーパーに出かけた。食料品から日用品まで揃うスーパーであり前述した朝食や飲料水を買った。食糧を買ったのは良いが食べるための箸やスプーン、フォークの類がホテルには無いのでこれらも購入することになった。箸などは日本から持ってくるのがよさそうである。また、アメリカテイストの食料しか売ってないので鹿児島大学の人のようにインスタントのみそ汁など日本食を持ってくると良いと思った。晩ご飯は前述したダウンタウンに歩いて向かってピザを食べた。店員に一応サイズを確認して注文したものの日本ではまずありえない大きさ・厚さのピザが登場した。美味しかったものの食べるのにかなり苦労した。アメリカからの洗礼を受けた気分だった。

【8月17日(月)】 10時半にロビーに集合しVMCに行った。到着すると教授たちと軽く挨拶をして、一緒に昼食をとった。その後VMCの見学を行った。VMCは今年の3月に完成したばかりなのでとても綺麗で、また規模もとても大きかった。個人的には大動物病院の設備に驚いた。多くの柵場や馬房、運動用の馬場などが完備されているため多くの患畜を診る事ができ、とても効率の良い診察・診療ができる体制でとても印象深かった。VMCを見学した後はジョージア大学のロゴ入り白衣と水筒の贈り物を頂き、白衣を着用してキャンパス内で記念撮影を行った。

14時頃にホテルに戻り徒歩で15分ぐらいの場所にあるブックストアに行った。ここではTシャツやマグカップなど多くのジョージア大学グッズが購入できる。お土産を探す場所として重宝できそうな店だった。

17時半からはジョージア大学の獣医学部生と一緒にダウンタウンに晩ご飯を食べに行った。ピザやパスタなどが食べられる店であり、味もなかなか美味しかった。

ホテルに戻ったあと、近くの店まで歩いて買い物に行ったが、帰りに大雨に遭ってしまった。40分程度雨宿りしたが全く止む気配が無く、結局ずぶ濡れになってホテルに帰る羽目になった。急な雨に備えて折り畳み傘を携帯するようにした方が良かったと思った。

【8月18日(火)】 朝の8時45分にホテルのロビーに集合して各研究室へ車で送ってもらった。自分は繁

殖学研究室に行く予定であり、VMC に着いた後、学生アンバサダーの人について繁殖学研究室に向かった。しかし VMC 内を 30 分ほど徘徊しても何故かたどり着かなかった。どうやら教授が見つからなくて探し回ってくれていたようだが、偶然繁殖学研究室のテクニシャンの方と遭遇し、繁殖学研究室の教授が既に農場に出かけて不在であることが判明して、急遽今日は診断病理学研究室にお邪魔することになった。

診断病理学研究室では 8 畳ほどの部屋で血液学の講義を受けた。資料などは配布されず部屋のモニターに内容が映し出されて教授が説明していくスタイルだった。学生は 10 人ほどしかおらず教授と同じ机に座り授業を受けて、パソコンを開いてノートを取っていた。教授は時折学生に質問し、学生は的確に答えていた。また、疑問点があるとすぐに教授に質問していた。少人数で授業を受けてなおかつ教授と学生間で質疑応答があり、とても効率的な授業スタイルであると感じた。

午後は病理解剖の見学だった。解剖が始まる前に触ったり写真を撮ったりはしないようにと念をおされた。患畜はイヌとアルパカだった。病理解剖棟は北里のものより広く昇降式の台が 2、3 個あり、そこに患畜をのせて解剖していた。台の大きさにも違いがありアルパカはウマが乗るようなサイズの台に載せて解剖していた。天井からはホースが数本伸びていていつでも臓器などを洗浄できるつくりだった。とても効率よく病理解剖ができる空間であった。イヌとアルパカを同時に解剖していたが、アルパカの解剖はなかなか見る事ができないと思い、アルパカの解剖をメインに見学した。アルパカの死因を尋ねたところ、数日前から大学に来たが下痢がひどく肺にも病変があり酸素吸入を行っていたが予後不良のため安楽殺にしたと言っていた。イヌとアルパカの解剖は学生が行い、2 時間 30 分程で終了した。

夜は VMC に勤めてらっしゃる永田先生と奥さん、娘さんと近くのステーキハウスに食事に行った。永田先生に RIBEYE という部位がおすすめと言われたので、RIBEYE を注文。本場のステーキは肉厚でジューシーで美味しかった。また、個人的に永田先生に明日繁殖学研究室に行くにあたって、何時にどこに行けば良いのかを大学の先生伝いに聞いていただき本当に助かった。

【8月19日(水)】 朝8時にホテル前まで繁殖学研究室の Dr.Stawicki に迎えに来てもらい、VMC に向かった。ジョージア大学の繁殖学研究室はウマとイヌを主に扱っているようだった。VMC に着くと施設の案内をもらった。診療室には柵場が4つあり、治療や人工授精・胚移植を行うという話だった。その他、擬雌台が備え付けられている精液採取所、精液の検査をする部屋を見学させてもらった。午前中の診療でウマが4頭来た。子宮内洗浄や人工授精の処置が行われていた。人工授精はシース管を膈内に挿入し一端から

シリンジに入った精液を注入していた。シリンジに入った精液は2本あり、合計110ml程度注入していた。午後は先ほど人工授精した精液の性状検査を行った。本当は精子が生きた状態で検査を行いたかったようだが、顕微鏡の調子が悪く、染色して観察することになった。この染色は精子を染めるのではなく、背景を黒色に染めて精子を白色に見えるようにする染色だった。先生は100匹の精子を観察し、80匹以上の精子が正常であれば妊娠が可能であると判断し、正常な精子が79匹以下だったら妊娠する確率が低いと言っていた。ここでいう正常な精子とは形態学的な異常が無く活発に泳ぐ精子を指していた。また、5億匹の精子が妊娠には必要であるとも言っていた。今回の人工授精に用いた精液は115mlであり、精子数は機械で測定すると約43億匹で正常な精子は80%だったので約35億匹が正常な精子であり、5億匹を大きく上回っていたので多分妊娠するだろうとの事だった。夜は三大学全員で Terrapin という醸造所でビールを飲んだ。12ドル払うと1杯6ozのビールが6杯飲むことができ、さらにオリジナルのグラスもついてくる。ビールは7種類ぐらいから選べ、アルコール度数や味が全然違うのでビール好きにはたまらない場所であった。しかし、ソフトドリンクがウォーターサーバーの水だけなので、ビールが苦手な人には若干きつい場所かもしれない。また、食事は出ないので事前に何か食べてから行くか、スナック類を持っていくのが良いと思った。

【8月20日(木)】 昨日と同様、朝の8時にホテル前まで Dr.Stawicki に迎えに来てもらい VMC へ向かった。朝のミーティングが終了するまで売店の前で30分程先生を待った。ミーティング後は、昨日診たウマの子宮洗浄と薬剤注入を行った。その後、往診車に乗って30分程かけて農場まで往診に行った。農場は日本ではなかなか無い程の広大な敷地を有しており、その敷地内でウマが放牧されており牧場の人がウマを捕まえに行き、連れてきて診療するというスタイルだった。直腸検査とエコー検査を主に行ったが、処置中も農場の人が引手を持っているだけであり柵場への繋留は無かった。エコー検査を行った際に1頭のウマの子宮内に浮腫が見つかり、後々水がたまる原因になるということでオキシトシンを筋注して子宮を収縮させて排泄させる処置を行っていた。5頭ほどのウマの直腸検査とエコー検査を終了すると VMC に戻った。午後は診療がなく、Dr.Stawicki はカルテの処理や電話の対応に忙しそうであった。この間は研究室で単語の勉強などを行った。

ホテルに戻ってからは、TJ マートという場所に行き、買い物を行った。ここはいくつかの店が複合した施設であり、食料品や日用雑貨、靴、化粧品などを購入する事ができた。また、ファストフード店も併設されており晩ご飯を食べた。その後、ダウンタウンにあるジョージアシアターの屋上のバーに向かい2時間程度お酒

を飲んだ。ビールやカクテル、サンドウィッチなどの軽食が売られており気軽にお酒を飲める場所である。静かに飲むバーというよりも、大勢で騒ぎながら飲むような場所であり楽しかった。

【8月21日(金)】 今日にはアトランタのコカコーラ記念館と CNN へ観光に行った。朝の8時15分にホテルを出発し、途中ファストフード店で朝食を購入して車で1時間半程かけてアトランタに向かった。最初にコカコーラ記念館に行った。記念館といってもただ単に展示物を見るだけではなく、4Dシアターなどの体験する施設、コカコーラカンパニーが世界各国で販売する100種類以上の飲料を試飲できるコーナーなどがあり、飽きることは無かった。個人的にサービス精神が旺盛なマスコットキャラクターとの記念撮影が印象深かった。記念館の出口付近にはグッズの販売コーナーがあり、多くの商品があり目移りしてしまった。ここで時間を多く費やすことになると思うので計画的に記念館内を周るのが良いと思う。

その後アメリカのニュース専門放送局である CNN に徒歩で向かった。ここでは施設見学などはせずに、昼食をとるだけであった。建物内には手軽に食べられるバーガーショップやイタリア料理屋、スターバックスなど様々な店舗があった。施設見学は無かったものの、CNNの建物はとても大きく吹き抜けになっていたので、目を見張るものがあった。さらに、CNNグッズを販売しているコーナーもあったので十分に楽しめる場所であった。

ホテルに戻った後は、予定されていた学生アンバサダーとのカラオケ大会が中止になったため、急遽、学生アンバサダーたちとメキシコ料理屋に行くことになった。訪れたメキシコ料理屋では注文した料理が出てくる前に無料のチップスが出てきて、それをトマトベースのソースやチーズソースにつけて食べるととても美味しかった。タコスやブリトー等のメキシコ料理を堪能できた。

【8月22日(土)】 今日には1日何の予定もない日だった。午前中に近くのスーパーまで車で送ってもらい食料品やお土産などを購入した。

午後の2時過ぎからは、以前に学生アンバサダーの方に誘われていたプールパーティーに参加した。プールといっても、ビニール製のウォータースライダーを膨らまして楽しむというものだったが、多くの学生が参加しており盛り上がっていた。また、無料でビールが飲めたり焼きたてのチキンやスナックを食べることもできた。室内にはダーツやビリヤード台もあるので、外で遊び疲れたら利用して休憩するのもいいかもしれないと思った。解散は自由だったので7時頃にホテルに戻った。それから数人でホテル近くのSUBWAYに晩ご飯を食べに行った。歩いて行ける範囲内にキューバ料理屋などもあり、時間があれば開拓してみるのも面白いかもしれない。

【8月23日(日)】 午前中はブックストアにお土産などの買い物に行った。以前にも記述したがTシャツやマグカップなど様々な商品がブックストアには販売されており、何を購入するのかが決めるのがなかなか難しい場所だった。昼食はブックストア近くの学生でなくても利用することができるビュッフェスタイルの学食でとった。学食内は多くの学生でとても賑やかだった。この学食の料金は11ドルちょっとであり、作りたてのハンバーガーやワッフル、サラダやフルーツなど様々な種類の料理を食べる事ができた。味の方もなかなか美味しかった。

午後は免疫学の先生である Dr.Gogal のご厚意で、先生のご自宅でパーティーを開いていただいた。先生のご自宅には日本の国旗とアメリカの国旗が掲げられており、先生の人柄が伺いしれた。先生のご自宅は自分が想像していた典型的なアメリカの家であり、大きな家には広い芝生とプール、バレーコートがあった。プールとバレーコートで思う存分はしゃぎ、先生の奥さんの手料理を頂きながらお酒もいただくというとても楽しいひと時を過ごした。

【8月24日(月)】 今日からクリニカルローテーションが再開した。自分は今週も繁殖学研究室にお邪魔する予定である。午前中は20日に訪れた農場へ往診に行った。直腸検査やエコー診断が主な診療内容だった。VMCに戻ってからウマの人工授精を見学した。人工授精前にはキシラジンを投与して鎮静をかけていた。今回は凍結精液を用いての人工授精であり、ストロー2本分の精液を注入していた。ストローは38℃のお湯に30秒漬けて融解すると教えてもらった。

午後はショーのチャンピオン犬の精液採取を見学させてもらった。イヌの精液は用手法で採取していた。初めは精液採取を行った部屋には雄イヌしかおらず、なかなか精液採取が上手くいかなかったが、オーナーさんが雌イヌを連れてくると上手く精液採取ができていた。採取した精液の精子数測定の方法には精子の持つDNAを調べて算出するものと吸光度で計測するタイプがあった。前者は正確に計測できるが赤血球や白血球が混入すると余分なDNAが混入することとなり正確な値が出なくなる、また1回あたりの測定に用いるキットが高価だと言っていた。後者は正確性が低いと言っていた。イヌの精子は緩衝液を毎日替えると2週間は生存すると教えてもらい驚いた。

晩ご飯は永田先生のお誘いにより以前に訪れたステーキハウスへ行き、再び本場のステーキを堪能した。やはり本場のステーキは美味しかった。

【8月25日(火)】 朝の8時に Dr.Stawicki に迎えに来てもらいVMCへ向かった。午前中は繁殖検診に訪れたウマの検診と、ウマの精液採取を行った。精液採取は擬牝台と人工膈を用いての横取り法であった。ウマの精液採取を行う部屋はとても広く、仮に興奮して暴れているウマが来ても引き運動をして落ち着かせ

られるような広さだった。擬牝台は昇降式であり様々な大きさのウマに対応できるようになっていた。雄ウマの下腹部に触れる擬牝台の箇所にはビニールシートのようなものを巻き、そこに雌の匂いを付着させていた。雄ウマは匂いを嗅いでフレーメンしていた。また、このシートは感染症の伝播を防ぐためにウマ1頭1頭で交換すると言っていた。精液採取前には陰茎をお湯で洗っていた。水で洗ってしまうと陰茎が引っ込んでしまい、石鹸で洗うと精子が死滅してしまうと言っていた。ウマの精液採取は2回行われたが、これは1回目の精液採取では死滅した精子の割合が多いからであるとの説明をしてもらった。

午後はいつもの農場へ往診に向かった。エコー検査による排卵確認などが主な診療内容であったが、外陰部の縫合なども行っていた。

今日の晩ご飯は大学の先生のお宅でパーティーの予定だったが、先生の子供の体調がすぐれないとの事で学生と一緒に大学のラウンジでの食事となった。日本語を教えたりして楽しい時間を過ごした。

【8月26日(水)】 今日繁殖学研究室に訪れたが、今日の患者はプロゲステロン濃度の測定に来たイヌ一頭だけだった。午前中でプロゲステロン測定は終了したため、昼ご飯はVMC近くのHIBACHIというビュッフェスタイルの中華・日本食レストランに行った。寿司や炒飯など日本人にお馴染みの料理が多くて気に入った。

晩ご飯は学生アンバサダーの人たちとハンバーガーショップに行った。ファストフード店で食べるハンバーガーよりもボリュームもありとても美味しく、本場のハンバーガーを堪能する事ができた。

【8月27日(木)】 今日はクリニカルローテーションの最終日。いつも通り、Dr. Stawickiにホテル前まで迎えに来てもらいVMCへ向かった。午前中は農場に往診に行き、エコー検査による卵胞の確認などを行った。午後にはウマの精液採取とイヌの精液採取及び人工授精を見学した。精液採取したウマは2日前に見たウマよりも気性が荒くとてもあらぶっており、後肢2本で何度も立ち上がり精液採取に苦労していた。精液採取したイヌは3日前に来たイヌだった。この日は最初から人工授精させるための雌イヌが来ており、割とスムーズに精液採取ができていた。採取した精液はすぐに人工授精に用いられた。教科書には確か人工授精させた後は雌イヌの後肢を持ち上げて精液の逆流を防ぐと記載されていたが、後肢を持ち上げることは無く2~3分間外陰部を手で閉じて逆流を防いでいた。

夜はDr. Cornellのご自宅でパーティーだった。先生のご自宅は別荘のような贅沢な造りでとてもくつろげた。永田先生ご夫妻もパーティーに参加されており、美味しいご飯を頂きながら話をする事ができとても有意義な時間を過ごせた。

【8月28日(金)】 朝の8時に集合しホテルをチェッ

クアウトした。その後アトランタに向かいジョージアアクアリウムに行った。この水族館にはジンベイザメやベルーガ、アルビノのワニなどが飼育されていた。イルカのショーを見たかったが、時間が合わず見られなくて残念であった。昼食はCNNの1階で食べた。昼食後は3大学がそれぞれアトランタで宿泊するホテルに向かいお別れした。2週間という短い期間ではあったが、やはり一緒に過ごしたので名残惜しかった。北里大学勢は空港近くのホテルに宿泊した。ホテルの周辺にはファストフード店ぐらいいろくなく、晩ご飯はホテル前のファミレスで済ませた。今回のホテルにはベッドが2つありぐっすり眠れた。

【8月28日(土)】 ホテルをチェックアウトして空港へ向かった。空港ではそれぞれが2週間でお土産をたくさん買い込んでいるので、スーツケースの重量を計測し重量オーバーした人のお土産を重量オーバーしていない人のスーツケースに移して重量を調節した。全員が無事に重量制限をクリアできた。出発まで時間があつたので空港内をぶらついて時間をつぶした。そして、いよいよ出発の時間が来た。ゲートの入り口には日本人が多く何ともいえない安心感があつた。帰りのフライトは約13時間だった。昼間に出発したため機内であまり眠たくならず、ずっと映画を観て過ごした。機内は行きの時と同様消灯時間が長かったが、窓から漏れる日が沈むことなく昇ったままで不思議な感覚であった。13時間後、無事に成田空港に到着した。日本語表記の看板が目に入り、日本語の案内が聞こえてくると改めて日本に帰ってきたのだと実感した。最後に全員で記念写真を撮って解散となった。

【総括】 2週間という短い期間ではありましたが、獣医学の先進国であるアメリカで実際に診療の見学をする事ができてとても貴重な体験ができました。こういった機会はそうあるものではないので今回のアメリカ研修は自分にとって忘れられない2週間になりました。また、今回のアメリカ研修が初海外であった自分にとって、勉強だけではなく異文化に触れられたこともまた貴重な体験となりました。

以上、2週間の出来事をまとめてみましたが、アメリカ研修の魅力を文章で伝えるには限界があります。在学生のみなさん、アメリカ研修に行くかどうか迷っているならば是非行ってください。実際に現地に行かなければわからない事がたくさんあります。五感をフル活用してそれぞれがそれぞれのアメリカを感じ取ってください。受験生の皆さん、北里大学のアメリカ研修に興味を持たれましたら、是非北里大学へお越しください。

金澤 礼樹 Hiroki Kanazawa

【8月15日(土)】 人生初の海外渡航ということで、持ち物の準備に右横左横しつつ出発の朝を迎えた。成田空港で北里大学の皆と合流後、あちらへのお土産として日本のお菓子を購入し、無事に搭乗の手続きを済ませた。飛行機に搭乗すると、両隣席が外国人の方で、また周りを見渡しても外国人であることに若干委縮しつつも、今までの環境とは違った雰囲気を感じ始め、これからアメリカへ行くという実感が強くなっていった。飛行機内では、慣れない環境に緊張していたためか上手く寝付けなく、映画を鑑賞したり、英会話の本を読みながら時間を潰した。また、飛行機内が思いのほか寒く、毛布を被ってやり過ごした。アトランタ空港へ到着し、最初の難関だと思っていた入国審査と税関も無事に通り抜けて、鹿児島大学・山口大学の方達と合流した。空港から大学敷地内のホテルへ向かう途中、車が右車線を走行していることに違和感を感じつつも、風景自体は十和田のように樹木が多めのどかな感じで、また走っている車の多くが日本車であることに親近感を感じた。ホテルに到着し、チェックインを済ませた後、ジョージア大学のコーディネーターの方が用意してくれたピザを食べつつ、3大学の初顔合わせということで自己紹介などをして簡単なパーティを開いた。ホテルに着いたのが19:00過ぎであり、時差ボケな感もあってパーティ後は少しホテル内を探索してすぐに就寝してしまった。

【8月16日(日)】 起床後、朝食をホテルのカフェで済ませ、午前中はホテルからシャトルバスで15分ぐらいの所にある植物園を散策した。外の気温が暑くなっていったため、植物園内で涼しんだ。散策後はダウンタウンを散歩しつつアメリカのショッピングを楽しみ、また緊張しながらも、英語で店員と注文のやり取りができていくことに嬉しさを感じ、アメリカに来たんだ！という実感が強くなった。その後は Publix というスーパーに行き、ホテル内で食べる食料を調達した。日本の食料品と比較すると、アメリカの食料品はスケールが大きく、また見るからにとっても甘そうな商品が多かった。夕飯を食べにダウンタウンに向かう途中、ジョージア大学内で新入生の歓迎パーティが開催されているらしく、沢山の学生達が道路で賑わい、またその多くがジョージア大学のテーマカラーである黒または赤色のTシャツを着ていた。夕飯はピザを食べたのだが、そのサイズが日本では見たことが無いほど大きく、日本とアメリカでは同価格でも倍以上違っていると思った。大きさだけでなく味もとても美味しかった。スーパーに引き続き、アメリカのスケールの大きさを思い知った。

【8月17日(月)】 朝食後、シャトルバスで VMC

(Veterinary Medical Center) へ向かった。VMCは新設されたばかりの建物であり、外観はとても綺麗で、建物内は新鮮な匂いが漂っていた。事務員や先生方の自己紹介と共に昼食を取った後、施設内を見学した。施設にある構造や設備などを見学し、説明を受けてまず感じたことは、アメリカの大学では専門医制が確立されていて、病院内では区画ごとに診療科が存在し、そこで多くの女性スタッフが診療を行っていることに驚いた。また、大動物の施設では、アメリカでは馬をペットとして飼っているために馬の施設が充実していて、施設の規模の違いや北里大学の施設では見たことのない設備を見られたこと、換気が整っているために施設内が全く匂わないことに感動した。白衣や水筒などの大学のグッズを頂き、ジョージア大学のマスコット犬である Uga の前で記念撮影をした。ホテルに戻った後は、大学内にある Bookshop で大学のグッズを買った。夕飯は大学のアンバサダーの方と共にダウンタウンへ行き、アメリカの大学生活や獣医の教育について話を聞いた。アメリカの獣医学部の授業料は日本の私立と同等かまたはそれ以上かかることを初めて知り驚いた。今回席と一緒に話をした女性の方は、実家に馬を6頭買飼っていて、広大な私有地で馬に乗っている写真を見せてもらった。また、日本犬、特に柴犬が好きだったみたいで、実家で飼っている黒柴の写真を見せるととても喜んでくれた。

【8月18日(火)】 今日からクリニカルロケーションの開始となり、1日目と2日目は Diagnostic Pathology を見学した。研究室に入ると、オリエンテーションが行われ、各学生が自己紹介と共に今後の予定について語り、自分もその後に自己紹介をし、日本のお土産を渡した。その後は、研究室で勉強会が始まり、Hematology (血液学) の講義を受けた。講義中には先生が何度も質問を学生に投げかけ、それに対して学生も討論をしていることに、日本の講義との質の違いを感じた。講義の内容自体は、日本で5年生までに学んできた内容と重なる部分が多かったため、自分の乏しいリスニング力でも、先生が話している内容を推察しやすかった。昼食を取った後は、病理解剖を行うために大学のシャトルバスを利用して VMC から少し離れた旧校舎へ移動した。午後は過去に解剖した症例について、担当の学生が所見を述べて、それに対して先生が補足しつつ説明していた。その後、スクラブに着替え、新しくきた患畜の病理解剖を始めた。犬とアルパカの解剖であったため、なかなか見られないアルパカの解剖を中心に見た。臨床徴候に下痢と胸水の貯留が見られたため、胃壁が肥厚し粘膜が赤く腫れていて、また心臓では線維化が起きていた。解剖は学生が主体となって行い、解剖をしつつ病変の部位について親切に説明してくれた。夕飯は病院の放射線治療科の永田先生と共にステーキのチェーン店である LongHorn で食べた。そこのリブアイステーキ (11オンス) はボリュームがあり、今まで食べたステーキ

の中で最も美味しかった。

【8月19日(水)】 クリニカルロケーションの2日目は昨日と同じく **Diagnostic Pathology** を見学した。午前は血液塗抹標本を用いて前日学んだ血球の形態を観察した。その後、実際に血液塗抹標本の作成する上で、大学の実習で何度も作成したことがあるので、綺麗に作成できたことを先生に褒められたことが嬉しかった。2人1組で塗抹標本の血球数をカウントする作業では、昨日から親しくなった学生と共に話をしながら作業をした。午後は前日に解剖した犬とアルパカについて学生が説明した後に、ウサギを病理解剖した。実習が終わり帰ろうとした時に、先生から「サヨナラー」と言われ、自分も反射的に「サヨナラー」と返してしまい、研究室の皆に感謝しつつ別れた。夜はビール醸造所の **Tearapin** でビールの飲んだのだが、3杯飲んだあたり意識が朦朧とし、ふらふらしながらビール工場を見学ツアーに参加したため、内容は全然頭に入ってこなかった。

【8月20日(木)】 クリニカルロケーションの3日目は **CPC (Community Practice Clinic)** を見学した。**CPC** は主に一般診療を行う科であり、避妊や去勢、歯や爪の治療を行っているようで、病院に到着すると、ドッグファイトによって欠けた歯のかけらを取り除いて、歯肉を縫い合わせている最中であった。スケーリングやポリッシングなどの手技は大学の講義で受けたことはあるが、実際に治療を見るのは初めてであったので新鮮であった。歯一本ごとに角度を変えてレントゲンを撮っていて、じっくりと見ることができた。歯の治療は麻酔をかけて行っているため、治療費は去勢や避妊とはほぼ同じ値段であることに驚いた。その後、5か月齢のミックス犬の避妊手術を見学させてもらった。学生が術者として手術を行い、先生は助手として自らは手を出さず学生に一对一で丁寧に指導していた。ホテルに戻ったらショッピングに出掛け、その帰りにダウンタウンのジョージアシアターの屋上でビールを飲みつつ、鹿児島大学の学生と国立と私立大学の獣医学教育の違いや研究室の話題で盛り上がった。

【8月21日(金)】 今日はアトランタにある **World of Coke (ワールド・オブ・コカコーラ博物館)** へ行った。ホテルからアトランタ市街へは車で1時間半程であり、市街に近づくにつれて高層の建物が多くなり、大学近くのアセンズとはまた違った風景であった。博物館内ではコカ・コーラの歴史を知ることができ、シアターはとても感動した。試飲ブースでは100種類以上の世界中のコカ・コーラ社の製品を飲むことができた。因みに、日本の飲料は「ベジータベータ」という飲み物であったのだが、何とも言えぬ味であった。その後は、博物館から歩いて10分ほどの所にある **CNN** に移動し昼食を取った。ホテルに戻った後は、アンバサダーの学生と共にメキシカン料理屋へ行った。

【8月22日(土)】 今日はフリー日であったため、午前中はショッピングに出掛け、1週間分の食料と日本へのお土産を調達した。午後はホテル近くの家で学生が催すパーティーに招待されていたので参加した。到着すると、庭には横に滑ることができるスライダーで楽しむ水着姿の学生やテラスで楽しんでいる学生が約30人ほどいた。カップに入っているビールを飲み干し、そのカップをひっくり返してリレー形式で競争するゲームに混ざってアメリカの学生と楽しんだ。その後はダーツやビリヤードを楽しみつつ、山のように積まれたピザを頬張りながら周辺をぶらぶらしつつホテルへ徒歩で戻った。

【8月23日(日)】 今日フリー日であったため、午前中は大学内を散歩しつつ **Bookshop** でお土産を買い、学生の多くが利用している食堂で昼食を取った。この食堂は外部の者でも11ドル払えば利用可能であり、1階と2階にわたってビュッフェ形式で様々なメニューがあった。午後は **Dr.Gogal** 宅へ招待された。庭はプールとバレーができるほど敷地が大きく驚いた。バレーでは先生や家内の方と白熱した戦いを楽しんだ。プールを楽しんだ後に、**Gogal** 先生の趣味である鉄道の模型や工房の部屋を見せて頂いた。アメリカでは、教授になるとこんな豪邸を持てるのかと尊敬してしまっ

た。【8月24日(月)】 昨日のバレーを張り切りすぎたせいによる筋肉痛に耐えながら、クリニカルロケーションの4日目を迎えた。午前中は病院内にある **Pharmacy** の見学をした。ここでは各診療科で診察を受けた患者のデータがPC上に送られてきて、そのデータを基に使用する薬とその用途、使用方法を明記した書類を作成していた。そして、薬を調剤して専用のボトルに入れ、それを薬局の窓口においておくことで各々の科の担当者が受け取りにくるというシステムであった。午後は、男性の薬剤師が薬局内を案内してくれて、薬の種類や用途によってボックスの色や保存する場所が違うことや各々の薬の用途について説明してくれた。その後、永田先生の誘いで放射線治療科へ行き、先生の仕事のことや線形加速器などの放射線治療に関わる器具やその治療方法などの説明を受けた。永田先生と共に各診療科を見学しつつ、**Oncology** ではテクニシャンの方が抗がん剤であるビンクリスチンを投与する過程を見せてもらった。次に **Exotic** を見に行くと、亀の甲羅を四角形にセメントで固めている作業をしていた。また、タイハクオウムもいて、肢が外側に広がってしまい戻らなくなってしまったのを矯正して歩かせようと学生達が様々な工夫を凝らしていた。夕飯は皆の希望もあり **LongHorn** (2度目) で食べた。以前と同様にサイドメニューを変えてリブアイステークを頼んだ。

【8月25日(火)】 クリニカルロケーションの5日目

は Exotic を主に見学した。日本ではなかなかエキゾチック動物と接する機会が無かったので、クリニカルロケーションの後半は Exotic を中心に見学しようと決めていた。エキゾチック動物の治療は多種多様であり、ミーティング中にネットで動物について調べながら治療方針を討論していたのが印象的であった。ミーティング後に、リスの赤ちゃんへミルクをあげたのだが、手の平に収まってしまうぐらいの小ささでまだ眼も開いておらず可愛かった。その後は雌鹿の超音波検査や膀胱穿刺による採尿検査、膣への内視鏡検査を行った。昼食は永田先生に連れられてメキシカンのお店へ行き、その後は Exotic へ戻り、アヒルのレントゲン写真などを見せてもらった。夕飯はアンバサダーの学生と VMC の校舎内で食事を楽しんだ。友達がアメリカの学生に変な日本語を吹き込んで、その言葉を連呼していたのが面白かった。

【8月26日(水)】 クリニカルロケーションの6日目も Exotic を見学した。嘔吐を主訴とした Capuchin monkey (オマキザル) が来院したが、暴れていたために明日検査することとなった。片眼を損傷した Sugar glider (フクロモモンガ) の再検査、額に小さな瘤ができたカメレオンのレントゲン検査を行った。カメレオンを間近で観察していたのだが、そのゆったりとした仕草に心が癒された。レントゲンの検査の結果、問題が無かったので飼い主さんに戻されたのだが、先生がオーナーに説明している間中、オーナーの肩に居座り続けているカメレオンがとてもユニークであった。Exotic に患畜が来てない時は、近くの Emergency and Critical Care に見学に行った。1週間前に尿道閉塞の手術を受けた猫が、今朝方後肢を引きずるようになったということでオーナーが連れてきていて、フロセミドを投与していた。話を聞くと、尿毒症に加えて心臓疾患も併発しているとのことだった。一緒にいた鹿児島大学の学生は1週間前の姿を見ており、その猫の姿を変わり様に驚いていた。1時間ほど Exotic に行った後に Emergency and Critical Care に戻ると、その猫の姿は無く、オーナーの意向により安楽死させたとのことだった。また、少し前に亡くなった犬の姿もあり、すぐ近くではテクニシャンの方が粘土版でその犬の足形を作成していた。ジョージア大学では亡くなった患畜の足形をオーナーへプレゼントをしている話を聞いて感動した。夕飯はアンバサダーの学生と病院近くにある Bar で食事をした。

【8月27日(木)】 クリニカルロケーションの最終日の午前中は Exotic を見学した。昨日来院したサルの検査の準備がすでに始まっていたが、感染の危険があるため部屋の外から見学することとなり、途中からは見学も難しくなったため他の診療科を見て回った。昼食は永田先生と一緒にタイ料理屋で辛いグリーンカレーを食べ、その後は本屋さんに寄った。本を購入しなくても自由に読んで良いとのことだったので、スタ

ーボックスでコーヒーを飲みながら読書をした。病院に戻った後は Pharmacy の先生と出会い、今日が最後ということでお土産を渡すはずが逆にお土産を頂いてしまった。机の引き出しには沢山のお菓子が詰まっていた、日本に帰ったら自分もしてみようかなと考えてしまった。夕飯は Dr.Cornell 宅へ招待され、浴衣や甚兵衛姿の皆と記念撮影をした。一緒にいらしかった永田先生には将来について色々相談に乗ってもらった。

【8月28日(金)】 ホテルのチェックアウトを済ませ、朝食を取った後、2週間弱過ごした大学の風景を見ながら Georgia Aquarium (ジョージア水族館) のあるアトランタへ向かった。Georgia Aquarium はコココーラ博物館の目の前にあり、イルカショーが時間の都合上見られなかったことは残念であるが、ジンベエザメの迫力などを楽しんだ。昼食は CNN で取り、その後は鹿児島大学・山口大学と別れて空港近くのホテルに向かった。空港近くのホテルはアトランタのような市街地とは違い、またアセンズのような気軽に外を散歩できるような雰囲気ではなかったので、夜は北里の学生と一緒にアメリカ生活最後の夜を楽しんだ。

【8月29日(土)】 日本への出発の準備をし、朝食とホテルのチェックアウトを済ませ、アトランタ空港へ向かった。飛行機内では日本人が多く、これから日本に帰るんだなという実感が沸いてきて、日本に帰れる嬉しさもあったが、アメリカでの生活の思い出を振り返りながら充実した気持ちで(余計に増加した体重と共に!)、帰国した。日本に到着、皆と解散し、帰国後数日間は時差ボケで苦労した。

【総括】 今回の2週間の研修を通じて様々な貴重な経験が得られた。日本とアメリカでの獣医学の違いを知ることが目的の1つであったが、アメリカの専門医制や施設や設備の規模の大きさ、獣医学教育の質の高さを感じた。日本では、先生が問診を取り、検査を行っていくことが普通であるが、アメリカの教育では、学生が問診を取り、身体検査をし、検査を考え、その判断に対して先生が補足や訂正を行うスタンスであった。また、ゼミでは学生に質問を学生に投げかけ、積極的に討論を行っていることに日本との教育の違いを感じた。

生活面では、道端やお店で出会った初対面の方でも私達日本人に対して優しく接してくれた。日本にはチップという習慣が無かったり、他にもマナーの違いなどで最初は戸惑うこともあったが、それはそれで良い体験であった。心配していた英会話の面でも、私の乏しい英単語をあちらの方が精一杯くみ取ってくれるため、それなりになんとかかなった。それでも留学前にもっと勉強しておけば、表面的な会話だけでなく、さらに踏み込んだ質問や会話ができただのではないかと反省している。

2週間という短い時間ではあったが、本当に充実した研修であった。今回の研修に関わった全ての人達にお礼を申し上げます。



齋藤 大士 Takaaki Saito

【8月15日(土)】 日本時間 13:30 に成田空港北ウィングに集合。16:00 に搭乗するまでお土産を買うなどして時間を潰した。16:50 頃デルタ航空アトランタ行きにて出国。飛行機の座席がすでに予約がいっぱいで真ん中の席しか空いておらず、トイレに立つ時などに苦労した。機内では出国から約2時間後、5時間後そして9時間後にそれぞれ機内食が出てきたが、正直出しすぎだと感じた。現地時間 16:30 にアトランタに到着した。入国審査を終えた後ロビーで鹿児島大学、山口大学のメンバーらと初顔合わせを行った。学生アンバサダー達に迎えに来てもらい、ジョージア大学へ向かった。ホテルでは2人部屋にもかかわらずベッドが1つしかないというトラブルはあったが無事チェックインすることができた。その後、アンバサダー達と予定の確認等を行い、21:00 頃に鹿児島、山口大学と集まり夕食をとりながら自己紹介を行った。

【8月16日(日)】 6:00 に起床し、相部屋の柴田君と朝の Athens を2時間程散策した。散策中、通勤中のおじさんに手を振って挨拶をしたら手を振り返してもらえ、日本ではあり得ないなとアメリカ人のフレンドリーさに驚かされた。が、ランニング中の人たちは挨拶してくれなかった。散策はUGAの周辺のみだったが、予想以上に範囲が広く、施設も多かった。Univercity of Georgia Veterinary Medicine、Georgia Museum of Art、Georgia Museum of Natural History、Sanford Stadium、Foley Field、Stegeman Coliseum などを見て回った。陸上競技場には過去に競技場で行われたオリンピックが記録されており、歴史を感じた。Stegeman Coliseum の前にもアトランタオリンピックの時のモニュメントがあり、英語、日本語、中国語、アラビア語などで「おそれ、くるしみ、あい、しょうり、よろこび」と書いてあった。日曜日ということもあってか礼拝をしに教会へいく人も見られた。

朝食をホテルのレストランで食べた後、10:00 頃にシャトルバスを予約して Botanical Garden を観光した。アメリカではこういった植物に囲まれたところが少ないのか人気のスポットのようで、多くの観光客が訪れていた。館内は熱帯植物が展示されていた。敷地内に何故か鳥居があったが祠のようなものは見られなかった。約1時間で敷地内を見て歩くことができた。

午後は 12:30 くらいに Athens のダウンタウンに向かった。ダウンタウンには主にカフェやバー、ファストフード店、服屋しかなく、想像とは異なっていたが、現地の人も買い物というよりは食事に来る場所だと

言っていたので歩き回って雰囲気を楽しみ、食事をとって休憩といった形で楽しんだ。ダウンタウンの端には Welcome Center があり、ダウンタウンの情報案内や、ちょっとしたお土産販売をしていた。ダウンタウンにはトイレが少ないのでこのトイレを利用するといいかもしれない。自分はダウンタウンでは古本屋、洋服屋、コンビニ、スムージーを作れる店、アンティークショップ(ATOMIC)に行った。アメリカに来てからコンビニを見たのは初めてだったので入ってみたが、日本のコンビニと比べると品揃えが良くなかった。

16:30 くらいに Publix というスーパーのようなところへ連れて行ってもらい、次の日以降の朝食や水、その他生活に必要なものを購入した。規模も大きかったが、売っている商品もサイズが日本のものよりも大きかった。

この日は疲れのせいか眠気に襲われ寝てしまったが、他のメンバーはそれぞれ食事に行ったりして楽しんでいたようである。

【8月17日(月)】 6:30 に散策に行きたい人で集まって朝の散策に出かけた。今回は鹿児島大学の鈴木さんと吉村さん、山口大学の猪狩さん、北里から新たに杉山君が参加した。先日よりも短い時間だったが Sanford Stadium、Stegeman Coliseum、Foley Field、などを見て回ることができた。ホテルに戻り各自朝食をとった後、10:30 にジョージア大学獣医学部の新しい病院へと向かい、次の日からのクリニカルローテーションの説明や昼食会、院内ツアーなどが行われた。ここでジョージア大学の白衣をもらった。昼食後、院内ツアーが行われたが、新しい病院は今年から使われ始めたため案内してくれたシニア学生も未だに迷うと言っていた。病院にはたくさんの診察室があり、それぞれの部屋に担当の先生の名前が書いてあった。小動物と大動物の診療棟の間に CT や MRI の検査室があり、共有できるようになっていた。大動物診療棟には馬の歩様をみるスペースがあり、その砂は特別な成分が含まれていたため湿った状態になっていた。動物やオーナーのことを考えられて造られているばかりでなく、そこで勉強する学生のことも考えられた造りになっていた。例えば大講義室は隣同士の間隔が広く、また机にはパソコン等の充電ができるようにコンセントが各席に設置されていた。小講義室は各机にプロジェクターのプラグがあり、パソコンに繋ぐと壁に備え付けられたスクリーンに映し出されるようになっていて、学生同士の意見交換のしやすい環境になっていた。病院を見学した後、シャトルバスで一般教養用の校舎に向かった。ここには立派な病理解剖用があるので、そのため病理だけはここに残すということだった。この施設での写真撮影が終わった後、ジョージア大学の思い出ということで男性はロゴ付きの水筒を、女性は鞆をもらった。

ホテルに戻り少し休んでから、15:00 頃に北里大と鹿児島大の数名で Tate Student Center & UGA

Bookstore に行き、日本へのお土産を買った。また Poster Sale が行われていたのでポスターを買った人もいた。

17:30 にはアンバサダーにダウンタウンの AMICI という店に連れて行ってもらい一緒に夕食を食べた。アメリカで有名な Bud light と Blue Moon というビールがオススメだと学生アンバサダーに聞いたので試しに飲んでみたが、日本のビールとはまた違った美味しさだった。特に Blue Moon はオレンジを絞って入れているのでとても爽やかで美味しかった。軽めの食事にしようと思いサンドイッチを注文したところ、予想以上の大きさのサンドイッチとフライドポテトがついてきたので軽めの食事とはいかなかった。

ホテルに戻ってからは少し休んだ後、鹿児島大の人たちとトランプで遊んで親睦を深めた。

【8月18日(火)】 8:15 にロビーに集合し動物病院に向かった。この日から3日間 Small Animal General Surgery に配属することになり、准教授の Dr.Schmiedt にお世話になった。主に手術の見学がメインであり、この日は最初にブルドッグの軟口蓋過長の手術を見学した。この手術はレーザーメスを使用して過長した軟口蓋を切除し気道を拡張、最後に鼻腔を広げるというものであった。手術時手術室内の人は眼の保護グラスをかけていた。次はミニチュアダックスフントの乳び胸であり、肋間を切開して開胸し胸管にアプローチ、胸管をメチレンブルーで染色して結紮した。胸腔ドレーンを設置しチャイニーズフィンガートラップ法で固定していた。最後にジャーマンシェパードの左耳下の腫瘍の摘出を見学したが、時間の関係上途中で抜けてホテルに戻る必要があったため最後まで見るができなかった。

【8月19日(水)】 8:15 ロビー集合、Small Animal Surgery に向うとこの日の朝はゼミだったようで、針や糸の種類やその特徴と用途などについて議論していた。ゼミの後には入院中の患者についてそれぞれの担当の学生が状況報告を行い、その後の処置について全員で議論していた。

午後の手術まで時間が空いていたので、永田先生に放射線治療室の設備の案内や機械の使い方、先生の考案した測定法などを説明していただいた。また、UAG の学生の授業に使用している授業スライドで簡単に放射線についても教えていただいた。

お昼はそのまま永田先生に大学の近くにある HIBACHI という中華料理店に連れて行ってもらった。米が恋しくなっていたこともあり、炒飯が非常に美味しく感じた。寿司も何種類もあり、独自の進化を遂げていたがこれはこれで美味しかった。

午後は 13:15 開始予定の手術が 15:00 開始になり、クリニカルローテーションが 16:00 までであったため、この日も手術を最後まで見るができなかった。

夜は 18:00 から Terrapin という醸造所に行き、酒

場でカントリーミュージックを聴きながらビールを飲んだり、ビール工場の工場案内に参加したりして過ごした。ビールはライトからブラックまで種類が豊富で、普段日本で飲んでいるビールとは味も匂いも全くの別物というものが多かった。

【8月20日(木)】 8:15 ロビー集合、この日は朝からオペが入っていて、最初はジャーマンシェパードの左前肢手根部のマスをバイオプシーであった。まずメスで切開してその欠片をホロマリンに入れ、次に注射器で吸引してスライドグラスに噴霧し病理検査に出していた。この犬は自力排尿が困難だったため拳で下腹部を圧迫して尿を出させていた。小型犬では親指で行うということだった。次は PDA の犬の手術で、動脈管を縫合糸で結紮するというものだった。ドレーンはチャイニーズフィンガートラップ法を用いていた。次の患者はレントゲンの結果気道が狭くなっていたということで気道にカテーテルを挿入し、ステントを膨らませることで気道を拡張した。最後にラブラドルレトリバーの骨肉腫による右前肢断脚を見学した。肩甲骨周囲の皮膚をメスで切開し、小出血は電気メスで焼烙止血。電気剪刀で筋肉を切開し前肢を切断した。

【8月21日(金)】 8:15 ロビー集合、朝食をファストフード店で摂り、コココーラミュージアムに向かった。コココーラミュージアムはコココーラの歴史やその製法の秘密などについて 4G 映像や展示で学ぶことができるテーマパークで、世界中のコココーラ社の製品を試飲したり、コココーラグッズを買うことができる。この日もベネズエラから来た家族もいて世界中から人が訪れる場所なのだと実感した。コココーラミュージアムでお土産を買うなどした後、世界的に有名なテレビ局である CNN に向かった。CNN の1階には CNN グッズを取り扱う店や飲食店が並んでおり、2階以上にはツアー料を支払う必要がある上、時間も少なかったため行くができなかった。CNN では主に昼食と1階のみだが内部の見学を行った。CNN の見学終了後 Athens の UGA ホテルに戻り、夕食まで休憩した。この日の夕食は本来の計画ではカラオケナイトで寿司などを食べる予定だったが、予約を取れなかったらしく急遽メキシコ料理になった。

この日は初めてホテルのランドリーで洗濯をしたが、25セント硬貨が5枚必要だったり、洗濯をしても干す場所がほとんどなかったりと大変苦労した。

【8月22日(土)】 10:00 ロビー集合、Publix へ食材を買いに行った。この日までに何度かシャトルバスの予約をしたり、英語で会話をすることが多かったためかスムーズに予約ができるようになった。Publix での買い物が終わった後、買い物に行ったみんなで昼食をとりホテルに戻った。ホテルに戻ってからは次の予定まで時間があったのでダウンタウンにある有名なアイス屋にアイスを食べに行った。14:00 に学生による

新入生の Welcome Party に参加し、プールでウォータースライダーをしたり、酒飲みリレー(フリップ・カップというらしい)やビリヤード、ダーツなどをして様々な人と交流した。今まで出会ったアンバサダー達にも再会し、以前よりは彼らとも英語で会話できるようになっていた。

【8月23日(日)】 この日は生憎の雨で午前中はホテルで休息をとったり、外に出て散歩したりして過ごした。午後には Dr.Gogal のお宅のパーティに参加した。Dr.Gogal のお宅にはプールがあり、今回はそこで泳いだり、庭でバレーボールをして UGA の方達と楽しんだり、Dr.Gogal の奥さんの手料理を楽しんだ。また、この日が誕生日という UGA の生徒をみんなで祝った。Dr.Gogal が自宅に飾っている鉄道模型を見せてくれるということで自室や地下室に案内してもらい、アメリカの鉄道について話を聞いた。アメリカの最も早い電車についても話を聞いたが、アメリカには日本の新幹線のような高速鉄道はないと言って残念がっていた。地下には Dr.Gogal の息子さんの鉄道模型も飾ってあり、建物に明かりが点いたり、汽車の中に人が乗っていたりと細かいつくりになっていた。汽車は実際に動くようになっていて煙突から煙も出ている。最後に記念写真を撮りホテルに戻った。

【8月24日(月)】 8:30 にロビーに集合し、2週目のクリニカルローテーションに向かった。この日からはエキゾチックアニマル研究室に配属され、Dr.Divers に4日間お世話になることになった。最初の患畜は以前手術をして甲羅の腹部を切開したカメの術後経過の観察と切開部を仮止めしていたセメントを剥がして新たにセメントを流して固定する作業を行った。手順は切開部周囲をスクラブブラシで洗浄、スクレーピング、再び洗浄、鉗子のセメントの除去、歯ブラシで洗浄した後生理食塩水で洗い流し、再びブラシで洗浄、シリンジを使ってセメントを甲羅にのせて固めていった。また、セメントを剥がしたときに切開部から出てきた血をディフクイック染色で染色し血液塗抹標本を作っていた。次は生まれつき足の運動機能が悪いタイハクオウム(Umbrella cockatoo)のトレーニングを行った。方法は、タイハクオウムの足に間を輪ゴムで結ばれた自作のエキスパンダーのようなトレーニング器具を取り付けて歩行の練習をするというもので、目の前に餌を置いて歩かせていた。この他に研究室では野生の子リスを保護しており、2時間おきに餌(ミルク)をあげたり濡らした綿棒で排泄を促したりした。

ホテルに戻り 18:00 の食事まで時間があったため UGA の BookStore に行きお土産を買ったりして過ごした。アメリカで最後の自由に摂れる食事ということで、18:00 に再び LongHorn ヘステーキを食べに行った。

この日の夜は北里のみんなで集まってお酒を飲ん

で過ごした。

【8月25日(火)】 8:30 にロビーに集合し各研究室に向かった。この日は午前中に入院中のシカの膀胱穿刺と膣検査が行われた。膀胱穿刺はエコーで膀胱を確認しながら行われ、採集した尿は尿検査に回された。膣検査では実際に検査をさせてもらえてわけではないが、器具出しや器具の洗浄をさせてもらうことができた。

お昼は永田先生に Athens の西端にあるメキシコ料理店に連れて行ってもらい、アボガドディップをご馳走になった。食後近くの大きな本屋に連れて行ってもらったところ日本の漫画の英訳版が多く置いてあり、値段が日本語版の倍近くした。その後 Walmart に連れて行ってもらいクラスへのお土産にアメリカで不味いと有名なお菓子を買った。

午後はアヒルのレントゲン撮影の見学をした。麻酔中に何度かアヒルから採血しようとしていたがアヒルが暴れて採血を断念していたのを見て、世界最先端のアメリカでもこのようなことが起こるということを知り、また臨床の難しさを改めて知った。麻酔が効いているのを確認し、レントゲン室にアヒルを運んで撮影を行った。撮影中に集合時間が来てしまい残念ながら最後まで見るができなかった。

この日は UGA ホテルで働いている日本人とのハーフという Alex と知り合い Facebook のアドレスの交換や写真撮影などをした。

夜は 19:00 から UGA の新校舎でパーティを開いてもらい、学生アンバサダー達と会話したりして過ごした。

【8月26日(水)】 8:30 にロビー集合、各研究室に向かった。この日のエキゾチックアニマルの最初の患畜は Capuchin monkey (オマキザル) で主訴は嘔吐であった。バイオハザードの危険性から診察室に診察室で身体検査などを試みたが興奮していたため翌日に鎮静をかけて検査することになった。使用した診察室は消毒し立ち入りを禁止していた。ここで一旦エキゾチックアニマルの診察が空いたためエマーゼンシーの研究室の見学に向かった。この時エマーゼンシーには心臓病の猫が来ていて、左後肢を引きずるなどの神経症状が見られ、また排尿障害を起こしているらしくフロセミドが投与された。他にも新薬を使っているそうだが名前は聞き取れなかった。結局この猫は安楽死することになってしまった。エキゾチックアニマルに戻り次の患畜の診察を見学した2件目の患畜はカメレオンで、額に腫瘤ができていたようで、治療の経過観察のために来院した。カメレオンを生で見るのは初めてで、予想以上に動きがゆっくりしていて餌を採る時の舌の速さからは想像もつかなかった。次に来院したのはオウムで、骨折した左脚の経過観察のためにX線写真の撮影を行った。大胆に動物用呼吸マスクに首まで突っ込んで麻酔し、撮影は翼を広げた状態で台にテーピングで固定して行った。この日最後の患畜は

ウサギで、体重検査、体温測定、トランスイルミネーターを用いて眼の検査を行った。自分はウサギアレルギーなのでこの患畜に関しては遠くからの見学となってしまった。

この日の夕飯は **Blind Pig** という店でハンバーガーを食べた。名前が気になって **American Dream** というハンバーガーを注文した。8oz で注文したため非常に大きく具も多いのでハンバーガーを潰さないと言に入りきらなかった。

【8月27日(木)】 8:30 ロビー集合、各研究室に向かった。この日は前回来院したオマキザルがケージに布をかぶせて興奮しないようにして運ばれてきた。そのまま入院室に運ばれ、入院室に直接鎮静ガスを注入することで鎮静を行い、気管挿入、麻酔を行い、血液検査、CT 検査などを行った。内視鏡検査時には部屋に入れてもらうことができなかつたため見ることができなかった。その後永田先生にお会いして一緒に昼食を摂ることになり、タイ料理屋に向かった。グリーンカレーを注文したが、本格的なタイ料理を外で食べるのは初めてだったため食べられないような辛さのものが出来たらどうしようという不安があった。実際食べてみるとココナッツミルクを使っているのか辛さがだいぶ抑えられていてとても食べやすかった。そのまま永田先生に近くにあるモールと本屋に連れて行ってもらい、スターバックスのコーヒーをご馳走になって大学に戻った。午後はエキゾチックアニマルの予定が空いていたので **Pharmacy** の見学をさせてもらった。ここの責任者の **Mr.Sosebee** に案内、説明をしてもらったが、話すスピードや声の大きさをこちらが聞き取りやすいように気をつけて下さっていた。薬剤師の資格の種類や役割、薬剤の調剤や管理など様々なことを教えていただき、大変面白かった。この **Pharmacy** の見学の終了をもって **UGA** のクリニカルローテーションが終了した。

夜は浴衣や甚兵衛を着て **Dr.Cornell** のお宅のパーティに参加した。永田先生も参加されていたのでアメリカで勉強するためにはどうしたらよいかなどの話を聞いた。この日は文化交流のために折り紙を持参してきていたので、こちらの方々と折り紙を折り交流した。

【8月28日(金)】 この日は8:30 までに各自チェックアウトを済ませ、**UGA** の獣医学部校舎前で鹿児島大、山口大との集合写真を撮り、アトランタにある **Georgia Aquarium** に向かった。**Georgia Aquarium** は **Dolphin tales**、**Cold water quest**、**River scout**、**Tropical diver**、**Ocean voyager**、**Deepo's**、**wondershow**、**Aquanaut adventure** というようにカテゴリ別に分けられて展示されていた。**Dolphin tales** は決まった時間にイルカのトレーニング風景やショーを見ることができのだが、今回は訪れた時間上これらを見ることができなかった。**Cold water quest** では人気のシロイルカをはじめとする寒

冷地域の生物が飼育されていて、日本のタカアシガニ (**Japanese Spider Crab**) も展示されていた。**River scout** はジョージア州を含むアメリカやアジア、アフリカの河に住む生物の展示を行っていた。

お昼は **CNN** の中華料理屋で済ませ、**CNN** 内を見て回ったり、お土産屋で日本へのお土産を買ったりした。

鹿児島大、山口大とは最終日に宿泊するホテルが違うためここで別れることとなった。北里大学は **BEST WESTERN PLUS Atlanta Airport East** というホテルに宿泊した。

【8月29日(土)】 最終日、この日はホテルのバフエで朝食をとり、チェックアウトを済ませたらシャトルバスで空港に向かった。前もって空港のチェックインは済ませてあったのでスムーズに搭乗することができた。空港のロビーでは周りに日本人と思われる人たちが多く、いよいよ日本に帰るのだと実感した。不思議なものでアメリカに来てからは早く日本に帰りたい、日本が恋しいと思っていたが、いざ帰るとなると日本に帰りたくない、アメリカにもっと滞在したいと思うようになっていた。周りに日本人が多くなってからはその思いが益々強くなっていった。飛行機に乗ってからは映画ばかり見ていたが、ここでも行きと帰りで自分に変化が起きていた。行きの飛行機では邦画ばかりを見ていたが、帰りは洋画、しかも翻訳版ではなく字幕もしくは字幕なしだった。

13時間のフライトを終え成田空港に着くと、アメリカから帰ってきたという寂しさと日本に戻ってきたという安心感など複雑な気持ちだった。ここで北里のみんなと別れ、新幹線で十和田へと戻った。

2週間アメリカで行動を共にした北里のメンバーや鹿児島大学・山口大学の学生と先生方、**UGA** の関係者、面倒を見てくださった永田先生とごご家族、そして引率して下さった佐々木宣哉先生には大変感謝しています。このアメリカでの2週間の経験を活かせるように日々努力したいと思います。本当にありがとうございました。

◇+◇+◇+◇+◇+◇+◇+◇+◇+◇+◇+◇+◇

柴田 暁 Akira Shibata

【8月15日(土)】 前日に東京に戻り、一泊していざアメリカへ。元々8月15日の8時10分に成田空港に集合と聞いていたので、朝早すぎでしょ夜行バス無理だから新幹線にしよ、という感じであった。だが前日に13時30分に集合の誤りでしたと言われた。そこから、これからの旅に不安という感情が生まれた。

だが、時間も遅くなったのでゆっくり行けるようになって逆に良かった。持っていくお土産も全部詰めていざ成田空港へ。集合時間の1時間前には着いた。空港は広いし集合場所がよくわからなくなったりするので、早めに着いておいてよかった。昼食を済ませ、

全員が揃ったところで搭乗手続きへ。

17時前くらいに搭乗。飛行機の中はCA含めて外国人さんでいっぱい。席が真ん中だったため自分の両脇も外国人さん。既にアメリカにいる気分だった。しかし、この日のために勉強してきた英語を使う機会がいよいよ来たと思い、一人でテンションが上がっていた。機内は思った以上に快適だった。シートも柔らかく清潔感があり、ご飯も飲み物も貰えるし映画見られる。正直、東京行き4列シートの夜行バス11時間の旅に比べたら天国のようだった。夜行バスセット(お尻に敷くクッション、首に巻く枕、アイマスク、耳栓)があれば6時間睡眠も余裕であった。

アメリカに着いて入国手続き、まあなんとかあった。

ロビーに着くと既に鹿児島大の生徒3人と先生、山口大の生徒1人と先生が既にいた。どのタイミングで挨拶するか悩んだが、とりあえず話してみたい欲があったので杉山と挨拶に。そのあとバスが来てジョージア大学まで移動になったが、鹿児島大の人達と同じバスに乗ったことでそこで少し親しくなることができた。3人とも良い人そうで安心した。

ホテルに着きチェックイン、だがトイレが我慢ならなかったのでバンを運転してくれたアメリカ人さん(スペンサー)に聞いて一緒にトイレへ。ここからとりあえず喋られなくても積極的に話しかけるようにした。チェックインも済ませて部屋へ。この後の話はみんな書いているだろうから割愛で。

部屋に荷物おいて、再びロビーへ。そこでちょっとした今後の説明などがあったが正直半分も理解できなかった。リスニング頑張ろうと思った。とりあえずこの後ピザを用意してくれるというので中庭へ。みんな話したりしていたが暇だったのでホテルの中や周りを一人でぶらぶら。とても綺麗なところ、感動しました。明日はもっと色々動いてみようかな。

最初のご飯会も終えて部屋に戻ると何故かエキストラベッドが置いてある。なんで一、って感じだったのでフロントへ。たどたどしくて全然うまく話せないし悔しかったが、なんとか解決することができた。6か月ほどしか英会話の勉強してこれなかったが、それでも勉強してきてよかったと思った。やはり会話ができる嬉しい。

初日はこんな感じだった。

色々思うことがあった。一番思ったのはせっかくアメリカに来たのだから、周りの目を気にしないで積極的に色々やった方が絶対にいいなと、沢山得られるものがあるなと感じた。

【8月16日(日)】 何故か5時半に起き、それ以上眠れなさそうだったのでルームメイトの斉藤(以下たかし)を連れて6時半に散歩に行くことに。散歩の詳細はたかしが書いてくれているので割愛。朝早くで車が少なかったり電車がなく線路を歩いたり、スタンドバイミーなどの洋画の気分を味わったりできた。ジョージア大学周辺の建物は全部回り、2日目の朝からとても

良い気分だった。

9時に朝御飯でホテルのレストランに行ったが、失敗した。量を見て頼まないと駄目だった、失敗した。あと案外基本料金が高く、それに上乗せでどんどん値段が上がっていくシステムだったので気を付けた方がいい。

次に植物園へ。行ってもまだ開いていなく周りの庭をぶらぶら。十和田にいて自然をずっと見ているせい、アメリカにいる気がしなかった。ここは日本だ。植物園の中に入っても小さく、そんな見るところなかった。

続いて噂のダウントウンで。ここでは最初に集合写真撮った後、個人行動へ。僕は一人でひたすら歩き回ろうと思ったが、一人は危ないとのことなのでたかしを連れて行くことに。どこに行ったのかはたかしが書いてくれているはずなので割愛。ダウントウンは主にアパレルショップとレストランとバーで、特に行きたい店もなかったが、勿体ないのでひたすら歩き続けた。アメリカ人と話せる機会あるかなーって思っていたが殆どなく、やはり自分から従業員の人にでも話しかけるくらい積極的にいかないと駄目だと痛感した。

16時にスーパーへ連れてってくれるというので、シャトルバスへ。運転手のパーカーがとても気さくなイケメンで、結局最後まで凄いいくしてくれた。ここまでの食事で野菜がなかったので、ここで野菜買ったりとかした。

買い物済ませて帰ってきたところ、次の予定が決まっていなかったので少し寝ることに。しかし起きると20時で、LINEには外に食べに行く人は19時にロビーへという文字が。結局そっちは諦め、他大の人達と飲むことにした。他大学の研究室の話なども凄いい新鮮だった。他大学の人との交流ができることもジョージア大学研修の良さだと思った。

【8月17日(月)】 今日朝6時に起きて6時半から散歩。今日は人が増えて他大含む5人で行くことに。ルートは昨日と殆ど同じ道。でも人増えて楽しかった。

朝御飯は昨日買ったサラダを。久々の野菜！おいしい！が結構痛んでいたの全部食べる羽目に...きつい...でも野菜食べられたしよかったよかった。

10時半に集合して、いざ大学病院へ。しかし眠い。挨拶やら学校見学やら写真撮ったりやらして、最後にジョージアの白衣を貰い、14時前に終了。いやーアメリカってすごい。でかいし規模が違いました。ネイティブの人の言っていること聞き取れない明日からどうしよう。

夕方はレストランに連れて行ってもらった。食欲があまりなかったのでシュリンプサラダを頼むことに。だが来たのはレタス丸ごとを4分の1にカットしたものにドレッシングをかけ、周りにエビが置いてあるもの。アメリカやっぱすげえ。でもレタスも新鮮でおいしかった。席の目の前にアメリカ人の生徒さんが座ってくれたのでひたすら話しかけた。思った以上に会話

でき、凄く嬉しかった楽しかった。

今日鹿児島大額の先生と話しているときに、アメリカ人には別に何を話してもいい、凄くどうでもいいことでもとりあえず話しかけることが大事、話せなくても話しかけることが大事、沈黙を続けてはいけない、アメリカでは話しかけることが評価されるということを教わった。確かに、今日だけでも何を話せばいいのかわからなく、結局沈黙になってしまうこともよくあった。この先はもっと気楽に適当に話しかけようと思う。明日からクリニカルローテーション、頑張ろう。

【8月18日(火)】 初のクリニカルローテーション。今日から山大的猪狩さんと3日間一緒に orthopedic を回ります。

ということで8時15分に集合して整形外科に向かったものの、最初からなかなかのアウェイ感。忙しそうだし、とても話しかけてくれる雰囲気もなく、たまたま僕ら。隣の部屋で犬がリハビリをしており、女性が一人きりだということでそっちに避難することに。その人は気さくに接してくれ、色々教えてくれた。普通にプールでのリハビリを見たのは初めてだったので感動した。その後整形外科に戻っても学生たちはひたすらコンプレッション試験などをしており、特にめぼしいものはなかった。そのまま昼ご飯を食べ終えたところで永田先生が放射線の方を見せてくれるというので、そっちに行くことに。規模がすごかった。なんかもうどういえばいいのかわからない、びっくりですとりあえず実物を見てびっくりしてください。

その後は他の課をちょいちょい見て、何事もなく16時に終了。夕方には永田先生がおいしいステーキ屋に連れて行ってくれた。確かにうまい、赤身が好きな僕としては最高に美味しいステーキだった。

ホテルに帰宅して色々やろうと思ったが、疲れが凄く、そのままベッドに倒れた。

病院で話すのが思った以上に難しい、というのも、そもそも英語の獣医学の語彙に乏しい上にネイティブを聞き取り、且つ忙しそうなお相手に話しかけるというのが想像以上に難しい。話しかけたり教えてくれるかも、と期待していたのは間違いだった。やはりアメリカに来るなら日常単語だけでなく、獣医の単語ももっと勉強しておくべきだった。

【8月19日(水)】 朝に放射線治療を見させてもらい、9時から整形外科の手術を一日見ていた。手術は1日に6件あり、オペ室が7つほどあり2症例を同時進行していた。これも麻酔科やオペ後の管理などがそれぞれ分担され、且つ人数が揃っているからできることなのかと思う。まず関節鏡を使って内側鉤状突起の異常を見るオペをみた。山大的先生も一緒に見ていたがどういう疾患かはよくわからず。だが関節鏡を見るのは初めてだったので、関節鏡という侵襲が少ないアプローチでここまで多くのことが出来るということに驚きが隠せなかった。2件目は TPLO だった。術者の

先生が手練れなのか、ものすごい勢いとおおざっぱなアプローチをしていたことに驚きが隠せなかった。その後昼ご飯を食べに食堂へ。昨日見ておいしそうだと思っていたのは Chicken wrap だということが判明したおいしかった。

昼ごはんの後はエキゾを覗き(鹿のオペをやった)、外科に戻ることに。膝蓋骨脱臼と大腿骨の螺旋骨折のオペをやっていたので見て、最後に general surgery の尿道造瘻術を少しだけ見てその日は終了。

夜にビール工場に連れてってもらえると聞いていたので、それまでに大学の BOOKSTORE へ。ちゃっちゃい売店みたいな店を想像していたが、思った以上にでかく色々なグッズなどを置いてあったので思った以上に楽しめた。

そしてビール工場へ。12\$ でビールがグラス7杯くらい飲んで、且つグラスが貰えた。ジョージア大学の生徒さんがいたのでひたすら話しかけることに。うまく話せなかったが、みんな一生懸命聞こうとしてくれるし、話もふってくれるので本当に楽しめた。勢いで大事。ありがとうジョージア大生。

【8月20日(木)】 今日はちょっとお疲れなのでゆっくり起きることに。9時からローテーションであったが、今日は診察日なので特に忙しさはなく、ぶらぶらすることに。診察予定を見ていると PRP 注射による変形性関節炎の治療があるというので、その説明や股関節形成不全の症例の状況、昨日の関節鏡による内側鉤状突起の治療などについて色々教えてもらった。リハビリも見させてもらった。午前中は色々質問したりしていた。明日のオペ予定では5件も TPLO が入っていた。なんかすごい。

昼ご飯を済ませて午後の診察へ。とりあえず変形性関節炎の治療を見させてもらったりしたが、時間が余ったので他の課を回ること。Emergency に行くと、ちょうど色々な症例が来ていた。神経学的検査をやらせてもらっていると、隣で他の症例を当然安楽死をしていたり。4匹同時に診察していたりしてとても忙しそうだったが、尿道脱やコクシジウムによる下痢脱水、鼻出血、跛行を示す動物など様々な症例がみられてとても楽しかった。またアメリカと日本では安楽死への考え方が全然違うことを知った。

夕方は予定がなく、みんな TJMax というところに行き、お土産を買ったりした。そのあとはダウンタウンの映画館の屋上にあるバーで飲んだ、良いところだった。

【8月21日(金)】 今日はお休み。8時15分に集合してアトランタのコカコーラミュージアムへ向かうことに。途中でマックみたいなファーストフードで朝御飯を買ったが、さすがアメリカ。ハンバーガーを買ったら野菜がない。だがおいしかった、これぞアメリカ。

そのあと1時間半くらいしてミュージアムに到着。

色々楽しかった。案外滞在時間が短いので、お土産を沢山買うならちっちゃっと回ってお土産に行った方がいいかもしれない。お土産は色々あるので見るだけでも楽しい。

次に CNN でランチを。カートゥーンネットワークがあつて感動した。

夕御飯はメキシカンに連れてってくれた。おいしかった。

【8月22日(土)】今日は午後学生パーティーにお呼ばれしており、それまではフリー。スーパーへ買い出しに行き、その後ダウンタウンの有名なアイスクリーム屋に行ってきた。確かにおいしかったけど甘かった。僕は日本のアイスの方が好きかな。

午後2時に集合し、昨日教えてもらった家へ向かってみると、既に多くの学生がいた。ウォータースライダーのプールは想像していたより小さかった。せっかくお呼ばれされたので一緒に騒がないかと思いき、すぐに服を脱いでゲームに参加することに。なかなかよくわからないゲームであったが、とりあえず楽しんできた。会話はできないがノリだけで生き延びた。

他にアメリカ式のガチャガチャするサッカーゲームをやったり、グリルチキン(丸ごと)を食べたり。夜のパーティーではアメリカの学生は踊り狂っているイメージであったが、持った以上に踊っている人が少なかった。

そして帰宅。

友達を作る気満々で臨んだが、正直まともに話せた人はいなかった。アメリカの学生も自分の知っている友人と話しているので、相当積極的にならないと駄目だなと今更後悔。アメリカ来ているのに時間を無駄にした気がしてしまった。

【8月23日(日)】今日は午後ジョージア大学の教授のお宅に遊びに行かせてもらうという予定だけだったので、それまで部屋から一歩も出ずに寝ることに。疲れをとらねば。

教授の家はまさにアメリカって感じの豪邸。中に入ったらプールとバレーボールコートが。とりあえずプール一番乗りは貰いました。これぞアメリカンドリーム。ひたすらプールとバレーボールで遊んでいた。ビールも置いてあるし。

昼食の時間になったので、ご飯を貰ってアメリカ人さんたちのいる席へ。椅子が足りなかったから annemarieke と椅子をシェアしました嬉しい。ご飯を食べた後もプールに入ってみんな遊んでいたが、少し疲れたし寒いし annemarieke 達と話したかったのでずっとまったり会話をしていた。ついでに Facebook のアカウントも教えてもらいましたやったぜゲットだぜ。

あとは書斎の鉄道ジオラマとか地下にある鉄道ジオラマとか見させてもらって、最後にみんなで写真撮って終わった。ジオラマすげー！地下すげー！

今日とはとっても楽しい休日でした、アメリカ来た中で一番。午前中ゆっくり休んだのもよかったし、プールとか最高だった。最高に一日をありがとう。将来あんな家に住んでみたい。帰りも annemarieke の運転するバンに乗ったが惚れました、もっと英語話せたらよかったのに。

【8月24日(月)】久々のクリニカルローテーション、今日から4日間 general surgery に。朝行くとまずミーティング、尿道に石が詰まって膀胱がパンパンになっている場合はどのような対処法をするのかということ、教授が生徒やドクターに聞きながら進めていた。実際に考えさせながら、その考えだどというふうなアプローチになるのかなど、事細かに教えながらやっているのは日本ではないことだなと、実際の症例を見ながらこのように勉強できるのは凄くいい環境だなと思った。

頸部 mass や脂肪腫、胃腹壁固定術、eplis、PSS など色々な症例がいたので、あまり飽きずに見ることができた。特に山大の先生が付いて解説もしてくれたりしたので理解も深まり面白かった。生徒がやるぶんど寧なのかもしれないが、診察時のそれぞれの患者への触診や検査が日本より凄く丁寧だなと感じた。

昼には近くの HIBACHI という永田先生お勧めの中華ビッフェへ。カエルの肉があると牧がいうので期待していたが、なくて残念。しかしザリガニは初めて食べたので感動した。

午後は特に忙しさはなかった。とりあえず明日のオペが8件もあることに驚いた。整形外科の TPLO などは決まりきった手技で症例の数も多いので手が慣れてオペを素早くできるだろうが、こんなにも色々な症例を一日にやるというのは驚きだった。明日のオペを少しでも理解するようとりあえず書いてあることを訳すだけはしたが、わからないことだらけであったので勉強不足を痛感した。帰ってから勉強しようって思った。

クリニカルローテーションの後、18時からステーキハウスにまた行くらしい。少し時間があつたので昨日池ちゃんが行ったという南北戦争時代の洋館に行ってみようと思いたが、今日は休館日だということで敢え無く終了。その時代の洋館を見られるのに増して手術器具などが見れるというので凄く行きたかった、本当に行きたかった。残念なり。

ステーキハウスでは永田先生おすすめのリブアイを前回食べたので、今回は赤身の多いらしい NEY YORK S~~ というものをチャレンジ。ちょっと失敗しないか不安だったが、リブアイより脂が少なくあっさりして食べやすかった。アメリカのステーキ良い。

【8月25日(火)】今日はオペ日！パグの軟口蓋過長、ヨーキーの PSS、バーニーズマウンテンの腹腔鏡による SPAY と胃壁固定術、ゴールデンのエプリスと脂肪腫、甲状腺摘出術前に肝臓転移を調べるための腹腔鏡

によるバイオペシー、神経科の脳の腫瘍の治療を見た。自分が軟部の研究室に所属しているため、orthopedicに比べて馴染みがあるので理解しやすかった。

病院の後、本来はホンダラス先生の家でパーティーのはずだったが、事情があり、大学内でのパーティーに変更。それまでに時間があつたのでちょっと近くのコンビニに行ってみた。日本で見ない、でかいモンスターが売っていました。買いましたよ先輩、こんな優しい後輩どうですか。

夕方招待されたパーティーの後は、池ちゃんが近くでカントリーミュージックをやっている店があるというので杉山と共に行くことに。行ってみると、なんともカントリーっぽい、だがおしゃれで良い感じのお店だった。カントリーソングはひたすらおっさんくさいおっさんがおっさんらしく歌っていた。ドラムの音が体に響く。正直こんな曲を日本では聴くことがないし、アメリカのこのようなところでしか聴けないだろうから良い体験できたと思う。

【8月26日(水)】 朝のPSSのミーティングはいつもより理解できた、山大の先生に昨日少し教えてもらったからというのもあるが、事前の知識と知ってる英単語がよく出てきたからだろうか。

診察日の今日の症例はそれほど多くなかったが、PDAの子が来て連続性雑音を初めて聴かせてもらったり、肩から胸にかけるほど大きな骨肉腫をもつゴールデンが来たり、色々貴重な体験ができた。あと全然ないことだが、気のせいかな昨日とかよりネイティブの人の言っていることが聞き取れるようになってる気がしなくもない。

夕方はまたレストランへ連れて行ってもらえた。レストランは大学すぐ横のBrind Pigというハンバーガー屋。ここで僕は素晴らしく楽しい時間を過ごすことができた。隣に座った人が凄いノリノリで話す人だったのもあるが、今日は本当に調子がいいみたいでかなりスラスラ喋ることができた。とても楽しかった。ハンバーガーも8ozあるというのでピクピクしていたが美味しく食べることができた。店員さんおすすめブラックビーンズは正直微妙だった...

そのあとちょっとした買い物。みんなにお菓子のお土産にアメリカっぽいものと、まずそうなものを3つほど選んで買った。

今日は良い1日だった。英語がスラスラ出てきてリスニングがいつもよりできるだけこんなにも違うのかという感じであった。明日はジョージア最後の日。こんなにも終わりにたくないと思うのは久々である。こんなこと言っている時は過ぎてしまうので、とりあえず明日は悔いのないよう楽しもうと思う。おやすみなさい。

【8月27日(木)】 正直今日1日特に得られるものがなかった、というの、PDAと咽頭麻痺と胸腺腫と気管支洗浄のオペであったのだが、どれも術創が小さ

い上に、今日はオペを同時進行しないので部屋の人数が多く、まともにオペを見ることができず...やりきった！とは思えない最終日となってしまった。

ホテルに帰ると、17時半に集合とのことなので、行きたかった南北戦争時代に建てられたという洋館へ時間がない中1人で行くことに！パンの交渉も成功！着いたぜやったぜ！うわぁ閉まってるぜ！入りたかった...だが近くのVINTAGEショップで良い感じの革靴を買えたのでよかったことにしておこう。

副学長のご自宅ではご飯を食べたり学生と折り紙を一緒に折ったり、文句なしに楽しめた。

遂にジョージア大学での生活がほぼ終わってしまった。日本に帰るということが間近になってきて、思い返すと時の流れが凄く早く、特に最後の1週間は滝のように早く流れた。やり残したことが沢山、本当に沢山ある。僕はこの2週間何をしていたのか。英語は全然うまくない！この2週間で何を学んだというのか！など考えると山ほどある。

アメリカは本当に良いところ、正直日本がどういふところか忘れかけているが、永住したいなあ。こっちで獣医をやればどれだけ楽しいのだろうと思ってしまふ。これが一つの夢になったといえば夢になった。世界は広いのだなと改めて思った。楽しかった、心の底から楽しかった、ありがとうジョージア大学。

だがまだ明日明後日もアメリカなので、最後の最後まで楽しみたいと思う。

【8月29日(土)】 遂に最終日！荷物をいくら詰めても朝食を終えて、遂にジョージアを旅立つことに！さらばジョージア、また戻ってきたい。

アトランタに着いてジョージアアクアリウムへ。大きいだけでそんな面白くないみたいなことも聞いていたが、すみません普通に面白かったです。

その後は再びCNNへ行って昼食をとることに。最後にアメリカっぽいものを食べたいと思い

BURGERFIという店で the twenty eight というインパクトのあるハンバーガーを選択。出てきたのは案外普通のバーガー。だがとても美味しく最後の昼食は素晴らしい時間を過ごすことができた。

他大学の友達と別れ、自分たちのホテルに着くとまさに天国から地獄。見るからに寂れている町並みで潰れている店が多く、治安が悪い様子。外に探検しに行くと周りには何もなくて工場ばかり。コンビニを見つけて入ると強化ガラスを張ったレジ。もうどこに銃弾や血痕が残っていても驚かないぞ。あれ、あの廃車の窓、銃で割れたような跡ないかなあ...？反対方向に酒屋とかがあったので、記念に可愛い酒などを買ってホテルに戻ることに。ホテル前のiHOPというよくわからないチェーン店で夕食。とても変なものが多くて面白かった。

ホテルに戻り、荷物を整理して、これを書いています。ホテルからの夜景はなかなか綺麗。落ち着いて見ると案外良いホテルかもしれない、さすが四つ星

ホテル。

明日遂に遂に日本に帰ります。楽しかったこの2週間。海外研修に来て、アメリカに来て本当に本当に良かった。北里の中でも新しい繋がりや親しい友人ができたし、他大やアメリカ人達との素晴らしい出会いの連続だった。英語は上達したかわからないが、日本では絶対に体験できないことばかりで、全てが新鮮で、何もかもが楽しかった。この体験はいつまで経っても絶対に忘れることはないと思う。

ではそろそろ最後の飲み会に参加してこようと思う。2週間本当に楽しかった、あっという間だった。何回も言うが、本当にありがとう。いってきます。

【8月30日(日)】 昨日の飲み会は23時半には終わり、普通にその日は寝て終わった。昨日荷物をまとめたので朝はやることなく、朝食へ。アメリカのソーセージが凄く恋しく感じた。自分で焼くワッフルは近年のワッフルの中で断トツの美味しさだった。

8時半にロビーに集合して、9時にシャトルバスで出発。空港ですぐに搭乗手続きを済ませて、12時過ぎに搭乗。次の日が朝から研究室なので、時差ボケするとやばいと思い、乗ってすぐ1時間くらい寝て、その後6本映画を見た、楽しかったがなかなかハードだった...

で、15時に成田について、最後にみんなで集合写真を撮って、終了。素晴らしい2週間だった。みんな本当にありがとう。終電の新幹線で帰って、明日から研究室という現実を早く見なくては...

最後の思い出は、帰りの新幹線をえきねっとでクレジットカード予約していたので、きっぷを買おうとしたらカードが上限に達していて買えなかったこと、新幹線に乗っているときに七戸十和田駅に置いてある車のキーがないことに気付いたことだった。来年海外研修に行くみんな、最後まで気を抜いては駄目だよ。

【総括】 今回ジョージア大学の海外研修を選んだのは、この先在学中に海外に行けるチャンスが殆どないだろうこと、異国の文化や人々に触れたいこと、アメリカ式の獣医を見てみたいこと、これらの理由が主であった。海外研修への参加が決まった後、せっかくアメリカに行くのだから6か月と短い期間ではあったが英会話や獣医英語を自分なりに頑張って勉強した。実際にアメリカに行ってみると、ネイティブの言っていることが全然聞き取れなかったり、知らない単語だらけで非常に苦労した。自分も英会話を勉強したといえども、話すことは容易ではなかった。悔しい思いを何度もしたが、それでも会話できたときの喜びは大変なものであった。異国の地の人とコミュニケーションを取ることがこんなにも大変なことだということをおぼされた。

アメリカと日本は全く別の国なのだということをおぼされた。食生活は勿論、日常生活やコミュニケーションの取り方、人との距離感、大学での学

び方、オペの方法など、多くのものが違っていた。特に違うなと感じたことは、僕らが教授の家のプールである一人を狙って水鉄砲で打って遊んでいたことだった。あるアメリカ人の学生がそれを見かねて「二手に分かれてチーム戦をしたらどう？」と提案してくれたのだが、結局そのまま一人を狙って遊んでいた。その光景が凄く不思議であったのか、後に僕に聞いてきたのだが、アメリカでは遊ぶときは基本チームに分かれて遊ぶという。僕はこれを聞いて、また安楽死への考え方なども然り、国で物事への考え方にこうも違いがあるのかということをおぼして知ることができた。

こんなにも違う国なのに、2週間という短い期間であったのに、僕はこの国に住みたいと思った。Milesという学生に「この国に来てみてどうだい？」と聞かれたので、僕は「緑が綺麗で街並みが好き。また人もフレンドリーだし、ここにずっと住みたいよ」と伝えた(後にMilesのFacebookにこのことを書いてもらえたのは嬉しかった)。僕のいる地域がよい場所というものもあるのかもしれないが、この国の空気・雰囲気が好きだ。また絶対にここに戻ってきて、今回お世話になった方々にお礼を改めて言いたい。

またアメリカに来て、世界は広いということをおぼして実感した。自分は日本の青森県の十和田市の北里大学の動物病院というところでほぼ毎日をおぼしているが、ここがどれだけ小さな世界なのかということを知った。自分が目指しているのは日本での臨床獣医師だが、それだけで終わりたいと思った。自分の価値観が変わったなどということはないが、自分の考え方に影響を与えてくれるものをアメリカで多く得られた。何度も言っているが、アメリカに来て本当に良かった。ここで得られたものを自分のものにし、これからの人生に役立てていきたい。今回お世話になった方々、本当にありがとうございました。

☆---★---☆---★---☆---★---☆---★---☆---★---☆---★---☆

杉山 彰 Akira Sugiyama

【8月15日(土)】 : 出発

当日は成田空港に13時半集合だったので、前日に東京の友人宅で一泊し、翌日余裕を持って電車で空港に向かった。12時頃に成田空港に到着し、出国前最後の日本食にと昼食に親子丼を食べ、お土産用のお菓子などを見ながら集合時間までの時間を潰した。集合時間となり、皆で搭乗口へと向かった。機内では、3度の食事とドリンクサービスがあり充実していたが、思った以上に座席が狭く、ほとんど眠ることができなかった。ずっと映画を見ていた。

長いフライトが終わり、入国審査会場へと向かった。初めての海外旅行だったので、入国審査も初めての経験で、テレビで見るような無愛想で目の怖い入国審査官が質問してくるイメージしかなかった。自分の番に

なって恐る恐る審査官の方に向かうと、そこには想像どおりの怖い顔をした女性が座っていた。しかし、友達が先に通ってくれたおかげで、それほど質問されずに済んだ。

アトランタ空港で鹿児島大学、山口大学の学生と合流し、軽く挨拶をした。しばらくすると、UGA のコーディネーターの Ward さんと Parker さんが迎えに来てくれて、一緒にバスにのり、ジョージア大学に向かった。車内で、鹿児島大学の3人と話すことができた。大学内のホテルはとてもきれいで、大学のホテルとは思えないほどだった。部屋は2人部屋でこれは前から聞いていたが、チェックインのときにダブルベットに2人で寝ることが発覚し、少し驚いた。しかも、今日初めて出会った鹿児島大の人と相部屋になったので、少し不安だった。夕食は Ward さんがオーダーしてくれたコーラと宅配ピザを食べ、自己紹介をして交流した。

夕食の後、それぞれホテルの部屋に戻り、枕が5個あったのでそのいくつかでベッドの真ん中に仕切りをつくって寝た。慣れない環境であったが、疲れていたせいかすぐに眠りについた。初めて経験することが多くていろいろ苦労した1日だった。

【8月16日(日)】: 植物園、ダウンタウン散策、Publix

慣れない環境のせいか、時差ぼけなのか、朝5時に目覚めてしまった。窓の外を見るとまだ真っ暗だったので、外に出る気にもならず、部屋でホテルのWi-Fiを使いながら、ジョージア大学や大学のあるアセンズの街について調べて時間を潰した。朝9時になると北里大の皆で、ホテルの1階で朝食をとった。味はそんなに悪くなかったが、ソーセージ2本、ベーコン、ポテトと玉ねぎの炒め物、パンとコーヒーで約11ドルと朝食にしては少し高かった。また意外と量も多かった。

朝食の後、ホテルのロビーの人が勧めてくれた大学内の植物園にホテルのシャトルバスに乗って行った。それほど見て回るどころもなく2時間弱でいたい見終わり、再びシャトルバスに乗り、ダウンタウンに向かった。ダウンタウンはそれほど大きくはなく、ハンバーガー店やピザ屋、メキシコ料理店などの飲食店やバー、洋服屋や雑貨屋があった。一通り歩いて回ったあと、いい感じの雰囲気のバーに入り、ビールを頼んだ。この時、お酒を買うときにパスポートを見せる必要があることを初めて知った。僕はパスポートを持ち歩いていたので良かったが、持っていなかった人はビールが飲めず、しぶしぶソフトドリンクを飲んでた。ビールは種類が豊富でどれを頼んだら良いか迷うほどだった。日本のビールとはかなり味が違うものもあったが、種類が多いので好みのビールが日本に帰るまでに見つかれば良いなと思った。帰りは歩いてホテルまで帰ったが、だいたい20分くらいで着いた。

16時にロビーに集合して、全員で“Publix”に買い物に行った。日本でいうイオンのような店で、生活必需

品ならだいたい揃っていた。とりあえず朝食用にパンとカップヌードル、それに水やクリニカルローションで使うメモ帳とクリップボードを買った。

買い物から帰ってから、歩いてダウンタウンに再び行き、“TRANSMETROPOLITAN”というピザ屋に行った。SIC LARGE という謎のサイズを注文したところ座布団みたいな大きさと厚さのピザが出てきて、びっくりした。しかし、そのサイズで約20ドルとそれほど高くなく、WHITE という店員お勧めの様々な種類のチーズが乗ったピザが美味しかった。味も店の雰囲気も良かったのでとても満足していたが、店員さんに支払いを分割にするように頼むと人数が多くて会計が面倒だと思ったのか、突然機嫌が悪くなり、お釣りを貰えなかった。日本ではまず起こらない出来事だったので、驚いた。日本とアメリカの違いを痛感した一日だった。

【8月17日(月)】 大学見学、挨拶

今日も朝5時頃に目が覚めたので、5人で大学内を1時間半くらい散歩した。ジョギングしている人が多くみられた。アメフトの数万人収容できるという競技場や野球場、陸上競技場などとても大学内の施設とは思えないほど大きかった。

10時半から大学の動物病院に行き、大学の先生と挨拶し昼食を食べた後、病院内を案内してもらった。かなり大きな病院で、医療器具も充実していた。診療室の数も多く、大きな薬局や内視鏡専用の部屋などもあった。大動物の病院は通路がかなり広く、屋根付きの馬の運動場もあった。まだ新しいからなのか病院内は、動物臭がほとんどしなかった。途中で放射線治療の永田先生に出会った。この大学で働いている日本人の先生で、このときは軽く挨拶だけした。病院の見学が終わったあと、病院の横に建つ講義室やカフェが入っている棟にも入らせてもらった。講義室は小講義室と言われた場所でも十分に大きく、円卓が8つとそれぞれの机にプロジェクターがあり、壁に映像を映しながらディスカッションができる教室だった。大講義室はさらに大きく広々としていた。このあと、ジョージア大学のロゴ入りの白衣をいただき、その白衣を着て、大講義室の前で記念撮影した。

その後、大学内にあるジョージア大学のグッズなどが売っているBOOKSTOREに行った。中は思った以上に広く1階にジョージア大学のグッズが売られており、グラスやタンブラー、Tシャツやパーカーなど様々なものがあつた。2階は普通の書店だった。

夜はジョージア大学の学生に連れられて、ダウンタウンのイタリアンの店で一緒にご飯を食べた。昨日も一昨日もピザだったので、パスタにした。トマトベースのエビが入ったパスタだったが、日本で食べるパスタと同じような味で、すごく馴染み深かった。また、アメリカに来てからピザやソーセージなど脂っこいものばかり食べていたので、このパスタがあっさりしていると感じた。

ホテルに帰り、何人かと明日の朝食を買いに大学内の売店に行くことにした。しかし、途中道を間違えてしまい迷っているところに、さらに雨が降り出してきてずぶ濡れになってしまった。折りたたみ傘を持ってくれば良かったと後悔した。コンビニには結局たどり着かず、雨の中ダッシュでホテルに戻り、そのままホテルのコインランドリーに向かい、洋服を洗濯した。洗濯機も乾燥機もタイマーがついておらず不便だった。

【8月18日(火)】：クリニカルローテーション1日目 (Small Animal Community Practice)

今日からいよいよクリニカルローテーションが始まる。前半は Small Animal Community Practice だった。病院まで送ってもらい、中に入ると病院特有の緊迫した空気を感じ、急に緊張してきた。Community Practice では普通の動物病院のように、処置室やオペ室、診療台などがあり、主に歯の治療や去勢・避妊などを行っていた。最初は、ミニチュアプードルの歯のクリーニングを見た。外科手術のように気管挿管し、吸入麻酔で眠らせ、生体モニターを見ながら処置していた。生体モニターを見る人、指導する人(看護師)、学生の3人だった。ドップラーというスピーカーのついた装置を用いて、心音を耳で聞きながら処置をしていた。歯の治療はアメリカに来る直前の授業(5年生前期)で習っていたので、理解しやすかった。歯の検査では全ての歯をチェックするためにX線写真を10枚くらい撮っていた。X線照射機はコードレスで巨大なドライヤーのような形をしていた。スケーリング、ポリッシングのあとのスプレー缶から出したフォーム(泡)でコーティングするのだが、その泡がとても甘い匂いで印象的だった。歯のクリーニングは意外と時間がかかり、全ての歯が終わるのに2時間半くらいかかっていた。12時になったので、近くの大学内の売店に行き、サンドウィッチとコーラを購入して昼食をとり、病院に戻った。病院に戻ると、ちょうど雑種犬がエコーガイド下で、膀胱穿刺により採尿されていた。また採血もしており、血液をスライドグラスに1滴たらし、カバーグラスをかぶせ、顕微鏡で観察していたので、何の検査をしているのか聞いたところ、フィラリアの検査だといわれた。ジョージア州などアメリカ南部ではフィラリアが多いようである。フィラリアの検査キットも山のように置いてあった。その様子を見ていると、末期の乳腺腫瘍のマルチーズがやってきた。3、4人に囲まれ、ご飯をたくさん与えられ、その後安楽死のための処置をし、段ボールの棺に入れられて、飼い主に戻された。このとき用いられていた2種類の麻酔薬が青とピンクに色付けされ、間違えないように工夫されていた。ちなみに薬剤や備品はIDとパスワードを入力することによって取り出せるようになっていた。再び、歯の処置室に戻ったところエレベーターを用いて、拔牙が行われていた。拔牙も授業でならったばかりで、いい復習になった。ちなみに歯の処置室には、拔牙し

た歯が瓶のなかにコレクションされていた。多すぎて何本あるか分からなかったが300本以上はあったと思う。

夕方から昨日会った永田先生とその奥さん、娘さんと一緒にステーキハウスの“LONG HORN”に行った。永田先生お勧めのリブステーキとサイドメニューとして、スイートポテトとブロッコリを注文し、ビールを注文した。ステーキは大きく分厚かったが、柔らかくて食べやすかった。この後、アメリカでいろいろな美味しい食べ物に出会ったが、このステーキが最も美味しかった。

帰りに永田先生が“TARGET”という大型ショッピングモールに連れて行ってくれた。とても大きな店で、なかなか買うものが決まらなかった。

【8月19日(水)】：クリニカルローテーション2日目 (Small Animal Community Practice)

2日目ということもあってか昨日ほどは緊張していなかった。今日は午前中、佐々木先生も一緒に見学することになった。今日も昨日と変わらず、9時前に着くと、あまり人はおらず静かだったが、9時を回るとすぐに犬がやってきて、慌ただしくなった。今日もまず歯のクリーニングをみて、血液検査や尿検査、糞便検査の様子を観察した。午前中は昨日ほど忙しそうではなく、11時半くらいには落ち着いてきたので、昼食の許可をとり、佐々木先生と昨日の売店ではなく、10分くらい歩いたところにある24時間営業のバイキング形式の学食に行った。BBQチキンやピザ、パスタ、サラダ、ローストビーフなどがあった。とりわけ人気で学生たちの行列ができていたのが、ハンバーガーのコーナーで、パンやチーズの種類、お肉、野菜などが選べて、さらに肉をその場で焼いてくれるので、とても肉がジューシーで美味しかった。アイスクリームやソフトクリーム、ドーナツ、ブラウニーなどのデザートも充実していた。お昼は11.5ドルで食べ放題だった。皆毎日来ているからなのか、だいたい一人1皿分しか食べておらず、いろいろなものを食べようと何度も食べ物を取りに行き、皿を数枚重ねているのは僕らだけだった。午後動物は絶え間無くやってきて忙しそうだった。今日のローテーションが終わってから、他の科に行った人の話を聞くと、どこの科も男性より女性が圧倒的に多く、男女比は2:8くらいだった。学生も女性の方が見る限り多く、日本ではだいたい1:1くらいなので、これも日本とは異なる点だった。また、看護師が、普通に歯のクリーニングや採血、麻酔の導入をこなしていたので、最初は、てっきり獣医師だと思っていた。アメリカでは動物看護師の地位が高く、獣医師との役割分担もしっかりされていて、人間の医者と看護師の関係に近いようだ。歯の治療でもクリーニングは看護師、拔牙は獣医師などと分担されていた。

夜は、“Terrapin”というビールメーカーの工場に行った。12ドルでかなり満足できる量が飲め、ビールも

種類が約9種類と充実しており、音楽の生演奏もあり、とてもオシャレな雰囲気です。毎日来ても全く飽きない空間だった。途中、ビール工場を案内してくれた。説明はもちろん英語でほとんど何を言っているか分からなかったが、ビール工場を見学するのは初めてだったので楽しかった。また他のお客さんとも話す機会があり、お酒を飲んでいるせいなのか、とてもフレンドリーだった。

ホテルに着いてから、少しお腹が空いたのでホテル近くのキューバ料理屋に行き、サンドウィッチを注文した。どの辺がキューバ料理の特徴なのかよく分からなかったが、味はとても良かった。そのあと、コンビニでアイスを買って、鹿児島大学の安藤先生の部屋でビールを飲みながら、アイスを食べ、少し談笑してから、部屋に戻り就寝した。

【8月20日(木)】：クリニカルローテーション3日目 (Small Animal Community Practice)

今日は前半のクリニカルローテーション最後の日だ。病院に行くと早速歯の治療を行っていた。ドッグファイトの結果、歯が折れてしまった犬だった。この日は手術室の中に入り、犬避妊手術を見た。貸してもらった紫のスクラブをきて、マスク、帽子、シューズカバーをつけ中に入った。手術の準備は全て看護師が行い、気管挿管や麻酔導入も看護師がやっていた。驚いたのが、学生と先生がワンツーマンで教えてくれることだった。手術を見た後、昼食をとり帰って来てから、歯の治療を2件見た。何度も見た歯の治療の手順はこの3日間で頭の中に刻み込まれた。最後にお世話になったお礼として、日本で買った抹茶味のキットカットを渡したところとても喜んでくれた。Community Practiceは特に変わった症例は来ないが、ごく一般的な症例が多く来るので、将来動物病院を開業する人にとってはとても参考になると思う。

ホテルに戻り、“Kroger”という大きなスーパーに行った。そこでお土産としてのワイン、巨大なグミを買った。その後、ダウントウンに移動し、ジョージアシアターの屋上にあるバーに行った。そこでビール2本とフライドポテトを注文し、皆と一緒に食べた。アセンズの街を見わたせ、屋外なので音楽もそこまで大きくなく良かった。

【8月21日(金)】：コカコーラ・ミュージアム

今日から3日間は病院に行くことなくお休みだ。今日は朝早くホテルを出発し、“Chick-fil-A”というハンバーガー店で、マクドナルドでいう朝マック的なものを注文した。ベーグルバーガーで、チーズとチキンが入っており美味しかった。ハンバーガーを食べながら、車で移動すること約1時間半、アトランタ市内のコカコーラ・ミュージアムに到着した。コカコーラ・ミュージアムでは世界中のコカコーラのジュースが試飲できた。個人的にはアフリカ大陸のジュースの色と香りが破壊的だった。もしアフリカにいったら水のみで

過ごそうと心に誓った。お昼はCNNセンターに移動し、そこで、昼食を食べた。様々な店があったが、中華料理店があったので、そこでチャーハンと鳥肉の料理と海老と野菜のピリ辛炒め物を注文した。アトランタでは日本人の観光客が多く見られたので、そのせいか日本語が少し話せる店員が多かった。

その日の夜は当初はカラオケに連れて行ってくれる予定だった。普段カラオケに行かない人にとっては、少し辛いプログラムだった。どうやらアメリカ人からしたら日本人はみんなカラオケが好きだと思っているらしい。とりあえず、ホテルでYoutubeを見ながら歌えそうな英語の曲を探してみたが、断念した。どうしようかと不安に思っていたところ、幸いなことにカラオケ店が取れなかったということでカラオケは中止となり、急遽メキシコ料理店に行くことになった。メキシコ料理店では、向かいに座っていたジョージアの学生お勧めのFish Tacosを注文した。「そんなに大きくないよ」と言っていたのに普通に大きかった。やはり、アメリカの食事の大きさはおかしい。味は美味しかったので何とか食べることができた。アメリカに来て1週間になるが、体重が気になる。

【8月22日(土)】：学生主催のプールパーティ

この日は久しぶりに朝ゆっくりとできた。10時から一昨日いった“Kroger”に行き、お土産用のチョコレートとワインを買った。前回行ったときには気づかなかったが、カードをつくと値段がかなり安くなり(半額以下になる商品も)、今回はそのカードを作ったので10ドルほど安くなった。昼は昨日の朝行った“Chick-fil-A”でハンバーガーを食べた。

14時半からホテル近くで催される学生パーティに誘われたので、皆で行くことになった。そこには、大きなウォータースライダープールやBBQマシン、ビールサーバー(もちろん飲み放題)、ビリヤードなどがあつた。スライダープールを使ってチーム戦でゲームをしていたので、それに参加した。「Yeah」や「Oh」くらいの言葉しか発していないが、普通に楽しむことができ、ゲームは言葉の壁は関係なく楽しめるものだった。ゲームの後、ビールを飲みながら、チキンを食べ、人生初挑戦のビリヤードに挑戦した。ホテルに戻り、二度目の洗濯をしてから就寝した。

【8月23日(日)】：パーティ (Gogal先生宅)

この日は、朝からBOOKSTOREに行き、ジョージア大学のグッズをお土産として購入し、Gogal先生宅にお邪魔した。映画に出てくるような家で、庭にはプールがあり、バレーコートもあった。家の中は広く、家具がひとつひとつおしゃれだった。到着して早々、プールに入って遊び、プールサイドでビールを飲みながら過ごした。夕食にはパスタやデザートケーキを食べた。途中、コレクションの鉄道模型を見せてくれるというので、地下室に案内してもらった。広い地下室の奥に鉄道模型があり、とてもクオリティーが高く

見ていて面白かった。将来家を建てるとしたら、このような人を招待して楽しませることのできるような家が欲しいと思った。

【8月24日(月)】：クリニカルローテーション4日目(Pharmacy) 今日からまたクリニカルローテーションが始まる。後半の4日間は Pharmacy(薬局)に配属となっていた。アメリカに行く前の希望調査で Pharmacology(薬理学)と書いたら、なぜか Pharmacy(薬局)に配属されたのだった。9時に行き、パソコンに処方する薬の量などのデータを打ち込み、薬を測りとり(錠剤は専用のプレートに出し、数えて容器に入れる、液体は専用の部屋(clean room)で注射器にとる、化学療法剤は clean room のさらに奥の部屋で手袋、マスク、帽子、シューズカバーをしてその都度クリーンベンチの中で注射器にとっていた、注射器にも漏れないようにするための特殊なアダプターがついていた)、そこに薬の情報などが書いたシールを貼り、受付におくという作業の繰り返しだった。途中、親切に薬の配置方法の説明をしてくれた。多くの薬剤が図書館の本棚のように可動式の棚に配置されており、赤色の箱が錠剤など経口投与するもの、透明が点眼薬などと区別されていた。また、部屋の中央にパソコンが4台あり、基本的にそこで作業してデータを打ち込んでいるが、よく使う薬はパソコンの上の棚に配置してあった。大動物で使われる薬もここに保管されていた。

昼食から戻ってきてすぐに、永田先生が突然やってきて、放射線治療の器具の説明をしてくださった。新しい病院が経つと同時に導入された機器で普通に買うと6億円くらいするものらしい。そのあと、他のところも見た方がいいよと永田先生がおっしゃったので、Pharmacyの先生に許可をとり、永田先生による病院ツアーが始まった。しかし、病院内の科を1つ1つ回って行ったが、Exoticsでカメの治療と、Oncologyで抗がん剤治療の様子をみた以外は特に何もやっていなかった。

夜は、以前永田先生に連れて行ってもらった“LONG HORN”で再びリブアイステーキを食べ、満足した。

【8月25日(火)】：クリニカルローテーション5日目(Theriogenology) 今日は Theriogenology(繁殖学)に行くことにした。朝8時に Stawicki 先生が車で迎えにきてくれて、そこから大学病院に向かった。大学に着いてすぐに先生が「今日は長くなりそうだ」と言った。長くなると言っても16時までには終わるだろうとこの言葉をまだ甘く見ていた。最初は、馬の繁殖診断で大学病院に飼い主が馬を連れてきて診察していた。北里大学で先生が牛に行っていたのと同じように、直腸検査のように手を肛門から入れ、糞をかき出し、エコーのプロブを入れて卵巣を映しだし、最大卵胞の大きさを測っていた。卵胞の大きさから排卵時期を推定し、いつ人工授精を行うかを決めているようだった。

た。

次に、子馬の精液採取が始まった。精液を取る専用の COLLECTING ROOM という部屋があり、その広い部屋の奥に1つだけ犠牲台(電動で高さが変わり、大きい動物にも小さい動物にも対応できるようになっている)がある異様な部屋だった。COLLECTING ROOM の隣には人工膣が保管してある専用の部屋があり、そこで、人工膣にお湯を入れていた。雌馬の尿を犠牲台につけ、馬が犠牲台に乗ったらすぐに、先生が馬のペニスを人工膣に誘導して精液を採っていた。そのあとすぐに顕微鏡で精子の様子を観察していた。精液採取のあと、先生たちがずっとパソコンで事務作業していて、その間ずっと待っていた。14時が過ぎ、お腹が空いていた。ようやく先生と学生が動きだして、学生に「行くよ」と言われたので、昼食だと思って、車に乗り込んだ。後部座席に機材がいろいろ乗っていたがそのときは気にしなかった。前半のローテーションも Theriogenology だった笠井君曰く、いつも先生と一緒に昼食には行かないらしいが、この日は先生も車の助手席に乗っていた。ここで、もしかしたら往診に行くのかもしれないという不安を少し抱いた。しかし、ファーストフード店の駐車場に入った瞬間にその不安は消え去った。

昼食はブリトーだった(BURRITO:小麦粉でつくられたトルティーヤに具材を乗せて巻いたメキシコ料理)。昼食は20分くらいで済ませ、先生が勧めてくれたルートビアというアルコールを含まない炭酸飲料を持って車に乗った。先生お勧めのジュースは不味かった。その不味いジュースに苦しんでいるとき、僕たちの乗っている車が大学を通り過ぎ、その瞬間、笠井君と顔を見合わせた。今から往診に行くようだ。ちなみにこのときの時刻は15時前。16時までには終わるはずがない。

30分くらい車で走るとあたり一面草原で、その中に牛や馬が多数見えた。目的地の牧場には学校のグラウンドくらいの広い空間に馬が15頭くらい放牧されていた。馬房にも3頭馬がいた。飼い主が放牧されている中から先生が名前を言った馬を連れてきて、エコーを用いて、繁殖診断が始まった。午前中、大学病院で見たのと同じで、卵胞の大きさを測っていた。5頭くらい診て、ようやく帰り支度を始めた。このときすでに16時半くらいだったのだろうか。夜のパーティが18時の予定だったので、それまでにはなんとか間に合いそうだった。しかし、これだけでは終わらなかった。牧場から車を走らせて10分くらいのところで突然車が止まった。2件目の往診だ。このとき先生が初めて僕たちに「いやーごめん、16時に迎えが来るはずだったよね。時計持ってなくてさ、今気づいたよ。」と謝ってきた。そう言って先生はすぐに診察を始めた。2件目の農場でもエコーを用いて繁殖診断をしていた。2頭だったので、割と早く終わった。片付けが始まり、本当にこれで帰れると思った。しかし、さらに予想外の出来事が起こったのである。馬が逃げ出したのだ。

飼い主や先生、学生が皆、馬が逃げた方向に走って行った。残された僕らはただ呆然と見ていただけだった。しばらくして、先生が馬を連れて帰ってきた。無事馬を捕まえ、車に乗って大学へと向かった。車のなかで、先生が「次、3件目の往診行くよ」と冗談を言ったときには、本当にびっくりして言葉が出なかった。先生はその僕らの反応を面白がって笑っていた。

無事、ホテルに戻ると、Hondalus先生のパーティは中止になって、急遽大学でパーティを開いてくれることになった。再び、大学に向かい、学生が出迎えてくれた。パーティではあったかい日本酒が好きな人がいたので、“熱燗”という日本語を教えてあげた。

この日もホテルに戻ってすぐに眠ることができた。本当に長い一日だった。

【8月26日(水)】：クリニカルローテーション6日目(Theriogenology) 今日ホテルに先生が迎えに来られた。しかし、朝からミーティングがあるので、僕はカフェで待機することになった。ところが、すぐに先生が戻ってきた。どうやらミーティングは今日ではなかったらしい。そのままカフェでゆっくりしてそれから病院へと向かった。しばらくして、診察室に行くと、犬をつれた女性が2人いた。1人はチャンピオン犬(雄犬)を連れてお金持ち風の人で、その犬から精液をとり、もう1人の人が連れてきた雌犬に人工授精を行う予定のようだった。今日は雌犬のプロゲステロン濃度を測定し、人工授精を明日行うことに決まった。そして今日の病院業務はこれで終了した。まだ10時半だった。とりあえず再びカフェに戻り、すこし休憩した。すると他の科に行っている人たちの姿が見えたので、聞いてみるとどうやら他のところも今日は暇らしい。昼になって中華料理店である“HIBACHI”というお店にいった。バイキング形式で値段も9ドル弱と安く、炒飯や餃子などやお寿司が置いてあった。炒飯はとても美味しく日本のものと大差なかった。お寿司はカルフォルニアロールなどのアメリカらしいものもあれば、サーモンなどの普通の握りもあった。お寿司は特別美味しいものではなかったが、アメリカに来てから初めての生魚だったので、10貫くらい食べた。昼食を終え、病院に戻り、病院内を周りながら時間を潰した。

夜は“The Blind Pig”という大学病院の隣のお店に連れて行ってもらった。ハンバーガーがメインメニューらしいので、ハンバーガーを注文した。注文したNinjaというハンバーガーは、どこがNinjaなのかはよくわからないが、ブルーチーズが使われており、濃厚な味で美味しかった。食事のあと、すぐそばのスーパーでアメリカに来てハマったビール“Blue Moon”を購入し、ホテルに帰ってから、佐々木先生や山口大学の谷先生などとお酒を飲みながら談笑した。明日がよいよクリニカルローテーション最終日だ。

【8月27日(木)】：クリニカルローテーション7日目

(Theriogenology) 今日いつものように先生にホテルまで迎えに来てもらい、大学に向かった。今日は病院に入らずにそのまま往診に向かった。場所は一昨日と同じ場所で、処置内容も同じで、エコーで繁殖診断をしていた。帰りに“Wendy’s”に寄ってハンバーガーを買って帰った。買って来たハンバーガーを一口も食べる間も無く(ポテトは車のなかでだいたい食べたが)、馬の精液採取を見に行った。一昨日みた子馬よりもかなり大きな成馬で、精液採取の迫力も格段に違った。取った精液を顕微鏡で検査し、2回目にとった精液をExtender(増量剤)で希釈し、大きなシリンジのなかに入れ、配送用の箱に梱包していた。それが終わってすぐに、その顕微鏡などがおいてある検査室に昨日の犬が2匹やってきて、その場で人工授精が始まった。手で犬のペニスを擦りながら雄犬から精液を採取して、その精液を雌犬の膈内に注入していた。人工授精が終わったあと、冷めたハンバーガーを食べて、最終日のクリニカルローテーションは終了した。最後にお礼として日本から持ってきた、コアラのマーチをあげたところ喜んでくれた。最後に別れの挨拶をして病院を去った。

夜はCornell先生宅に招かれた。Cornell先生のお宅も広く、ベランダにはジャグジー風呂があった。ここでは折り紙を折って一緒に遊んだり、永田先生からどうやって英語の勉強をしたら良いかななどを教えてもらったりした。ホテルに帰り、ホテル近くの酒屋までお酒を買いに行き、そのお酒を飲みながら何人かでジョージア大学での最後の夜を過ごした。

【8月28日(金)】：ジョージア水族館

朝、すっかりお馴染みとなった“Chick-fil-A”のハンバーガーを食べ、ホテルを出て、最後に“THE UNIVERSITY OF GEORGIA”と書かれたモニュメントの前で記念撮影して、大学をあとにした。

アトランタのジョージア水族館に行った。ジンベイザメの入った大きな水槽やあの有名なディズニー映画を連想させる“Depo”というカクレクマノミが主人公の4Dシアターなどがあった。

そのあと、鹿児島大学、山口大学の人と別れを告げ、空港近くのホテルに泊まった。ホテルは、UGAホテルと違って、ダブルベッドではなく快適だった。ホテルの周りにもファミリーレストランや、酒屋、小さなスーパーがあった。ホテル前の“IHOP”というファミリーレストランで夕食のステーキを食べ、酒屋で買ったビールを片手に部屋で旅の思い出を語りながら、皆とアメリカ最後の夜を過ごした。

【8月29,30日】：帰国

この日は8時に起床し、ホテルの1階で朝食を食べ、スーツケースと手荷物の整理をし、何とか23kg以下になるように調節してホテルを出発した。空港に着いて、心配だったので体重計に直行し、スーツケースの重量を測定した。その結果はなんと・・・24kg超え!!

1kg以上のオーバーである。やはりワイン3本は多すぎたとこのとき初めて後悔した。とりあえずワイン1本を友達に託し、再計測したところ22.8kgとギリギリセーフだった。こうして、無事荷物を預けられた後、成田にはなかった巨大な金属探知機も突破し、飛行機に乗り込んだ。帰りのフライトは13時間と、行きに比べて長かったが、一度経験して慣れたのか快適だった。

初めての海外旅行で最初はものすごく緊張し、英語の得意ではないので、英語を話すことを極力避けようとしていたが、ジョージア大学の人たちは皆親切で、僕の話す下手な英語でも、しっかりと耳を傾けてくれ、1週間くらいすると、最初の頃よりは相手の話している内容が聞き取れるようになってきたような気がして、それなりに会話ができた。このことはとても自信になったし、もっと英語を勉強していろいろなことを話してみたいと思った。こう思っただけでもこのアメリカ研修は意義があったと思う。たった2週間の研修だったが、いろいろな新しいことを経験できた2週間だった。

_

前道 一貴 Kazuki Maemichi

【8月15日(土)】 いよいよ出発当日。成田空港でみんなと合流し、チェックインしたがいきなり出発時刻が30分遅れるという出来事があった。アトランタ空港まで約12時間の長旅だったが夜行バスに乗り慣れていたおかげで少し座席が狭かったが機内食を食べたり、映画を見たり、本を読んだり意外と快適に過ごせた。

アトランタ空港到着後は鹿児島大学、山口大学の人達と合流。その後、コーディネーターのWardさんとCVMの学生のみなさんのお迎えで宿泊先のUGAホテルへ(アトランタ空港から車で1.5時間かかった)。アメリカでの最初の夕食は3大学のみんなでデリバリーのピザを食べた。

【8月16日(日)】 この日は丸1日自由な時間。ホテルで朝食をとった後、観光を兼ねて夕方までみんなで植物園とダウンタウンに行った。植物園は大きな自然公園みたいで家族で来ている人が多かった。ジョージア大学から少し離れるとこのような自然がたくさんあったので少し十和田キャンパスと環境が似ていた。ダウンタウンでは休憩がてら贅沢にビールを飲もうという話になったがまさかのパスポートをホテルに忘れてきてしまい飲むことが出来なかった……。お酒を飲む時にはパスポートの提示が必要なので来年行くみんなは忘れずにね！

夕方には“Publix”というショッピングセンターに連れて行ってもらい朝ご飯やお菓子を購入した。

この日の夕食は中心街の“TRANSMETROPOLITAN”というお店でピザ(2日連続)を食べたが、運ばれてきたピザが予想をはるかに超えて大きく、分厚かったのでみんなで思わず笑ってしまった。

【8月17日(月)】 11時にホテルを出発し(この日からWardさんとParkerさんが毎日大学に送り迎えや色々とお世話をして下さった)初めて大学へ。大学病院は新校舎だったためとても綺麗で、広がった。お昼をCVMの先生方と大学内で食べた後、集合写真を撮った。この時、ジョージア大学の刺繍入りの白衣とネームカードを頂きとても嬉しかった。この白衣は実習中、大切にに使わせてもらった。次にCVMの学生が大学内を案内してくれた。この時、女子学生が多いことに気付き、そのことについて質問してみたらCVMの学生のほとんどは女性らしく驚いた。その後、旧校舎の方へ移動し大学のマスコットキャラクターであるブルドックの銅像の前でも集合写真を撮った。ホテルに戻った後、少し時間があつたので大学内を散策した。夕食はCVMの学生のみなさんが迎えに来てくれてダウンタウンの“Amici”というお店でおススメしてくれたハニーマスタードのサンドウィッチとアメリカのビールを初めて飲んだ。

【8月18日(火)】 クリニカルローテーション1日目 今日から3日間は Small Animal Community Practice に行った。この日はミニチュア・プードルとウィペットの歯の治療や猫の去勢手術、慢性腎不全の犬の膀胱穿刺、さらに末期の乳腺腫瘍のマルチーズの安楽死などを見た。特に実際の医療現場での犬の安楽死は初めて見たのでとても貴重な場面だった。診療を見ていると問診から採血や留置、気管挿管、薬剤や麻酔投与など治療のほとんどを学生やVT、インターンの方々が行っていた。そして最終的にClinicianが確認を行うという流れだった。日本では先生が中心となって治療を行い、学生やVTの方々は基本的に医療行為を行わないのでこれは大きな違いだなと感じた。また他に日本と違った点としては脈拍をモニターなどの機器から確認するだけでなくスピーカーを通して脈拍音を耳で確認していた。またいくつかの薬品を投与する際には薬品を間違えないよう、シリンジ内にピンクや青の色素を入れて色付けすることで種類を区別していた。さらに薬品や包帯などの医療用品はVTやClinicianによってひとつの棚で管理されており、使用する際にはパスワードとユーザーIDの入力が必要だった。夕食はCVMの放射線専門医である永田先生のお誘いでステーキハウスの“Long Horn”に行った。このお店はアメリカ滞在中に行ったお店の中で一番美味しかったと思う。来年UGAに行く学生の皆さんは機会があったらぜひ行った方がよいと思う。先生のおススメでリブアイステーキを食べたがとても美味しかった。また、食事中にアメリカの獣医医療や大学内の診療システムなどのお話を聞くことが出

来たのでとても良かった。

【8月19日(水)】 クリニカルローテーション2日目 Small Animal Community Practice 2日目。今日は猫の去勢と雑種の犬とヨークシャー・テリアの歯の治療、ラブラドルレトリバーの子犬の健康診断を見させてもらった。猫の去勢は学生が執刀していた。この2日間診療を見させてもらった中で歯の治療が多い印象があったので聞いてみると、プラークや歯石の除去、虫歯の治療といった口腔内の健康管理のことをこの病院では総括して COHAT(=Comprehensive Oral Health Assessment and Treatment)と言い、多くの飼い主の方々が治療は勿論のこと、虫歯などの予防目的でも来院するそうだ。治療の際には全身麻酔を行い、2時間程度の時間がかかっていた。

昼食は少し時間があつたので UGA のビュッフェ形式の食堂に行った。大きな大学だけあって色々な種類の料理があり、お昼から豪華にローストビーフなどを食べてしまった。UGA にはもうひとつ別のビュッフェ形式の新しい食堂があるらしいので時間がある時にみんなで絶対に行きたい。

夜は CVM の学生のみならず一緒にビール醸造所に併設している“Terrapin”という酒場に行った。ここでは様々な種類のビールがあり、中にはアルコール度数が10%を超えるものもあった。10ドル程度で6杯も飲むことが出来るのでビール好きにはたまらないと思う。途中、ビールを注いでくれたお兄さんが1杯サービスしてくれたこともあって飲み過ぎてしまった。併設しているビール醸造所を見学出来るツアーもあったので凄く面白かった。

【8月20日(木)】 クリニカルローテーション3日目 Small Animal Community Practice 最終日。この日は手術室に入って雑種の犬の避妊手術を見学させてもらった。執刀と麻酔管理に3年生の学生、助手に Clinician がつき、随時指示を出しながらオペを行っていた。患畜の手術を学生が執刀することは日本ではまず無いことなのでここでも違いを感じた。しかしこうして実際に学生自身が手術を執刀することによって素晴らしい経験にもなり、自信にも繋がるのでとても良いことだなと思った。手術が終わって手術室を出ると過剰歯のラブラドルの抜歯を行っていた。この時に Dr.Roth が今まで抜いた歯を入れた瓶を見せてくれたが、物凄い数だったので驚いた。最終日ということもあり病院を出る時に日本のお菓子をプレゼントした。先生や VT、学生のみならず凄く喜んでくれたので嬉しかった。日本との違いやアメリカ独自の診療スタイルを見ることの出来たとても充実した3日間だった。

夕方にはみんなで近くの雑貨店で買い物をし、そのついでにアメリカで有名なファストフード店の“Chik-fil-A”で夕食を食べた。その後は永田先生に教えて頂いたダウンタウンのビルの屋上にあるお店(BLUE MOON という種類のビールはおススメで

す!)でビールを飲んだ。地元の人がたくさん来ていて、屋根が無いので空や町の景色が良く見えて隠れ家的な雰囲気のお洒落なお店だった。

【8月21日(金)】 この日は朝8時半にホテルを出発して、“Chick-fil-A”(2回目)で朝食を買ってアトランタに観光へ。アトランタに到着後、World of Coke へ。スタッフの方々の雰囲気がとても良く、コカコーラの歴史やレシピの秘密、4D シアター、世界各国のコカコーラ製品が試飲出来るコーナーなどがあり凄く楽しかった。特に4D シアターは席が揺れたり、水が飛んできたり迫力があつた。試飲では100種類以上の飲み物があり制覇しようと調子にのりすぎて飲み過ぎてしまった。

お昼は CNN センターへ。センター内はたくさんのお土産店や飲食店があり“CHINA BREEZE CNN CENTER”で中華料理を食べた。途中、桜美林大学の学生にも会った。ホテルに戻り、夕食は CVM の学生がメキシコ料理の“Taqueria La Parrilla”に連れて行ってくれた。ここでは定番の大きなブロック状のお肉の入ったタコスとビールを注文した。ビールは“Athena”という種類のビールだったが、とても飲みやすくおススメです!

【8月22日(土)】 午前中はみんなでスーパーに行った。ここではコーヒーやワイン、お菓子などお土産をたくさん買った。昼食はもはや自分の中では定番となった“Chick-fil-A”(3回目)で食べた。

夕方からは CVM の新入生歓迎パーティーと一緒に参加させてもらった。ウォータースライダーが庭にありみんなでレースをして競い合ったり、ビールサーバーがありお酒を飲みながら本格的な炭火焼のチキンを食べたり、踊ったり、人数も多くて凄く規模が大きかった。最初は周りの明るさとノリに驚いて少し委縮してしまつたが、みんなが盛り上げてくれて徐々に馴染めたので楽しむことが出来た。ちょっと疲れて休憩がてらに北里のみみんなでビリヤードをやつたのも楽しかった。日本では今までこのような学生同士の大規模なパーティーをやる機会が無く初めての経験だったので最高の思い出になった。

【8月23日(日)】 今朝はゆっくり起きてみんなと大学内にある“UGA BOOKSTORE”に買い物に行ったが生憎の雨で行きの道のりでビチャビチャに……。ここでは UGA のマスコットキャラクターの T シャツやタンブラー、メモ帳などたくさん買ってしまった。買い物が終わって外に出ると雨が止んでいて、帰り道の途中にある UGA の“BOLTON DINING COMMONS”というもうひとつのビュッフェ形式の食堂で昼食を食べた。前に行った同じような形式のお店とはまた雰囲気が違い、休日にも関わらず多くの学生が来ていた。料理の種類も少し異なり、前と同じく欲張ってたくさん食べてしまった。ハンバーガーは目の前で肉を焼

いて作ってくれるなど本格的だった。こんなお店が日本にもあったらなと羨ましく思った。値段も 10 ドル位なので来年行く学生の皆さんもぜひ行って下さい。

夕方からは Dr.Gogal の家に招待して頂いた。庭にはプールやバレーボールコートがあり、CVM の先生や生徒のみんなで遊んだり、のんびりお酒を飲みながら話したりしてとても楽しかった。夕食は Gogal 先生の奥さんの手作りの料理でスパゲティーやサラダなどどれも美味しかったが、その中でも手作りのパンが本当に美味しかった。家の外はもちろん中の雰囲気もとても落ち着く感じで、まさに映画に出てくるような素敵な家だった。

【8月24日(月)】 クリニカルローテーション 4 日目 今日からは Small Animal Internal Medicine に行った。最初の 3 日間で行っていた Small Animal Community Practice は場所が旧校舎だったので、初めての新校舎での見学にとってもワクワクしていた。新校舎は問診を取る部屋とその裏に治療を行う部屋があった。この日は午前中に大学で研究中の新薬で治療している腎臓疾患のジャック・ラッセル・テリアと肝臓・腎臓疾患の猫、甲状腺疾患の犬の再診があった。その中でも特に印象的だったのが、急患の犬で病院に到着してすぐに倒れて亡くなってしまった子がいた。自己免疫性の血液疾患の疑いでそのショックによるものだった。そばで泣いている飼い主の方を見るのが物凄く辛かった。飼い主の方が処置室から出た後、VTの方が粘土で亡くなった犬の手形をとっていた。これは『Clay Paws』と言い、アメリカでは動物(犬、猫だけでなく馬なども)が亡くなった時に手形をとって飼い主の方に渡すそうだ。これは素晴らしいことだなと思った。山口大学の先生に聞いたところ日本ではまだやられていないことらしいのでぜひこのことを伝えたい。

昼食は院内でばったりお会いした永田先生にタイ料理店の“SIRI THAI CUISINE”に連れていってもらった。午後からは永田先生の研究室にお邪魔して放射線治療に使用する『線形加速機』について教えて頂いた。この機器で治療を行う際はミリ単位の調整が必要であり、パソコンで細かくプランを組み立てて出来るだけ放射線を健康な部位には当てずに腫瘍部位にのみ集中的に当てる仕組みだった。先生のお話はとても分かりやすく面白かった。

夕食はみんなリブアイステーキの味が忘れられず 2 回目の“Long Horn”へ。今回は友達の勧めでレア気味で食べたが、これも前とは一味違ってとても美味しかった。やはりここは来年絶対に行くべきだと思う。

【8月25日(火)】 クリニカルローテーション 5 日目 Small Animal Internal Medicine 2 日目。この日は再診の他に新規の予約診療が中心で、飼い主の方に問診を取る部屋にも一緒に入れてもらいその様子を見学

させてもらった。ここでも学生が現在の状態などの問診を取っていた。その後、問診やカルテから検査項目の決定から診断まで行い、治療プランを考えて Clinician に提案するという形式だった。このように学生が主体となってその患者さんにとってベストな選択して治療を進めていくので考える力が凄く身に着くので素晴らしいなと感じた。英語も少しだけ慣れてきたので分からない点を質問すると先生も学生のみなさんもジェスチャーを交えて分かりやすく説明してくれた。昼食を食べた後、午後からは予約診療が無かったので Large Animal Surgery の方を見させてもらった。アメリカでは大動物の診療は馬が中心で、ペットとして飼われているのが一般的だそうだ。そのため、病院前に馬を運ぶために大きなトラックが停まっている光景をよく見た。私が大動物臨床研究室ということもあり、馬専用の入院部屋や柵場の数の多さや専用のレントゲン室がある事にとっても驚き、規模の大きさを感じた。

夜は CVM の学生が病院内の食堂でご飯会を開いて下さった。ホテルに戻ってからは北里大学のみんなで部屋に集まってアメリカのワインやビールを飲んだ。

【8月26日(水)】 クリニカルローテーション 6 日目 今日是一日だけ Small Animal General Surgery を見学した。朝、研究室に行くと、Dr.Schmiedt と学生がディスカッションをしていた。内容は門脈体循環シャントに関する事で一般的な治療法と血液検査所見などを質問形式で行っていた。その後現在入院中の患者に関する情報や今後の治療についての再確認をして診療が始まった。この日は手術もなく、診療も少なかったので入院患者を見させてもらった。その中にチワワと雑種の犬いた。チワワは PDA で進行度がひどく、特徴的な連続性雑音が聴取でき、聴診器を使わなくても心音が聴こえた。雑種の犬は骨肉腫でレントゲンを見ると右肩全体に渡って大きく肉腫が形成しており、手術はもう不可能な状態だった。そのため少しでも痛みを和らげる治療を行いながら自宅で過ごすことになったそうだった。

昼食はみんな大学から歩いて 10 分位の所にある中華バイキングの“HIBACHI”に行った。餃子などの中華料理はもちろん、焼うどん、チャーハン、さらにはお寿司まであり久しぶりにお米を食べることができた。アメリカに来てからずっと肉を中心に食べていたのでここで改めて和食の素晴らしさを感じ、日本人で本当に良かったなと思った。夕食は CVM の 2 年生と“Blind Pig Tavern”でハンバーガーを食べた。男性陣は日本のアニメの話で盛り上がり、特にポケモンはアメリカでもやはり大人気だった。この日で今まで大学までの送り迎えや色々なこととお世話してくれた Parker さんが最終日だったのでみんなで集合写真を撮った。良い思い出になった。

【8月27日(木)】 クリニカルローテーション最終日

最終日は Small Animal Internal Medicine に行った。この日も再診が中心で IBD のヨークシャー・テリアと膀胱結石のマルチーズの診察を見させてもらった。午後は時間があつたのでもう一度 Large Animal Surgery の中を見て周った。ここでも最後に日本のお菓子をプレゼントすると凄く喜んでくれた。この4日間でアメリカならではの小動物・大動物両方の最先端医療を見ることが出来たのでとても充実していたと思う。

夕方には Dr. Cornell の家に招待して頂いた。この時、前回 UGA に行かれた先輩のアドバイスで持って行こうと決めていた浴衣と甚平をみんなで着て行った。先生方も CVM の学生のみならず凄く素敵と褒めてくれた。永田先生と奥さんも来られていて、奥さんが北里大学の卒業生だったので十和田トークで盛り上がった。まさかアメリカで十和田の話をするとは思わなかったので不思議な感じだった。

ホテルに戻り荷造りを始めたが、お土産を買い過ぎてきちんと詰めきるまでに時間がかかった。みんなで過ごす最後の夜は3大学のみならず先生方で集まってお酒を飲んだ。会ってからまだ2週間程度しか経っていませんでしたが本当に仲良くなり、一緒に楽しい時間を過ごせた。日本に帰ってからもこの関係はずっと大切にしていきたいと思った。

【8月28日(金)】 ホテルをチェックアウトしアトランタの Georgia Aquarium へ。日本の水族館とはまた少し違い、TROPICAL DIVER や OCEAN VOYAGER、COLD WATER QUEST などのエリアに分かれていて珍しい種類の生き物がたくさんいた(個人的には白いアルビノのワニとピラニアには感激した)。ここはアメリカに来る前に事前に色々調べていて、アトランタで行きたかった場所のひとつだったのでとても嬉しかった。ただ、時間に間に合わずイルカショーを見ることが出来なかったのは凄く残念だった。

CNN センターで昼食を食べた後、鹿児島大学のみならずここでお別れに。凄く寂しかったが日本でまた再会しようと約束した。お見送りした後、そのまま空港近くのホテルに向かった。ここで少し手違いがあり、一緒にホテルに泊まるはずだった山口大学の人達とも別れることに……。そして何とか無事に私達の泊まるホテルに到着した。夕食を食べた後は先生の部屋に集まってアメリカでの最後の夜をお酒を飲みながら楽しんだ。

【8月29日(土)】 ホテルをチェックアウトし、バスに乗ってアトランタ空港へ。空港で荷物の重さを測るとまさかの重量オーバーで空港のフロアで荷物を移し替えるというハプニングがあつた。その後何とか無事に出国審査を終え、いよいよ搭乗となった。帰りの飛行機はあまり眠くならなかつたので映画を見たり、アメリカでの出来事を振り返っているうちにあつたという間に日本に着いてしまった。成田空港に降りた

瞬間、日本に帰って来たこと実感してどっと疲れが出てきた。こうして約2週間のジョージア大学夏季研修が終了した。

【まとめ】 今回のジョージア大学夏季研修を通してアメリカの獣医医療はもちろん、何より海外がどのような場所かを知ることが出来た。今まで日本だけしか知らず、外の世界を見たことの無かつた私にとって海外を直に経験出来たことはとても大きなものだと感じている。本当に行つて良かったです。また鹿児島大学や山口大学の新しい友人もでき、何より出発から一緒にいた北里大学の同期のみんながいたからこそ最後まで楽しむことが出来た。本当にありがとうございました。来年行こうか迷っている人がいればぜひ行つてみて下さい！必ず素晴らしい経験が出来ると思います。

★多★多★多★多★多★多★多★多★多★多

牧 誉大 Takahiro Maki

【8月15日(土)】 (アメリカへ) 16時55分に成田空港を出発しました。本来の出発より30分遅れでの出発でした。アメリカの到着は、8月15日の16時くらいを予定しています。機内では、時差ボケをしないように1時間半くらいの睡眠にして、ずっと映画を観ていました。隣の人もいい人で、12時間のフライトをとっても快適に過ごすことができました。

アトランタ空港に17時くらいに到着して、先に来ていた鹿児島大学と山口大学の人達と合流しました。そこから、ホテルの車が迎えに来て、2時間ほど移動して、19時くらいにホテルに到着しました。部屋は、一つのベッド(セミダブルくらい)しかなく、エキストラベッドをつけるとプラスでお金がかかるということでした。2週間このベッドで男二人で寝ることになりました。(笑)

この日の夜は、21時くらいと遅かつたため、ピザをホテルに宅配してもらいみんなで食べました。日本と違いボリュームがありとてもおいしかったです。

【8月16日(日)】 この日は、実習もなく、1日フリーの日でした。大学の近くに、歩いて40分くらいの所にあるダウントウンにむかいました。あまり高いビルがあるわけでもなく、大きい町ではありませんでしたが、なかなか雰囲気のある町でした。

夕方、車で近くの大きなスーパーに行きました。なんでも揃つており、何をかうか迷いました。

【8月17日(月)】 この日は、ジョージア大学の新しくできたキャンパスに顔合わせをしに行きました。とてもきれいなキャンパスで羨ましく思いました。小動物だけでなく、大動物の設備もしっかり整つていてとても驚きました。以前まで使つていた校舎には、基礎

研の研究室が残っています。

14時には、ホテルに戻り、歩いて20分くらいの所にあるジョージア大学のgoodsがおいてあるブックストアへ行きました。色々なものが売っており、何をかうか迷いました。この日は、マグカップを2つ購入しました。

夜は、ジョージア大学の獣医学部の学生とダウンタウンにご飯を食べに行きました。ピザやパスタ、サンドイッチなどがあり、どれもとても美味しかった。

ホテルに戻り、鹿児島大学の学生と散歩にでかけました。しかし、途中、雨にあい屋根つきのバス停で30分くらい雨宿りをしました。それでも、雨は止まず、結局ずぶ濡れになってホテルに帰ることになりました。これもある意味良い思い出になりました。

【8月18日(火)】 朝、8時30分くらいにホテルのロビーに集合し、車で大学まで送ってもらいました。この日から3日間は、内科の研究室でお世話になります。内科のスミス先生に挨拶をすませ、後は、学生とレジデントと先生による診察が始まりました。基本は、学生が患畜を持ち、診療していくものでした。時折、レジデントと先生の3人で議論をして、治療方針を決めていた。診察の中で、学生が、TPRとプラスで毎回患畜の直腸検査を行っていた。

内科では、月、水、金曜日はリチェック（以前みた患畜が戻ってくる）の日で、火、木曜日が新しい患畜を診察する日でした。

夜は、VMCで働いている永田先生のご家族と夕飯を食べました。ロングホーンというステーキのお店へ行きました。ステーキは、分厚く、とても大きく、ジューシーで価格もリーズナブルでした。

【8月19日(水)】 この日は、朝からミーティングがありました。糖尿病について学生と先生の間で議論が行われていました。日本と違い、学生の積極的な発言がみられ、とてもよい雰囲気で行われていました。

夜は、テラピンという酒造所でみんなでお酒を飲みました。日本では、中々飲まない味ばかりでした。ビール好きにはたまらない夜になりました。

【8月20日(木)】 この日は、朝、患畜がきておらず、暇だったので、リハビリの見学をしました。部屋の中に、大きな水槽のようなものがあり、その中で、患畜の犬が歩くトレーニングをしていました。設備が整っていて、患畜にとっては、とても良い環境だと思いました。

大学からホテルに戻ってから、TJマートに買い物に行きました。ここには、衣類もあり、とても大きいモールでした。

夜は、ダウンタウンにある屋上のバーでみんなでお酒を飲みました。景色がよく、お酒も美味しく、楽しい時間を過ごすことができました。

【8月21日(金)】 この日は、アトランタにあるコカ・コーラ記念館とCNNに観光に行きました。コカ・コーラ記念館にまず行きました。ここは、色々な国のコーラが試飲できたり、4Dシアターがあったりと展示物だけでなかったのも、とても楽しむことができました。最後に、お土産コーナーがあり、色々とお土産を買いました。

その後、徒歩でCNNまで向かいました。中華料理の店がCNNの建物の中にあっただけで、昼食をとることになりました。8ドルくらいで、結構な量を食えることができました。久しぶりに、アメリカ以外の物を食べられて、満足のいく昼食でした。

この日の夜は、学生たちとカラオケ大会が企画されていましたが、中止になり、急遽、メキシコ料理のお店に行くことになりました。無料のチップスが出てきて、それが、とても美味しかった。

【8月22日(土)】 午後、学生たちが、主催するパーティーに行きました。行ってみると、スライダーのプールがあり、学生たちが、お酒を飲みながら楽しんでいました。最初は、溶け込めるか不安でしたが、あちらの学生さんたちがとても親切にしてくれたので、とても盛り上がることができました。最後は、みんなで、ビリヤードをして帰りました。夜ごはんは、数人で散歩しながらごはんを食べに行きました。

【8月23日(日)】 今日は、ジョージア大学のお土産が売っているブックストアに買い物に行きました。ここでは、Tシャツ2枚を購入しました。お昼は、ビュッフェが食べられる大学の学食のような所に行きました。11ドルくらいでとても満足のいく食事ができました。

午後は、ジョージア大学の教授の家に招待されました。裏庭には、大きなプールとバレーができるコートがありました。中学以来久しぶりにプールに入り、とても楽しむことができました。バレーもみんなでわいわいできてとても有意義な時間を過ごせました。

【8月24日(月)】 今日から4日間外科の研究室でお世話になります。この日は、手術はなく、明日行われる手術の話合いが行われました。この日の夜は、また、ロングホーンのステーキを食べに行きました。

【8月25日(火)】 この日は、甲状腺のマス、乳び胸、棘細胞性エプリス、陰嚢切除、PSS、声帯切除の手術が行われました。手術室に入る前に、麻酔係が学生に挿管させていて、焦らせることもなくとても丁寧に指導していて、とてもよい環境で経験を積むことができました。手術室の中に入り、とても近い位置で先生方の手術をみることもできとても勉強になりました。ジョージア大学の学生も積極的に見学にきていて、自分も見習わなければと思いました。

夜は、大学の先生のホームパーティーが中止になり、VMCのラウンジで学生が食事を準備してくれていま

した。デザートケーキはとても甘かった。

【8月26日(水)】 この日は、骨肉腫のゴールデン・レトリバーとPDAのチワワの診察でした。ゴールデンのほうは、もう助からないとのことで自宅で療養することになりました。まだまだ自分は何もできないんだということを実感しました。

【8月27日(木)】 昨日のチワワの手術が行われました。授業で学んだ感じで行われていてとても勉強になりました。夜は、Dr. Cornellの自宅でパーティーでした。とても大きく美味しいごはんがあり、有意義な時間を過ごすことができました。

【8月28日(金)】 朝、8時にホテルをチェックアウトしました。アトランタに向かいジョージア水族館に行きました。館内は、とても広く、色々な種類が飼育されていました。印象的だったのは、日本ではみられないピラニアでした。案外普通の魚だったので驚きました。ホテルに移動し、鹿児島大学と山口大学の人達とは、お別れしました。短い間だったが、仲良くなることができ、とてもいい経験になりました。ホテルの周り、何もなくて、食べる店もファーストフード店くらいしかなかった。ホテルの近くのお店に行き、夜ごはんを食べました。この日もやはりハンバーガーでした。最後の夜なので、みんなで部屋でお酒を飲みました。

【8月29日(土)】 ホテルのチェックアウトをすませ、最後にみんなで写真を撮り、空港へ向かいました。たくさんのお土産をもらったが、荷物の重量はギリギリ大丈夫だった。無事に、アトランタを飛び立ち、14時間かけて、日本に戻りました。

【まとめ】 アメリカに到着してから、これからどうなるのか不安があったが、時間が経つにつれ、少しずつであるが、アメリカの雰囲気に慣れていき、あっという間に2週間が経ちました。もっともっと英語を学びたいと思い、獣医学をもっと勉強しないといけないなと感じました。この2週間の経験を生かしていきたいように、毎日を過ごしていきたいと思いました。

+ ☆ +*:*:*+ ☆ +*:*:*+ ☆ +*:*:*+ ☆ +*:*:*+ ☆ +*:*:*+ ☆ +*:*:*+ ☆ +*:*:*+ ☆

松尾 芽衣 Mei Matsuo

【8月15日(土)】 朝9時。その日私は後楽園にある小さなホテルを出発した。成田の北ウイングに13時30分に集合するためである。16時半にアトランタ行の飛行機(デルタ航空94便)が日本から飛び立つため、チェックインや保安検査場のことを考えるとこの時間となった。私自身、海外は幼いころに両親に連れられて行ったきりで、ひとり成田にさえ行ったことが

ないため緊張しっぱなしだった。そして成田まで意外に時間がかかることを知り、焦ってもいた。何度もパスポートがあるかを確認し首から下げた袋の中にしまこんだ。腕時計と、先生から送られてきた、集合場所の書かれたメッセージとにらめっこしながら、何とか北ウイングに到着した。羽田空港には帰省で何度も行っている私は、初めての成田空港の規模の大きさに驚愕した。そして人に聞きまくりながらどうにかみんなと合流できた。海外旅行に行き慣れている友人に教わりながら、まず、日本円をドルに両替した。ドルを持つのも初めてであったため少し嬉しかった。手荷物を預ける手続きをし、手荷物検査をうけた。液体はもちろん持ち込めないということで直前にがぶ飲みしたお茶でお腹はたぶたぶだった。ひっかかることはなかった。

そしていざ出発。機内は寒いと聞いていたので腰に巻いたトレーナーを羽織った。機内は確かに寒かった。席は左隣りは友人で、右隣りは外国人の男性だった。彼の被っていた帽子には師範、と大きく漢字で書かれていた。わたしは、機内で映画を見て楽しんだ。4本目の途中で寝てしまい、そこからはぐっすり眠れた。機内は辛いと聞いていたが、あっという間に到着し、大変快適だった。機内食もとてもおいしかった。

アトランタ空港に到着すると鹿児島と山口の方々が先に待っていてくれた。そこで簡単に自己紹介したが、人見知りなわたしはなかなかうまく話せなかった。後日全員と仲良くなるが、こんなに楽しい人たちなら、このときから仲良くしとけばよかったと後悔している。

この日の夕食はアシスタントの方がピザを注文してくださった。このとき初めてアメリカンフードの洗礼を受けた。でもお腹はすいていたし、とてもおいしかった。飛行機であんなにたくさん寝たのに布団に入るとすぐに眠れた。本当にこの日は初めてづくしだった。

【8月16日(日)】 この日ホテルの1階のレストランでアメリカン朝食を済ませ、朝からお腹のはちきれそうだった。1日フリーな日ということで北里組と植物園とダウントウンを回ることにした。植物園というよりはハイキングのような感じで山の中をのんびり歩いた。ダウントウンは思ったより小さく、1日あれば簡単に一周できる規模で、程よく賑わっていた。一度ホテルに戻り、明日以降の朝食を買うために大きなスーパーマーケットにいった、二日目にして日本食が恋しくなった私たちはカップラーメンやカップ焼きそばを買って帰った。さらに、ここ二日間、野菜を一口も食べていなかったためサラダやフルーツを買った。大きすぎるスーパーだったためなんとなく迷子になった。

夜は再びダウントウンに夕食をとりに行った。おしゃれなお店に入ったところピザ屋さんだった。そして軽い気持ちで2種類頼んだところとんでもなく大きなピ

ザが2枚来て、9人でやっつとで食べ終わった。この日は本当に胃もたれがすごかった。アメリカを肌で感じた。この日も他大学のみんなと交流できなくて寂しかった。

【8月17日(月)】 この日はジョージア大学動物病院(VMC)の方々に挨拶しにいった。行きのバスに乗ったところで鹿児島大学の子たちに話しかけられた。この日を境に私は彼ら、彼女らと仲良しになれた。臨床系の研究室の子がいたので、お互いの病院について教えあった。鹿児島は割と何でもやらしてもらえらしく、羨ましかった。

初めて見た他国の病院の規模に圧倒された。何よりも科が多い。内科と外科のほかに腫瘍科、神経科、エキゾチックなどがあり、患者がうまく分散していたため、学生もVTさんもとても余裕がある感じで和気あいあいとしていたように見えた。

昼食はコーディネーターの方が用意してくださった。このときはじめてアメリカのケーキに出会った。とても甘くて目が覚めた。その後ジョージア大学のマスコットキャラクターであるブルドッグの前でアレン先生とコーネル先生と記念撮影をした。

夜は再びダウンタウンに行って、学生アンバサダーの女の子たちと夕食をとった。みんなでいろんなものを頼んでつまもうという話だったが、気が付くとみんな黙々と自分のものを食べていて、わたしはずっとから揚げをつまんでいた。この日は他大学の人とは仲よくなれたが、外国人の人とはなかなか話せずにはいた。明日以降の課題にしようと思った。

【8月18日(火)】 今日から病院研修のローテーションが始まった。私は18~20日の三日間は内科、24~27日の四日間は整形外科に決まったがいろんな科をまわってもいいということで、割と自由だった。

内科1日目。担当教授であるスミス先生に挨拶を済ませ、診察を覗かせてもらった。ジョージア大学では、診察(オーナーさんとの対話)、診断、オーナーさんへの説明までほとんど全部を学生が行う。先生は、学生がどうしてもわからないときに助言するだけ、といった感じだった。そのため、学生はカルテにオーナーさんと話したことを事細かく記すことに追われていた。カルテはわずか2、3枚程度の用紙にその子の症状、いつから、診断、処方した薬などがびっしり書かれており、それを見ればすぐにすべてがわかるようになっていた。

また、ジョージア大学では血液検査、保定、採血をすべてVTさんがおこなっており、学生は患者のことだけ考えておけばいいといった感じだった。VTさんは学生と同じ人数くらいが各科に常在しており、作業はとても事務的であった。北里だと、研修医の先生方に毎回お願いしなければならないため、入院が多いときは大変混雑し、研修医の先生方も大変そうである。その点、ジョージア大学ではスムーズだと思った。この

日はリチェック、つまり再診の日であったためあまり重要な患者を見ることはできなかった。

夜はみんなでステーキを食べに行った。まさにアメリカン。アメリカのステーキは硬いときいていたが、そんなことはなく、350gのステーキは柔らかくて簡単に食べられた。

【8月19日(水)】 内科2日目。今日は診察の日だったが、いつもはとても忙しいというが、この日はなかなか患者が現れずにいた。スミス先生も、今日は珍しく患者が少ないからほかの科に行くことを笑ってすすめてくださった。ぶらぶらしてみることにした。広い病院内を探索していると永田先生に会った。永田先生は、放射線科の先生で、名前の通り日本人で、私たち研修留学生をサポートしてくださっている。暇そうなたしを見て、彼は放射線科を案内、説明してくださった。ジョージア大学ではCT、MRI、X線となんでも揃っていた。また放射線治療の機械もあり、一つ5億くらいだという。この機械は数ある獣医大学のなかでも、ジョージア大学にしかないという最先端機器である。放射線治療をする際は、まずCT撮影を行い、パソコンにて確認する。すると強く照射している部分は腫瘍を表す。しかし照射したくない部分もあるため、それを減らすようにパソコンで“おえかき”するのだという。そして必要最小限にしても、どうしても照射してしまう部分にはそれにあつた防御を行う。また、皮膚の腫瘍など、体表に放射線を当てる場合はゴムの板を一枚はさむ。板なしだと放射線が体内に入ってしまうため、あえておくのだという。ちなみにこの板のお値段は80ドルほどという。

夜はみんなでビール工場に行った。10ドルちょっとで6杯までいろんな種類のビールが飲み比べできるためいろんな種類を楽しんだ。その後ビール工場ツアーにも参加した。香ばしい香りのする大きな倉庫には、たくさんさんのビールがタンクに詰められており、それを見学した。しかし17時半~19時までしかやってないということで早々に帰ってしまった。もう少し長くいたかったため、来年以降は集合をもっと早くするべきだと思う。

【8月20日(木)】 内科3日目。この日、体表に合計5つのマスがあるラブラドルレトリバーのMRI撮影の様子を見学した。撮影の前、麻酔導入の様子を見学したところ、日本とは違いすぎて驚いた。まず、日本では最低5人ほどで行う作業(鎮静~導入)をたったふたりで行う。私の研究室では導入までに4つ、局所麻酔の硬膜外麻酔を行うときはさらに2つ、オペでの麻酔維持のときにはさらに2つ、合計8つの薬剤(鎮静、抗生剤含む)を使用するが、ここではわずか2種類しか使用していなかった。そして、プロポフォールをうっておとなしくなった犬を尻目に、挿管の説明をしていた。この間バギング、酸素化は一切なかった。そして、日本だと麻酔導入のときは一刻を争う感じで、ゆっく

りすることをゆるされないが、ここでは始終のんびり行っていた。このときの挿管者は学生で保定はVTさんだった。挿管したあとのバギングは自動で行われていた。私は、この麻酔導入のくだりが、この研修で一番驚いた。どうして違うのか考察すると、一つにアメリカの犬は95%が大型犬であるからなのかと思った。さらにだいぶ自動化が進んでいるため、であるとも考えられる。

夜はダウンタウンに出向き、ダウンタウンシアターの屋上のバーでお酒を飲んだ。十和田にいと夏はあつという間に終わってしまうため、アメリカに来てむしむしとした暑さを感じた。その中で飲むビールはまたおいしかった。

【8月21日(金)】 アトランタまで出かけ、コカコーラ工場を見学した。今回の研修の目玉の一つであり、とても楽しみだった。工場とはいってもテーマパーク形式になっており、最初にシアターをみた。それから世界中のコーラの飲み比べをした。ウガンダのコーラが一番おいしくなかった。一番おいしいのは普通のコーラだった。その後お土産屋さんでたくさんお買い物をした。

午後はアメリカの有名な放送局、CNN に行ったが、一階のフードコートでご飯を食べることくらいしかできなかったのが残念だった。それでも、あの有名な放送局に入ることができて楽しかった。

【8月22日(土)】 この日は大学の学生さんたちに御呼ばれして、プールパーティーに行った。プールといっても膨らませるタイプだったけども、お酒を飲めたり、チキンをほお張ったりして大変有意義だった。わたしは鹿児島大の女の子たちと小さなビニールプールに入って楽しんだ。また、手で回すタイプのサッカーゲームやビリヤードがあり、みんなで仲良く楽しんだ。

【8月23日(日)】 この日はゴーガル先生のお宅におよばれされた。先生のお宅は閑静な住宅地の中にある。住宅地といっても一軒一軒がとても大きくて圧倒された。中に入ると大きなプールとバレーコートがあり、私たちはプールで水鉄砲などで遊んだり、浮き輪で浮いたり、バレーしたりして遊んだ。わたしはこんなに夏休みらしい夏休みは久しぶりで、すごく楽しかった。その後、奥さんがとってもおいしいごはんを作ってくださいました。今まで外食オンリーだった私たちはひさしぶりの家庭料理がとてうれしかった。私はおいしすぎて直々に奥さんに感謝の念を述べた。

【8月24日(月)】 整形外科1日目。この日、わたしは専攻している整形を見学できるので、とても楽しみにしていた。整形は男の人がやるイメージだったが整形外科には男性は一人しかおらずあとはみんな女性で驚いた。担当教授のロザリー先生はとても明るい方

で、レントゲンと一緒に見るよう誘ってくださったりした。わたしが一人ぼっちでいると、ある女性が話しかけてくれて、一緒についてくるよう言った。彼女はエリカさんといい、本当に本当に優しくしてくれた。彼女は私と年もあまりかわらないのに、とても大人だった。生まれはキューバで、スパニッシュなため、わたしも最初は英語が話せなくて苦労したのよ、と話してくれた。

この日、オペは3件あり、そのうちのひとつは上腕骨顆間骨折だった。かつまだ成長版の存在する仔犬であることから、ソルターハリスの分類が適用できる。今回の骨の折れ方により、ロザリー先生はIV型であると診断した。修復方法としてKワイヤーとポジショニングスクリューを併用することになった。よくわからなかったのが本で調べたところ、4か月よりも小さい仔犬にはコンプレッションスクリューのかわりにKワイヤーを入れ込むらしい。ゆえにソルターハリスIII、IVの修復として、コンプレッションスクリュー(仔犬はKワイヤー)+髓内ピンもしくは支持プレートとのコンビネーションがよいらしい。

もう一つは猫の大腿骨骨折+FHOだった。オペを見学させてもらったところ、使用する機器は日本とほぼ同じだった。大腿骨頭を落としたかどうかはよくみえなかったためわからないが、プレートとスクリューで固定していた。この大学では、学生は助手を務める。少し羨ましかった。しかし助手の縫合は下手すぎた。ちなみに日本のように滅菌に対してシビアな感じは全くなかった。

この日の夜もステーキを食べた。マッシュポテトを付け合せにしてしまい、お腹いっぱいだった。

【8月25日(火)】 この日は私の体調が悪く、お休みしてしまった。

【8月26日(水)】 昨日休んだことをエリカさんに心配された。本当に優しい方だった。この日はエリカさんの担当患畜である、チワワのバドのお世話を行った。バドはレッグペルセスで、FHOを行ったという。術後約1週間たつがなかなか足がつかないという。エリカさんはなんと1日に4回のお散歩に行っているという。そこで散歩に同行したところ、彼女の見ていないところでバドが足をつけて歩いたので、教えるととても喜んで、ほめてくれた。嬉しかったのはそれだけでなく、そのことをロザリー先生に話したためロザリー先生にまで褒められた。その後関節鏡が行われたが、エリカさんも何をしているかわからないと笑っていた。その後お昼に誘われ、お昼を食べながら日本との違いを話し合った。日本はバギングが手動だということありえない、と笑っていた。その後、バドの肢をリハビリした。アメリカでは、動かしたりストレッチする前に温めるらしく、湯たんぽで軽くあっためてから行った。

【8月27日(木)】 なんとこの日、エリカさんが風邪

をひいてお休みだった。しかもこの日は診察日だというのに全く患者が来ず、またふらふらしていたところ、永田先生にあった。そしてお昼はカレー屋さん連れて行ってもらった。しかしそのカレーは辛いものが苦手な私にとっては苦痛なほど辛かった。その後先生は私と何人かを連れてスタバに連れて行ってくれた。夜は、今日で鹿児島大、山口大のグループとお別れということで、みんなでホテルで飲んだ。

【8月28日(金)】 アトランタに向かい、わたしの楽しみであったジョージア水族館にいった。シロイルカやジンベイザメ、ラッコなどがいてまだまだゆっくり見ていたかったけど、時間が2時間しかなかったので残念だった。

その後すぐに鹿児島大、山口大のグループとお別れした。あまりにも早すぎる別れに戸惑ったが、連絡先を交換したため、わたしが実家のある鹿児島に帰省するときはまた会おうと言ってくれた。

鹿児島大、山口大の人を綺麗なホテルまで見送った後、私たちもホテルへと向かった。しかし他の2校とは反対側へとバスは私たちを運んだ。だんだんと店は消えていき、人もまばらになった。町の壁に落書きが目立つようになり、捨てられて放置された車には弾丸のあのような穴が見えていた。身の危険を感じ始めたその時、バスはその周辺で一番高い建物に到着した。お部屋は広くて綺麗だったが、一步外に出ると酔っ払いに絡まれたりした。わたしはこんなアメリカもあるんだ、いや、これがアメリカか。と妙に納得した。その夜はみんなで佐々木先生の部屋に集まり、パトカーのサイレンをBGMにお酒を飲んだ。

【8月29日(土)】 いよいよ帰国する日。私は今回の研修を振りかえって、もう少し流暢に英語が喋れればもっと楽しかったらと思う。それでも、私の一生の思い出になったことには変わりなく、今研修に行こうか迷っている人がいたら絶対行くべきだとすすめるだろう。たくさんの思い出を両手に抱え、出会ったたくさんの人の顔を思い浮かべながら、12時間のフライトを終えた。また明日から忙しい日々になるけど、お土産を心待ちにしている友人の喜ぶ顔を思い浮かべながら、パンパンのスーツケースとともに十和田へと帰った。

--*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*
-*

池田 加奈 Kana Ikeda

【8月15日(土)】 成田からの直行便で13時間。ようやくアトランタ空港へ到着。その間、機内食2回、軽食1回を食べた。アトランタ空港で、今回一緒に研修を受ける鹿児島大学、山口大学のグループと合流。その後、空港から車で約1時間半のところにある、ジ

ョージア大学内のジョージアセンターホテルへ移動した。ホテルに着きチェックインを済ます頃には、すでに夜になっていた。ホテルの中庭で、これから2週間お世話をしてくださるUGAのコーディネーターのWardさんが用意してくださったピザを頂いた。中庭の大きな木の上を、リスが動き回るのを見ながらピザを食べていると、アメリカに来たという実感が湧いてきた。

【8月16日(日)】 時差ボケのため、早朝に目覚めた。そのため、ホテルの周辺を1時間程散歩した。キャンパスは非常に広大で、丘などの起伏に飛んだ地形をしていることがわかった。散歩から帰ってきて、皆でホテルの下のレストランで朝食をとった。久しぶりに南部の朝食、グリッツを食べ、テンションが上がった。今日は、一日フリーの日で、フロントの人がお薦めのボタニカルガーデンに行くことになった。ボタニカルガーデンは、静寂な森の中にあり、小川が流れ木々が溢れる散策コースを歩いた。午後から、アセンズのダウンタウンに行くことになった。ジョージア大学に隣接するダウンタウンは、半日もあれば2、3周できる程小さい。しかし飲食店や雑貨屋などは、日本とは趣が異なるため、眺めるのは楽しかった。又、ダウンタウンの目印となるお店(スタバやBEN & JERRYS)を記憶した。

【8月17日(月)】 初めて動物病院へ行った。研修を始めるにあたって、UGAの先生方と顔合わせし、軽食を頂いた。獣医学部のマネジメントに携わっている先生方が、全員女性であることに少々驚いた。昼食後、病院や教室等を案内してくれた。半年前に完成した獣医学部棟と動物病院はとても大きく、診察室だけでも20弱あった。又、リハビリテーションを行う施設や、アメリカの獣医学部に3台しか無いという放射線治療の機械があった。獣医学部の教室は北里大学の棟と似ているものが多かったが、教壇が教室の真ん中にあり、その周りに学生の席があるという変わった教室もあった。夕方、近くのスーパーマーケットに行き、朝食となるインスタント食品や、足りない日用品を買い込んだ。

【8月18日(火)】 今日から、Clinical Rotationが始まった。これから3日間、Small Animal General Surgery(小動物軟部外科)を見学する。朝9:00に病院へ行くと、'ブルドックスペシャル'の手術が行われている最中だった。こちらでは、ブルドックの軟口蓋過長の手術を、ブルドックスペシャルと呼んでいるようだ。レーザーで過長している軟口蓋を切り取り、更に呼吸しやすいよう鼻腔の一部も切り取る手術が行われた。この手術は、Dr. Schmiedtの指導のもと、1人の学生が執刀を担当していた。1つの手術を複数の学生で分担するのではなく、まるまる1人が担当するというシステムが羨ましかった。

次に乳び胸の手術を見学した。リンパ節にニューメチレンブルーを注射し、胸管を可視化して、多数のヘモクリップで結紮していた。その後、心膜切開が行われた。

最後に、ジャーマンシェパードの耳の奥にできた腫瘍の摘出を見学した。この手術は、Schmiedt 先生の指導のもと、若い先生が執刀していた。テクニシャンの方が、台を持ってきてくれたため、最も見えやすい位置で見学できた。途中、動脈から血が吹き出ることもあったが、Schmiedt 先生は落ち着いて処置をするよう指示を与えながら、執刀者が自分で対処するのを見守っていらっしやう。腫瘍摘出後、聴覚を失った片耳は、ちゃんと耳が立つように縫合により閉鎖された。

3つの手術を見学し終わると、既に終了時刻である16:00時になっていた。

一旦ホテルに戻った後、夕食を取るため皆でダウントウンに出かけた。美味しいと評判のピザ屋さんに入り、順番待ちをしていると地元の人が、White というピザがイチオシであると教えてくれた。お薦めの White と、マルゲリータの一番大きいサイズを頼んだところ、厚さが4~5センチもある、四角くとっても大きなピザが出てきた。ピザと一緒にビールを飲みたい気分であったが、パスポートを忘れてしまい飲むことができなかった。以後、出かけるときには、パスポートを必ず携帯しようと強く思った。

【8月19日(水)】今日は手術の予定が少ないため、Dr Schmiedt による針と縫合糸のレクチャーが行われていた。各々の利点や欠点、どういった部位に使うべきかを学生に質問し、返答に対して先生が解説するという双方向の授業形式であり、記憶に残りやすいだろうなと思った。また、各縫合糸の価格の説明もあり、費用を抑えて手術するにはどの縫合糸を使うべきかという実践的なことも話し合われていた。レクチャーは約1時間で終わり、午後の手術まで自習時間となった。そのため、UGA で放射線治療を行っている永田先生の研究室を伺うことにした。永田先生は、放射線治療で使用する機械や治療の流れ、プランニングや原理等、丁寧に教えて下さり、大変興味深かった。お昼には、近くのビュッフェ形式の中華料理屋さん連れで行ってくださった。久しぶりにわさびの効いた握り寿司を食べ、とても美味しかった。その後、再び General Surgery に戻り、雄ネコの会陰尿道造瘻術を見学した。夜、アセンズ郊外にある地ビール工場に、UGA の学生アンバサダーが連れて行ってくれた。持ち帰り用のグラス付きで6杯試飲できる券を購入した。こちらのビールは独特の苦味があり少々飲みにくかったが、生バンドによる演奏も聞け、併設する地ビール工場の見学もでき、とても楽しい一時を過ごした。その後、ホテルの近くにあるキューバ料理屋さんに行き、スパイシーなサンドイッチを食べ、長かった一日が終わった。

【8月20日(木)】今日は手術日であったため、多くの手術を見学することができた。まずは、ジャーマンシェパードの、前肢の腫瘍のバイオプシーを見学した。その後1件目の手術として、動脈管開存症の手術が行われた。台を容易してくれたが、術野が狭く少々見えにくかった。2件目は、16歳の小型犬の気管狭窄を解消するため、X線透視下でのステント留置術が行われた。見学したい人が大勢集まり、X線診療室に入れないう程であったため、これを間近で見学することができたことは、とてもラッキーだった。3件目は、骨肉腫を患う4歳のラブラドルレトリバーの前脚断脚手術であった。神経を切った時に、大きく脚がバウンドすることが印象的だった。最後まで見学したかったが、手術の途中で終了時間の16時となってしまった。

この日は、Dr. Hondalus とのディナーが予定されていたが、急遽延期となったため、永田先生オススメのバーに皆で出かけた。ダウントウンの中心部にあるシアターの屋上にあり、平日にも関わらず大勢の人で賑わっていた。夏の生暖かい風を感じながら飲むビールは、とても心地よかった。

【8月21日(金)】今日は、研修 Off の日。皆でアトラタのコカ・コーラミュージアムに行った。大のコカ・コーラ好きのため、この日をとても楽しみにしていた。まずは、コカ・コーラのイメージにあった短い映画を見た。短い映画であったが、人生で最も楽しい時に飲んでもらいたいというコカ・コーラ社のメッセージが込められた感動的な映画だった。これでまた一層、コカ・コーラが好きになった。その後、コーラ誕生からの現在にいたるまでの歴史についての展示等を見て回った。途中、約60種類ほどの世界のコーラを試飲できるコーナーがあった。私は炭酸が強いのが好きなので、アフリカのウガンダのコーラが最も美味しいと感じた。お昼は、近くにある CNN 本社のフードコートで各々好きな物を買って食べた。夕方一旦ホテル戻り、夕食時に UGA の学生がメキシコ料理のお店に連れて行ってくれた。

【8月22日(土)】今日も、研修 Off の日。昨日の夕食会で UGA の学生から聞いた、地元で一番美味しいお店といわれている 'Mama's Boy' というお店に、朝食を食べに出かけた。到着すると、既に大勢の人で賑わっていた。典型的な南部料理のお店で、評判通りヘルシーで、美味しかった。1時間後に、ホテルのシャトルバスに迎えに来てもらい、そのままアセンズのウェルカムセンターに行った。ウェルカムセンター自体が、1820年代の歴史的な建造物であり、屋内を自由に見学できた。訪問者が私しかいなかったため、管理人の方が、この家の由来や調度品、壁の説明、1800年代のアセンズの様子など、丁寧に説明してくださった。その方の勧めで、近くにある別の歴史的建造物、リンドンハウスを見学することにした。リンドンハウスは、1800年代の富豪の豪邸で、こちらも屋内を自由に見

学することができた。アンティークな家具やウエディングドレス、天蓋付きのゆりかごなど、とてもゴージャスで素晴らしかったが、見学者が私しかおらず、少々不気味であった。しかし、南北戦争時に使われていた手術道具や聴診器、薬なども展示しており、大変興味深かった。リンドンハウスの後ろには現代美術館も併設されており、絵画などを楽しんだ。

お昼過ぎには、一旦ホテルに戻った。その後、獣医学部生のためのプールパーティーに、皆で出かけた。ビールは飲み放題で、庭で焼いた豪快な BBQ チキンや、スイカのカクテル漬け等がふるまわれた。また生バンドによる音楽も流れ、最高に楽しい一時だった。UGA の獣医学部生だけでなく、他の州の大学生や社会人等も大勢来ているようだった。夜になって人がますます増え、パーティも活気づいた。気がつけば、ルールが良くわからないゲームに、私も参加していた。夜もすっかりふけてきたため、まだパーティーに残っていた山口大学の猪狩さんを見つけ、一緒にホテルまで戻った。今日も、盛りだくさんの1日だった。

【8月23日(日)】 今日、研修 Off の日。朝食をとり、2階建ての大きな学食へ出かけた。学食はメニューが豊富で、新鮮な野菜やフルーツも食べることができた。学食で食べていると、大雨が降ってきた。雨が止むまで、ゆっくりしようと思ひ、アセンズのガイドブックを読んでいた。なかなか雨が降り止まず、お昼になったので、ランチメニューも食べてみることにした。ランチを食べ終わると雨が止んでいた。ダウンタウンの Welcome センターで開かれているサンデーマーケットに出かけた。サンデーマーケットは規模が小さかったが、おばあさんが作ったかぼちゃのクラフトがひととき目立っていた。「こんなユニークな作品見たの初めて」と言うとおばあさんは、嬉しそうに製造工程等を話してくれた。夕方には、Dr. Gogal のご自宅を訪問する予定になっていたため、一旦ホテルにもどり昼寝をした。

夕方、皆で Dr. Gogal のご自宅に伺った。庭にプールやバレーボールをする所があり、家の中には大きな暖炉のある素敵なお宅だった。Dr. Gogal 夫妻と、コリーが3頭が出迎えてくれた。私達を含めて、40名程招待されたい。プールサイドで Angry Orchard を飲んでみると、奥様が隣に座られたのでお話した。夫妻も昔、ミシシッピ州の Biloxi の近くに住んでいたことがあり、私も20年程前 Hattiesburg にいた事があるため、話が盛り上がった。また、Exotic の Dr. Jorg Mayer もいらして、少し話した。先生は、来年の3月に日本で講演をするとのことだった。もし行ける機会があれば、是非行ってみようと思った。夕方になり、デザート付きの夕食をごちそうになった。特にラザニアは、お祖母様のレシピどりの味に作るそうで、とても美味しかった。また、永田先生ご夫妻と娘さんもいらして、夕食を食べながら話した。本当に楽しい1日だった。

【8月24日(月)】 今日から4日間、Small Animal Internal Medicine (小動物内科)にお世話になる。小動物内科では、原則として火曜日と木曜日に診察の予定を入れるため、今日は診察の少ない日だった。1件目は、肝臓と甲状腺に問題があり、皮膚病も患っている犬が定期検診にやってきました。今日もホルモンの検査が予定されていた。その後 VT さんから、本日の予定や掲示されているスケジュール表の見方を教えていたところ、内線放送で10:30に診察予定の子が受付前で亡くなったかもしれないと流れた。お話していた VT さんと担当の学生が慌ただしく走って部屋を出て行った。そのため、2人の後を追って走った。受付に行くと、既に床に崩れ落ちて力の入っていない大型犬と、泣いている飼い主さん夫婦が目に入った。犬は、既に舌が垂れており、ひと目でもう蘇生は無理だろうなどわかるくらいだった。大柄な担当の学生と VT さんの2人が犬を抱きかかえて、エマージェンシールームへと急いだ。私達の後を飼い主さんらが、泣きながらついてきた。エマージェンシーの先生がすぐにいらしたが、心肺停止状態で人工呼吸などの蘇生措置も行われず、死亡が告げられた。私も、とても悲しい気持ちになった。その後、飼い主さんらは別室に通され、犬のご遺体は粘土のようなもので、肉球の型を取られていた。後で聞いてみたところ、アメリカでは動物が亡くなった時に、その子の記念として肉球の型をとっておくことがわりとポピュラーだということを知った。日本ではそのようなものが無いといったところ、未使用のキットをくれた。また亡くなった犬は、先週の金曜日に目の疾患で一度来院されたこと、その時は元気だったこと、免疫介在性溶血性貧血の疑いがあるとのことだった。

午後は診察がほとんど無かったため、Exotics を見学に行った。カメが再診できており、以前に手術した腹甲の経過観察と、術創をボンドのようなものでしっかり止め直す処置が行われた。また、大学に保護されている赤ちゃんリスへのミルクやりを手伝わせてもらった。

夜には、数人でダウンタウンのライブハウスへ、カントリーミュージックを聞きに行った。ジョージアで、Georgia on my mind が聞けて嬉しかった。

【8月25日(火)】 今日の1件目として、クッシング症候群のトリロスタン療法から、アジソン症になってしまった9歳の犬が再診でやってきました。フルドロコルチゾンを1日2錠飲ませているが、定期的に Na, K 等をチェックするとのこと。こちらの小動物内科では、担当学生が飼い主さんから直接問診をとり、それをもとに診断プランを立て、指導教員と話合って最終的な診断プランを作り上げる。それを飼い主さんに提示し、許可が得たら治療するという形式をとっている。そのため、Dr. Jo Smith に、問診をとるところから見学させていただくことのできる了承を得た。2件目から、Brian という学生につき、問診から見学させてもらっ

た。初診ということで、20分程かけて丁寧に問診をしていた。その後一旦犬を預かり、主訴や病歴等の特記事項を箇条書きにしていた。そして、一次診療から引き継いだ X 線写真や血液生化学検査の結果等も合わせて、次に行くべき診断プランを考えだした。指導教員からは、提示した検査がどういう根拠に基づくものなのか、細かく質問されていた。最終的には、彼の提示した診断プランに沿った検査を行うことに決まった。3件目は、11歳の人気者のマルチーズが再診でやってきた。主訴は、食欲は正常だが体重が減少していること、最近階段を登れなくなったというものだった。もともと僧帽弁と三尖弁の両方に問題があり、心臓からはスクイズ音がしていた。この子は、ひとまず CBC を行うことに決まった。

この日の夕食は、2回目となる Long Hone ステーキハウスに行った。前回、フィレの 8oz を頼んだのだが、今回は Rib eye ステーキ 11oz を注文した。Rib eyeの方が断然美味しかった。

【8月26日(水)】 今日、Small Animal Internal Medicine は診察の予定が少ない日であったため、Small Animal Community Practice (一次診療) に行った。まずは、ネコの抜歯を見学した。丁度、初めて抜歯を行う学生が担当していたため、抜歯の手順やどういう場合に抜歯する必要があるかなどの、指導教員のレクチャーも聞けて勉強になった。2件目は、以前の避妊手術で取り忘れられた、片方の卵巣を摘出するという手術であった。この手術も、初めて担当する学生に、1対1で先生がレクチャーされていたので、大変勉強になった。3件目は、ペキニーズの下眼瞼にできた腫瘍の摘出を見学した。初めて担当する学生が、細かい糸に苦戦していた。その後、Small Animal General Surgery で、外反股の手術を見学した。四角く骨をブロック状に切り抜き、トリミングして再び差し込むというものだが、途中で切り抜いた骨が飛んでいき、喪失してしまうというハプニングがあった。皆で探したところ、床に落ちていた。執刀していた学生は、とても悔しそうにしていた。

この日の夕食は、UGA の学生アンバサダーが、Blind Pig というハンバーガーや揚げ物を出すお店に連れて行ってくれた。学生アンバサダーの中には、今週末に皮膚科の試験があるにも関わらずならず、私達のために貴重な時間をさいてくれた人もいて、とても有り難かった。私は、Angry Orchard と、辛口のチキンを注文した。

【8月27日(木)】 今日、Small Animal Internal Medicine に行った。診察前に、リハビリテーションのナースがきて、ネコの運動能力と人への服従性について、プレゼンをしていた。少女が、ネコに障害物競技をさせている、今までにみたことのない映像を見せてくれた。その後の診察では、Andrew という学生に一日付いて行くことにした。Andrew はいつも微笑ん

でいて、物腰の柔らかい好青年だ。こういう獣医さんに見てもらえたら、飼い主さんも安心できるだろうなと思った。Andrew も、20分程かけて丁寧に問診をしていた。1件目は、11歳のヨーキーが再診にやってきた。2年前に IBD で来院し、腎臓結石や小腸イレウスも患ったとのこと。現在、ビタミン D とプレドニゾロンを服用していて、プロテイン不足を解消するための食事療法もしているため、定期的に検査に来ているそうだ。食欲、排便も良好とのことだった。このまま、様子見でいこうということになった。2件目は、最近頻繁に嘔吐するようになったということで、9歳のネコが来院した。このネコは、3年前に高カルシウム血症で ER に来院した病歴を持つ。飼い主さんは、このネコにドックフードを与えていて、2012年から何も検査していないとのことだった。指導教員が、ネコの右目が左目より若干大きいことに気づき、血液検査に加えて目の検査もすることになった。その後、小動物外科に行き、終了時間まで動脈管開存の手術を見学した。

今晚は、Dr.Cornell のご自宅で、フェアエル・パーティーが開催された。大きな牧場があり、ログハウス風のご自宅は、木の良い香りがした。手作りの美味しいディナーをご馳走になった。UGA で病理学を教えていらっしゃる日系人の女性の先生ともお話しする機会があった。この夏、初めて小学生の息子さんをつれて日本を旅行した話を、楽しそうに語られた。パーティから帰宅する時、もう明日で夢の様な研修生活も終わりなんだとちょっと寂しい気持ちになった。

【8月28日(金)】 今日、UGA ホテルをチェック・アウトした後、アトランタ水族館へ行った。天井まである大きな水槽に、ジンベイザメを初め種類多様な魚が沢山泳いでおり、海が再現されていた。アマゾンのエリアでは、真っ白なワニがじっと佇んでいた。お昼は、再び CNN センターのフードコートで中華料理を食べた。その後、鹿児島大のグループとアトランタで別れ、山口大のグループとも空港近くのホテルで別れて、今晚宿泊するホテルに向かった。ホテルに着いて周囲を散策したところ、工場地帯に位置していることがわかった。暗くなったら出歩かない方が良い感じであったため、ホテルの目の前にあるファミレスで夕食をとった。量も多く、メニューの組み合わせがとてもユニークで、楽しい一時を過ごした。アメリカ最後の夜なので、皆でビールを飲んだ。

【8月29-30日】 いよいよ、日本に向けて帰る時が来た。機内食をいっぱい食べ、好きな映画を見て、寝ているうちに日本に着いた。たった 2 週間だったが、とても充実した 2 週間であった。アメリカの学生と比べて、これまでテストのためだけに勉強してきたことを深く反省した。卒業までの 1 年半で、実践でも使えるようなことを、自分で勉強していきたいと強く感じた。最後に、このような素晴らしい学びの機会を与え

てくださった UGA の先生や学生の方々、並びに佐々木先生を初め北里大学の先生方に、心からお礼申し上げます。

☆※★☆☆※★☆☆※★☆☆※★☆☆※★☆☆※★☆☆※
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
佐々木 宣哉 Nobuya Sasaki

はじめに、永田先生夫妻をはじめ UGA のスタッフおよび学生の皆様、同行教員の山口大の谷健二先生、鹿児島大の安藤匡子先生らの素晴らしいサポートのおかげで、この研修が無事に終了することができました。厚く御礼申し上げます。詳しい臨床ローテーションやアトランタ観光については学生達が詳しく述べているので、彼らに譲るとして、事前の情報が乏しかったジョージア大学に、少しだけ述べてみたい。

ジョージア大 (通称 UGA)があるアセンズ市は州都アトランタから車で約 1 時間 30 分の距離である。ジョージア大は 1785 年創立の南部屈指の名門州立大学である。東京ドームの 50 倍という広大な敷地中は、木々、緑があふれていた。約 3 万人以上の学生が 14 の学部・大学院で学んでおり、ビジネス、教育学、ジャーナリズム、法律の分野が強いようである。キャンパスには伝統的な一軒家型からマンションタイプまで多数の寮があり、1 年生は入寮が義務付けられている。入国初日は各寮で新入生歓迎会が催されていた。

【交通手段】

日本のように公共交通機関は期待できない。

(1) 研修中は UGA ホテルと動物病院間を、事務のコーディネーターの方が 12 人乗りのバンで送迎してくれる(AM8:30 と PM4:30)。12 人乗りであるが、バンが 1 台しかないときは 14 人搭乗した。UGA 学生との懇親会やパーティーは、獣医学部生から選出された Student ambassador がバンで会場まで送迎してくれる。

(2) 大学敷地が広大なため、新旧数百を超える建物を学内無料バスが結んでいる。12 路線あり、バスに GPS がついているので、web 上で、バスルートとバスの位置をリアルタイムで把握する事ができる(<http://www.transit.uga.edu/node/12>)。UGA メインキャンパスと新動物病院が離れているため (4km ほど)、1 路線は新動物病院用である。土日はほとんどが運休である。

(3) UGA ホテルの 12 人乗りバンが PM10:00 まで利用できる。2 マイル以内であれば、フロントの Concierge に行き先を伝え、Concierge が送ってくれる。アセンズに食事に行く時や、日用品をスーパーに買いに行く時に便利である。帰りの pick up は、出先より電話で呼ぶか、事前に予約するかのどちらかである。

【宿泊】

UGA の中心に位置する UGA ホテルの宿泊する。1 泊 100 ドルほど。学生は 13 泊で 700 ドル位になる。学

生は 2 人 1 組でルームシェアし、1 つの King サイズ(幅 1940mm)のベッドに、同じ掛布団で寝ることになるので、初日は不満が出た。Extra のベッド(有料)を頼んだ学生もいた。アセンズの町中のホテルの方がアメニティーがよく安価であるが、上述した UGA ホテルの無料バンを使える事や治安を考えると UGA ホテルが良いとの結論である。ホテル内に 2 つのレストラン、飲料の自販機、ランドリー、バーがある。アメニティーの詳細は HP を参照。UGA ホテル内は無料の WiFi が使えるが、接続が悪く、成田空港の Globaldata でレンタルした WiFi が非常に役に立った。大学内や動物病院内も WiFi が完備されている。

【食事】

UGA ホテル内に、2 つのレストランがあるがあまりお勧めしない。夕食はアセンズの町中に様々なレストランがある。昼食は動物病院の中の cafe、新動物病院の近くのモールに 2 つの Super market (Publix と Kroger)と 10 軒ほどの fast food、Buffet (Takibi など)、レストランがある。メインキャンパスに大きな学食 (dining commons)が 3 つあり、非常にメニューが充実している。Buffet 形式であり、バーガーやブリトーはその場で焼いてくれ、中身も豊富な食材からチョイスできる。ビジターは 11 ドルであった。学生は年パスを購入しており、7 日間 3 食プラン、管理栄養士のアドバイス付きで 4000 ドルとのこと。

【スポーツ】

アメフト、テニス、ゴルフ、水泳、陸上競技、バスケ、体操、野球の強豪校で、アメフト場、野球場、バスケットスタジアム、ジム (学生は無料)など目を見張るものがあつた。アメフトは 9 月から 11 月まで毎週、各大学を招待したホームゲームがあり、チケットは 50-100 ドル前後と決して安くはないが 9 万人のスタジアムが満席になり、お祭り騒ぎになるようである。また、Book center というショップがあり、書籍よりも UGA のコーポレートカラーである赤地に G のマークが入った T シャツやグッズが大量に売られており、新入生と思われる学生が列を作って購入していた。スポーツの応援の際や普段着、日用品としてとして相当な収益があるのであろう。

【ブルドック】

UGA (ウガ)という愛称でよばれる。伝統的なシンボル。現在 9 代名で、重要な試合のセレモニーに赤い T シャツを着た本物が登場する。7 代目までは鬼籍に入り、スタジアムの外にモニュメントがある。ウガがプリントされた T シャツやグッズが売られており、スポーツ観戦時に着るようだ。アセンズの町にもウガの銅像やお店や車にはウガのステッカーが貼られており、町中で愛されているようだ。各種スポーツのチーム名は、Bulldogs であり、毎年、ビジネスで成功した卒業生 100 人が Bulldog 100 として表彰されるようだ。

【芸術】

芸術・音楽・演劇学部があり、美術館には、1300年代の宗教画、有名なアンディ・ウォーホルのCampbellスープの絵や、ピカソの絵が展示されていた。

【Tate Student Center】

いわゆる student commons であるが、meeting ルームや上述の Book center、映画館、レストラン、カフェ、ATM、学生ローン、各種チケットの販売、寮やアパートの斡旋、学内の病院の申し込みなどができ、機能的にも充実していた。

【病院】

加入した海外保険の提携病院はアセンズになかった。UGA ホテルの間近にあり複数の診療科がある大学のUGA Health Center はビジターは利用できない。学生用にたいていの薬は持って行ったが、いざと言う時には、コーディネーターか Concierge に救いを求めると良いが、北里側も緊急時の SOP を作成しておくべきであろう。また、室外は 30℃以上、室内は 20℃前半なので、上着持参は必須であった。

【獣医学部】

来年で創立 70 周年を迎える。2015 年度の入学者は 114 名(倍率 8.56 倍)、平均 GPA3.7(秀が 92.5%)という優秀な学生からなる学部である。多くの学生がジョージア出身で 7 割が女性であった(Allen 学部長も女性)。ゲント大、オスロ大にも訪問したことがあるが、やはり女性が 7-8 割で、どうやら世界的な傾向のようだ。授業料は、色々な特待制度はあるようだが、平均で、ジョージア州民 230 万、デラウェア/サウスカロライナ州民 340 万、他州出身者 570 万と高額である。授業、実習は 1 講義 50 分、朝 8 時から始まり、午後は実習だが 3 時にはきっちり終わるとのこと。教育カリキュラムであるが、日本と教科はあまり違いを感じなかったが、4 年時の臨床ローテーションが充実しており、どの学生も積極的に臨床に参加していた。優秀な学生にとっても、勉学は大変だとのこと。昨年度の北米国家試験の合格率は 94%である。昨年建設された真新しく立派な動物病院は、患者数が年間 25,000 程、売上 9 億円、臨床教員数は 50 人程とのことであるが、レジデント、インターンや VT 等のサポータースタッフが多数働いており、分業制に加え、獣医師監督の元、VT は多くの治療行為を行うことができるので、教員は、ゆったりと仕事をしている印象を受けた。講義室、実習室もゆったりとした間取りで、学生の座席・机は、日本の 2 倍くらいのスペースが確保されており PC 用の電源も完備されていた。各科の朝の meeting では、症例報告や治療方針の確認を行っていたが、各人が PC で電子カルテを共有し、教員と学生が積極的に(時には対等に)、議論していたのが印象的であった。

今回の旅は学生のサポートが主な任務であったが、

アメリカの大学や臨床現場、獣医学教育システムを垣間見る事ができた有意義な研修であった。また、こちらから正式に依頼していないにもかかわらず、永田先生には、研修全般に渡って、大変親身になって学生の細かい要望を聞いてくださり、スムーズに研修を行うことができました。厚く御礼申し上げます。最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった UGA の皆様、鹿児島大、山口大の皆様、北里大学関係者の皆様に心から御礼申し上げます。



UGA 研修のアンケート

1. 今回の病院見学に関して、良かった点は？

- ・自由に見回ることができ、かつ自分が見たい科は細かくみることができたこと。
- ・日本とアメリカの小動物に関して、色々と異なる点を学ぶことができてとても勉強になった。
- ・こちらが難しいことをお願いしてしまっても大抵のことは快く引き受けていただけただけで、本来ローテーションで回る予定のなかった研究室も見学することができて大変勉強になった。
- ・何かに縛られることなく、自由に見学させていただいたことが凄く良かった。自分の決められた課だけでなく、本来は良くないのだろうが他の課を回って見ることができたおかげで、様々な面からアメリカの獣医というものを知ることができた。また生徒やドクター、教授は皆優しく、こちらのたどたどしい質問にも耳を傾け、丁寧に答えてくれたことが非常に嬉しかった。
- ・配属予定以外の部署にも、フレキシブルに見学可能であったこと。
- ・新設された獣医学部の校舎や病院において、北里大学では見たことのない目新しい機器や設備の見学ができたこと。
- ・研究室のゼミは北里との教育の違いを実感できた。特に、先生が何度も質問を学生に投げかけ、それに対して学生も討論をしていることに刺激を受けた。
- ・様々な分野の診療を自由に見て回ることが出来た。先生方も質問に対して丁寧に返答してくださり、生徒の方々も親切だった。特に日本にはまだ少ない医療機器を見れたことは凄く良かった。また日本の獣医医療との違いも見ることができた。
- ・北里大学の授業ではなかなか見ることができないような、馬の治療や診察を多く見ることができた。先生や学生がとても親切で、分かりやすく簡単な英語でゆっくりとしゃべって説明してくれた。
- ・2日毎に色々な診療科に割り振られたかったという意見もありますが、自分としては長い間その科にいる

ことで、その科が診察やオペなどに対してどのような姿勢をもっているのか、アメリカの生徒がどのように学んでいるのかなど、短期間ローテーションしただけでは見れないものも見る事ができたと個人的には思います。

2. 今回の病院見学において、残念だった点は？

- ・科が別れすぎているため、日によってはとても暇だったこと。
- ・あまり英語をしゃべることができず質問があまりできなかったのがとても残念でした。
- ・旧病院と新病院が離れているためにコミュニケーション・プラクティス課を見れなかったこと。
- ・自分たちのクリニカルローテーションにはない腫瘍科や心臓科なども見てみたかった。
- ・初めからある程度行く診療分野が指定されている点。当日に自分の希望を伝えて変更することも出来たが、選択できる分野を事前に教えてもらい自由に選択出来た方がよいと思う。
- ・今回のクリニカルローテーションは前半3日、後半4日で2つの科しか回れない予定だったので、いろいろなところを見て回ることはできなかった。

3. 病院見学以外で良かった点は？

- ・ジョージア大学の人との交流をもつ機会が多くとても楽しかった。
- ・UGAの学生アンバサダーの方々には毎日パーティーや食事に連れていってもらうなど大変良くしていただき感謝しています。
- ・全てがよかったです。毎日名も知らない異国の生徒をレストランやパーティーに誘ってくれる学生たちや、コラコーラミュージアムやCNNなどの観光名所に行けたこと、教授の家でのパーティ、UGA学生の学生パーティ、すべてが素晴らしい経験です。特に学生がレストランやパーティーに連れて行ってくれたことは心から嬉しく楽しかったです。誘ってくれた学生たちには感謝を申し上げます。
- ・獣医学部生のプールパーティや、先生方のご自宅に招いていただき、とても楽しい思い出を作れました。ビール工場見学も、とても楽しかったです。
- ・Student ambassadorのおかげで、学生のパーティーに参加したりなど、積極的にアメリカの学生との交流の機会を作ってくれたことで貴重な体験ができた。
- ・鹿児島大学、山口大学の方たちと行動を共にし、他大学の獣医学生と様々な意見を交換できたことはとても有意義であった。
- ・UGAの学生の方々が色々なお店に夜ご飯へ連れていってくれたのは凄く良かった。最初は恥ずかしくてなかなか上手く話せなかったが、最後は打ち解けて今ではFacebookなどでも繋がりができた。
- ・毎晩のように、連れて行ってもらったお店の料理も美味しかったし、水族館やコカコーラ・ミュージアムも楽しかった。

・全部楽しかった、お肉が特においしかった。先生のご自宅に招待された時には、たくさんの人との交流ができて楽しかった。

4. 病院見学以外で、残念だった点は？

- ・最終日のホテルの立地の治安の悪さ
- ・強いて言えば、もっと多くの学生たちと交流してみたかったです。でも今回来てくれた学生たちだけでも十分すぎるほど楽しかったです。
- ・9月上旬に、フットボールの試合が予定されているようですので、それが観戦できれば尚良かったと思います。

5. 上記以外で、なにか改善できる点はありましたか？

- ・クリニカルローテーション時の患畜が来ず暇な時間帯の時には、放射線治療科の永田先生には大変お世話になった。放射線治療の設備や機器を講義して下さり、他の科へ幹旋もして下さり、将来の進路について相談にのってもらった。永田先生自身も我々のために講義の準備してくださっていたが、都合により今回は叶わなかった。もし可能なら、永田先生も留学プログラムの一員として参加していただければ、プログラムの質が格段に向上すると思われる。
- ・UGAホテルの部屋がkingサイズのベッドに、一枚の掛け布団で2人で寝るということを事前に知らせて欲しかった。
- ・ホテルの部屋が一緒まではしかたないが、ベッドが一つしかなかったことは改善すべきことだと思います。
- ・ホテルの部屋は2人ならベッドを2つに、ベッドが1つなら1人部屋にしてほしかったです。
- ・UGAホテルのルームシェアに関してなのですが、2週間も滞在するので、ツインを予約できるようにして頂きたいと思いました。

6. 北里大学サイドで、来年から変更したほうが良い点があったと思いますか？

- ・最終日のホテルですが、空港の近くで夜通し飛行機の発着音で眠れませんでした。また、空港の近くということもあり治安があまり良くない場所だった。
- ・飛行機の座席はできれば大学で一箇所にとまらせて、それが無理なようならせめて通路側を予約してほしい。また、最終日のホテルは空港の近くということもあり治安が良くなかったため、この点を考慮して予約してほしい。
- ・帰りの便をネットで座席予約をしようとしたが、行きと同様、後部の3列席の真ん中の席しか残っていなかった。
- ・最終日の夕食だが、ホテルはアトランタ市街から遠いためホテルの周りを探したが、マックとIHOPしか無かったのが残念だった。
- ・最終日のホテルを、空港前ではなくもう少しアトランタ近くにすれば、アトランタ市街地を少し見て回る

ことができ、アメリカ研修を最後の最後まで楽しむことができるのではないかと思います。ちょっと治安が悪く不安な最終日でした(自分としてはアメリカのまた別な面を見れてよかったです)。

- ・往復の飛行機の良い座席が残っていなかった。
- ・後部席は子供が多く、泣き声で眠れなかった。
- ・飛行機の座席が皆ばらばらで、3列の真ん中、騒音のうるさい後部席だったので、そこを改善して欲しい。最終日に泊まったホテルの周りが何もなくて、治安がよいとは言えない場所だったので、値段が少し高くて、もう少し夜でも安心して出歩ける場所が良かった。
- ・今回の実習で初めて海外に行く人が多かったせいか、時差ぼけや結構過密なスケジュールからの疲労で体調を崩す人が多かったように思う。なので研修の無い週末は、ある程度ゆっくり出来る日をつくっても良いと思った。
- ・電子カルテなど事前に見せていただけると前日に調べたり、診療や手術の理解が深まったと思う。この点も国際交流委員会にお願いしたいところです。

7. 来年UGAを訪れたい日本人学生たちにアドバイスするとしたら、何と伝えたいですか？

- ・ジョージア大学のプログラムはおそらく他大学よりもアメリカという国を楽しむことができるプログラムです。英会話をしたい、異国の文化に触れたい、異国の人と交流したい、海外生活を楽しまたい、遊びたいなど、獣医以外の面でも海外研修を謳歌したいと考えている方には僕はUGAを特におすすめします。勿論、獣医学の面も一日7時間と十分な時間がありますので、しっかり英語を勉強して積極的に話しかけに行けば他大学に劣らない経験ができるのではないかと思います。ですが他大学では行われている英語でのプレゼンが、UGAにはないのは一つの大きな違いかなと思います。
- ・小動物内科では、当日の予定がパネルで表示されています。そこで、だれが何時から、どのような案件(再診か初診か)の予約がはいっているのかを知ることができます。そして、診察予約が入っている学生を見つけて、直接許可をとれば、オーナーから問診をとるところから、一緒に立ち会うことができます。その後の治療プランの立て方や、オーナーへの治療プランの提示などの一連の流れも見学できますので、積極的に現地の学生に話かけた方が良いと思います。
- ・UGAの病院の研修や研究室のゼミで学ぶことの多くは、北里の5年前期までに学んだ内容でも重なる部分が多々あったように思われる。実際に、なかなか聞き取れない英語での会話でも、北里の授業で学んだことも元に、今この人たちはこのような会話をしているのだろうと推察もしやすかった。留学する上で、英語の勉強も勿論大切であるが、常日頃の授業を疎かにせず、5年生までの内容をきちんと学んでからいくことが大切であると思われる。

- ・どの研究室でも非常に丁寧に説明していただけるので英語の勉強をしておく充実した研修となると思います。そこまで難しい英語を使わないでくれているので専門用語と中学英語くらいは使えるようにすると良いでしょう。また、各研究室の初日には日本からのお土産を渡すと良いです。お土産を渡さなくても十分良く対応していただきましたが、お土産を渡してからはより積極的に話しかけてもらえました。
- ・配属先では、手術や診察のある曜日と無い曜日があります。無ければ、見学にいてもあまり得るものはないので、早めに数日先の予定を聞き、コーディネーターのWardさんに配属を別の部署に変えてもらうための調整をした方が良いかと思います。
- ・とにかく英語をしっかり勉強していったほうがどんどんコミュニケーションをとることができるようになるのでさらに実習をよりよいものにできると思います。
- ・積極性が凄く大切だということ。今回の実習で学んだことの一つであり、一番の私の中の反省点です。
- ・日本食が絶対に恋しくなるから何かしら持っていくべきです。

8. その他、何かコメントがあればどうぞ。

- ・大学を通してしか経験できないような、貴重な経験をさせて頂きました。こういった機会を与えてくださったUGA並びに北里大学の先生方に感謝しております。
- ・きっと一生ものの思い出になります。行って後悔はしませんので、ぜひ楽しんでください。
- ・他大学のことを知らないのだから大きなことは言えませんが、僕はジョージア大学をおすすめします。本当に楽しかったです。何より鹿児島大と山口大の人達も一緒というのも個人的には大きく、素晴らしい方々と出会えました。一人でホテルの人に送迎してもらって観光することもできますし、良いことしかありません。ジョージア最高です、行ってよかったです。ジョージアのみなさん、本当にありがとうございました。
- ・米国での経験は今まで以上に日本で獣医学を学ぶモチベーションを上げてくれました。これもジョージア大学の関係者、現地で行動を共にした鹿児島、山口大学の方々、そして私たちの米国での研修を支えてくださった佐々木宣哉先生のお陰だと思っています。大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

Acknowledgements

I really would like to thank to everyone involved in this program of UGA. Before flight to the US, I was worried because I can't understand English fully. My fears were utterly groundless because every teacher and student kindly told and explained fully to us. I have had many great experiences to understand different culture and advanced veterinary educations in UGA. This visit will be one of the most important experiences of my life. I deeply value the opportunities provided by this study and wish to challenge myself in various ways and enjoy a fruitful experience. Thank you very much.

Hiroki Kanazawa

~~~~~

Thank you so much for your kindness to us. I appreciate your hospitality during our stay in Georgia. I really enjoyed my stay for two weeks, so I wanted to stay a little longer. I found that many things in education, customs and values are different in US compared to Japan. I will make an effort to become better at English than I am even now, and would like to visit in UGA again. We have had valuable experiences in the clinical rotation because many teachers and students kindly taught me several operative and treatment procedures. I would like to thank you again for everything you did for me to make my stay pleasant and look forward to return your hospitality. Thank you very much.

Takaaki Saito

~~~~~

I'm writing this message to say thank-you for your kindness and support during my stay in US. I had such a great time in the States that I felt like not leaving Georgia on our last day. I learned many things in Georgia. It was very precious experience for me to watch medical examinations, diagnosis and operations with the wonderful students at UGA. I learned the difference between Japan and overseas countries in terms of culture, way of thinking, even trivial stuff in daily life. Everything in the States was impressive for me! Above all, I'm so glad to make friends with such kind, friendly and excellent students at UGA. They invited us to parties and took care of us all the time, trying to make us happy in various ways. It was great meeting and I really appreciate them. I will never

forget everything you did for us. Thank you for everything. Looking forward to visiting Georgia and meeting you all again.

Akira Shibata

~~~~~

To everyone in UGA,

I was very anxious because I was not good at speaking English. Everyone in UGA was very kind to me and listened to my poor English patiently. In addition, we really enjoyed many parties and nice various restaurants where student ambassadors took us. Thank you very much for your hearty hospitality. In clinical rotations, many teachers and students explained many things to us. I never forget these great experiences. Thank you very much for all your help during my stay in UGA.

Akira Sugiyama

~~~~~

Dear everyone in UGA,

I had very nice experiences in UGA and learned many veterinarian medical care in US. I will be trying to this experience into something positive and I would like to become a good veterinarian. I really thank to doctors, students and staffs, especially, Mr. Parker Moore and Ms. Khaliara Ward. Everyone is so great. I would like to visit UGA and meet everyone again !

Kazuki Maemichi

~~~~~

Thank you everyone,

I had very exciting and great experiences in UGA. I could compare the style of veterinary education between Japan and US. I enjoyed clinical rotations and many conversations with students. Profs and students kindly taught many things to us. I impressed that every student study hard. Please pass on give my best regards to everyone. I appreciate your kind hospitality during my stay. Thank you very much.

Takahiro MAKI



Dear All,

This program was very exciting and interesting for me. I was glad that everyone was very kindly to me and encouraged me. I couldn't have done anything without your help. Thank you so much for all your support throughout the rotation. Especially, Elicha san, thank you so much! I hope we can meet again. I will never forget wonderful experience.

Best Regards

Mei Matsuo

~~~~~

Dear Dr. Stawicki,

Thank you very much for the hospitality you extended to me during our recent visit to your lab. We were really glad that you spoke slowly enough for us to catch you. The house calls and examinations I had with you were very enjoyable and rewarding. One month has passed since I came back to Japan and I still have great memories of my study experience, washing uterus body, ultrasound examination and collection of semen, etc. I have a dream of you and your yellow car!

I really thank you.

Kazuhito Kasai

~~~~~

To All Persons Concerned,

Thank you very much for giving me such a wonderful opportunity to learn at UGA Veterinary Teaching Hospital. Clinical rotations at Small Animal General Surgery and Internal Medicine were meaningful learning experience for me. In addition, as same student to learn veterinary medicine, I was very stimulated with the fact that UGA students have much more advanced knowledge and technical skill than me. I am going to study more and more to achieve global standard from now on. Moreover, I appreciate your kind hospitality during my stay in Athens. I especially had a great time at dinner parties. Talking with nice people and awesome food... I will never forget those shining memories the rest of my life. Thank you again for everything you've done.

Regards,

Kana Ikeda

I really want to say "Thank you very much" for the warm and generous hospitality you showed us during our stay in GAU. The training experience that you arranged for us was extremely informative, interesting and useful. I am sure all students will use this experience and do my best to be good veterinarians. Once again, thank you very much and we hope to see you in UGA, so that we can repaid the kindness that we received from you.

Nobu Sasaki, DVM PhD.

++\*;;;\*+☆+\*;;;\*+☆+\*;;;\*+☆+\*;;;\*+☆+\*;;;\*+\*





University of Georgia College of Veterinary Medicine, Japanese Visitors Schedule  
August 15-28, 2015  
Kitasato, Kagoshima, & Yamaguchi Universities  
\$= You are responsible for paying for your meal or activity



Saturday, August 15  
Arrive to Atlanta Airport  
Travel to Athens- Arrive at Georgia Center Hotel  
Trip to Publix (A grocery store) \$  
Dinner- Pizza

Sunday, August 16  
Rest & Settle In

Monday, August 17  
11 AM Take UGA Bus to VMC  
(Meet in Hotel lobby at 10:45AM)  
11:15 Lunch with Dr. Allen, Dean College of Veterinary Medicine and Dr. Cornell, Associate Dean for Academic Affairs  
12:00 Tour  
1:00 Picture with Dr. Allen and Dr. Cornell  
2:00 Return to Georgia Center Hotel  
6:00 PM Dinner (Amci)  
(Meet in Hotel Lobby at 5:30PM)



Tuesday, August 18  
9:00 AM Clinical Rotations (Please see assignment sheet)  
Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM  
Free Night- Visit downtown Athens \$  
Please see map and brochure provided

Wednesday, August 19  
9:00 AM Clinical Rotations  
Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM  
6:00 PM Terrapin (Beer Brewery) \$ (\$10 per person)  
(Meet in Hotel Lobby at 5:30PM)

Thursday, August 20  
9:00AM Clinical Rotations  
Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM  
6:00PM Free Night- Dinner on your own \$

Friday, August 21  
9:00AM Breakfast (Chick-fil-A)  
Travel to Atlanta to World of Coke  
(Meet in hotel lobby at 8:45AM)  
1:00PM Lunch CNN Center \$  
Mexican restaurant with CVM Ambassadors\$

Saturday, August 22  
Free Day

Sunday, August 23  
4:00PM Dinner and Swimming Dr. Gogal (Meet in hotel lobby at 3:30PM)

Monday, August 24  
9:00AM Clinical Rotations



Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM

Free Night- Visit downtown Athens \$  
Please see map and brochure provided

Tuesday, August 25  
9:00AM Clinical Rotations  
Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM  
Dinner with student ambassadors in VMC.

Wednesday, August 26  
9:00AM Clinical Rotations  
Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM  
5:00PM Dinner at The Blind Pig \$

Thursday, August 27  
9:00AM Clinical Rotations  
Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM  
6:00PM Farewell Dinner Hosted by Dr. Cornell  
(Meet in Hotel Lobby at 5:30PM)



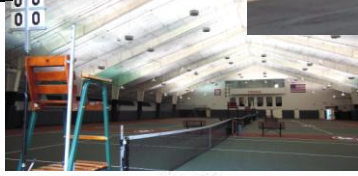
**Rotation schedule**

| NAME             | ROTATION                        | DATES          | CLINICIAN                   |
|------------------|---------------------------------|----------------|-----------------------------|
| MAI SUZUKI       | Emergency and Critical Care     | August 18 – 20 | Dr. Brainard                |
| KUNIKO YOSHIMURA | Emergency and Critical Care     | August 18 – 20 | Dr. Brainard                |
| RYOTA OKADERA    | Exotics                         | August 18 – 20 | Dr. Divers                  |
| KAZUHITO KASAI   | Theriogenology                  | August 18 – 20 | Dr. Stawicki                |
| HIROKI KANAZAWA  | Diagnostic Pathology            | August 18 – 20 | Dr. Kelley/Carmichael/Brown |
| TAKAAKI SAITO    | Small Animal Surgery            | August 18 – 20 | Dr. Schmiedt                |
| AKIRA SHIBATA    | Small Animal Orthopedic Surgery | August 18 – 20 | Dr. Rosselli                |
| AKIRA SUGIYAMA   | Small Animal Community Practice | August 18 – 20 | Dr. Roth                    |
| TAKAHIRO MAKI    | Small Animal Internal Medicine  | August 18 – 20 | Dr. Jo Smith                |
| MEI MATSUO       | Small Animal Internal Medicine  | August 18 – 20 | Dr. Jo Smith                |
| KANA IKEDA       | Small Animal General Surgery    | August 18 – 20 | Dr. Schmiedt                |
| KAZUAKI IGARI    | Small Animal Orthopedic Surgery | August 18 – 20 | Dr. Rosselli                |
| KAZUKI MAEMICHI  | Small Animal Community Practice | August 18 – 20 | Dr. Roth                    |
| MAI SUZUKI       | Exotics                         | August 24 – 27 | Dr. Divers                  |
| KUNIKO YOSHIMURA | Small Animal Community Practice | August 24 – 27 | Dr. Roth                    |
| RYOTA OKADERA    | Large Animal Surgery            | August 24 – 27 | Dr. Eggleston/Parks         |
| KAZUHITO KASAI   | Theriogenology                  | August 24 – 27 | Dr. Stawicki                |
| HIROKI KANAZAWA  | Pharmacy                        | August 24 – 27 | Dr. Chester Sosebee         |
| TAKAAKI SAITO    | Exotics                         | August 24 – 27 | Dr. Divers                  |
| AKIRA SHIBATA    | Small Animal General Surgery    | August 24 – 27 | Dr. Schmiedt/Cornell        |
| AKIRA SUGIYAMA   | Pharmacy                        | August 24 – 27 | Dr. Chester Sosebee         |
| TAKAHIRO MAKI    | Small Animal General Surgery    | August 24 – 27 | Dr. Schmiedt/Cornell        |
| MEI MATSUO       | Small Animal Orthopedic Surgery | August 24 – 27 | Dr. Rosselli                |
| KANA IKEDA       | Small Animal Internal Medicine  | August 24 – 27 | Dr. Jo Smith                |
| KAZUAKI IGARI    | Small Animal Community Practice | August 24 – 27 | Dr. Roth                    |
| KAZUKI MAEMICHI  | Small Animal Internal Medicine  | August 24 – 27 | Dr. Jo Smith                |



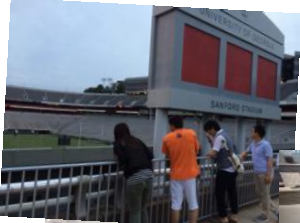






1785

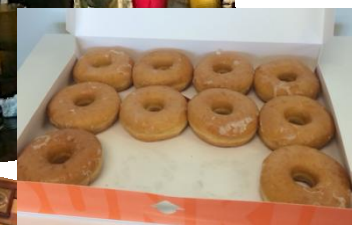
# The University of Georgia

































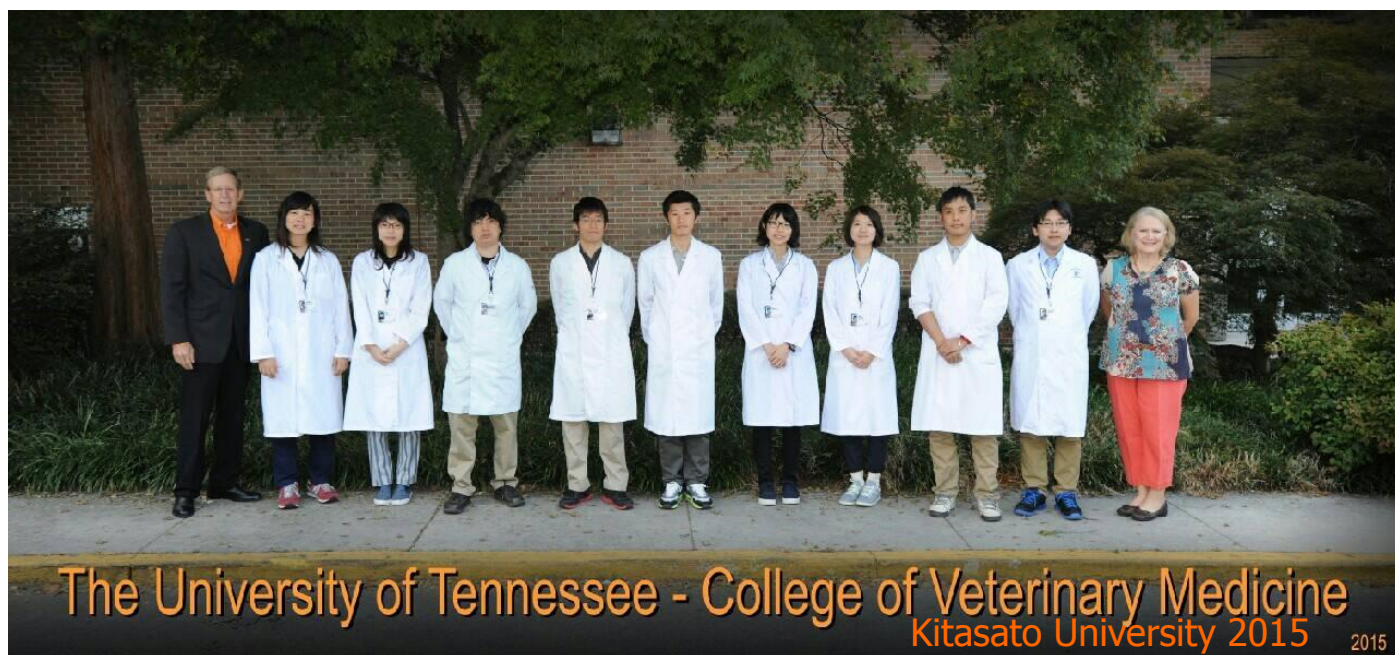


I  UGA





Tennessee University  
 School of Veterinary Medicine  
 22 Aug. – 06 Sep. 2015



Dr. James P. THOMPSON, Ayaka MOTEGI, Eika OGAWA, Tsubasa NARITA,  
 Hajimu HARA, Tomotaka SAIGO, Eri MIHARA, Chiho YASUDA, Masato IKEO,  
 Dr. Yosuke MAEDA, Dr. Craudia A. KIRK

同行教員：前田 洋佑 Dr. Yosuke Maeda

| 氏名    | Name           | 所属研究室    |
|-------|----------------|----------|
| 池尾 真人 | Masato IKEO    | 獣医生理学    |
| 小川 瑛加 | Eika OGAWA     | 獣医放射線学   |
| 西郷 智貴 | Tomotaka SAIGO | 獣医生理学    |
| 原 基   | Hajimu HARA    | 獣医衛生学    |
| 三原 衣理 | Eri MIHARA     | 小動物第2外科学 |
| 茂木 郁佳 | Ayaka MOTEGI   | 獣医放射線学   |
| 安田 千穂 | Chiho YASUDA   | 実験動物学    |
| 成田 翼  | Tsubasa NARITA | 小動物第1内科学 |

## 池尾 真人

8月22日(土)

出発の日、待ちに待った日だったので集合時間よりも早く成田空港に行き、いろいろと空港内を散策していました。出国の手続きを済ませ、いざ出国。問題なく順調かと思いきや、飛行機内が寒すぎて、大変でした。日本はそのとき半袖半ズボンで大丈夫なくらいでしたが、空調が効きすぎて風邪をひきそうになりました。そんなこんなで長いフライトを終え、ニューアーク空港へ到着、入国審査を済ませニューアークからノックスビルのマクギータイソン空港へと向かいました。到着して空港でカーク先生と待ち合わせの場所で会うはずが、連絡の伝達ミスのおかげで1時間伝え間違えていたため、夜中の9時から1時間空港内で待つトラブルが起きました。これはさすがにみんなびっくりしました。無事ホテルにつきその日を終わりました。

8月23日(日)

朝食をたべ、朝をゆっくり過ごし、その日はお昼からテネシー川のそばを歩き、カーク先生と大学周辺のダウンタウンにあるレストランでランチを取りました。時差ボケでみんなが疲れている顔をしていたのを察してくれたのか、ナショナルパークに行こうとしていた予定を変更し、大学内を散策してそのあとは近くのショッピングモールに行くことになりました。ただ日曜日だったため6時には閉まるお店が多くすぐにホテルに帰ることになりました。やっぱり時差ボケで大変でした。特に成田さんは9時くらいには、恐ろしいほど大きないびきをかいて寝ていたのがまた面白かったです。

8月24日(月)

とうとう、テネシー大学の研修が始まりました。初日、僕は麻酔科を見学することになっていました。主に術前の患者の特徴をカルテから読み取りどのような麻酔のレシピを選択するのかを考え、術中は麻酔管理を行い、術後の患者の状態を診るところまでがこの役割のようでした。ただ驚いたのは、実際に大学病院に来る患者さんを、2週間ローテーションで同じように研修している最終学年の4年生の学生一人一人が担当している患者に対して薬を選択し麻酔を行っているというところでした。僕はそこで知り合った学生のロバートくんについて見ていたのですが、これから明日麻酔を行う子のディスカッションをしようと言われカルテを渡され、君ならどうする？という質問をされました。このとき僕は何も考えずにいままで実習で使ったことのある薬しか言えず、正しい答えをいうことができませんでした。初日から自分の知識のなさ、向こうの学生との差を感じ、みじめな気持ちになりました。その日の終わりに全体でのミーティングがあり、一人一人が教授に対してその日の行ったことと、次の日に行う処置についてディスカッションを行って

て、しっかりと根拠をもって用いる薬について話し合っているところをきいて学生はここまで違うのかと思いました。その日の夜は麻酔薬について、自分で調べてしっかりと反省しました。

8月25日(火)

この日も、同じく生徒と行動して麻酔から手術までを見学させてもらいました。前日の勉強のおかげで、前日よりかはしっかりと理解をして臨むことができたと思いました。特にその日は忙しくもなくすぐに終わり、生徒と一緒に外に行くか？と言われたのですが断念して大学周辺にあるテネシーショップでショッピングを楽しみました。その日の夜はホテルに近いFive Guysというハンバーガー屋さんへ行きました。めちゃくちゃおいしかったです。この記事を書きながらも、また食べたいなとも思いました。

8月26日(水)

この日は腫瘍科を見学しました。今度は生徒も先生もスタッフ全員が女性しかなくてびっくりしました。気のせいかとは思いましたが、男性の獣医師さんは珍しいのかなともおもいました。ここではほかの一般の病院から紹介されてきた患者を生徒が問診、検査し、異常がないかを確認し、放射線科へと検査を依頼したり、FNAによる細胞診を行ったりし、腫瘍の種類を確認し、薬を処方するというスタイルでした。その日は口腔内に悪性のメラノーマのある子や、長いこと入院していて悪性の腫瘍により助かる見込みがなく安楽死するブルドックをみました。その飼い主へ、全スタッフから寄せ書きが書かれた犬が天国に行く物語の絵本をプレゼントしようということをしていて、途中のものを見せてもらった時にあったかい気持ちになって泣きそうになりました。これにはすごく感動しました。この日の夜はみんなでステーキを食べに行きました。それがまたおいしかったのですが、次の日、胃もたれが大変になるとは思いもしませんでした。

8月27日(木)

この日も腫瘍科を見学しました。しかし、患者の数が少なくあまり見学するものはないかもしれないといわれたので午前中の検査に立ち会った後、小動物のリハビリなどを見学したり、手術を見学したりしました。また夜には“Wasabi”という日本食レストランに行きました。みんなはお寿司や、うどんなどを食べていたのですが、僕はひばちという鉄板焼きを選びました。すると鉄板の前でパフォーマンスが始まり、楽しむことができました。

8月28日(金)

この日は神経科に行きました。ここでは神経異常と疑われる患者にたいして、神経学的な検査を行ったりほかにはヘルニアになっている患者に対して手術を行ったりするところでした。僕はこの日、入院しているパグがいるので生徒にどのような検査をしてどこが



悪いのかを一緒にやってみる？といわれたので検査を一緒にやりました。研修に行く前に小動物の授業で聞いたことを実際にやることができたので理解がより深まってよい経験になりました。生活のほとんどが英語のため長く感じた一週間がたちこの日は外でハンバーガーを買って、先生の部屋に集まりみんなでお酒を飲みました。そしてみんなで太らないようにと、体をうごかしました。

8月29日(土)

この日はみんなでラフティングをしに少し離れた場所まで移動しました。カーク先生の夫のジョージさんも一緒に参加しました。お昼はマクドナルドでした。ほとんど日本と変わらない感じでしたが、違うのはジュースのサイズぐらいでした。人生初のラフティングだったので、行く前にジョージさんが事故で亡くなった人もいるからねと言って怖がらせていたのもまたスリルがあって楽しかったです。もう一回やりたいなあとも思いました。この研修に行く前にゴーグルか何か持っていくといいかもと言われていたのですがウォーターシューズもすべてそこで買えるので心配することはありませんでした。逆に普通の靴屋ではシーズンが終わるので売っていないこともありました。

8月30日(日)

そして日曜日は先週に行くことができなかつたスモークマウンテン国立公園へ行きました。天気は曇り空でしたが、自然を満喫し、昔ながらの粉ひき工場や、建物を見ました。ほかには軽いハイキングをし、滝をみたりしました。

9月1日(月)

二週目は **small animal medicine** から始まりました。この科は I と II があり、僕は **small animal medicine I** を見学しました。ほとんどの犬が、町の動物病院で紹介された患者を詳しく検査したりするのがここの役割のようでした。その日はクッシング病の患者の検査をしていたり、ほかにはアメリカで有名なドラマの “The Walking Dead” に出演していた片目だけの犬を診たりしました。実際はカージャックに巻き込まれてけがをした犬で、この子の検査をしたりなどいろいろな病気の疑いの子たちを診ました。また夜はテネシー大学のメインキャンパスのほうにある大きなペイントができる岩にみんなで記念にペイントしました。終わった後、カーク先生と夫のジョージさんと一緒にアメリカの 50 年代をモチーフにしたハンバーガーショップへ行きました。どこのハンバーガーショップもやっぱりおいしかったです。

9月2日(火)

この日も同じく **small animal medicine** を見学しました。この日はとてもかわいい、生まれて8週のジャーマンシェパードが来ました。この子は巨大食道症の疑いで紹介されてきました。この子がすごくかわいくて

みんながアメリカらしいオーバーリアクションで、ものすごく面白かったです。だいたいみんな **Oh my goodness!!** といってほんとかわいいねーというかんじでした。その日は忙しくなかったので、この日は血小板減少について勉強のためのディスカッションを行っていました。僕は話を聞いているだけでしたが、すごく興味深い感じでした。やはりしっかりと生徒に考えさせて、答えさせる形はすごく興味深かったです。

9月3日(水)

今日は病理学へ行きました。最初は生徒とともに血液塗抹を作りそれを観察して、白血球数をカウントしたりしました。そこで知り合った学生が日本人の義理の父がいるので、日本に興味を示していて優しく話しかけてくれました。午後に牛の剖検があり、お昼の時間もあまりないため学生たちと一緒にお昼を食べました。午後の剖検では牛2匹を解剖しました。若齢の子牛で解剖して、心室中隔欠損症があることがわかりました。

9月4日(木)

この日も朝から生徒たちと勉強会でした。今回は生化学検査でこの病気は何が考えられるのかという問題形式でした。午後は剖検もなくフリーになったので次の日の症例発表のためのスライドを作製するために学生室にこもってパソコンを触っていました。

9月5日(金)

午前中は同じく症例発表のための準備を行いました。午後は症例発表を行いました。小さい会議室のようなところで行いました。麻酔科でお世話になったマルシヤさんという VT の方が来てくれました無事終わったあと、最終日だったのでみんなとお別れをいうためにお世話になった科を回りました。そしてその日はテネシー大学の学科長にあたるボスのお宅で行われた新入生歓迎パーティに参加しました。ものすごく大きな豪邸で、みんな探検したりしていて僕らも同じく探検しました。

9月6日(土)

朝早くにおき、再びマクギータイソン空港へ、長く感じましたがやはり振り返ってみたらすごく名残惜しく感じました。飛行機の中で写真をみかえしてこの研修を振り返りました。

言葉で伝えることは難しいです。ただ無駄にならないために一生懸命頑張ったことと、多くの刺激が得られたことを忘れたくはないと思いました。僕は大学生活の“研修という名目の旅行”だと思っていましたが、日に日に学生とかかわっていくうちにこんなこともわからないなんて、と思われたくない、しっかりしなきゃ、日本から来た代表のような気持ちで食らいつくことができました。また、近い将来この大学に帰ってきたいとも思えました。この研修があつてよかったと思

います。世界を知るきっかけを与えてくれたこのプログラムに心から感謝を申し上げたいと思います。

## 小川 瑛加

8/22 (土)

日本出発の日。成田空港には 14 時集合で、実家（千葉県内）からだったので一時間かからず到着。千葉県民万歳！

飛行機内はととても寒く、上着を持っていても寒くて辛かったです。

ニューアークで国内線に乗り換え、いざノックスビルへ。飛行しているところがそんなに高くないため雲の中で雷が落ちるところがみえて、一人静かにテンションが上がっていました。ノックスビルに到着し、手違いがあったものの無事カーク先生とご対面。ホテルに送ってもらい、日程表等を渡されました。この時ローテーションについても知らされました。

8/23 (日)

13:00 に迎えに来てもらい、テネシー川沿いのレストランでランチ。量が多すぎて早速アメリカご飯の洗礼を受けました。

その後、大学内を案内してもらい、病院の中も説明してもらいました。アメリカに到着してまだそんなに経っていないため英語に慣れず、いまいち話が分からないまま、とりあえず先生に置いていかれないように着いていくので精一杯でした。場所も広すぎて把握しきれなかったです。明日以降が英語に関しても、迷子の危険性の面でもすごく不安になりました。

天気が良くなかったので当初行くはずだった国立公園を止めてショッピングへ。しかし日曜日なのでお店は 18 時に閉店。休日にお店も休日モードというところにびっくりしました。

このあとはホテルに送ってもらい、明日以降のローテーションに備えてのんびりしました。

8/24 (月)

ローテーション 1 日目 oncology

カーク先生に案内され、少しカーク先生から oncology の人に向けて説明されてから私はその場に置いて行かれ、この時の寂しさは半端なかったです。初日でどのように過ごしたらいいのかもわからず、なかなかコミュニケーションも取れなかったです。でも日本人は自分しかいないため自分から動くしかないと思ってつたない英語で頑張ってみるも、全部が通じるわけもなく。早々に心が折れました。

この日はリンパ腫 3 件、皮膚リンパ腫 1 件、口腔内 mass 1 件が来ました。それぞれ一般身体検査を行って、一通り終わると抗がん剤を準備してテクニシャンの人がどんどん抗がん剤を投与してお返りする、という流れでした。問診は学生が行って、それを先生に報告し、今後の治療方針などを学生が考え、先生が指摘

し、最終的に決定したものを再び先生からオーナーさんに伝えるという日本では無い教育体制に驚きでした。大体の処置も学生自身が行って、その患畜のカルテも学生が作成し先生が確認、という形でした。

抗がん剤の一覧表をいただき、わかんないものはそれを見ながら処置を見学させてもらいました。

カーク先生の部屋に戻ろうとしたときに迷子になり、途中であった oncology の学生に送ってもらいました。病院内は迷路のようなので、わかんないときはすぐ人に聞くべきです。私はずっと同じところをぐるぐるしていました。

8/25 (火)

ローテーション 2 日目 oncology

この日は骨肉腫 1 件、肥満細胞腫 1 件、移行上皮癌 1 件、口腔内扁平上皮癌 1 件でした。二日目になるといろいろ吹っ切れてきて自分からコミュニケーションが取れるようになっていきました。さらに染色をやらせていただいたり、少しだけですがやらせてもらえることが増えました。

ランチが終わると勉強会が行われていたのですが、英語が速く全然聞き取れず理解もできないし、さらに時差ボケなのか睡魔に襲われ、そんな状態でその場にいることが申し訳なくなりました。

8/26 (水)

ローテーション 3 日目 soft tissue

soft tissue 初日で流れなどが全然わからなかったのですが学生の人達が説明してくれたり、場所案内してくれたり、迷子常習犯だった私を心配してくれてとても優しくかったです。

この日のオペは PSS と骨肉腫の除去。その他に交通事故で皮膚がパッキリ開いてしまっている子のバンテージの巻き直しがありました。

ここの先生の PSS のオペが速い、と有名らしくカーク先生も絶賛していました。実際速く、開腹して臓器退かしたら「これがシャント血管よ」って言って学生一人ずつに見せて血管閉めてあつという間に終了。

骨肉腫は昨日 oncology に来ていたラブラドルの子で、左頬骨弓にできていたものを頬骨弓切断して取る、というものでした。

どちらのオペも終始和やかで、先生がとても愉快の人で歌いながらハンマー持って骨を切っていたり PSS のオペが嬉しいのか「PSS〜♪」って歌いながらどこかに行ったりして他の学生と一緒に笑ってしていました。

交通事故のピレネーの子のバンテージ巻き直しでは縫合してくっつきそうなところを縫合し、ドレーン設置していました。右後肢大腿部の傷はメッシュ植皮術での皮膚移植をしようと言っていたのですが、後日行われたものの写真を見せてもらおうと傷に切り込みを入れて大きくしてから皮膚を引っ張って縫合していました。

8/27 (木)

ローテーション 4 日目 soft tissue

この日オペはなく、オペ予定の子の受け入れや一般検査などでした。

朝、急遽昨日バンテージの巻き直しをした子がバンテージを食べてしまったらしく、なんとか吐かせようとモルヒネを投与して吐かせました。

甲状腺がんで甲状腺切除予定の子は心臓が悪いと疑われて Cardiology で心電図を取らせてもらい、薬を処方してもらっていました。心電図からは VPC が見られました。

その他 PSS、右第 1 指背面にできた腫瘍の除去予定の子が来院しました。

PSS においてシャント血管の発見にはエコーで見つけてからシンチグラフィーを用いて確定していました。普段 CT 検査によってシャント血管を確認しているのを見ていたため、違った方法での血管の確定方法を知れて良かったと思いました。

8/28 (金)

ローテーション 5 日目 exotic

朝訪れると、野生の子ウサギの処置をしていて、私もミルクをあげたり、皮下補液の準備をしたりしました。

2 週間前に左足を骨折した red tailed hawk はレントゲンで経過を見て、レーザー治療した後、オーナーにお返ししました。何匹か小鳥が結膜炎や低血糖によるてんかんなどといった理由で連れてこられたがどの子も安楽殺になってしまった。その他にも交通事故にあって目が見えなくなってしまう Canada goose やウサギの歯科治療、角膜潰瘍、african grey parrot という大型インコのヨウムから卵が出ないと言って来院しました。ヨウムはレントゲンを撮っても卵は確認できず、腹腔内 mass ではないか、と先生たちは話していました。

呼吸器疾患で来院した snow white hawk はとても削瘦しており、採血後酸素室に入れられていた。その後、血検結果が電話でかかってきたようで、電話を受けた先生が走って酸素室に向かうと倒れており、急いで処置が行われました。しかし、良くなる見込みがないと判断されたのか安楽殺となりました。安楽殺後に内視鏡で気管支内を見せてもらい、肉芽腫であったと教えてもらい、さらに血検では白血球数がすごく減少していました。

exotic はこの一日だけでしたが、症例が多く忙しい日だったようでとても充実していて良かったと思います。

8/29 (土)

この日、病院はお休みで、私たちはラフティングに連れて行ってもらいました。この日初めてカーク先生の旦那さんであるジョージさんにご対面。

着替えて、落ちてしまったときの注意を聞いたりしていざラフティング！みんなびしょりになりながら

楽しみました。ただ移動のバスがとても揺れて車酔いしやすい人にとってはこっちの方がスリリングかも？私も少し酔いそうでした...

ホテルに戻ってから夕飯を食べに行ったり、買い物に行ったり休日らしく過ごしました。

8/30 (日)

朝ゆっくり起きて集合時間までホテルの周りを散策。途中雨が降ってきて「なんでいつも日曜に雨なんだー！」と嘆いたけど少ししたら止んだので良かったです。

昼前に迎えに来てもらい国立公園へ。山の中を車で移動中、ブラックベアが見える、と聞き車を降りたけれど私は確認できなかったです。いくつかのポイントで車を降りて散策し、お土産を見たり、大きなアイスクリーム食べたり。アイス好きな私にはとても幸せでした。途中降ってきた雨が止んだので 1 マイルのハイキングコースへ。ハイキングのコースには 1 マイルと 5 マイルがあったけれど、さすがに 5 マイルは無理！となり短い方にしたけど引き返してくるころには足が疲れて痛くなっていました。

8/31 (月)

ローテーション 6 日目 radiology

午前中は勉強会に参加させてもらい、テーマは胸部画像について肺のパターンや気管、心臓などの話がありました。

その後、私は読影している二人の先生の間においてその都度気になることを聞いていました。最初聞くタイミングが難しくなかなか聞けなかったら先生の方から説明してくれたりも。ただ訛りと話す速さが速いということで慣れるのに大変でした。午後になって話が理解できるようになってきて、自分からどんどん聞くことができました。

exotic にクーガという大きな猫科動物がやってきて、骨折のためレントゲン撮影にきた。ギャラリーも多く、珍しいものが見られたなー、と感じました。

読影だけでなく撮影している現場も見学。日本にいと鎮静かけずに用手保定によって撮影しているが、テネシーでは鎮静をかけてサンドバックなどを使って保定していました。どちらの方法がいいとははっきり言いきれないけれど、鎮静かけてやるとこういう感じなんだな、ということは感じることができました。他にも CT や、エコーを見たりしていました。

ローテーション後、大学内にある”Paint the Rock”に落書きをして、そのあと昔ながらのハンバーガー屋さん連れて行ってもらい、盛りだくさんの一日でした。

9/1 (火)

ローテーション 7 日目 radiology

この日は 9:00 までの時間で 12 個の症例を見て所見を考えて、その後生徒が自信のある症例について次々と答えて、先生が確認していくといった読影練習が行わ



れていました。

これが終わると昨日と同様、読影のそばで先生に質問したり、撮影風景見に行ったり。午後からも同じような形で、先生が何人かの生徒に症例を提示して生徒が考えた所見を先生が確認する、っていうのもやっていました。学生は撮影とエコーの保定と読影の3つに役割分担されていて、読影では先生が面白い症例、見た方が良い症例を部位別にリストを作っておりそれを見て読影練習をしていました。その練習の途中、異物を食べた症例が提示され、何食べたのだろうか？と考えていたら、答えとしてCT画像が出してもらおうと...異物の正体はお風呂に浮かべるようなアヒルのおもちゃ！CTではっきりと写り、3D画像でお腹の中にあるアヒルはとてもシュールで思わず写真をとってしまいました(笑)

撮影もひと段落したころ私もパソコンを借りて見て、リストから適当に選んで最後に所見で答え合わせをしていました。

この日から最終日のプレゼンテーションのため soft tissue に時間があるときに訪れ、カルテを見せてもらったりしていた。すでに約束は一人の学生にしていたのだが、行くとみんなが知っていてくれてパソコンを貸してくれたり、カルテを出してくれたりしました。また来てもいい？って聞いたら、もちろん！って言ってもらえたのでこれから通うことにしました。

## 9/2 (水)

ローテーション 8 日目 **small animal Rehabilitation**  
とうとうローテーション最後の科。リハビリの様子は実際に見たことが無かったので全てが新鮮でした。主に関節炎とか肥満によるものだとウォータートレッドミルを、筋肉が萎縮とかだと電気刺激を行っていた。ウォータートレッドミルはいろんな症例で使われており、前十字靭帯断裂のオペをやった子だったりでも行っていて、水の使用量かなり多いだろうな、なんてどうでもよいことを考えてしまったり。

リハビリ中に効果を聞いたり、2週間もいると最初のころと比べてだいぶ積極的になれたなって思いました。

## 9/3 (木)

ローテーション 9 日目(最終日) **small animal Rehabilitation**

この日も昨日と同じように進んでいきました。さらにこの日はプールと酸素カプセルを使ったものが見られました。

途中人手不足の時間帯があって、ハードル、ストレッチなどのリハビリをやらせてもらえました。とっさに患者に対して日本語が出そうになってしまい、動物への掛け声も英語式で、っていうことに違和感があって最初なかなか指示が出せなかったです。

この日は早く終わり、さらに VT さんのひとりが誕生日だったこともあってケーキを分けてくれました。チ

ョコケーキだったのだがとても甘く、アメリカならではの味がしました。

この日はホテルに戻ってプレゼンの準備。ちゃっかり夜食用に買ってあったハンバーガーも平らげ自分の胃袋がおかしくなった気が...。スライドを作って読む練習のため発音やアクセントを調べたりして気付いたらあつという間に 2:00 過ぎていました。

## 9/4 (金)

今日はプレゼンテーションの日。

午前中プレゼンの準備をし、お昼を食べて最終確認したらいざプレゼンへ！プレゼンの直前に”T”の文字が入ったネクタイを前田先生にプレゼントして、つけてプレゼンに挑んでもらうことにしました。

発表順番はあみだくじで決めて私は 4 番目で、みんなの発表を聞いているとだんだん緊張してきて自分の番では緊張 max に！なんとか無事終えて、お世話になったところへ挨拶に。散々お世話になった soft tissue には午前中のうちに行ったので他のところを。大学を出るとき、もう大学に来ないと思うと寂しかったです。

ホテルに戻って着替えて学長主催のホームパーティーへ。1、2 年生向けのものでそこにお邪魔させていただくといったものでした。学長の家はとても広く、どんどん周りに学生が増えていき、とにかく落ち着かない！カーク先生を見つけるとホッとしていました。ご飯をいただき、学生と話したり、学長の家を散策したり。他人の家だと言うのに参加者全員が自由に過ごしていてホームパーティーってこんな感じなのか、と思いました。

ホテルに戻ってからはカーク先生に渡すためのアルバム作りをしながら、前田先生へ 2 週間のお礼にケーキをプレゼント。ケーキは見た目も中身もなかなかアメリカンでした。

## 9/5 (土)、9/6 (日)

この日の集合時間は 5:30。起きた時間 5:13。まだ誰も起きていない気配がない。急いで飛び起きて皆を起こさねば！時間と戦いながら着替えて朝使ったものをしてまい、なんとか大遅刻は免れました。

空港まで行くのにジョージさんが荷物を運んでくれていざ空港へ。空港に着き、ジョージさんとはお別れ。カーク先生はセキュリティチェックの前まで来てくれて、アルバムを渡し、一人ずつカーク先生と写真をとってお別れへ。お世話になったカーク先生とのお別れは寂しかったです。

そんなしんみりした気持ちのままセキュリティチェックを通過していったのだが、ここでもいくつか笑いを提供してくれた方々がいたので暗い気持ちにならずに済みました(笑)

飛行機の中は爆睡。着いたシカゴは時差があって次の飛行機までの時間は思っていたのよりも長かったです。ご飯を食べて空港内を散策。乗る直前に何故かピ

ールを飲んでいざ搭乗へ。成田に着くと大雨でびっくり！到着ロビーで解散してそれぞれ帰宅していきました。

今回の海外研修では積極性が必要であると感じました。私はローテーションが誰とも被らなかったので自分で聞くしかないし、会話するには英語しかない、という状況でした。でもそのおかげで目の前のことに集中できたし、コミュニケーションをとるきっかけにもなって良かったと思っています。つたない英語でもわかってくれたテネシーの方々にはとても感謝しています。とても充実した2週間で過ごせました。

## 西郷 智貴

### 8月22日(土)

空港でみんなと合流。しかし空港に着くまでにスーツケースの車輪が一つとれた。幸先悪すぎるスタート。空港で日本円をドルに替えたが一番円安ドル高の時期でとても損した気分。手荷物検査で原君がはさみを機内に持ち込もうとして足止めをくらっていた。機内に乗り約12時間のフライトだったが、機内が異常に冷房が効いていて半そでしか持ってきていなかった私はとてもつらかった。本当に寒かった。飛行機は映画や音楽が聴けたのでよかった。ほぼ爆睡。到着後予定時間の1時間にカーク先生とようやく合流。そのまま30分くらい車に乗りホテルへ。ここで予定表やプレゼントなどをもらったので私たちも日本からのお土産をカーク先生に渡した。なぜか私だけ大動物の科が割り振られていて驚いた。ホテルは男子4人1部屋でベッドが3つにソファが1つだったのでローテーションで回していくことにした。

### 8月23日(日)

機内で爆睡だったがホテルでも快適に寝ることができた。起きて昼くらいに集合して、大学の近くのお店で昼食をとった。その後大学内を見学し、ショッピングモールに3時過ぎに行ったがどこのお店も4時に閉まり始めてスタバでコーヒーを飲んだだけで何も買えなかった。夕食は昼が多すぎたのでほとんど食べられなかった。

### 8月24日、25日(月、火) : Equine Surgery

平日の研修の流れは、朝7時半頃にホテルのロビー集合、8時頃に大学に到着しそこから各自割り振られた科(基本的に各科に学生1人)に行き、夕方5時半までに再集合だった。

大動物ということで引率の前田先生と共に見て回った。まず驚いたのが治療室にいたのは男性の教授以外、学生・レジデント・ドクター・アシスタントなど全て女性だったことである。後で聞いたことだが、学生のうち男子は2~3割しかいないそうだ。

自らの腹部の皮膚を球節に移植する馬の治療がメインで、一日目の午前、二日目は一日中この症例だっ

た。ナイフを用いて腹部の皮膚をはぎとり、それを薄くのぼし網目状にして移植し包帯を巻いていた。手術自体は成功したが麻酔の覚醒時に、まだあまり覚めていない状態で無理に起こそうとした為に、移植した脚の飛節部分を今度は骨折してしまった。そこから予後は不良で結果的に1週間後に安楽死をしたようだった。しかし、まず皮膚移植の時点で日本ではここまでの状態だと手術は選択をしないだろうという話を聞き、手術は成功してよかったがもう少し覚醒に時間をかければよかったのではないかという複雑な思いになった。他の症例では、肺炎の馬のエコーの観察をし腹部にチューブをつなぎ膿や液体を排出するものなどを見ることができた。

### 8月26、27日(水、木) : Small Animal Rehabilitation

テネシーを選んだ理由にリハビリが見たいという思いがあったので診察に同行させてもらえてよかった。日本ではあまり発展していない分野でアメリカの中でもテネシーはいち早くリハビリ療法を取り入れたらしい。症例の多くは椎間板ヘルニアや前十字靭帯断裂だった。ウォータートレッドミル(ランニングマシンの下から水が出てきてそこでウォーキング)やプールでの水泳、レーザー療法、電気刺激療法、ハードルを歩いて越える、バランスボードなど、さまざまな治療をしていた。教授に電気刺激を受けてみるかと言われたので受けてみると、腕はちくちくとした程度だが掌はかなり刺激がきてとてもご満悦の表情をしていて、見た目が怖かった教授がさらに怖く見えてしまった。他に驚いたことは、リハビリ科に女子の学生がいるのだが、男子学生が処置室に入るとその生徒にキスをして急に2人だけの世界に入り込んでしまったことだ。話を聞くとどうやら結婚しているようで、アメリカでは学生結婚も普通にある、と幸せそうに語っていた。とにかくリハビリはいろいろな治療を見ることができてよかった。

### 8月28日(金) : Anesthesia

麻酔科では小動物の手術時の麻酔を担当していた。導入、維持、覚醒などは術者とは完全に切り離されて麻酔科が行っていた。導入のときに、「doppler flow tector」という心拍を聴く簡易的な装置も念のためにつけていた。心室期外収縮のバグかなにかが来ていて、5年の前期の授業でちょうどやっていたところだったのでちょうどいい復習になった。他にはリハビリのときにいたTatorという交通事故に遭い車が燃えてやけどをしたという患者がここでも来ており皮膚移植をする前のドレッシング治療としてMEDIHONEYというハチミツが主成分のものを張り付けていた。手術に同行するのでSoft Tissue とこの日はほぼ同じで、手術室の中で学生と一緒に見た。手術の担当の先生が「トイレはどこですか、Where is the restroom!」と連呼しており謎だった。麻酔とは関係ないが眼科の手術がすごかった。

8月29日(土)

この日はラフティングに行った。これは本当に迫力があって楽しかった。1時間半くらい乗っていたけどそれを感じさせないくらいあっという間だった。自分たちで写真が撮れないのが残念だけど、どのタイミングで撮っているのかわからないようなところでお店の人が撮っているのでいい思い出になるはず。一緒に乗っていた女性のインストラクターがとても明るくファンキーすぎておもしろかった。なのに、途中はしゃぎすぎていたら彼女に真顔で“No.(そんなことしないで的感)”と言われたので驚いた。

夜は夕食後、初めて男女全員そろって前田先生の部屋で飲んだ。

8月30日(日)

Great Smoky Mountain という国立公園に行った。公園の近くなると野生の熊がいたそうで現地の人もみな車から降りて写真を撮っていたが私は見る事ができなかった。代わりに鹿は見る事ができた。広大な自然がとてもきれいで、感動した。回っている途中で現地の人が、この公園内で捕獲された動物について解説していた。様々な動物が見られるようで機会があれば他の季節にも行ってみたいと思った。

8月31日、9月1日(月、火): Soft Tissue(Small Animal Surgery)

先週の金曜に麻酔でお世話になったので、手術が多く行われるのかと思っていたが2日ともほとんど手術はなかった。初めに小さい講義室でレジデントの先生による授業のようなものが1時間程度あった。卵巣摘出術と卵巣子宮摘出術の違いや、インスリノーマのことなどについて話していたが講義内では理解することができなかったのので後で先生に聞きに行っても多少理解することができた。また、1日目の終わりに次の日に行う硬化療法という膀胱鏡を用いる手術に関する論文をもらった。すぐに読んでやろうと意気込んでいたが、研究室のゼミの論文と同じだと考えるととても1日では読めないなということに気づき辛くなった。結局次の日は延期になってしまい見る事ができなかった。また、小動物ではないが、トラの骨折の手術を見ることができてよかった。

9月2日、3日(水、木): Small Animal Medicine

最後のローテーションは小動物内科。学生が診察室に行き体温、聴診などの問診をし、その後ドクターと症例について話し合い、再度オーナーの待つ診察室に行くという形だった。大学4年生(とは言っても他の大学で教養を学んでから獣医学科に進学)が、実際に問診を行うのは知識だけではなく、責任も伴うものだし、それを1件だけでなく複数行っているところが本当に驚いた。手術的には、内視鏡を用いるものが2件くらいだった。学生にも鼻から内視鏡を入れる練習をパグでやっていた。早く終わったときにちょうど Tator の皮膚移植をやっており、外からではあるが見ることが

できた。時間が迫っていたので最後までは見ることができなかったが、手術はうまくいっていたようだった。色々な科に回っていたが Tator も多くの科の先生が見ており、手術まで見ることができてよかった。

また、水曜あたりから金曜のプレゼンの準備に取り掛かった。

9月4日(金): Case Study Presentation

この日の午前は見たい人だけ病院に出て、他の人はプレゼンの最終チェックをし、午後に発表を行った。プレゼンは自分で一つ印象に残った症例を選び、病歴・治療法・今後についてなどを各自5~10分程度にまとめてパワーポイントで発表した。私は馬の皮膚移植について発表した。前日に TED を見てプレゼンのイメージをして堂々と発表することを心掛けた。緊張したが、これもいい経験になった。その後は各科にまわって最後の挨拶をした。夜は学科長の家でホームパーティーをした。パーティーには獣医学科の1、2年生と先生たちが来ていた。学科長の家はまさにアメリカンドリームを叶えたかのような信じられないくらい大きな家だった。パーティー後ホテルに帰ってから、前田先生に感謝の気持ちを込めてあらかじめ買っておいいたケーキを渡し、カーク先生に渡すアルバムを作った。

9月5日(土): 最終日

朝7:15分の飛行機という早朝にも関わらずカーク先生と旦那さんのジョージさんに送っていただいた。最後のお別れはつらかったけど、本当に楽しい研修でテネシーに来てよかったと思った2週間だった。シカゴで乗り換えたがここで1時間時差が生じて、結局帰りは13時間のフライトだった。行きとは違い、みんなの席がばらばらになっていたり画面がついていないものだったので帰りも爆睡した。帰っている途中でスーツケースの車輪がもう一つとれてとても困った。

最後に

テネシーはエキゾチックヤリハビリが有名な大学です。興味がある人はぜひテネシーに行ってみてください。そして英語だけの世界に一人で放り出されて、初めは自分の英語力のなさに絶望しか感じなかったです。基本的にみんな各自やることをやっており話しかけてくれる人はあまり多くないので、勇気をだして話しかけてみてください。みんな丁寧に答えてくれると思います。なんとかあります。また、学生の意識の高さにも驚きました。普段の旅行とは違う研修ということで、とても刺激的な2週間になることは間違いありません。機会があればぜひ参加してみてください。



## 原 基

テネシー海外研修を振り返って

### 8/22(土) 出国

その日の朝、七戸十和田駅で 7:58 発の新幹線に乗り、東京駅へ。12:04 東京駅に到着。12:33 東京駅発、13:27 成田空港着。14 時、成田空港第一ターミナルの南ウイング 4F ユナイテッド航空チェックインカウンターB 付近に集合。手荷物はカバン、2~3 泊用のスーツケース、パソコン、リュックサックの 4 つ。今になっても 6 泊 7 日用くらいのスーツケースとリュックサックとパソコンがあれば十分だったと思います。

配布された最新の資料には、フライトの予定は成田からニューヨーク、そして、ニューヨークからノックスビルに向かうと書かれていたのですが、実際には成田からニューアーク、ニューアークからノックスビルに向かうことになっていました。14:20 から手続きや荷物検査をして 15 時には終わりました。特に荷物検査では筆箱に入れっぱなしにしてしまっていたハサミが引っ掛かり、捨てることになりました。20 分で搭乗口まで移動してから 1 時間ほどの自由時間、その間に日本での最後の食事を済ませました。

17 時くらいに飛行機に乗りました。その後入出国カードが配られました。記入のためにボールペンは用意しておきましょう。宿泊先の住所は携帯で写真を撮っておくなどしておくとかカードに記入しやすくして便利でした。カード記入後、映画でも見ていようと、ヘッドフォンをしてプラグを差し込んだところ、プラグの付け根がパッカリ開き、分解、壊れました。差さりません、、、ずっと寝ていました。首に巻く枕があればもう少し楽に寝られたかもしれません。ニューアークに着くまでに機内食は 2 回出ました。

ニューアークに到着。入国審査が行われました。入国審査後、トイレを探しましたが、なかなか見つかりません。着陸前に機内で済ませておいた方がいいと思いました。バスに乗り、搭乗口へ移動しました。搭乗口での待ち時間の間にお土産屋を見ました。ニューアークにいるはずですが、ニューヨークと書かれたものしか売っていませんでした。WiFi は 30 分間のみ無料で使用できました。

ノックスビルに向けて出発。飛行機は小さめのものでした。

ノックスビルのマクギータイソン空港に到着しました。予定時刻よりも早めに到着しました。日本との時差は 13 時間でした。現地時間 22 日(土)の 21:41 に到着予定であったため、Kirk 先生が迎えに来られるまで待っていましたが、時間になっても先生が来られません。22:40 くらいになってようやく来られました。何かのミスで 1 時間間違えていたようです。先生から帽子やノートなどのテネシーグッズや 2 週間のスケジュール表などをいただきました。スケジュールで変更したいことがある場合は、Kirk 先生に伝えれば変えても

らえるとのことでした。車への荷物の詰め込みをしました。9 人分のスーツケースなど、かなりの大荷物でしたがすべて詰め込みました。そこから 30 分くらいかけて Turkey Creek の Homewood Suites に移動しました。

ホテルにチェックイン。部屋は広く、3 室あり、バスユニットが 2 室、ドライヤー 2 つ、テレビ 3 台、台所用品完備、大きな冷蔵庫あり、ダブルベット 1 つ、シングルベット 2 つ、ソファ 1 つでした。インスタント食品などがホテルの 1 階に売ってありました。ハーゲンダッツがでかかったです(5 ドル)。洗濯機と乾燥機はそれぞれ 25 セント 4 枚で使用できます。フロントに頼めば小銭や紙幣を 25 セントに換えてもらうことができました。

ホテルでは WiFi が使用できました。

この日は小雨が降っていました。雨が降ることは珍しいことだそうです。天気が雨であるため、日曜にグレート・スモーキー・マウンテンに行くことは中止になり、ショッピングに変更になりました。

### 8/23(日) 大学案内

この日は Kirk 先生に大学へ連れて行ってもらいました。

起床後、ホテルの朝食。フライドポテトしか野菜がありませんでした。ソーセージ、ハム、ハンバーグがローテーションで変わります。ヨーグルト、ワッフル、シリアル、フルーツ、パンなどがありました。

Kirk 先生が来られる前に、ホテルの西側にある Earth Fare というスーパーを見に行きました。

13 時にホテルを出発し、テネシー大学の近くにある Calhoun's on Tennessee River で昼食を食べました。14:20 に食事を終え、大学内へ移動し、案内してもらいました。小動物や大動物の診療施設を見て回りました。迷子になるくらい入り組んでいました。大学内でも WiFi が使用できました。17:10 には案内が終わり、買い物に連れて行ってもらえました。17:30 にアップルストアウエストタウンモールに到着し、見て回っていましたが、日曜の営業終了時間は早く 18 時までということもあり、特に何も買えませんでした。18:45 に Kirk 先生が迎えに来てくださり 19:10 にはホテルに帰り着きました。太陽は 20 時くらいまで沈みませんでした。次の日に分かったことですが、日の出も遅く 7 時でした。夜にはホテルの南側にある Walmart というスーパーで飲み物や洗剤などの日用品を買いました。

### 8/24(月) Pathology : 病理学

学校がある日は 7:25 に Kirk 先生がホテルまで迎えに来てくれます。ただ、この日は 7:45 にホテルを出て、8 時すぎに学校に着きました。白衣、スクラブ、聴診器、メモ帳などを持っていきました。

一日目は病理学でした。白衣を着用し、案内されたところへ行きました。先生 2 人、学生 10 人くらいのと

ころに行きました。実際に行った内容は検死でした。午前のうちはオリエンテーションに参加し、解剖の動画を見ました。先生が成績評価について話したり、レポートの話をしていたりしていました。午後はウシやトラ、インコ？、ハクビシンのような小動物などを皆で手分けして解剖しました。つなぎや長靴などは貸してもらえました。解剖に入る前に、ミーティングがあり年齢や外観やその症状などから死因として考えられるものについて話していました。ウシでは肝臓にチーズ様膿瘍が詰まっていたり、妊娠していて死んだ胎児が確認されたり、トラの脊髄の断面をみたり、小動物の脳にできた不自然な空間をみたりしました。解剖の手順が書かれた資料があり、それに沿って解剖を進めていきました。解剖の手伝いはさせてもらえました。ウシの乳腺を切ったり、関節を切断したり、首を切り落としたり、眼をくりぬいたり、脳を取り出したりなどできました。前肢の関節の切り方がよく分からないときなどはやってくれました。また、学生の方から首を切り落とすときのコツや目の切り出し方について教えてもらいました。

ミーティングの際にも思いましたが、先生と学生の仲がたいへんよく、距離が近い感じがして居心地がよかったです。

解剖が終わると、先生は他の学生や先生方を集めて今回の解剖の結果の説明を行っていました。

17:30には Kirk 先生の部屋の前に集合し、ホテルへと帰りました。毎回、このような流れになります。

ホテルに帰り着いて、解剖の際に分からなかった英単語を調べました。

### 8/25(火) Pathology : 病理学

午前10人くらいでまとまって顕微鏡で病変部位を観察しました。先生が映し出す顕微鏡の様子を皆で見られるシステムでした。8:30に始まり9:30には解説が終わり、13時からミーティングということになったので解散になりました。その間、英単語を調べたり、大学内をぶらついたりしてみました。外は晴れで昼の気温は33℃くらいでしたが、蒸し暑くはありませんでした。今思えばこのあいている時間に他の研究室を見て回り、見学させてくれるように頼んでもよかったですと思います。昼飯は獣医学棟から歩いて3分ほど、北西にある Mables' Café へ行きました。事務の方に教えてもらいました。日替わりバイキングの店で、その日はチキンライスが食べられました。

13時になりミーティングに参加しました。学生が昨日の解剖の結果から、死因について説明を行い、それに対して先生が意見や質問をしていました。それが一通り終わると、今日の解剖についての話が始まりました。今回の解剖は猫一体でした。その猫についての情報を先生が話し、それについて考えられる死因について学生に質問を投げかけていました。

13:40くらいにミーティングは終わり、その後、解剖棟に移動しました。猫は太っており、片方の腎臓が腫

大しており、胆臓に出血痕のような赤いぶつぶつが見られました。肝臓は少し赤黒めででした。今回は両目のくりぬきと腸管開きをやらせてもらえました。

16:20には解剖が終わり、少し早かったのですが終わりということになりました。

解剖の前には先生に日本のお土産を渡していました。リンゴあめと南部せんべい、よもぎもちを渡しました。次の日に病理研に行った人曰く、あめともちは好評でしたが南部せんべいは味が薄く不評とのことでした。18時すぎにはホテルに帰り着き、ホテルの南側にある Brix Wood Fired Pizza にて夕食をとりました。

### 8/26(水) Small Animal Medicine : 小動物医療

次の研究室に配属されました。白衣を着て、聴診器とメモ帳、電子辞書を持っていきました。案内されたその部屋には天井からクリスマスで使用されるようなイルミネーションがつけられていました。20人くらいの人が入り出りして、うち男性は1人だけでした。

血液採取、体温測定、ACTH 負荷試験、グルコースの測定などが行われていました。採血は頸静脈から行っていました。来院した犬たちはどの子も暴れるということがないことに驚きを覚えました。保定がうまいというのではなく、犬たちがおとなしく従っているという感じで、病気のため元気がないということもあるけれども、犬たちはしつけがしっかりとされていると感じました。吠えたり、噛んだりするような子がいませんでした。連れられてくるときも勝手なことはしていませんでした。このような子たちが相手であれば獣医師としても診察しやすいと思いました。

途中、学生の人々の問診についていき、その様子を見ていました。問診用の部屋が設けられており、ここでは、まず学生がオーナーさんの元へ行き、ペットの子についての質問をしていました。その異常やワクチン接種などについて話を聞き出します。犬の心拍数や呼吸数の聴診、耳の中や目を調べ、体温測定や体重測定を行っていました。一通り終わると、オーナーさんたちには待ってもらい、学生は先生の元へ行き、自分が行ったことの報告と話し合いを行っていました。どのような病気が考えられるのか、また、そのように考えた理由についてなど話し、それが終わると、先生と学生はオーナーさんの元へ行き、先生が改めていくつかの問診を行い、ペットの子を預かっていた。預かった子の体温測定、心拍数などのチェック、採血などを行ってから、ケージの中へ入れていました。

その日には尿石症の子の手術があり、手術室外に設置されたモニターで内視鏡の映し出す映像を見ました。バスケットを開閉させて、石を取り出すというクレーンゲームのような手術でした。

また、ICU(集中治療室)にも連れて行ってくれました。右後肢をボートのスクリューに巻き込まれたため、右後肢を切断したゴールドレトリバーがいました。その子のオーナーさんたちがいらっしや、その子の頭

にキスをしたり、頭をなでたりしてあげていました。「Good boy」と何度も言いながら、やさしくなでていました。その様子に感動しました。その後、獣医師とオーナーさんは、その子の腹部にベルトをして下半身を持ち上げる形で歩かせていました。

16時になるとディスカッションの部屋へ行き、それぞれの学生が担当している子たちの様子やその経過について先生と話し合いを行っていました。僕には会話がほとんど聞き取れなかったため、ところどころ分かる単語からどのような状態にあるのかを考えました。夜、ホテルに帰ってから、9人全員でホテルの隣にある Connors Steak & Seafood で食事をしました。

#### 8/27(木)

朝 9時からミーティングがありました。15人くらいで、それぞれが担当している子たちについて話し合っていました。先生がときたま質問をしますが、ほとんど学生がそれぞれの子について話していました。

研究室に来た子たちの採血、心拍数や呼吸数の測定、尿石症の手術が行われました。いびきのような呼吸音をした子や、ガラガラとした呼吸をする子などが来院しました。

ふと流し台の方をみると犬の手形の入った石膏があり、質問してみると、亡くなった子の手形だと言われました。形見としてオーナーさんに渡すのだそうです。途中から、先生方や学生も報告書の作成などのため、ほとんどの人がデスクワークに移り、尿石症の手術をずっと見ていました。尿石症の手術では、直径 2~3mm ほどの石が 5つくらい取れていました。

終わりに、日本のお土産としてするめを渡しました。評判がよかったかどうかは分かりません。

この日の帰りに Kirk 先生がテネシーショップに連れて行ってくれました。

8/28(金) Community Practice : 実践コミュニティースケジュール上、この研究室には一日だけいました。8人くらいの人たちがいて、その中にアジア系の先生がいました。使用している物品などについてその人に質問したところ、犬用のシャンプーを 1箱(シャンプーが 30袋くらい入っていた)や犬用のおやつを 3袋ももらってしまいました。はきはきとした人でした。ここでは猫の保定の仕方についてレクチャーをしてもらいました。毛布を用いた方法でした。猫は犬に比べるとまだ少し暴れてはいましたが、それでもおとなしい方でした。

研究室には動物用のお菓子がたくさんありました。仔猫用のものや犬用のチーズやピーナツバターなどといった嗜好性の高いものも用意しているそうです。なんでも注射されていようが、それが気にならないくらい夢中に食べるのだとか。埋め込んだマイクロチップを読み取る機械もありました。この日はどこの研究室にも食べ物の差し入れがあったようで、昼食にタコスが配られました。

昼はしばらく時間が空くということで、別の研究室におじゃまして、説明を受けてきました。

行ったのは Small animal Rehabilitation : 小動物リハビリです。

段差やバランスボール、トレッドミルによるリハビリや酸素供給装置、電気刺激によって骨の成長を促進する装置などをみました。また、浅く水を入れて負荷を与えるリハビリや、肩付近まで水を入れて負荷を軽減するリハビリなどの説明を受けてきました。

15時になり元の研究室に戻り、学生が問診を行う動画を見ました。その動画についてよかったところや悪かったところなどの意見を先生や学生が出し合っていました。その話し合いは長く 2時間近く話し込んでいました。

終わりに日本のお土産として、グミとコーンスターを渡しました。

この日も帰る際に、Kirk 先生に昨日とは別のテネシーショップに連れて行ってもらえました。

ホテルに帰ってからは、ラフティングに必要なサンダルやサングラスなどを買に行き、皆で Five Guys Burgers and Fries でハンバーガーを食べ、前田先生の部屋で飲み会を開催しました。

#### 8/29(土) ラフティング(川下り)

Ocoee River へ連れて行ってもらいました。Kirk 先生の夫のジョージは気さくでいい人でした。

10:10 ホテルを出発

11:15 マックにて昼食

マックのハンバーガーのサイズは日本と同じでした。

11:50 マックを出発

12:30 川下りの準備をするためのお店に到着

着替え、買い物 サングラスも売っていました。

14:00 映像説明と諸注意

ベストやヘルメット着用、オールを持っていく。

15:10 バスで移動

15:35 くらいに Ocoee River に到着

ラフティング開始

16:35 終了

16:45 くらいにバスで移動し始める

17:15 お店に到着

着替え

17:50 帰り始める

19:25 ホテルに帰り着く

#### 8/30(日) グレート・スモーキー・マウンテン

詳しく時間をメモっていなかったのですが、時間はとびとびです。

11:10 ホテルを出発

マクギー・タイソン空港、メアリービル、タウンセンドと通って山に入りました。

12:40 お土産屋に到着

お土産屋を出発



13:00 昔の建物を見る

13:30 一つ目の教会に到着

二つ目の教会に到着。草原を眺めながら巡って行きました。

14:15 二つ目のお土産屋に到着

お土産屋の付近で、毛皮の説明を受けたり、水車の見学をしたりしました。

15:40 野生のシカに会う

16:00 一つ目のお土産屋さんに戻る

16:20 移動し始める

小雨が少しだけ降りました

17:05 滝(Laurel Falls)への道の入り口に到着

1.3 マイルコース

17:40 くらいに滝に到着

17:50 駐車場に向けて帰り始める

途中小雨が 5 分くらい降りました

18:10 入り口に到着

18:15 出発

19:40 ホテルに到着

夜は皆で Brix Wood Fired Pizza に行き食べました。

8/31(月) Exotics : エキゾチック

この研究室の人数は 7 人くらいでしたが、やることはたくさんありました。この日はハトが 2 羽、ウサギが 5 羽、ネズミの赤ちゃんが 1 匹いました。午前にハトの嘴や首元、足先や羽の検査が行われていました。ウサギについては聴診、眼の検査、耳の検査、体温測定や歯の検査、鼻汁検査などがなされました。午後にはトラが運び込まれ、レントゲン写真が撮られ、右後肢の骨折治療を見ることができました。この日は帰る前に、テネシー大学にある大きな岩に皆で落書きをしました。

19:00 落書きペイント開始

写真撮影

19:45 出発

20:15 Hot Rods 50's Diner に到着

21:35 出発

23:00 くらいにホテルに到着

9/1(火)

昨日のトラの手術は 22 時くらいまでかかったと聞きました。この日は子ウサギへのミルクやりやウサギへの皮下注射のやりかた鳥の保定の仕方などを学びました。死体として届いたハヤブサの死因を調べる作業も見ることができました。羽毛を剥がし、胸筋を取り外し、気管の切り出しなどが行われました。リスに寄生したウサギヒブエの除去は皮膚から押し出すだけなのですが、なかなかグロテスクなものでした。首に傷害があり生きていけないと判断されたカケスの安楽死、フクロウからの採血などにも立ち会えました。貴重な体験ができたと思います。日本のお土産として、ホタテの貝紐を干したものを渡しました。

9/2(水) Anesthesia : 麻酔

常に忙しい研究室でした。20 人くらいで手術を上手く回していました。ホワイトボードにその日の手術の予定が載っていましたが、略称で表記されていたので、携帯でそのワードを調べる、カルテを見せてもらうなどしました。動脈管開存症の子の手術は麻酔や毛刈りに 1 時間かけ、右横臥位にして始まりました。術者、助手、器具出しで 3 人、記録、麻酔で 2 人、5 人見学の 10 名がそこにいました。皮膚から切開していき、器具で術野を広げ、綿棒で血を取り除きながら切開をしていました。動脈管を結紮してからは、ドレインチューブの差し込みが行われ、チューブの保持のためにチャイニーズトラップ縫合がなされるなど、5 年生で習ったことが行われていました。手術は麻酔や毛刈りを行って、手術室に移動してから 1 時間 40 分で終わりました。

他に脾臓摘出の手術や膵臓摘出の手術、胸腰椎間盤疾病の手術を見ることができました。胸腰椎間盤疾病の手術では関節突起部分を削っていました。夜はみんなで Chipotle というメキシコ料理屋さんに行きました。

9/3(木) Anesthesia : 麻酔

研究室を巡る最後の日です。この日は白内障の手術を 2 回見ることができました。イヌに麻酔をしてから、目の周りの毛をバリカンで刈っていました。手術室に行ったのですが、術者の人が気分よく手術をするためか、ディスコボールライトがつけられ、音楽を流しながらの手術が行われました。かなり細かい作業でしたのでこちらの方が、気が滅入らずに済むのかもしれない。イヌを背位に固定し、眼球に小さな切れ込みを入れて、白く濁った水晶体を超音波振動により破壊し、それを取り出し、代わりに人工のレンズを入れていました。そして、眼球に入れた切り込み部分を縫合していました。手術室に入ってから 1 時間 10 分ほどで片目の手術は終了してしまいました。使用した針を見せてもらいましたが、これがまたとても小さいもので米粒以下のサイズでした。目の周りの消毒も施してから、二つ目の手術に入っていました。こちらも 1 時間 5 分で終わりました。

2 回目の白内障の手術では目の一部にシストが存在していたためテンションリングが入れられる手術になりました。

他に犬の耳元にできた膿瘍の手術を見ました。洗浄やドレインを何度も行っていました。

9/4(金)

パワーポイントでの症例発表の日です。朝学校に行って、修了証明書の配布や記念写真の撮影がありました。14 時から症例発表を行いました。最大で 12 名の観客が訪れました。1 人あたり 6~8 分の発表となりました。僕は尿石症について発表しました。もらったカル

テの内容の読み込みが不足、拙い英語力のためにちゃんと伝えられたか不安でしたが、とりあえず終えることはできました。

その後は、いったんホテルに戻り、Kirk 先生に連れられて、ホームパーティーに行きました。

18:00 ホテルを出発

19:00 Bays Mountain Golf Course という場所の南側あたりに到着

ホームパーティー、70 人くらい先生方がいらっしゃいました

21:00 くらい？ 帰り始める

23:00 前田先生の部屋で打ち上げ

9/5(土)

出国の日。なぜかこの日の記憶が一番おぼろげです。確か 5:30 にホテルをチェックアウトしました。Kirk 先生にアルバムを渡して一緒に写真を撮ってから別れました。本当に毎日毎日、車で送り迎えをしてくださり、また、遊びや食事にも連れて行ってくださり、これ以上ないほどにお世話になりました。

7:40 にノックスビルのマクギー・タイソン空港を出発。

8時過ぎにシカゴに着き、3時間近く自由時間でした。

途中、携帯を落としてしまいましたが、入国審査を届けてくれた人がいたおかげで、戻ってきました。12:05 にシカゴから成田へ。

9/6(日)

日本に帰り着きました。成田エクスプレス、東北新幹線と乗り換えて十和田に帰ってきました。

感想

思い返せば、もうかなり前にあったことのように思える。凝縮された毎日でした。自分の英語力のなさを痛感し、それでも質問できることはしよう、何かできることはないかと考え行動しました。無駄に過ごしてしまったと思う時間もあります。けれども、得たものはもちろんあります。質問をすれば、言葉や図や文章で答えてもらえて理解することができました。先生方や学生がみんな楽しそうに動物の相手をしていたのが印象に残っています。

Kirk 先生をはじめとする先生方、フォローをしてくれた学生の方々、海外研修を許してくれた家族、引率をしてくださった前田先生、そして、一緒にテネシーへ行ったメンバー、本当にありがとうございました。

三原 衣理

・ 8/22(Sat)

始発の新幹線に乗り、13 時頃に成田空港へ到着した。全員集合した後、早々に搭乗・出国手続きを済ませターミナルで待機した。搭乗後、結構早くに機内食が出てきた。メニューが聞き取れず、すこし悲しかった。機内では、時差ぼけ防止にと 4 本程映画を見続けたの

で、飛行機を降りたらかなり疲れてしまった。

また、今回はニューヨークで乗換えだったので、とても立派な空港を勝手に想像していたが、乗り換えのために訪れたターミナル A は国内線だからなのか結構こぢんまりとしていた。ノックスビル空港に到着後、なんとか Kirk 先生と合流し、ホテルまで送っていただいた。

疲れていたが、無事に到着したことを祝ってすこし飲んで、その日は寝てしまった。

・ 8/23(Sun)

少し早く起きて朝食を取った後、軽く散歩し、その後全員で近くのモールに買い物にいった。13 時に Kirk 先生と合流し昼食を一緒にとった。大学の近くのお店で、この地方の伝統料理を味わえるらしく、オススメを教えてもらい注文した。出て来た料理は美味しかったのだが、ハーフサイズでもかなり大きく、完食は早々に断念した。

その後、明日からのために病院内を案内・説明していただいた。しかし、かなり施設が広く、結局部屋の位置はほとんど覚えられず、翌日からの研修にかなり不安を覚えた。

ホテルに戻ってきてからは、バスケやプールで少し体を動かし、その後ホテルの近くを散歩した。近くに 31 があったので、日本では見たことのない味を頼んでみたが、意外と普通で美味しかった。

・ 8/24(Mon)

今日から exotic 科でお世話になることになった。英語が早くて中々聞き取れず何度も聞き返してしまった。最初に軽くオリエンテーションを受けた後、Bob cat の子供が連れてこられた。狂犬病が疑われ、発作が出ており野生動物ということもあって安楽殺された。その後入院している cotton tail rabbit の赤ちゃんの世話を見学し、鳥の死体を用いてサンプルの採取方法や処置の方法を体験させてもらった。午後は、左足を怪我して自力で掴むことが出来なくなった baun owl(メンフクロウ)を安楽殺した。また、眼に異常が現れた錦鯉が患畜としてやってきた。途中から眼科も一緒に検査を行っていた。錦鯉が病院に来たのは初めてだったらしく、鯉について何か知っているか？と聞かれたが、nothing としか答えられなかった。

・ 8/25(Tue)

今日は予約が多かったみたいで、診察室には多くの動物がやってきた。自分で羽をちぎってしまった Macaw(コンゴウインコ)や、右足がナックリングしている caiqu(シロハラインコ)、歯に異常があるチンチラや皮下に複数箇所膿瘍が出来てしまったウサギなどがやってきた。チンチラは過長歯で、何度も来院しているらしかった。膿瘍が出来たウサギは急遽オペとなり、広範囲に切除を行った。

また、リスの赤ちゃんへの給餌もやらせてもらった。

2時間おきに2~4mlを給餌した。

・8/26(wed)

予定を変更してもらい、**exotic3**日目。水曜はオペの日だったらしく前日に入院したモルモット 2匹の**OVE**を見学した。気管挿管が出来ないのでマスクで麻酔を維持し自発呼吸を残したまま、オペを行っていたことに驚いた。オペ後には、口腔内に異常がある**sugar glider**が来院した。抜歯してみると、すでに歯がボロボロになっていた。

同じく前日に入院していたフェレットには麻酔をかけ、レントゲン撮影や血液、尿検査を行っていた。

・8/27(thr)

CPの部屋に行ってみると、今日は診察ではなくオペの日だったらしく、**Kirk**先生に施設まで車で送っていただいた。施設に入ってみると、今から留置をとろうとしている所だった。学生が1人で執刀し、もう1人が麻酔管理などを行っていた。麻酔管理に関しては、導入中や覚醒時は教わってきたものと違っており、驚いた。術中のモニターに関しても、心電図よりも血圧の方を重要視していた様に見えた。血流を利用して心電の音を拾い、これを心拍数として数えていた。

術後は、下腹部を少しだけ切って **animal tatoo ink** というインクを入れていた。これで避妊を行ったというのが、誰でも分かるようになっていたらしい。

午後は、学生が診察室でオーナーと話し合っている様子を録画しており、これを各自観察するポイントを決めてから見て、話し合いが行われていた。

1日の終わりの最後に、CP担当の先生が次の日の診察に関する話をしていた。この日はワクチンに関する話して、接種時期やワクチンの種類について学生とやりとりしていた。

・8/28(fri)

この日は麻酔科でお世話になった。挨拶をする際に、今日はとても忙しい日だ！と言われ、予定の書いてあるホワイトボードを見ると確かに結構な件数が書き込んであった。麻酔導入の部屋には、薬の名前が書いてあるシールが沢山おいてあった。これを、シリンジやカテーテルに貼付けており、手軽だし、色で分けられていたので見分けやすいと感じた。最初に見せてもらったのは、**PSS**のヨーキーだった。エコー検査を行うと **PSS** の影響か膀胱中に多数の結石が確認された。

検査後、麻酔を導入しオペ室に運ばれた。麻酔記録には、多数の項目があった。中でも、**ASA**(麻酔リスクを表すもの)や **BG**(血糖値を表すもの?)は今まで見た事が無かった。心電図は、直接金属製のクリップで挟んでいた。こちらの方が、パッドのずれなどを気にしなくてよいので、心電が取りやすそうだと感じた。

術後は、**ICU**に移動して覚醒していた。その際、覚醒用のシートを用いて覚醒を行っていた。ある程度様

子をみたら、**ICU**の人と情報を共有して任せていた。

2件目は、上顎歯茎?にメラノーマが出来た黒ラブのオペを見学した。既に、導入は済んでおり、オペが始まる所から見学させてもらった。ラテの状態、下顎に気管チューブを固定して、オペを行っていた。

最後は、結膜移植を見学した。マイクロ顕微鏡の映像は、オペ室内のテレビに映されるので、どういう処置を行っているのか直接見る事が出来た。

・8/29(sat)

この日はずっと楽しみにしていたラフティングの日。2時間程車に揺られて、集合場所についた。ここで、注意事項を聞くのだが、やはり早く聞き取りにくい(笑)

一番前に座ったため、流れが凄い所ではおもしろい鼻に水がはいってきた…。しかし、天気もよくてめちゃくちゃ楽しかった。

・8/30(sun)

今日は、グレートスモーキーマウンテン国立公園に連れて行ってもらった。ここは、アメリカでも人気の国立公園らしい。運が良ければ、**Black bear**が見られるらしい。**Black bear**は見られなかったが、トナカイは見る事が出来た。また、途中で、水車で小麦を挽く所などを見学した。

その後、**kirk**先生も好きだということも大きなソフトクリームを食べて、帰りにトレッキングをした。このトレッキングはずっと坂道が続いたので結構疲れてしまった。

・8/31(mon)

今日から2日間は、リハビリテーション科でお世話になった。部屋につくと、一匹のダルメシアンが車椅子に乗っていた。この子は、階段から落ちて、立てなくなってしまうらしい。初めて車椅子にのっている子を見たが、想像以上に器用に乗りこなしており驚いた。

結構予約が入っていたようで、次々と患者がやってきた。その子達のリハビリを見ながら、どのような事をやっているのか説明してもらった。

ここでは、オーナーさんが一緒にリハビリされる事も多いみたいだった。また、ご褒美として、ペット用のチーズがおいてあった事にアメリカらしさを感じた。肥満気味の子にはおやつをあげないのかと思ったが、そんな事は無く、むしろ好みのおやつがあるので、チーズを結構な頻度であげていた(笑)

その後、**Tennessee** 学内の岩に皆でペイントを行った。以外と岩の頂上は高かった(笑)

・9/1(tue)

2日目は、**UWTM**(アンダーウォータートレッドミル)の見張りなどをやらせてもらった。また、この日は、初めてくる子がどのようなリハビリを必要としているか、その子はどのような事をして欲しいかを見るた



め、ミーティングのようなものをやっていた。

他には、前日に TPLO のオペを行った子をリハビリ科で預かり、オーナーさんが迎えにくるまでどれだけ関節が動くか測定したり、ストレッチを行っていた。

#### ・9/2(wed)

残りの2日間は、軟部外科でお世話になった。PDA のオペや、インスリノーマ疑いの子の CT 撮影、MCT と lipoma の摘出オペ、皮膚移植の見学をさせてもらった。

PDA のオペでは、遺残してる血管の結紮が済んだら残りの縫合などはレジデントと学生で行っていた。また、腫瘍の摘出オペでは、一番大きな MCT の摘出後は同時に3カ所の lipoma 摘出を行っていた。複数箇所オペでも、同時進行で行っていたので思ったより早く終了した。

最後の皮膚移植は、交通事故で火傷を負ってしまったこのオペだった。中々皮膚がくっつかなかったのが、今回皮膚移植に踏み切ったそうだ。大腿部の皮膚を切開し、下腿部に引っ張ってきていた。

#### ・9/3(thr)

2日目は、受け入れの日だったらしく、陰嚢が腫大したゴールデンや、前肢に膿瘍？腫瘍？のようなものが出来たフレンチブルドッグなど色々な子がやってきた。

また、Sclerotherapy(硬化療法)という治療法を、初めて聞いたので、この子についてスライドで発表しようと思い、この日はほぼこの子についてのカルテを見させてもらっていた。それを見ていると、どうやら今日オペをやっているらしい事がわかった。しかし、かなり後になってからだったので、オペの内容はほとんど見る事が出来なかった...これが今回の実習で一番後悔した事である。

#### ・9/4(fri)

前日にほぼ寝ずに原稿を作ったので、かなり眠かった。午前中は、学内での買い物とスライドの最終調整に時間を費やした。時間が近づくに連れてかなり緊張したが、なんとか発表を終える事が出来た。

夕方からは、学部長のホームパーティに参加させてもらった。むこうの1、2年生達に混じって、南部式のホームパーティを満喫させていただいた。翌朝が早朝のフライトだったので、早めにパーティーから帰宅し、Kirk 先生へのアルバム作りや、パッキングを行った...それでも寝れたのは2時間程度なのでかなり辛かった...

#### ・9/5~6(sat~sun)

寝過ぎてバタバタしたが、なんとか集合時間には間に合わせる事が出来た。Kirk 先生夫妻に空港まで送っていただいた。本当に色々とお世話になりました。早めに保安検査を終えて、軽くご飯を食べた。乗り継ぎのシアトル空港では、結構時間があって、ずっ

とうろついていた。

復路は、見たい映画が見れなかったのがほとんど寝て過ごした。復路便でも、食事の質問は聞き取り辛かったので、訛りのせいだと考える事にした。無事に成田空港に到着し、解散となった。

### 茂木 郁佳

#### コミュニケーションプラクティス (CP)

1日目、木曜日の午前中は避妊、去勢手術の時間帯らしく学生がオペをしていた。その日は避妊のオペが行われていてそれを見学していた。学生が麻酔から挿管、オペまでできる環境はやはりすごい。しかもうらやましかったのは一回にオペをする学生の人数は4人でそれに対し先生が2人いるためオペをしながら先生のアドバイスを受けられる時間が多く、こういう時の手の向きはこうした方が良いとか卵巣が見つかりにくい時はこう探すだとか、もちろん事前に学生自身が勉強していくものの、そういう技術は網羅しきれないため先生がやりながらコツみたいなものを教えるというシステムだった。日本と違うところは、心電パットをつけるのではなく皮膚に電極を挟む方法であったこと、血圧を測る機械が私は初めて見た機械(もしかしたら外科の研究室の人は毎回見ているものかもしれないが)であったことくらいで、オペの手順とかは実習で私たちが行った方法とほぼ同じようであった。

(もちろん少し違ったところはあるが)それで午前中は終了。昼を食べて今度はミーティングに臨んだ。これは学生が実際にオーナーさんと会話をしているところをビデオで録画したものをみんなで見返して意見を言い合うためのミーティングである。医療面接実習とすこしばかり形式が似ているがもちろんアメリカの方は実際のオーナーさんと会話をしてペットを診断しているためこちらの方がスケールはでかい。ちょうど私がみたビデオのオーナーさんは会話が大好きで色々なところに話が脱線してしまう。これで学生の方が手を焼いているビデオだった。ビデオも長すぎて途中ですべてを見るのを諦めたほどだ。この時先生はどのように会話をもとに戻すかという事を詳しく話していたがすべては聞き取れなかった。面白かったのは途中で電話が来て、新しい予約が入った体にしてあと少しだけ時間が取れると嘘をついてしまえという事だった。なるほどと思ったが堂々と悪知恵を教える先生はなんか面白かった。あとは電話の予約の時点でよく脱線するオーナーさんと知っていたら時間は20分しか取れませんとやんわりと予め伝えておいて、診察の時になったらその時間をタイムリミットとしてお話するのもありだと話していました。もしかしたら冗談でそういう技を教えたのかもしれませんが、私にはまだ冗談と本気を聞き分ける能力がなくすべてを本気ととらえてしまいました。このミーティングが終わり、今度は基礎知識の確認のための勉強会みた

いなものに参加した。この日はコアワクチンとノンコアワクチンの種類、またそれぞれの病気にかかった時の動物の症状など先生が学生にクイズ形式で出しておりこういう方法なら楽しく覚えられそうだなと感じた。ミーティングの途中であったが時間になったためこの日は終了せざるを得なかった。

2 日目、最初は怖がっている子猫の保定の仕方を VT さんが学生に教えていた。タオルを使った方法で感心するものばかりであった。次はテネシーの学生さん（ドミニク）と一緒に診察に入り、保定や検査と一緒にやらせてもらった。普通に日本の 1 次診療と同じで、逆に学生が獣医さんと同じレベルにいることにびっくりした。オーナーさんとの会話から始まって聞き方がオープンからクローズになっていって犬を預かったのち一般的な血液検査、身体検査、眼底検査、関節の検査、細菌検査などすべてをドミニク（学生）が行っていた。知識量がまるで違うことに驚きもしたし、やはり少し悔しかった。ただ検査の仕方は日本とはほぼ同じで格別何かが違うというところはなかった。カルテを見せてもらったらちゃんと SOAP で書いていた。この時に診察した犬の名前は Gizmo といい、最終日のプレゼンでその犬について話したがその時の話はまた後で書く。ドミニクとも 1 悶着あったからそれについても後で詳しく書こうと思う。午後はまた昨日と同じくそのビデオをみてみんなで意見を出し合っていた。その後のミーティングは何歳か分からない子犬が診察にきた。という体でまず何をすべきかどこを見るべきかをみんなで話し合っていた。やっぱり少しこういう環境がうらやましかった。あともう少し英語を聞き取れて話せるようになってこのミーティングで意見を出してみたかった。CP 終了。

#### エキゾチックアニマル

エキゾチックはまず朝の入院患者の面倒を見る。私がいるときにはパスツレラにかかっているウサギ、飛べなくなった野生の鳩、生後何日かのネズミ。このネズミはアメリカではすごい人気らしく盗まれたりするらしい。このネズミにご飯を食べさせたり、鳩の保定をしたりしたがどれもやはり向こうの学生のほうが上手かった。ほかにも診察に来たのはオウムや亀、葉状条虫みたいな寄生虫に感染したリス、骨折したアメリカライオンなどがいた。やはり一番印象に残ったのはアメリカライオンだ。アメリカライオンといったがこちらではクーガで有名だ。脛腓骨の骨折で来た。なぜ骨折したかは理由がわからないようだ。ちなみに動物園で飼われているわけではないらしい。タイガーヘブンという団体が飼っているようだ。そこらへんはよく分からなかった。オペをするとき麻酔記録はエキゾの人が書いて、オペは整形外科の人が行っていた。挿管は学生が行っていた。すごく近くへ行き真後ろから見てみたがやはりそこは犬、猫と格段違ったところではなかった。ただ挿管の時、エキゾに限らず北里では舌根部を喉頭鏡で押すと教えるがこちらでは喉頭蓋を

直接下に下げろと教えていた。些細な違いだが…。麻酔記録をしていた学生が少し離れなければならなくなり、30 分程度だったが麻酔記録をやらせてもらった。その時クーガの聴診を行って心音や肺音を聞いた事が少しうれしかった。オペは自発呼吸を残して最初行っていたが EtCO<sub>2</sub> が最初から 46~50 付近をうろついでいてなんか心配になった。50 を超えたら 1 度バックを押して値を下げてはいたがさすがにその頻度が多くなり調節呼吸に変えていた。最初から調節にすればいいのには思った。最後までオペを見ていたかったが時間が来てしまい途中で抜けることになってしまった。ほかにも安楽殺を行った鳥を使って、腹腔鏡を用いて腎臓のバイオプシーの仕方を教えてもらった。実際に腹腔鏡を入れさせてもらい画像を見ながらこれが何の臓器で腎臓がここでとか色々教わった。日々が経つにつれてこの環境が羨ましくなった。鳥の解剖を行って死因を究明することも学生が行っていた。エキゾ終了。

#### ラジオロジー

午前中は学生が読影の勉強を行う。読影を行うための部屋があり先生が出した画像について学生が所見を述べていく。何の画像を見るかはその日によって違い私が行った 1 日目は最近来た症例の面白い画像を先生が提示しそれについて思った意見を学生が次々と言っていく方式だ。私はパソコンの使い方が分からなかったため 1 人の学生について見せてもらった。教授は早口すぎてほぼ聞き取ることができなかったがその学生がとても親切だったため先生が話しているところを指してくれていた。そこで思ったのが向こうの学生の方が読影力は上ではあるが他の科のように果てしなく上を行っているわけではなく、正直頑張れば追いつけそうな気がした。ちゃんと頑張ればの話ではあるが。この時間が終わったら、学生は 2 人組になって撮影、エコーの保定、読影の練習に分かれ 17 時まで各々作業する形をとっていた。この方式もいいなと思った。撮影は鎮静剤をうって動物の手足をロープで保定して行っていた。この時思ったのが、画像がローテーションしているかどうかの判断は先生が行っていて、どこを見てローテーションしているのかどう取り直せばちゃんと撮影できるのかを学生は分かっていたので北里の放射線科にいる学生の方が撮影の方法を知っているのだなと少し誇らしく思った。そこで、ここを中心にしてとってみたらどうかと提案してみても上手いといったことも自分の自信に繋げることができた。しかし撮影室は 2 つあって 1 つの部屋では学生がとり、主に整形や大型犬などは VT さんがもう 1 つの部屋で撮影していたが凄くうまかった。私たちは動物を用手保定しているためローテーションしていたら今度はこう動物を動かしてとってみようとなるのだが、テネシー大学はさっき言ったように動物を触らずにロープとテープで保定するためずれていたらコリメーターを～度ずらしてみようとかテープの

張り方をこうしてみようとか正直私が思いつけないいくつかの方法で撮影していた。それでぴったり合うのだから舌を巻くほかなかった。エコーは私の勉強不足が明確になってしまった。技師さんがエコーを当てながら説明してくれるのだが、疑問が多く残ってしまった。しかもそれをうまく伝えられなく、悔しい時間となった。1日目は主に撮影室にいて2日目は主に学生と読影の練習をしていた。同じ部屋に先生たちもいて先生は実際の患畜の画像を評価し、学生は先生が作ってくれたパワポで勉強していた。分からない所はすぐに先生に聞ける環境だった。そこで色々分からない所を聞いたり、自分の意見を言ったりして結構有意義な時間が過ごせた。ラジオロジー終了。

## 行動学

1日だけ行動学に行った。そこは学生はおらず先生と1対1だった。1つの部屋に先生とオーナーさん問題がある犬が来て少し距離をとって会話する方法だった。本当にほぼ先生とオーナーさんの会話だけが続き、ついていけなくなり心が折れそうにもなったが何とかわかる単語だけで話をつなげていったが、1件目は庭に家族以外の人が入ってきた時に吠えてしまう問題行動を抱えた犬がきた。入交先生はそういう時は人がくる気配がしたら餌を床にばらまいて餌を拾わせるのに忙しくしたら良いと教えてくれた。そのうちに人がくる気配がしたら餌をもらえろと思えば吠えなくなり飼い主をじっと見つめるようになるのだそうだ。テネシー大学では先生は決して怒ってはいけなく説明し、その理由は犬が怒られた理由が吠えたからではなく、人が入ってきたから怒られたと勘違いをしまいもっと人が庭に入ってくることに嫌悪感を抱いてしまうからだそうだ。そして人が入ってくるのを1つのサインにして、入ってきたらある一定のところ（たとえば毛布が敷いてあるところなど）にお座りをさせると良いらしい。その理由は、犬は同時に2つのことは決してできないため、人が入ってきたから決められたところに行ってお座りをしないとと思わせることで吠えなくなるそうだ。これで1つ終わり続いて分離症のラブラドルが来た。オーナーさんと少しでも離れるのが嫌らしい。ここでの治療法はほぼ聞き取ることが出来なかった。ただなぜか分からないが私の方に向かってラブラドルがよく突進してくるので聞いている暇もなかった。1度私が座っている椅子が倒れかけて腰を後ろのテーブルに打ち付けてしまった。痛かったが先生も少し困惑していた。申し訳なかったがこれはどうしようもなかった。午前中で診察が終わり、午後から先生が行う行動学の授業があるらしくそこに出席させてもらった。学生が授業中でも手を挙げて質問していて、もちろん寝ている人もいなくて意識の高さに圧倒された。そして英語があまり分からない私でも楽しい授業だった。色々なビデオを見せてもらったり、ジェスチャーでなんとか理解することが出来たり、私もこんなに面白い授業なら寝ないのにな

...と少し自分が授業中寝てしまうのを先生のせいにしてしまった。すみません。行動学終了

## 小動物リハビリテーション

おそらくここはいろんな人が行っただろうから少し省略して書く。私が行ったときは主に前十字靭帯断裂やIVDP、大腿骨骨折、股関節脱臼などのオペ後のリハビリ。先天性に骨に異常があるドーベルマン、老化による筋肉の減少を少しでも遅らせようとしている犬など様々な症状を持った犬が来た。ウォータートレッドミル、ハードル、バランスボール、プール、超音波など規模が大きかった。プールでボールを投げて取ってこさせたりするのは本当にただただ楽しかった。自分で飼っている犬はなかなかとってきてくれないので・・・

他にも色々あったが、リハビリテーション終了

## 全体を通して

獣医学的なことを学びに行ったのはもちろんだがそこはやはり言葉の壁というものがあって、ちゃんと理解をするのは難しいため、そこは日本で学んだ方がいいと思う。それでもアメリカに来て絶対よかったと思うのは、第一に向こうの学生から刺激を受けるからである。決して受け身ではなく、何を学ぶにしても積極的な姿勢を示して負けていられないと思った。第2にメンタルが強くなる。ここでさっき話をしたドミニクが出てくる。これは私にとってすごく嬉しい事だったから長めに書く。1週目の木と金曜日にCPに行った。金曜日にGizmo(犬)と会い、Gizmoを次の週に行われるプレゼンに使おうと考えカルテの写真を撮った。しかしドミニク(学生)の字が汚すぎて読めない。そこで次の週の月曜日の昼休みにドミニクのところに行き読めない単語を聞きまくった。量が多すぎて最後の方とても嫌そうな顔をされた。その日の夜、また理解できない単語が出てきた。また行くのは嫌だなと思いながら火曜日の昼も尋ねてみたら案の本当に嫌な顔をされた。しかも私が分からないような早口で説明してくる...もはや心が折れまくっていた。ちなみにドミニクは190センチの女の子だ。それが上から言ってくるため更に威圧感を感じる。なんとか聞き返して理解しホテルに帰る。また分からないことが出てきた。もう行けないかなと思いながらも、ダメでもともと精神であえての凄い笑顔で聞きに行った。そうしたら逆にすごく爆笑され、よくまた来たね。といわれた。多分嫌味のつもりだが早口で説明されるより笑ってくれた方が良かった。そして最後にいつでもここにいるから質問があったらまた来な。とまでいってくれた。気分やかな思ったがこれはもう毎日行ってやろうとなぜか闘志がわいた。次の日は木曜日でオペの日だったから不在だった。金曜日、Gizmoについてうまく発表できた。発表が終わり、お礼をしに行こうと寄ったら顔を見る前に今度は何の質問?と聞いてきた。ドヤ顔で今日は違うんだなと言ってやった。そして明日



帰ることを説明しお菓子をあげた。そしたらなかなか残念そうな顔をしてケーキでも食べていきなよと渡してくれた。少し雑談をしながら食べていたら他の学生が、楽しかった？と聞いてきたため冗談でドミニクがすごく優しくしてくれたから楽しかったと答えてみたら、このドミニクが？という反応をした。ドミニクは「冗談でしょ？？カルテを書いている時にこの子が来る度に時間を割いて教えてあげたのよ！毎日毎日来て！」と言った。私の前で言うか？とも思ったけどなんとなく冗談でわざとそう言ったのだなと思い私も爆笑してしまった。何より冗談を言えるような仲まで自分で築けたのだなと思うと本当に嬉しかった。最後に今まで馬鹿にされてきたためやり返してやろうと思腕相撲を申し込んだ。しかし相手は190センチの巨体。もちろんボロ負け。しかも大丈夫？と同情までされた。悔しかったから、また鍛えて勝負をしに来ます。と言ったら、その時はアメリカを案内してあげると言ってくれた。しかしアドレスを交換することを忘れそのまま帰宅。気づいた時には遅かった。つい1番いい思い出だったからだらだらと書いてしまいました。結局私が言いたいことは嫌な顔をされた時点で聞きに行くことをやめてしまったら、発表もうまくいかなかったしドミニクとの関係も嫌な思い出として残ってしまったと思う。確かに相手にとっての嫌な時間帯とかもあるとは思いますがそれを避けようとして様子を見る時間は2週間の中だけでは足りないと思う。だからダメでもともと、傷ついて当たり前前精神でこの実習に臨めば得るものはすごく大きいと思う。それは日本でも同じで失敗するのが怖いから何も行動しないというのは、結局自分が得るものもないのだなと分かった。自分にとってプラスになるアメリカ研修だったと思う。そしてこういう気持ちは単なる海外旅行では味わえないとも感じられた。

## 安田 千穂

今回は、私にとって初めての海外であり大きな不安を抱えていた。さらに、胃腸がとても弱いためアメリカの食事に適応できるか、という問題もあった。しかし、そんな私でも2週間無事に乗り越え、素敵な人たちに出会い充実した時間を過ごすことができたので、この報告書がいろいろな不安を抱えている後輩のみなさんに役立てばいいと思う。

## 8/22 成田出発

成田空港に集合時間の一時間前に到着。機内が予想以上に寒く、もらったブランケットだけでは寒かった。映画が見られるので退屈はしなかった。寝るときは首枕とアイマスク、マスクをして寝た。機内食は乗ってすぐと着陸一時間ほど前に出た。ニューヨークで乗り換え、無事にノックスビルに到着したが、迎えにきてくれるカーク先生が空港に現れないという事態が発生した。しかし、一時間後に無事合流できてホテルへ

到着し、現地時間の午前2時ごろ就寝。

## 8/23

疲れのせいか、朝4時くらいに足がつって激痛で起床。この日は、午前中にみんなでホテル周辺を散策して、お昼はカーク先生と大学近くのお店で食べた。量がかなり多くてアメリカの洗礼を受けた気がする。大学に行って帰宅。国立公園に行く案もあったが、雨が降っていて天気が悪かったため来週に変更した。

## 8/24 Small Animal Rehabilitation 1日目

緊張しながら茂木とリハビリテーションへ。そこには3人のVTさんと一人の獣医師、二人の獣医学生がいた。部屋には車椅子を利用しながら元気に走り回る犬たちがいて、まさにリハビリ科！と思った。患蓄について説明してもらえることはほぼないため、患蓄が来る度に自分から質問した。教えてもらっても一度でわかることはなかった。初めは恥ずかしさからわかったふりをしてしまったが、それではダメだと思い、なるべく何度も繰り返し聞くようにした。ほとんどが前十字靭帯断裂によって手術した子だった。アメリカで飼われているのは大きい犬が多いと聞いたが、患蓄もほとんどが大型～超大型で、そのような犬にはリハビリがより重要だと思った。ウォータートレッドミルはほぼ全ての患蓄に用いられていて、嫌がったりすぐ疲れてしまったりする犬もいたが、励まされながらみんなプログラムをこなしていた。リハビリが進んでいる子はプールで泳がされていた。また、車に引かれひどい怪我を負い、自力で起き上がれないようなラブラドルも来たが、その子は酸素カプセルを使っていた。動物用のものは初めてみたので驚いた。他にもバランスボールや低いハードルをまたぎながら歩くようなメニューも行われていた。温熱療法も併用されていた。一番印象的だったのは、4つの区画に分かれたボードの上に犬を立たせて静止させ、四肢にどのような割合で体重がかかっているかパソコンで測定するという機械だ。測定していた子は、椎間板ヘルニアによる左後肢の麻痺が起き手術を受けた子であったが、やはり右側への体重負荷が大きかった。術後から割合の変化を観察しているようだった。

## 8/25 Small Animal rehabilitation 2日目

昨日でだいたいの流れがつかめたため、積極的に動けるようになった。ホワイトボードにその日の予約一覧が書かれているのだが、昨日私たちが何度も症状を聞いたからか、診断名も一緒に書いてくれていた（ほとんどが略語で結局質問したけれど...）。昨日、酸素カプセルに入っていた子がまた来ていたが、支えられながら立つのを数分キープするようリハビリが行われていた。顔色も良くなっているように見えた。午後には、前肢だけで体を起こしたり、支えられながら部屋の中を少し歩いたり、日々回復の様子がわかるのだなと思った。リハビリ科ではオーナーが嬉しそうに一緒にリハビリに参加している様子が印象的であっ

た。みんな我が子のように可愛がっていた。リハビリが終わるとみんな笑顔で帰っていて、リハビリを通して犬との関係が深まっているのだと感じた。リハビリすることで良くなるのが実感できているからこそ、熱心に通っているのだと思う。犬自身はどう感じているのかはわからないけれど、車椅子を使いながら動き回る子たちはとても嬉しそうだったし、犬にとって動けるというのは重要なことであり、QOLの向上にリハビリが一躍を担っているとはっきりわかった。日本のお土産は、コアラのマーチを渡したらとても喜んでくれたので、オススメ。

#### 8/26 Exotic 1日目

新しい科ということで緊張したが、エキゾ3日目のえりちゃんと一緒だったため、かなり頼ってしまった。行ってすぐにフェレットにご飯をあげるのを手伝った。他にもリスの赤ちゃんや骨折中の鷹がいた。リハビリ科ではまあまあ英語が聞き取れていたような気がしていたが、それはきっとゆっくり話してくれていたからで、エキゾでは驚くほど聞き取れなかった。今日はオペの日で、モルモットの卵巣摘出手術が二件入っていた。手術は体の両側面からアプローチしていた。話には聞いていたが、術中は音楽を流していて曲のリクエストをしたり、時には口ずさんだりしながらオペをしていた。VTの人に、なぜ音楽を流すの？と聞いたらこれはもうオペの過程のひとつだから理由はわからないわ、と答えてくれた。二件のオペを見学して、その後ペットのフクロモモンガが緊急でやってきた。顔の左半面に異常があるようだった。小さなリュックに入れられてやってきてとてもかわいかった。まずRadiologyへ行ってレントゲンを撮った。歯肉の部分に膿瘍ができていたようで、麻酔下で膿瘍をかきとってスライドグラスに乗せサンプルを作っていた。ダメになっている歯も抜いた。エキゾでは普段見られないような動物ばかりで面白い。会話が全然できないけれど、Dr. パトリックがものすごくハンサムなのでどうにか明日も頑張ろうと思った。夜はホテル隣のステーキ&シーフードのお店に行った。少し高級なお店だった。ウェイターさんがとてもいい人で、日本語で話しかけてくれた。ステーキはとてもおいしかったが、かなり胃にはきつかった。

#### 8/27 Exotic 2日目

朝食を食べると吐き気を催した。早くも私の胃はリタイアしそうである。胃薬を飲んでお昼を抜いた。初めての1人デビューでどうなるかと思ったが、エキゾの人がみんな優しく気遣ってくれてどうにかなった。骨折治療後のオカメインコが再チェックでやってきた。教育プログラムの一環として4年生の獣医学生がオーナーから1対1で話を聞いて、それをドクターに伝えていた。その後預かって診察し、ドクターも交えて状態の説明をオーナーにしていた。次に、両肢の関節炎でレーザー治療に通っているコンゴインコが来た。レ

ーザーで温めて治癒を促したり、痛みを取ったりするために行うと教えてくれた。昨日からいた保護された子リスは、死んでしまった。今日も猫に攻撃されて全身に傷を負った子リスが保護されてきて、皮下補液やサルファ剤の投与を行ったが、とても弱っていて安楽死させることとなった。方法はイソフルランとペントバルビタールの併用であった。それから、「blue slate turkey」がオーナーに連れて来られた。脚を怪我しているとのことだった。状態がひどく、立ってられない状態だった。触診をすると、両肢の脱臼で脚がねじれ、関節の感染が起きてひどく腫れているのがわかった。レントゲン写真を見ると、鳥類は含気骨といわれるように本当に骨の中がスカスカだった。珍しい症例を見られたのでよかった。

夜はsushi barのwasabiというお店にいった。久しぶりにお箸を持っただけでも嬉しかった。私は手巻き寿司を頼んだ。お茶が恋しくなったので、帰りに緑茶のティーパックを買った。

#### 8/28 Oncology

朝起きたときから胸焼けがした。朝食を抜いて温かい緑茶で胃を労った。骨肉腫、リンパ腫、肥満細胞腫の子がきた。リンパ腫の犬は全身のリンパ節が腫れていて、触診で大きさを測っていた。リンパ節の生検が行われていた。その子はその日から抗がん剤治療を始めるようになっていて、抗がん剤の投与が行われた。25週間の化学療法のプロトコールに従って行われるらしい。ガンでなくなった犬のオーナーさんに贈るための、「dog heaven」という絵本をVTさんが見せてくれた。所々にその犬の写真が貼られていたり、寄せ書きがされていたりした。とても感動して、私も拙い英語を使って図々しくも寄せ書きさせてもらった。お昼の後は、私も誘われて外の木陰の下で意見交換会のようなものに参加した。内容はよくわからなかったが、たぶんOncologyに来ている予後の悪い子の話で、どういうふうに対応するか、オーナーのケアはどうするかなどについての内容だったと思う。そういう点までよく考えているのだなと思った。そこからはレジデントの人を中心とした勉強会が始まった。高カルシウム血症の症状、検査、診断の問題を4年生に出していた。この日は、昨日の疑問点をエキゾに聞きにいこうと思っていたので、勇気を出して他の診療科もみたいと行って早めに抜けさせてもらった。いざエキゾに行こうとしても、入っていく勇気が出なくて前でうろろろしていたら丁度エキゾの学生メーガンとDr. パトリックが通りががって、行ってもいい？と聞いたら、もちろん！と言ってくれて行くことができた。こっちはみんなフレンドリーでありがたい。驚が来てるよ！と見せてくれた。その驚は呼吸器の疾患で連れて来られたらしい。酸素室にいれられていたがとても弱っているように見えた。その後、容態が悪化して慌ただしく処置台へ運ばれた。気管挿管されて酸素が送られたが、脈

が弱く脚も冷たくなってきた。輸液も試みたが血管が確保できなかった。もう助けるのが厳しい状況になると、ドクターがオーナーに電話して安楽死の許可をとり、処置が行われた。驚は内視鏡検査する予定だったため、安楽死させたあとに内視鏡で気管を見せてもらった。ドクターは肉芽腫を疑っていたが、クリアには見えず写真のデータを探して見せてくれた。そのあとは、大学のテネシーグッズの大きなお店に連れてってもらっておみやげなど買い、夜は明日のラフィティング用の靴を探しに行った。スーパーには丁度いいのがなくて結局近くの靴屋さんで普通の運動靴を買った。夕飯はハンバーガーのお店で食べた。ビールを買って前田先生の部屋に集まって、みんなで飲んだ。

### 8/29

いざラフィティングへ出発。カーク先生の旦那さん、ジョージも来てくれた。二時間くらい車を走らせ、途中マックでお昼ごはんを食べた。どんだん山の中へ入って行って、ついに到着。着替え等すませて説明を受けるが、もちろん終始英語であり、説明のお姉さんの声に迫力がありすぎて「これやばいかも...落ちて流されていったらどうしよう」と完全にびびってしまった。スタート地点へのバスも緊張でいっぱい。しかし、いざ始めてみると本当に本当に楽しかった。ボートが欲しくなった。そんなこんなで帰路について、夜は去年先輩が食べに行きまじったと書かれていた、ヌードル屋さんへチャレンジ。私はチキンヌードルスープを頼んだ。もう食べたいとは思わない。みんなが頼んだパスタもかなり独特の味がした。来年は誰か **Buttered** パスタにチャレンジしてほしい。

### 8/30

ナショナルパークへ連れてってもらった。なかなかの山道を登っていくので酔いやすい人は酔い止め必須。道に人だかりができていて、降りてみるとブラックベアが見えたようだった。私たちが行ったところには遠くに行ってしまうと見ることができなかった。その後もパーク内をいろいろ案内してもらった。野生のトナカイを見ることができた。みんなでハイキングをして楽しかった。夜は近所のピザ屋さんで食べた。

### 8/31 Neuro 1 日目

整形の授業でやったことばかりでとても勉強になった。後肢麻痺のペットのミニブタも来た。ドクターが優しくかった。エキゾに骨折したピューマがきて、手術していたので少し見学した。終わってから大学内にある、誰でも自由にペイントできる石にみんなでペイントした。夜は、ジョージと合流してハンバーガーを食べた。

### 9/1 Neuro 2 日目

午前中は頸部の椎間板ヘルニアのドーベルマンのオペで、ベントラルスロット術が行われた。午後には後肢麻痺のボーダーコリーが来た。まず四年生が神経学

的検査を行って、後肢の **Lower** が出ていると判断した。その後、ドクターが再度検査して後肢が硬くなっていることなどから、これは **Upper** だと指導してくれた。5年で勉強したことなので、聞いていてすごく面白かった。オーナーに診断を伝えに行き、ベストな方法はオペを行うこと、お金がとてかかることなどを説明していた。オーナーさんうちには7人の子供がいるの！と言っていて、夫と電話で相談させてほしいと言っていた。その後、もう一度オーナーと話した。涙を流しながら、この子の痛みをとってあげたいと話し、オペを行うことが決まった。**Neuro** で私がみたオペは、鎮静をかけて **MRI** をとり、診断を下してそのまま麻酔導入し、オペに臨んでいて流れがとても速いと感じた。

### 9/2 Exotic 3 日目

鳥が多く来ていた。この日も野生のウサギやハト、リスが来ていたが、助けるのが困難と判断した時点ですぐに安楽殺していた。野生の動物の治療費は科が負担したり、募金から賄ったりしているため高価な治療は難しく、治療を施しても野生に帰れるかも保証できない、と話してくれた。早い判断が必要なのだと感じた。午前中には前肢の骨折で先端がもう壊死している、フクロモモンガが来て、その子の断脚が行われた。ドクターは、モモンガのような野生動物はとても管理が難しいため、ペットとして飼うべきではないと思うと話してくれた。その子の骨折も、指先で強くものを掴んでいるときにオーナーが引きはなそうとして、起きてしまったらしい。手術が無事に終わり、覚醒したモモンガは初めは起き上がることも上手くできず、ずっともがいていた。このままで大丈夫か心配だったが、しばらくして体を上手くつかってエサも食べられるようになって安心した。午後は保護対象のハクトウワシが保護団体の人に連れて来られた。その驚は、銃で撃たれて骨折し、その後創外固定が以前に行われていた。今日はレントゲンを撮って固定が外された。驚は大きなケージに入れられて来たが、まずドクターがそこから出すのに苦労していた。とても大きくて力が強くて危険なため、出したらすぐに目隠しして麻酔をかけられレントゲンを撮った。金曜のプレゼンは、先週エキゾでみたターキーについて発表したかったため、カルテを見せてほしいと学生のメーガンに話した。今までで一番必死に英語を話した気がする。無事に見せてもらえて一安心。その日はお土産を渡してエキゾのみんなに感謝を伝えた。写真を撮ったりハグまでしてもらえたり本当に嬉しかった。

### 9/3 Large Animal Rehabilitation

数頭の馬が入院していた。まず、その日来た馬の跛行診断をするのをみた。頭と腰、右前肢にセンサーがついていて、それをパソコンで感知して上下の動きを記録し異常を解析していた。屈曲試験も併せて行われた。



データの解析から左の後肢と予想されエコーが行われた。跛行診断は2時間以上、エコーは1時間ほどかけてやられていた。跛行診断は局所的な鎮痛剤を投与したら、歩行がどう変化するかも見られていた。エコーの結果、繫靭帯の損傷がわかった。午後は走りが悪くなったという馬が、オーナーとそのライダーと一緒に来た。跛行診断では異常は特に見られず、ドクターの触診によって背中に痛みがあるとわかってレントゲンをとった。すると T7-8 間の狭窄が起きていてそのせいで痛みがあり、走りが悪くなったとわかった。ドクターは話すのが早くてわからなかったため、後から学生に聞くとステロイドの投与で様子をみて、良くならない場合はオペで棘突起のカットを行うと教えてくれた。夜は明日のプレゼンに向けて準備。夜食にハンバーガーとポテトを食べながらパワポを作った。

#### 9/4 Presentation

午前中は買い物や空き教室でプレゼンの練習をした。時間が近づくにつれてものすごく緊張した。十数人の方が聞きに来てくれた。緊張で指先の感覚がなくなった。自分の番がきて、なんとかやりきることができた。笑わせたら勝ちだ！という思いでパワポを作っていたので、笑ってほしいポイントで笑いが起きて私はそれで満足だった。やる前は、シーンとなったらどうしよう... やっぱりこの一文なくそうかなと思ったりしたが、勇気を出して入れて本当によかったと思った。終わったら放心状態。無事にみんなの発表が終わった。夜は学長の家でのホームパーティーに招待してもらい、参加した。超豪邸で、獣医学生の1,2年生が来ていた(100人くらい?)。完全にアウェーで戸惑ったが、「日本人ですか?」と声をかけてくれた学生がいて話すことができた。その人は、娘さんも連れて来て一緒に遊んだり、アメリカのいろいろな話をしてもらったり、すごく楽しかった。別れ際、お互いががんばりましょうね!と言ってくれてとても嬉しかった。

#### 9/5 アメリカ出発

朝 5:30 にカーク先生とジョージが迎えに来てくれた。昨日の夜みんなで作ったアルバムを、空港でカーク先生に渡すとすごく喜んでくれた。お別れは本当に寂しくて仕方なかった。カーク先生がぎりぎりまで見送ってくれた。またカーク先生に会いたい。

この二週間は本当に素晴らしい時間だった。行く前は多くの不安があったが、行って良かったと心から思う。最終日のプレゼンも、なかなかない貴重な機会だと思うのでやれて良かった。アメリカでの会話は、初めは特に話しかける度に勇気があるし聞き取るのも難しく、挫けそうになるほど辛かったけれど、やはり段々と慣れていった。そのためには、何度も何度も話しかけるのが大事だと思った。どうしても聞き取れないときなどは、紙に書いてもらってコミュニケーションをとった。話の全部は聞き取れなくても、単語がわかる

だけでもだいぶ違うので、専門英語はなるべく多く頭に入れておいたほうがいいと思う。

食事は、やはり油っこいものが多いので胃腸の弱い人は胃薬必須。また、調子が悪くなくても食べられるようなもの(ウィダーとか)を持っていけばさらに安心だと思う。食べきれないときに食べてくれる友人がいれば完璧。最後に、前田先生、準備を進めてくださった先生方、二週間助け合って過ごしたみんな、本当にありがとうございました。

#### 成田 翼

##### 8月22日(土)

出発当日、成田空港に14時に集合し、出国手続きを済ませた後、飛行機に乗り込んだ。飛行機はニューアークを中継して目的地であるノックスビルに向かったが、機内で映画を1本見た後は退屈になり、ずっと寝てしまっていた。目的地のノックスビルに到着後、これからお世話になる Kirk 先生にお会いし、そのまま先生の車でホテルまで向かう事になった。ホテルの周りにはウォルマートなどのショッピングセンターやレストランがあり、非常に便利な所だった。ホテルの設備も、プールや会議室、パソコンルーム、コインランドリー等の便利な設備が整っていた。ホテルの部屋割りは、男子4人、女子4人、前田先生となっていた。初日に部屋に着いた後は、疲れた為、部屋に備え付けのポップコーンとホテルの売店で買った、インスタント麺を食べて寝てしまった。

##### 8月23日(日)

朝食後、ホテルの近くのスーパーに買い出しに行った後、Kirk 先生の車でテネシー大学まで向かった。大学近くの川沿いにある CALHOUN'S というレストランでリブステーキを食べた。ステーキの量が予想以上に多いのと、食事の時間が日本とずれており胃があまり動いていなかった為か、この初日の昼食は非常に苦しかった。食事後、大学内を車で見学させてもらった後、獣医学部の中を見学させてもらった。日本にはない治療設備や、病院の広さにただただ驚かされた。一通りの見学が済んだ後、アップルストアウエストタウンモールまで行き、ショッピングをする事になったが、ほとんどの店が閉店間際であり、ほとんど何も買わずにホテルに戻った。

##### 8月24日(月)

実習初日、本来は麻酔科であるところを眼科の実習に替えてもらった。この日、眼科ではまず講義を受ける事になった。細隙灯やシルマー涙試験など、眼科の診療に必要な器具とその使い方の説明を受けた後、眼科の診療の手順の説明を受けた。講義は教授1対学生3で行われ、学生が自由に教授に質問しているのが印象的だった。また、教授の前で堂々とハーゲンダッツを食べながら授業を受けている学生がいてびっくりし

た。一通りの説明を受けた後、学生が一人で診療を行い、それについて2人の教授が再度診察を行い、診断の最終決定を下していた。初日は、クッシングのミニチュアシュнауザーの白内障、角膜潰瘍の犬、緑内障の犬の診察を見学した。緑内障を見せてもらった時、飼い主さんに許可をとったら、あなたが勉強したことがまわりまわって、私の犬の為になるのだから、構わないと言われた事は、印象深かった。すべての診察が終わった後、昼食の時間になり、大学近くの店で軽く食事をとった。眼科に戻ると眼の悪い犬が数匹集められて、眼のエコーをとっていた。それが終わると17時近い時間になっており、ホテルに戻る時間になっていた。眼科の先生にあいさつを済ませた後、Kirk先生に車でホテルまで送ってもらった。この日の夕食はホテルが出す軽食のようなもので済ませた。その後、ウォルマートまで行き、必要なものを買った。

#### 8月25日(火)

昨日に引き続き眼科の診察。この日は白内障のオペと馬の眼の悪性腫瘍のオペ(眼摘)を見学した。この日オペに入ってびっくりしたのは、麻酔は麻酔科の担当で、眼科のオペであっても麻酔関係は麻酔科の人が担当している事です。また、学生は診察はやらせてもらっていましたが、オペは完全に教授やVTのみで行っている事も驚いた。科や先生によって違うのかもしれませんが、眼科ではオペの最中、音楽をかけながら手術を行っていた。この日の昼食は大学内のウォルマートでサンドウィッチを食べた。ホテルに戻ってから、男子4人と前田先生とでホテルの近くにあるBrixx Wood Fired Pizzaでピザを食べた。

#### 8月26日(水)

今日から2日間は病理の見学。まず、最初は寄生虫の病気にかかっている家畜の所見を渡され(一人一人、違う所見が書いてある)、どの様な病気が疑われるか、また、どの様な検査を行うかといった事を、大学の庭のベンチで先生を囲みながらのディスカッションを行った。英語のディスカッションを行うのは非常に大変だったが、先生や他の学生達がひどい英語でも意味を汲み取ってくれた為、何とかやりすごす事ができた。ディスカッションの後は実際に自分の所見の家畜の糞をシヨ糖遠心浮遊法にかけ、寄生虫卵の特定をした後、その病原性、コントロール、人獣共通感染症かどうか、治療法、種特異性、寄生虫の獲得方法等についてディスカッションを行った。これは先ほどのディスカッションより大変だった。理由は教科書を持っていないので、ネット検索で調べるしか方法がなかった事と、アメリカにいる寄生虫がどの様なものがあるかわからない為、絞り込みが難しい事だった。この寄生虫のディスカッションが終わった後、病理の人達と学内のベンチで食事をとった。食事には先生も来ており、午後に行う病理解剖の説明をしてくれた。午後になると、ツナギに着替えて病理解剖を行った。初日は馬の

解剖でウマバエに感染していた。この日は皮膚や筋肉を切るのを手伝ったり、腸管の出血を確認したりする作業を手伝った。解剖が終わった後、みんなと合流して、ホテルに戻った後、Connors Steak & Seafoodでステーキを食べた。

#### 8月27日(木)

昨日と同様病理だが、開始が遅くなる為、小動物のリハビリ科を見学した。ここでは車の事故でやけどを負って、皮膚移植をする予定の犬がリハビリに来ていた。リハビリ科を見学後、病理に戻るとbiopsy検査の説明を受けた。それが終わると昨日同様、先生を囲んでの昼食の後、病理解剖を行う事になった。この日は検体数が多く、水牛1頭、ウサギ1羽、犬2匹の解剖だった。この日は水牛の解剖を手伝った。この水牛は胃に大きな異物を飲み込んでいた。実習終了後、Kirk先生とテネシーグッズが売っているテネシーショップに行き、その後Wasabiという和食料理の店で食事をとった。

#### 8月28日(金)

この日はSoft Tissueに見学に行った。最初に見たのは猫の膀胱結石の治療で切開を行い、膀胱内の結石を取るものだった。次に見たのはPSSであり、シャント部分にアメロイドリングをつけ治療していた。その後、右後肢の指の骨折の所見を見て、先日リハビリで見た犬の皮膚移植を見せてもらった。皮膚移植は予想とは異なり、Medhoneyという蜂蜜成分でできたシートを創面に張り付けるものだった。これにより、傷の修復が促進されるとのことだった。この日の昼食は研究室で軽食が出された。この日はSoft Tissueに来ていたインターンの学生にずいぶん助けられた。この日の夜はウォルマートで次の日のラフティングの準備をした後、ホテルの近くのFive guys burgerでハンバーガーを食べ、その後前田先生の部屋で飲み会になった。

#### 8月29日(土)

この日はラフティングを行った。10時に出発し、マクドナルドでお昼を食べ、15時頃からラフティングを行った。暑いテネシーでのラフティングは涼しく、気持ちよかった。この日の夜はNoodle & Companyという店でパスタを食べた。

#### 8月30日(日)

この日は朝からグレートスモーキーマウンテンに向かった。11時に出発し、12時頃お土産屋に立ち寄り、古い教会や昔の小屋を見た後、再度お土産屋に立ち寄り、水車を見学したり、動物の毛皮を見せてもらった後、最初に立ち寄ったお土産屋まで戻り、アイスを食べた。その後、軽い山登りをして滝を見た後、ホテルに戻った。この日の夜は、全員で火曜日に食べたピザ屋で食事を取った。

8月31日(月)

この日はCPの見学を行った。ワクチン接種の見学後、歯肉炎の犬の歯の治療の見学を行った。超音波スクリーニングとポリッシングを行っていたが、これらを行う前に必ずレントゲンが取られていた。これは、歯が無かったり、骨折していたりしていないか確認する為に行うようで、実際、治療に来た子は何本かの歯が失われていた。この日の夕食は50's diner という場所でKirk先生とハンバーガーを食べた。

9月1日(火)

この日もCPを見学した。この日はまず、朝は栄養学の講義に参加したが、さっぱり専門用語が分からず苦労した。その後犬のシャンプーを手伝ったり、保定をしたりしていたが、特にこれといった診療はなかった。お昼になると会議室で研究室の人とお弁当を食べながら、腸管の病気の講義を受けた。講義が終わると病理の初日と同じく、寄生虫のディスカッションがあった。今度は前回と違い、犬猫の寄生虫についてだった。前回の反省を生かし教室内から寄生虫の本を探し出し、調べながら寄生虫の同定を行った結果、以前より大分ましな答えを出すことができた。この日はほとんど授業で、かなり疲れる日だった。この日の夜はホテルの軽食で夕食を済ませ、ウォルマートに買い出しに行った。

9月2日(水)

この日はExoticsの見学だった。Exoticsでは、ウサギやリスなどの怪我をした野生動物が運ばれてくるが、その多くはフェノバルビタールを大量投与して安楽殺されていた。初日で印象的だったのは、ウサギヒフバエに寄生されたリス、急性腎不全のオウム、銃弾で撃たれたアメリカンイーグル、足が壊死しているフクロモモンガである。急性腎不全のオウムは強制給餌によって餌が与えられていた。銃弾で撃たれたアメリカンイーグルはアメリカと名付けられていた。足が壊死したフクロモモンガは断脚を行い処置していた。断脚後のモモンガは非常に歩きにくそうだった。この日の昼食はウォルマートの近くにある店でチキンサンドを食べた。実習終了後、ホテルに帰った後、この日の夕食はCHIPOTLEという店でメキシカン料理を食べた。

9月3日(木)

この日はExoticsを見学した。実習自体はこの日が最終日である事、ポルトガルから来ている実習生がかなり自分よりも色々作業ができていて、頑張る気持ちが出てきた。この日はリスのフェノバルの注射やリスのphysical check等の手伝いを行い、お昼にsubwayで食事をとった。食事を取った後、帰る途中、研究室の人に会い食事に誘われ、断る訳にもいかず、再度一緒に食事に行く事になった。入った店はJersey Mike's subsという少し高めめのハンバーガーショップ

だった。この日の二回目の昼食はバナナプディングだけだったが、量が多く、夕食は食べられなくなった。昼食後、physical checkを行ったリスのカルテを書くことになり、実習生のポルトガル人に教わりながらカルテを書いた。自分のサイン入りのカルテができた時は少し感動した。この日の夜は友人がFive guys burgerに行くのに付き合い、その後、4日の症例発表のパワポを作り始めた。

9月4日(金)

症例発表の日、内容は初日に見たクッシングを持っていく白内障のミニチュアシュナウザーの症例にした。Kirk先生にスライドの最終チェックをしてもらった後、昨日食べ損ねたハンバーガーショップに友人と昼食を取りに行った。症例発表はお昼ちょっと過ぎあたりから始まった。自分の発表はグダグダな感じに終わってしまったので心残りはあるが、精一杯できたと思う。発表終了後、お世話になった研究室のメンバーに挨拶に回った後、一旦ホテルに戻って、学長主催のホームパーティーに参加に向かった。ホームパーティーは、2年生が参加していたが、知り合いがいない為、なかなか輪の中に入っていけず、気が付いたら、子供と一緒にゲームで遊んでいた。次の日の出発が早い為、ホームパーティーは途中で抜け出してホテルに戻る事になった。ホテルに帰ったら、前田先生にお世話になったお礼に皆でケーキをプレゼントして食べた。ケーキを食べ終わった後、荷造りをいそいで行って寝ることにした。

9月5、6日(土、日)

早朝の便で、シカゴ経由で日本に帰る事になっていた。朝早く出発し、搭乗手続きをすませた。Kirk先生は最後まで見送ってくださり、うれしい気持ちとさみしい気持ちが混ざったまま、お別れする事になった。この2週間はKirk先生無しではやってこれなかっただろうと思う。飛行機がシカゴ到着後、3時間ほど後、日本に向けて出発した。帰りの便は音楽を聴いていた。ほとんど睡眠をとらないうちに日本に着いてしまった。成田空港に到着した時、日本に帰ってきたという安心感のようなものを感じた。空港の出口で解散となり、テネシー大学の実習は修了した。

今回の実習はKirk先生を始めとするテネシー大学のスタッフと前田先生、北里大学の教員の方々のおかげであって成り立っており、感謝の念にたえません。この実習を通し、獣医学の面白さ、難しさなど様々な事を学ぶことができました。また、大学には色々な国から学生が来ており、彼らの話を聞く事で、多くの考え、広い視野を学ぶことができました。2週間の実習は大変でしたが、とても有意義な2週間を過ごす事ができました。



米国三大学夏季研修に同行して  
2015年度テネシー大学同行教員  
大動物臨床学研究室  
前田 洋佑

2015年8月22日から9月6日までテネシー大学研修に同行し、無事海外研修を終えたことを同行教員としてここに報告致します。また、今回の研修は充実した素晴らしいものになったことに対し、関係者の皆様にお礼申し上げます。

### テネシー州ノックスビルの地理、気候

アメリカ合衆国の南部に位置するテネシー州は8つの他の州と隣接している。テネシー州は、北部でケンタッキー州とバージニア州に、東部でノースカロライナ州に、南部でジョージア州、アラバマ州とミシシッピ州に、西部でアーカンソー州とミズーリ州にそれぞれ接している。この州はテネシー川によって3等分されている。

ノックスビルはアメリカ合衆国テネシー州東部、アパラチア山脈の西麓のノックス郡に位置する工業都市である。ノックス郡の郡庁所在地であり、テネシー州の中で3番目に大きな都市である。

テネシー大学は、米国テネシー州ノックスビル市に本部を置くアメリカ合衆国の州立大学である。1794年に設置され、UTの愛称で親しまれている。スクール・カラーはオレンジ色と白である。週末になるとアメフトやバスケットボールの試合があるので、大学はオレンジカラーに染まるようだ。大学のマスコットはブルーティック・クーンハウンドのスマーキー(Smokey)で、テネシーグッズにもよく使用されており見かけることが多かった。

気候に関して、夏は概して暑く湿度が高い。夏季の日中平均最高気温は90°F(32°C)近辺である。冬は温暖から冷涼であり、高地では冷涼の程度が強まる。研修の時期は夏に当たり、気温は十和田の真夏の時期を想像してもらえばよいと思う。基本的に半袖のみで生活できたが、室内や車内はクーラーが効いているので、長袖が一枚は必要になる。

(一部 Wikipedia より抜粋)

### ノックスビル到着とホテル

成田空港を8月22日(土)に出発し、ユナイテッド航空の飛行機は順調にニューアーク空港を経由して、ノックスビルへと到着した。ノックスビル空港で副学部長であるDr. Kirkと合流する予定であったが、手違いのため予定より1時間遅れで会うことができた。現因は事前に伝えてあったフライトスケジュールの変更が秘書のミスで予定に反映されていなかったそうである。秘書とKirk先生がダブルチェックしているとのことだったが、こういったミスは起こり得るので

注意が必要である。その後、大学の車へ荷物を積み込み、Kirk先生にホテルまで送っていただいた。また、学生だけでなく、教員にまでテネシー大学グッズを準備してくれており、研修スケジュールとともにいただいた。彼女のおかげで、到着当日から最後の日まで、何不自由することなく、米国生活を送ることができたことは誠にありがたかった。

ホテルは男子4人で一部屋、女子4人で一部屋、私は一部屋使うことができた。洗濯はコインランドリーがあり、誰でも使うことができた。

連絡手段として、携帯電話が必要であればWal-Martでプリペイド式の携帯電話を購入しようと考えていたが、結局その必要はなかった。学生に連絡する場合はLINEによる連絡が多かったが、特に不自由することはなかった。ホテル内では「部屋番号」と「Last Name」を打ち込めば、無料でWi-fiを利用することができ、大学内でも「メールアドレス」を打ち込めば、無料でWifiを利用することができた。

### 大学見学とショッピング

前日はホテルへの到着が遅かったこともあり、朝はゆっくりホテルで朝食を取った。午前中に学生とホテル周辺の店を散策した後、13時にKirk先生と合流した。テネシー川近くのステーキハウスでランチを取った後、テネシー大学を小動物病院、大動物病院を中心に案内してもらった。内視鏡、超音波診断装置などの医療機器、大型レントゲン施設やCT、MRIなどの最新医療施設が備わっていた。しかし、大学内は広く迷路のようで、一度の説明ですべて覚えることは無理だろう。後で話を聞いたアメリカの学生も、最初の2週間は迷子になったと笑っていた。ローテーションの各科の場所については当日Kirk先生または秘書の方が案内してくれるので、拠点となるKirk先生の部屋と病院の位置関係を最低限覚えておけば何とかなるだろう。

### 研修ローテーション

ホテルから大学までは車で約30分かかり、毎朝7時25分~30分頃に集合して、Kirk先生が送り迎えしてくれた。本当に感謝である。いよいよ大学内の研修が始まり、初日の学生たちは皆緊張した顔で各科に配属されていった。

私は自由に見学してよいと言ってくれたので、馬の診療と産業動物の診療を見せてもらうことにした。馬の診療は皮膚移植、肺炎、骨折、蹄葉炎など様々な症例が来院していた。また、リハビリ設備も充実していたが、なかなか日本では真似できないと思った。産業動物の診療は日本の大学病院と違い、豚や山羊の症例が多かった。こちらでは豚をペットとして買っている人がとても多いとのことで、入院した豚の爪切りや、耳掃除を学生たちが行っていたのには驚いた。一方、牛の症例は蹄疾患が多いとのことで、実際見学させてもらった時も蹄疾患の牛ばかり入院していた。また、

下顎に腫瘍があるラマが入院しており、全身麻酔下でCTをとり、外科的に腫瘍の切除を行った。日本では見られない非常に珍しい光景であった。人生で初めてラマを見たという点で皆笑っていた。学生の話を知ると、多くは将来小動物に就職したいという人であった。また、見かけた学生はほとんど8割程度は女性であった。女性の割合が高いという点では、日本も同様だと思うが、米国はさらに先を進んでいるようであった。

学生の服装は基本的に白衣で問題なく、オペや大動物診療ではスクラブが必要であった。聴診器は内科や大動物で使用する可能性が高いため持って行った方がよい。

研修は17時半には切り上げて、Kirk先生の部屋に集合し、ホテルまで送ってもらうのが通常であった。米国はサマータイムのせいもあり、この時期は20時頃でも外はとて明るく、逆に朝6時はまだ真っ暗なため、十和田との違いになかなか体が適応しなかった。

## 図書館

動物病院のある棟から歩いて20分くらいのところに図書館があり、図書館でデスクワークすることもできた。無料バスを利用することができるが、街並みを眺め眺めながら歩くのも楽しみの一つであった。図書館はかなり広く、スターバックスや売店も入っていた。自習スペースもたくさんあり、wi-fiも無料で使えた。多くの学生がレポート作成や勉強に励んでおり、充実しているように感じた。北里大学にもこのような図書館があればきっと皆利用するだろう。

## 獣医学校の授業料

米国の大学は一般に授業料が高い。米国では、大学授業料は習慣として、親が支払うことはなく、学生がアルバイトや奨学金などを利用して支払い、奨学金を利用する割合が高いといわれる。米国で獣医の大学に通うということは、レベルの高さ、成績の問題だけでなく、金銭面でも大きな壁となっているようである。

## 外食

滞在中はしばしば学生達と外食した。外食時にオーダーをすることも英会話力向上や米国の文化を知ることになるので良いことだと思う。ホテル周辺には、ハンバーガーやステーキなどのアメリカン以外に、メキシカン料理、パスタ、スシなどを食べることができた。

米国で食事をオーダーする際に気をつけなければいけない点は、予想した内容のものが来ないこと、量が多いという点であろう。オーダー表には、日本のように気の聞いた写真などは掲載されておらず、説明文を読んで考えるか、店員に聞くか、隣のテーブルの料理を見て参考にすることが多い。量が多残くても、残った料理はボックスに入れて持ち帰りすることがこちらでは一般的なもので、体調崩すまで無理して食べる必

要はない。

ファストフードを除いて、レストランで外食した際には、かならずチップを支払った。多くの場合10-20%、平均15%で計算し、チップの金額を記入してクレジットカードで支払うことが多かった。

## 研修最終日（プレゼンテーション）

研修最終日は学生全員が症例発表に形でプレゼンテーションを行った。私も北里大学と日本にことを紹介して、最後に感謝の言葉を述べた。学生からは発表前に、テネシーカラーのネクタイをプレゼントしてもらい、嬉しかった。5年生はまだ日本語でのプレゼンテーションの経験も無いのに、いきなり英語で発表したのだから、かなり大変だったと思う。しかし、皆立派に発表をこなし、非常に良い経験になったと思う。

夕方は学部長の自宅でのバーベキューに招待していただいた。獣医学科の1、2年生を対象に毎年行われているそうだ。学部長の家はアメリカ映画で見えるような広大な土地に建っており、まるでハリウッドスターのようであった。

## 帰国

9月5日（土）朝5時30分、Kirk先生が我々を空港へ送るため、旦那さんとホテルまで迎えに来てくれた。皆大きな荷物があるため、大きな車2台で来ていただいた。たった2週間の短い期間であったが、Kirk先生とは安心して話ができるようになった。ホテルのチェックアウトは特に手続きの必要はなく楽なものであった。やがて日本が近づき、成田空港へ到着したとき、ほっとした気持ちになった。

## 最後に

Kirk先生には甘えっぱなしの2週間であり、心よりお礼を申し上げたい。これほどまで私たちに親切にしてくれたことは、これから自身が研修生、留学生を迎える際に見習って模範にしたい。Kirk先生のおかげで楽しいアメリカンライフを送ることができたことは、私にとっても学生たちにとっても一生の思い出となります。

そして、今回テネシー研修に参加した8人の学生は、自分たち何でもやってくれ、苦勞をかけず、頑張ってくれたことに感謝したい。皆さんのお蔭で楽しく過ごすことができました。今回の研修が皆さんの人生にとってプラスになれば、同行教員として嬉しいです。たまにはこの報告書を開いて、米国研修で感じたことや学んだことを思い出してみてください。

## Acknowledgements

I appreciate for every Tennessee staffs and Dr.Kirk. We had a good time and wonderful experience. I never forget everything to do in Tennessee. Thank you for everything.

Masato Ikeo

Dear Dr. Kirk and member of UTCVM

I wanted to participate in a program of this overseas training all the time. I could really go to Tennessee, and I was glad, but there was the uneasiness this time.

I am weak in English, and I am uneasy for communication. But you heard my English, and you were going to be understood and talking with me. And you taught me a lot of things using easy English.

Other than the hospital, you took us to the various places with you any place and planned it. I was very fun and felt America!

I have an unforgettable experience. I appreciate that you accepted us while you are busy. Thank you for two weeks.

I want to visit at UTCVM sometime again! I will study more until then so that I can speak more English.

Eika Ogawa

Dear Dr.kirk and all of UTCVM

Thank you for two weeks. I was able to spend valuable life. I will never forget these memories in Tennessee.

I wasn't good at speaking English but Dr.kirk talked me kindly, so I was saved by you. It was good that I could watch the case that I could not usually watch in Japan. I want to make use of my experience in Japan.

I become the good veterinarian and want go to Tennessee again.

With best wishes.

Tomotaka Saigo

It was an affair for only 2 weeks. But, I didn't think so because it was wonderful days that many experiences exist.

For example, I analysed cow, watched operation, and checked about disease. These things were stimulated for me.

I enjoyed rafting and Great Smoky Mountain's nature.

However, I regretted about not to make more communication. I didn't more question, either.

But my friends advised me 「More relax」, so I could overcome the problem.

This experience may help me somewhere.

Thank you for your helps !

Hajimu Hara

Dear Dr.Kirk

At first, I really appreciate for your kindness.

I had valuable experience and exciting time in this two weeks.

I'll never forget about this trip and I'm looking forward to see you again!

So I will study harder English and veterinary medicine.

Eri Mihara

Dear Dr.Kirk and all of UTCVM

Thank you for two weeks. I had very good time at UT. I was surprised that all students of UT are enthusiasm and kindness. I will work hard too so that I won't to lose them. My life of Tennessee made me grow. Thank you.

Ayaka Motegi

Dear everyone in Tennessee University

Thank you for all of your supports and kindness. This time is first time for me to go abroad. I got bewildered in unfamiliar environments. But all people in UT were very kind and understood my poor English. I came to like talking in English. The time talking with you was interesting and very fun. Thank you for teaching a lot about Veterinary medicine. I was able to meet really nice people. I want to go UT again. I would like to use this experience and become a good veterinarian.

Thank you.

Chiho Yasuda

Thank you for help of University of Tennessee's staff for two weeks!

We could spend meaningful two weeks. Though I struggled with English communication, I could gain precious experience. I've never forget this two weeks. The knowledge and skills Ophthalmology, Pathology, Soft Tissue, CP, Exotics which I studied at University of Tennessee was fresh for me. I wish to meet you again someday.

Tsubasa Narita

Dear Dr.Kirk,

I appreciate all your kindness. Time flies, I can't believe that I was there. I had a wonderful time with you. I especially liked the "Paint the Rock" in the UT Tradition. The students also want to meet you. Please let me know when you come to Japan!

With great regard,

Yosuke Maeda, DVM PhD.

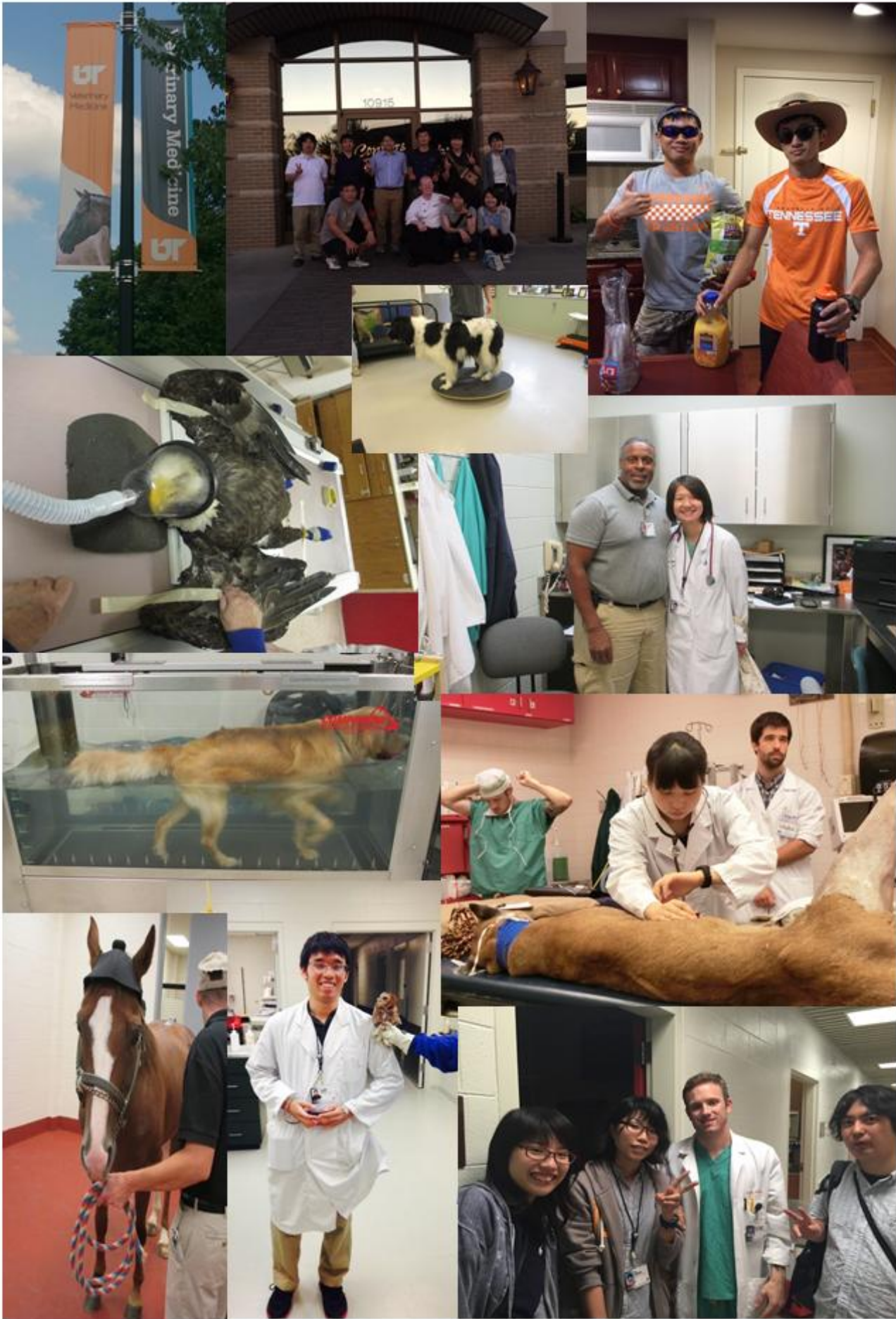




























北里大学 獣医学部 獣医学科  
米国三大学夏期研修 2015

インディアナ州立 パデュー大学 獣医学部 (7名)

Purdue University, School of Veterinary Medicine

West Lafayette, Indiana, <http://www.vet.purdue.edu>

出国 : 8/8 (土) 成田 17:30 発 UA 882

帰国 : 8/23 (日) 成田 20:20 着 ANA 1011

ジョージア州立 ジョージア大学 獣医学部 (9名)

The University of Georgia, College of Veterinary Medicine

Athens, Georgia, <http://www.vet.uga.edu>

出国 : 8/15 (土) 成田 16:10 発 DL0094

帰国 : 8/30 (日) 成田 15:25 着 DL0095

テネシー州立 テネシー大学 獣医学部 (8名)

The University of Tennessee, College of Veterinary Medicine

Knoxville, Tennessee, <http://www.vet.utk.edu>

出国 : 8/22 (土) 成田 17:00 発 UA 78

帰国 : 9/6 (日) 成田 15:10 着 UA 881

学籍番号 : \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

Passport No. \_\_\_\_\_

# Schedule 1 Purdue University

<http://www.vet.purdue.edu>

研修先の担当の先生 : Dr. J. Catharine Scott-Moncrieff

Purdue University School of Veterinary Medicine,

West Lafayette, IN 47907-1240, USA

Tel : +1-765-494-1107 Fax : +1-765-496-1108



研修期間の宿泊先 : Purdue Village

50 Nimitz Drive West Lafayette, IN 47907, USA

Tel : +1-765-494-2090 Fax : +1-765-496-6828

出国 : 8/8 (土) 成田 17:30 発 UA882

帰国 : 8/23 (日) 成田 20:20 着 ANA1011

## 参加者名簿 (7名)

| 学生番号   | 氏名     | Name             | 所属研究室    |
|--------|--------|------------------|----------|
| V11005 | 井口 佳那  | Kana IGUCHI      | 獣医公衆衛生学  |
| V11009 | 稲野辺 悠  | Yu INANOBE       | 人獣共通感染症学 |
| V11045 | 小坂 潤平  | Junpei KOSAKA    | 小動物第2内科学 |
| V11065 | 清水 瞳   | Hitomi SHIMIZU   | 獣医臨床繁殖学  |
| V11066 | 白倉 萌々子 | Momoko SHIRAKURA | 獣医病理学    |
| V11074 | 須見 康代  | Yasuyo SUMI      | 獣医病理学    |
| V11076 | 田内 昭成  | Akinori TAUCHI   | 小動物第2外科学 |

同行教員 : 前田 賢一 Kenichi MAEDA

## Flight information

| Date    | Flight                            | Flight No |
|---------|-----------------------------------|-----------|
| 8/8(土)  | 成田 17:30 → シカゴ 15:15              | UA 882    |
|         | シカゴ 17:41 → インディアナポリス 19:44       | UA 3642   |
| 8/22(土) | インディアナポリス 15:03 → シカゴ 15:10       | UA 3447   |
|         | シカゴ 17:25 → 成田 20:20 <8/23 (日) 着> | ANA1011   |

## 出国時の集合日時と場所 : 8/8 (土) 14:30

成田空港第1ターミナル/南ウイング 4F ユナイテッド航空チェックインカウンターB付近

[http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t\\_info/c\\_list\\_t1\\_south.html](http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html)

(Tel : 03-3817-4411 / 0570-064-777 <http://www.united.com/web/ja-JP/Default.aspx>)

※受託手荷物 往路および復路共に:重量 **23kg (50 ポンド)**/個を超えないこと。それぞれの手荷物の3辺(縦・横・高さ)の和が158cm (62インチ)を超えないこと。



## Schedule 2 The University of Georgia

<http://www.vet.uga.edu>



THE UNIVERSITY OF GEORGIA

College of Veterinary Medicine

研修先の担当の先生 : Mary Hondalus, DVM, PhD, Dipl ACVIM

Associate Professor, Director of Pre-Clinical Academic Affairs, DVM-MPH Dual Degree Program Coordinator, Department of Infectious Diseases, College of Veterinary Medicine. Athens, GA 30602. Phone: 706-542-5778 FAX: 706-542-5771, [hondalus@uga.edu](mailto:hondalus@uga.edu)

Ms. Khaliiala Ward;

Program Coordinator of Diversity and International Affairs

Ph: 706-542-9386 [krward@uga.edu](mailto:krward@uga.edu)

研修期間の宿泊先 :

8/15-28: The University of Georgia Center for Continuing Education (Georgia Center)

1197 South Lumpkin St, Athens, GA 30602-3603, Tel : (706)-542-2654 Fax: (706)-542-2635

<http://www.georgiacenter.uga.edu/uga-hotel>

最終日 8/28 (金) -8/29(土) : Best Western PLUS Atlanta Airport East (Add. 301 North Central Avenue, Hapeville, GA, 30354-1601, USA)

Aug 15 Narita 16:25 – Atlanta 16:10 (Delta Airlines DL0094)

Aug 29 Atlanta 12:26 – Narita 15:25 (Delta Airlines DL0095)

| 学生番号   | 氏名    | Name            | 所属研究室    |
|--------|-------|-----------------|----------|
| V11027 | 笠井 一人 | Kazuhito KASAI  | 獣医臨床繁殖学  |
| V11031 | 金澤 礼樹 | Hiroki KANAZAWA | 獣医薬理学    |
| V11053 | 齋藤 大士 | Takaaki SAITO   | 小動物第1内科学 |
| V11063 | 柴田 暁  | Akira SHIBATA   | 小動物第2外科学 |
| V11070 | 杉山 彰  | Akira SUGIYAMA  | 獣医薬理学    |
| V11114 | 前道 一貴 | Kazuki MAEMICHI | 大動物臨床学   |
| V11115 | 牧 誉大  | Takahiro MAKI   | 獣医臨床繁殖学  |
| V11120 | 松尾 芽衣 | Mei MATSUO      | 小動物第1外科学 |
| V12501 | 池田 加奈 | Kana IKEDA      | 獣医病理学    |

同行教員 : 佐々木 宣哉 Nobuya SASAKI

# Schedule 3 The University of Tennessee

<http://www.vet.utk.edu>



研修先の担当の先生 : Claudia A. Kirk, DVM, Ph.D.  
Department Head Small Animal Clinical Sciences, University of Tennessee  
College of Veterinary Medicine, PO Box 1071, Knoxville, TN 37901-1071, USA  
Tel : +1-865-974-8387 Fax : +1-865-974-5554 E-mail: ckirk4@utk.edu

研修期間の宿泊先 : **Homewood Suites at Turkey Creek**

Address: 10935 Turkey Drive, Knoxville, TN 37922

Telephone: 1-865-777-0375

出国 : 8/22 (土) 成田 17:00 発 UA78

帰国 : 9/6 (日) 成田 15:10 着 UA 881

参加者名簿 (8名)

| 学生番号   | 氏名    | Name           | 所属研究室    |
|--------|-------|----------------|----------|
| V11006 | 池尾 真人 | Masato IKEO    | 獣医生理学    |
| V11022 | 小川 瑛加 | Eika OGAWA     | 獣医放射線学   |
| V11051 | 西郷 智貴 | Tomotaka SAIGO | 獣医生理学    |
| V11103 | 原 基   | Hajimu HARA    | 獣医衛生学    |
| V11123 | 三原 衣理 | Eri MIHARA     | 小動物第2外科学 |
| V11128 | 茂木 郁佳 | Ayaka MOTEGI   | 獣医放射線学   |
| V11131 | 安田 千穂 | Chiho YASUDA   | 実験動物学    |
| V12504 | 成田 翼  | Tsubasa NARITA | 小動物第1内科学 |

同行教員 : 前田 洋佑 Yosuke MAEDA

## Flight information

| Date     | Flight                           | Flight No |
|----------|----------------------------------|-----------|
| 8/22 (土) | 成田 17:00 → ニューアーク 16:45          | UA 78     |
|          | ニューヨーク 19:30 → ノックスビル 21:41      | UA4361    |
| 9/5 (土)  | ノックスビル 07:40 → シカゴ 8:23          | UA4374    |
|          | シカゴ 12:05 → 成田 15:10 <9/6 (日) 着> | UA881     |

**出国時の集合日時と場所 : 8/22 (土) 14:00**

成田空港第1ターミナル/南ウイング 4F ユナイテッド航空チェックインカウンターB付近

[http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t\\_info/c\\_list\\_t1\\_south.html](http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html)

(Tel : 03-3817-4411 / 0570-064-777 <http://www.united.com/web/ja-JP/Default.aspx>)

※受託手荷物 往路および復路共に:重量 **23kg (50 ポンド)**/個を超えないこと。それぞれの手荷物の3辺(縦・横・高さ)の和が 158cm (62 インチ) を超えないこと。

## 注意事項

### 1) 成田空港まで

成田空港ホームページ <http://www.narita-airport.jp/jp/>

JR、京成電鉄およびリムジンバスが成田空港に乗り入れています。何れも本数が限られていますので、余裕をもって乗車しましょう。

目安の所要時間

**JR**：総武線と成田線の快速で東京駅から 80 分

成田エクスプレス（座席指定が必要）も各地（東京、横浜等）からあります。

**京成電鉄**：京成上野駅からスカイライナー（座席指定が必要）で約 60 分。

特急約 75 分、料金 1000 円は最も経済的。その他の快速や急行などでは、乗り換えがあり、時間がかかりかかります。

第 2 ターミナル利用 → 空港第 2 ビル駅下車  
第 1 ターミナル利用 → 成田空港駅（終点）下車

**リムジンバス**：各地（東京、大宮等）からありますが、道路事情で所要時間が大きく左右されますので利用は控えた方がよいでしょう。

### 2) 飛行機へのチェックイン（搭乗 24 時間前より Web チェックイン可能）

成田空港の各航空会社のカウンターで行います。

旅行代理店から渡された搭乗券（boarding pass）とパスポートを航空会社のカウンターに提示して、チェックインします。このとき、大きなスーツケースを預けます。これはアメリカ入国まで戻ってきません。貴重品や成田空港内、機内で必要なものは別に 1 個の手荷物にして持っていくましょう。これから海外旅行を繰り返す可能性のある人は、マイレージサービスなどの手続きをするのも良いでしょう。

### 3) 荷物チェックリスト

手荷物

パスポート（紛失・盗難に備えてコピーと写真 2 枚も準備しておくとう安心です）

航空券

現金／トラベラーズチェック

海外旅行傷害保険証および関連資料（米国での医療費は大変高額です）

ノートパソコン、デジカメなど（あるいはカメラとフィルム）

筆記用具

スリッパ（機内と宿舎内で便利）

クレジットカード（パスワードがあれば覚えておく）

その他（安眠枕、耳栓、アイマスク、ガム、ウェットティッシュ、コンタクトなど）

一泊分の衣服（スーツケースと一緒に到着しなかった場合に重宝）

スーツケースなど

常備薬（解熱薬、虫さされ、防虫スプレー、胃腸薬等）

洗面用具（ボディソープ、シャンプー・リンス、ひげ剃り、ブラシ、洗顔石鹸、

歯磨きセット、タオル、ハンカチ、ティッシュペーパー、爪切り）

洗濯用具（洗剤、洗濯バサミ、洗濯ロープなど）



デイパックなど（ちょっと出かける際に便利）  
衣類（圧縮袋を使うと便利）  
ビニール袋（いろいろ便利）  
ガムテープ（スーツケース修理など、いざというときに重宝）  
目覚まし時計（遅刻しないように）

\*眼鏡を使用している人は、予備の眼鏡を持って行くのが望ましい

注意！！

- アメリカへ行く際、スーツケースに鍵をかけると、中身のチェックのために鍵を壊されます。無用なトラブルを避けるには、鍵をかけないか、あるいは TSA ロックと呼ばれる鍵の付いたスーツケースやバンドを使用した方がよいでしょう。
- テロ関連で機内持ち込みが制限されているもの（飲料水や化粧品、コンタクトレンズ洗浄液など）は、手荷物ではなくスーツケースに入れましょう。詳しくはホームページ等で確認ください。  
[http://travel.univcoop.or.jp/shuppatsu/tokou\\_06.html](http://travel.univcoop.or.jp/shuppatsu/tokou_06.html)
- 無料で預けられる荷物のサイズを航空会社ホームページで確認しましょう。
- 盗難や破損を防ぐため、カメラ・ビデオ・ノートパソコンは預けてしまうスーツケースに入れなくて、機内に手荷物で持ち込みましょう。
- 渡航前に歯の治療を済ませておきましょう。米国での歯科治療費は保険でカバーできません。

#### 4) 報告書

学外実習のレポート以外に、研修の報告書を作成してもらいます。原稿用紙 5 枚程度の体験記をまとめ、コンピューターで作成した文章のデータをフロッピーや CD で提出してもらいます。実習中に日々の研修活動やレクリエーションについて、こまめに記録をしておきましょう。お世話になった現地の先生方へも報告書を送るので、英語でまとめの文章を必ず書いてください。（報告書提出締切 9 月 25（金）、同行教員まで）

#### 5) 海外旅行保険

アメリカでは病気や怪我の治療には、保険がないため大変高額な医療費を要求されます。そこで、皆さんには予め海外旅行用の損害保険に加入してもらいました。保険証書といっしょに、推奨の医療機関や日本語の通じる医者などのリストが渡されたはずですので、この資料を各自が忘れずに携帯してください。

#### 6) その他

##### パスポートと出国・入国手続き

- 出国カードは早めを書いておきましょう。出国審査官の前では混雑のため書けません。
- 機内で渡されるアメリカ入国審査用の用紙にはすぐに記入しましょう。  
その際にはパスポートの置忘れに注意！貴重品はいつも同じ場所にしまいましょう。
- アメリカ入国の際、審査官が乗って来た航空機の便名、訪問理由、訪問先、滞在期間などを聞きます。予め英語で答えられるようにしておきましょう。
- アメリカ入国審査官が出国時に必要なカードをパスポートにホッチキスで止めてくれます。これがないと帰国できなくなるので、紛失注意。
- テロ対策で指紋を取られることがあります。その際、少しでも犯罪者のものと似ていると、取り調べが行われます。何を調べられても良いように、荷物や持ち物はきちんと整理しておきましょう。
- アメリカから植物や果物は持ち込めません。また、牛肉製品（ジャーキーなど）は成田空港で没収される可能性が高いので注意してください。

関連情報 <http://www.narita-airport.jp/jp/travel/kinsi/index.html>

### お金など

- クレジットカードは自分の信用証明にも役立ちます。JCB と American Express よりは VISA と MasterCard の方が対応する店舗が多く、使いやすいかもしれません。ただし、いずれにしても、最近を使用する際に4桁のパスワードを求められる場合が多いので、各自確認しておきましょう。
- 最初に入る国の現金 100 ドル程度を小銭 1-5 ドル札と 20 ドル札に分けて持っておけば何かと小用の買い物に便利です（土日は銀行が休みだったり、朝早く、また夜遅くに飛行機が着いて両替できないことがあります）。100 ドル札（特に未使用札）の使用は嫌がられることもあります。
- 免税店は最後に搭乗する空港でだけ利用できます。チェックイン後、搭乗までが買い物時間。
- チップについては、レストランでは 15%、タクシーでは 10%、ホテルではピローチップを毎朝 1 ドルぐらい、重いバッグを持ってもらっても 1 ドルで十分です。
- 帰国後、ドル札は日本円に換金できますが、コインは換金できません。帰国直前までに（空港等で）コインを最優先で使い切るようにすればムダがありません。
- 大学内でも不用意に財布を置かないように！カバンと一緒に置き忘れると盗難に遭う可能性は高いので、注意しましょう。

### その他

- アメリカはサマータイム中のため、実際の時差より 1 時間早いことに注意しましょう。
- 室内は禁煙が原則です。ホテルの部屋でも禁煙の所も多いので、喫煙可能な場所を確かめましょう。
- 飛行機のリコンファーム（予約再確認）は不要です。
- 電気製品は電圧の違いで使えないことがあります。
- 水着を持って行っておくと、キャンパスにあるプールに入れるかも。
- 電話：海外から日本へ通話するには、オペレーターを通すよりもクレジットカードがあれば安く簡単です。かけ方は概ね次のとおり：受話器を取り、カードを通して、0081（日本の国番号）を押し、その後にかきたい相手先の電話番号から最初の 0 をとったものを押します。また、いざという時のために、出国前に自分の携帯電話をアメリカでも使用できる物に交換できるサービスを利用するのも良いでしょう。もちろん料金は割高です。

